

横浜みどり税等について

1 横浜みどり税の趣旨

市域の緑の減少に歯止めをかけ、緑豊かなまち横浜を次世代に継承するため、平成21年度から横浜みどりアップ計画」を実施しており、現行計画は第3期目となっています。

「横浜みどり税」は、一般的な市町村における標準的な税負担を超える施策である私有樹林地の買取等、「横浜みどりアップ計画」に基づき実施する施策の貴重な財源として、市民の皆さまのご理解に基づき、市民税の超過課税の形でご負担いただいているものです。これにより、「横浜みどりアップ計画」の取組を各年度の財政状況に左右されずに安定的に進めることができます。

2 横浜みどり税の検討について

「横浜みどりアップ計画」の計画期間及び「横浜みどり税」の課税期間は5年間であり、令和5年度は、現行の「横浜みどりアップ計画[2019-2023]」及び「横浜みどり税」の最終年度となっています。

そのため、令和6年度以降の「横浜みどり税」の継続を含む財源のあり方について、今回お示しする「これからの緑の取組[2024-2028]」の原案をもとに、今後検討していきます。

検討にあたっては、横浜市税制調査会において調査・審議した上で答申をいただき、その答申を踏まえ、令和6年度以降の横浜みどり税の取扱いについてお示しできるよう進めていきます。

【参考】

- 横浜みどりアップ計画 [2019-2023] 策定時における事業費
総事業費：約502億円（うち横浜みどり税：約136億円）
- 横浜みどり税の使途
 - ①樹林地・農地の確実な担保（公有地化）
 - ②身近な緑化の推進
 - ③維持管理の充実によるみどりの質の向上
 - ④ボランティアなど市民参画の推進につながる事業

3 横浜みどり税の概要

(1) 課税方式及び税率

ア 課税方式

横浜みどり税の課税方式については、「横浜みどりアップ計画」の取組による受益は、広く市民（個人・法人）に及ぶことから、その財源については、広く薄く市民の負担を求めることとし、市民税（個人・法人）均等割への超過課税としています。

イ 税率

(ア) 個人

個人市民税の均等割に年間900円を上乗せ

標準税率等	横浜みどり税分
3,500円	900円

(イ) 法人

法人市民税の年間均等割額の9%相当額を上乗せ

法人の区分		均等割税率	
資本金等の額	従業者数	標準税率	横浜みどり税分
1千万円以下	50人以下	50,000円	4,500円
	50人超	120,000円	10,800円
1千万円超1億円以下	50人以下	130,000円	11,700円
	50人超	150,000円	13,500円
1億円超10億円以下	50人以下	160,000円	14,400円
	50人超	400,000円	36,000円
10億円超50億円以下	50人以下	410,000円	36,900円
	50人超	1,750,000円	157,500円
50億円超	50人以下	410,000円	36,900円
	50人超	3,000,000円	270,000円

(2) 課税期間・納税者数

	課税期間			納税者数 (R 4年度)
	第1期	第2期	第3期	
個人	H21～ 25年度	H26～ 30年度	R元～ 5年度	約201万人
法人	H21.4.1～ 26.3.31*	H26.4.1～ 31.3.31*	H31.4.1～ R6.3.31*	約11万者

※この間に開始する事業年度が対象

(3) 税収

(単位：百万円)

	R元年度 (決算)	2年度 (決算)	3年度 (決算)	4年度 (決算)	5年度 (予算)	計
市税全体	846,456	843,870	838,902	867,276	863,889	—
個人市民税	409,323	413,551	411,280	422,900	417,222	—
横浜みどり税 (A)	1,749	1,777	1,778	1,799	1,788	8,891
法人市民税	58,637	48,269	45,428	50,342	47,696	—
横浜みどり税 (B)	1,099	1,074	1,093	1,142	1,090	5,498
横浜みどり税の合計 (A+B)	2,848	2,851	2,870	2,941	2,878	14,389

※端数処理のため合計が一致しない場合がある

(4) 固定資産税等の軽減措置

横浜みどり税条例においては、緑地や農地の維持管理負担の軽減を図り、一層の市街地等の緑化誘導や農地の維持保全を図ることを目的として、次の固定資産税及び都市計画税に係る軽減措置を導入しています。

ア 緑化基準を超える緑化に対する固定資産税等の軽減措置

敷地面積が500㎡以上の建築物の敷地において、一定の緑化基準を超えて緑化を行い、緑化部分全体を10年間保全する契約を横浜市と締結した場合、上乗せ緑化部分に対する固定資産税・都市計画税の税額の4分の1を10年間軽減

○適用実績及び軽減相当税額

認定年	筆数	面積 (ha)	軽減相当税額（千円）				
			R元年度	2年度	3年度	4年度	5年度
H21～25年	358	50.2	60,664	49,760	30,739	23,681	16,347
H26～30年	53	7.1	7,132	7,115	7,062	7,211	7,294
H31・R元年	109	5.4	—	5,870	5,860	5,933	6,172
2年	56	11.0	—	—	12,341	12,791	13,229
3年	4	2.6	—	—	—	3,777	3,819
4年	9	2.8	—	—	—	—	7,137
合計	589	79.1	67,796	62,745	56,002	53,393	53,998

※端数処理のため合計が一致しない場合がある

イ 宅地内の農業用施設用地に対する固定資産税等の軽減措置

農地の保全を図るため、一定の条件を満たす場合、農家の住宅敷地内等にある農業用施設用地に対する固定資産税・都市計画税について、一般の農業用施設用地の税額との差額相当分を10年間軽減

○適用実績及び軽減相当税額

認定年	筆数	面積 (ha)	軽減相当税額（千円）				
			R元年度	2年度	3年度	4年度	5年度
H21～25年	164	2.1	8,048	6,419	4,114	3,218	1,662
H26～30年	61	0.7	3,795	3,749	3,348	3,392	3,419
H31・R元年	35	0.4	—	1,571	1,613	1,581	1,452
2年	32	0.4	—	—	1,958	2,085	1,963
3年	21	0.3	—	—	—	1,111	1,176
4年	39	0.4	—	—	—	—	1,579
合計	352	4.3	11,843	11,739	11,033	11,387	11,251

※端数処理のため合計が一致しない場合がある

【参考】横浜みどり税条例（平成20年12月15日条例第51号）（抜粋）

改正 平成22年6月25日条例第25号
平成23年12月22日条例第52号
平成24年12月28日条例第94号
平成29年12月25日条例第47号
令和2年9月25日条例第37号

平成22年12月24日条例第48号
平成24年2月24日条例第8号
平成25年12月25日条例第67号
平成30年10月15日条例第54号

（趣旨等）

第1条 この条例は、緑の保全及び創造に資する事業の充実を図るため、横浜市市税条例（昭和25年8月横浜市条例第34号。以下「市税条例」という。）に定める市民税の均等割の税率の特例並びに固定資産税及び都市計画税の特例措置に関し、必要な事項を定めるものとする。

2 市民税の均等割のうち、次条及び第3条第1項の規定により加算した額に係るものを横浜みどり税と称する。

（個人の市民税の均等割の税率の特例）

第2条 平成21年度から平成25年度までの各年度分の個人の市民税の均等割の税率は、市税条例第25条の規定にかかわらず、同条に定める額に900円を加算した額とする。この場合における市税条例第26条の規定の適用については、同条中「前条」とあるのは、「横浜みどり税条例第2条第1項」とする。

2 平成26年度から平成35年度までの各年度分の個人の市民税の均等割の税率は、市税条例附則第9条の4の2の規定にかかわらず、同条に定める額に900円を加算した額とする。この場合における市税条例第26条及び第33条の4第1項の規定の適用については、市税条例第26条中「前条」とあり、市税条例第33条の4第1項中「第25条」とあるのは、「横浜みどり税条例第2条第2項」とする。

（法人の市民税の均等割の税率の特例）

第3条 平成21年4月1日から平成36年3月31日までの間に開始する各事業年度又は各地方税法（昭和25年法律第226号）第312条第3項第3号に規定する期間（次項において「期間」という。）に係る法人の市民税の均等割の税率は、市税条例第26条の2第1項の規定にかかわらず、同項の表の左欄に掲げる法人の区分に応じ、それぞれ当該右欄に掲げる額に、当該額に100分の9を乗じて得た額を加算した額とする。この場合における同条第2項の規定の適用については、同項中「前項」とあるのは、「横浜みどり税条例第3条第1項」とする。

2 平成21年4月1日から平成26年3月31日までの間に開始する各事業年度若しくは各連結事業年度又は各期間に限り、当該事業年度若しくは当該連結事業年度又は当該期間に係る法人の市民税の法人税割を課されない者に当該法人の市民税の法人税割が課されない事業年度若しくは連結事業年度又は期間に係る法人の市民税の均等割を課する場合については、前項の規定は、適用しない。

（基金への積立て）

第4条 市長は、横浜みどり税に係る収納額に相当する額を、緑の保全及び創造に資する事業の充実を図るための基金に積み立てるものとする。

（特定緑化部分に対して課する固定資産税等の特例）

第5条 次に掲げるそれぞれの割合に相当する緑化を行った部分（以下「基準緑化部分」という。）に加えて更に当該割合に5パーセントを加算した割合以上の緑化を行った場合における当該基準緑化部分を超えて緑化を行った部分（以下「特定緑化部分」という。）を有する建築物の敷地の用に供されている土地（面積が500平方メートル未満のものを除く。）について現に当該特定緑化部分が存するものと市長が認定し、かつ、当該土地に存する基準緑化部分及び特定緑化部分（以下「緑化部分」と総称する。）に係る建築物の所有者又は管理者が当該緑化部分について10年間保全する契約を平成21年4月1日から平成35年12月31日までの間に締結した場合には、当該土地に対して課する固定資産税又は都市計画税については、当該契約を締結した日の属する年の翌年の1月1日を賦課期日とする年度から10年度分の固定資産税又は都市計画税に限り、当該土地に係る固定資産税額又は都市計画税額のうち当該特定緑化部分が当該土地に占める割合に相当するそれぞれの額のそれぞれ4分の1に相当する額を当該土地に係る固定資産税額又は都市計画税額から減額する。

- (1) 緑の環境をつくり育てる条例（昭和48年6月横浜市条例第47号）第6条第3項の規定に基づいて緑化が行われている建築物の敷地については、市長が基準として定める建築物の敷地面積に対する緑化が行われた面積の割合
- (2) 緑の環境をつくり育てる条例第9条第1項の規定により市長と協議した計画に係る建築物の敷地については、当該敷地に係る同条第2項の規定に基づく基準に定める建築物の敷地面積に対する緑化が行われた面積の割合
- (3) 横浜市開発事業の調整等に関する条例（平成16年3月横浜市条例第3号）第17条第1項の規定による市長の同意を得た計画に係る建築物の敷地については、同条例第18条第2項第4号ア又は同項第9号の規定により適合することとされている横浜市斜面地における地下室建築物の建築及び開発の制限等に関する条例（平成16年3月横浜市条例第4号）第5条第1項に規定する当該建築物の敷地面積に対する緑化又は既存の樹木の保存が行われた部分の面積の割合
- (4) 都市緑地法（昭和48年法律第72号）第34条第1項の規定に基づき都市計画に定められた緑化地域内において、当該建築物の存する区域の建築物に係る同条第2項の規定に基づき緑化地域に関する都市計画において定められた建築物の緑化率（同項に規定する緑化率をいう。以下同じ。）の最低限度の割合が前3号に掲げる割合を超える場合には、前3号の規定にかかわらず、当該建築物の存する区域の建築物に係る同項の規定に基づき緑化地域に関する都市計画において定められた建築物の緑化率の最低限度として定められた割合。ただし、当該建築物の敷地が、同項の規定に基づき緑化地域に関する都市計画において定められた建築物の緑化率の最低限度の割合が異なる区域の2以上にわたる場合においては、同法第35条第4項の規定の例により算出する当該建築物の存する区域の建築物に係る緑化率の最低限度の割合
- (5) 工場立地法（昭和34年法律第24号）第6条第1項に規定する特定工場の敷地については、前各号の規定にかかわらず、当該敷地が、横浜市工場立地法市準則条例（平成12年2月横浜市条例第9号）別表第1に定める第一種区域（以下この号において「第一種区域」という。）に存する場合にあっては同表に定める緑地の面積の敷地面積に対する割合、同条例別表第2に定める第二種区域（以下この号において「第二種区域」という。）に存する場合にあっては同表に定める緑地の面積の敷地面積に対する割合又はこれら以外の区域に

存する場合にあっては当該敷地に係る同法第4条第1項の規定に基づき公表される製造業等に係る工場又は事業場の立地に関する準則（以下この号において「法準則」という。）に定める緑地の面積の敷地面積に対する割合（当該敷地が第一種区域、第二種区域及びこれら以外の区域のうち2以上の区域にわたる場合においては、その敷地に占めるそれぞれの区域の割合につき、第一種区域のそれが最も多いときはその敷地の全部について同条例別表第1に定める緑地の面積の敷地面積に対する割合、第二種区域のそれが最も多いときはその敷地の全部について同条例別表第2に定める緑地の面積の敷地面積に対する割合又はこれら以外の区域のそれが最も多いときはその敷地の全部について法準則に定める緑地の面積の敷地面積に対する割合）

（農業用施設用地に対して課する固定資産税等の特例）

第6条 農業振興地域の整備に関する法律（昭和44年法律第58号）第3条第3号又は第4号に規定する施設（以下「農業用施設」という。）の用に供する土地（固定資産評価基準（昭和38年自治省告示第158号）第1章第3節四本文の定める方法により評価されるものを除く。）の所有者が当該土地上に存する当該農業用施設について10年間保全する契約を平成21年4月1日から平成35年12月31日までの間に締結し、かつ、市長があらかじめ定める基準により都市部における緑地としての農地の保全に寄与することとなる農業用施設の用に供する土地として当該土地が指定された場合には、当該土地に対して課する固定資産税又は都市計画税については、当該指定の日の属する年の翌年の1月1日を賦課期日とする年度から10年度分の固定資産税又は都市計画税に限り、第1号に掲げる固定資産税額又は都市計画税額から第2号に掲げる固定資産税額又は都市計画税額に相当する額を減じて得たそれぞれの額に相当する額を当該土地に係る固定資産税額又は都市計画税額から減額するものとする。

- (1) 当該土地に係る当該年度分の固定資産税額又は都市計画税額
- (2) 当該土地に係る当該年度の固定資産税又は都市計画税の賦課期日において、当該土地を固定資産評価基準第1章第3節四本文の定める方法により評価される土地とみなして当該方法により当該土地を評価した場合に得られるべき固定資産税額又は都市計画税額に相当する額

横浜みどりアップ計画について

横浜みどりアップ計画については、「緑豊かなまち横浜」を次世代に継承するため、横浜みどり税を財源の一部に活用し、緑の減少に歯止めをかける取組や、市街地における緑の創出を2009年度から進めてきました。

2019年度からは、これまでの取組の成果や課題等を踏まえて策定した、3期目となる新たな5か年計画に取り組んでおり、今年度は5年目となります。

今回、2022年度までの4か年を振り返り、事業・取組の評価・検証を行いましたので、ご報告します。

【別紙1】

横浜みどりアップ計画 [2019-2023] 概要版

【別紙2】

「横浜みどりアップ計画 [2019-2023]
4か年（2019年度～2022年度）の事業・取組の評価・検証」

【別紙3】

「横浜みどりアップ計画 [2019-2023] 4か年の実績 概要」



横浜みどりアップ計画

概要版

[2019 - 2023]



横浜みどりアップ計画とは

横浜市は大都市でありながら、市民生活の身近な場所に、多くの樹林地や農地などの多様な緑を有しています。これらの緑を次世代に引き継ぐため、「横浜水と緑の基本計画」を2006(平成18)年に策定し、2016(平成28)年の改定で「多様なライフスタイルを実現できる水・緑豊かな都市環境」を目標像に掲げ、水と緑の環境を育む様々な取組を展開しています。2009(平成21)年度からは、緑の減少に歯止めをかけ、「緑豊かなまち横浜」を次世代に継承するため、「横浜みどり税」を財源の一部に活用した重点的な取組として「横浜みどりアップ計画」を推進しています。

緑の保全や創出は長い時間をかけて継続的に取り組むことが必要です。これまでの取組の成果や課題、この計画の素案に対する市民意見募集の結果などを踏まえ、2019(平成31)年度以降に重点的に取り組む「横浜みどりアップ計画[2019-2023]」を策定しました。

計画の理念 みんなで育む みどり豊かな美しい街 横浜



- 1 緑の減少に歯止めをかけ、総量の維持を目指します**
緑地保全制度による指定が進むことで樹林地の担保量が増加、水田の保全面積を維持、市街地で緑を創出する取組が進展 など
- 2 地域特性に応じた緑の保全・創出・維持管理の充実により緑の質を高めます**
森の保全管理など緑の多様な機能や役割を發揮する取組の進展、緑や花の創出により街の魅力・賑わいが向上 など
- 3 市民と緑との関わりを増やし、緑とともにある豊かな暮らしを実現します**
森に関わるイベントや農作物の収穫体験、地域の緑化活動など、市民や事業者が緑に関わる機会が増加 など

これまでの成果(2009~2017年度)

市民とともに次世代につなぐ森を育む

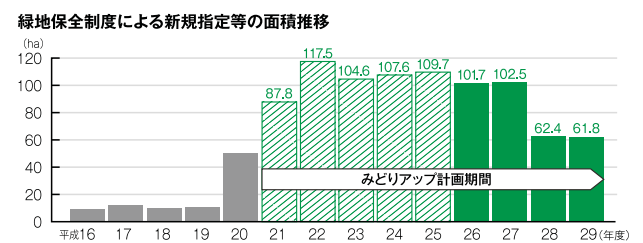
森の保全が進展 855.6ha指定 213.1ha買取り

特別緑地保全地区、市民の森などの制度による指定を積極的に進めました。また、特別緑地保全地区などの指定地で、土地所有者の不測の事態などによる買入れ申し出に着実に対応しました。

●緑地保全制度による指定の拡大・市による買取り



新規指定した特別緑地保全地区(金沢区) 土地の買取りをした市民の森(旭区)



森への関わりが広がり、深まる

森に関わるきっかけとなるイベントを開催したほか、生物多様性の保全や利用者の安全確保など、愛護会などと連携しながら良好な森を育成するための取組を進めました。

●市民協働による良好な森の育成

愛護会などと連携し、森ごとに具体的な管理の計画を定める「保全管理計画」を策定し、森づくりを推進 保全管理計画策定42か所

●樹林地維持管理助成

緑地保全制度により指定した民有樹林地の外周部などの危険・支障樹木の伐採などの管理作業を支援 803件

●森づくり活動団体への支援

市民の森や都市公園内の樹林等で活動する団体に対して、森づくり活動を支援 のべ466団体



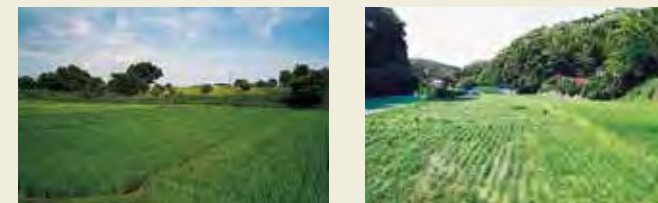
森づくり活動団体への専門家派遣による研修(磯子区) みどりアップ健康ウォーキング(南区)

市民が身近に農を感じる場をつくる

市内の水田の9割を保全 119.8ha保全

水稲作付の10年間継続を条件として土地所有者に奨励金を交付し、貴重な農景観である水田を保全しました。

●水田の保全



保全された水田(瀬谷区) 保全された水田(栄区)

良好な農景観の保全が進展

農業者団体が実施する農地周辺の維持管理の取組を支援したほか、意欲ある担い手に農地を長期に貸し付け耕作されたことで、良好な農景観が保全されました。

●多様な主体による農地の利用推進

 109.9ha


長期貸付を開始した農地(泉区) 長期貸付を開始した農地(神奈川区)

農とのふれあいの場が着実に増加

農園の開設40.6ha

市民ニーズに応じた多様な農園の開設のほか、直売所等への支援や農体験教室の開催を進めました。

●様々な市民ニーズに合わせた農園の開設

収穫体験から本格的な農作業まで、様々な市民ニーズに合わせた農園の開設支援や整備を推進



収穫体験農園(戸塚区) 環境学習農園(戸塚区) 農園付公園(港北区)

気軽に農を体験する 本格的に農を楽しむ

市民が実感できる緑をつくる

緑のまちづくりが進展 42地区

地域が主体となり、地域にふさわしい緑を創出する計画を策定し、計画を実現していくための取組を、市民と協働して進めました。

●地域緑のまちづくり



緑や花で街の賑わいを創出

都心臨海部において、花や緑による空間演出や質の高い維持管理を集中的に展開しました。全国都市緑化よこはまフェア(2017(平成29)年)の会場として多くの方が訪れ、花や緑を楽しみました。

●都心臨海部の緑花による賑わいづくり



港の見える丘公園(中区) グランモール公園(西区)

緑の少ない区に緑豊かな公園を開設

緑の少ない区(鶴見、神奈川、西、中、南)において緑豊かな公園の整備により緑を作り、街の魅力や賑わいづくりにつなげています。

●公有地化によるシンボリックな緑の創出



したのやちよう 下野谷町三丁目公園(鶴見区)

効果的な広報の展開

市民の皆様幅広く計画を知っていただき、緑の活動への参加が一層増えるよう、広報よこはまへの掲載、町内会等での回覧のほか、映像の活用やイベントへの出展など、計画の内容や成果について様々な手法で積極的に広報を行いました。



アニメーションを活用したPR イベントによるPR(保土ヶ谷区)



2019年度から始まる横浜みどりアップ計画の概要



- 横浜みどりアップ計画 [2019-2023]の特徴
- 緑の10大拠点内や市街化区域内のまとまりのある樹林地の指定を重点的に推進
 - 全国都市緑化よこはまフェアの成果を継承する取組を新たに実施
 - 樹林地所有者の維持管理負担を軽減するための支援を拡充
 - 地域で愛されている並木の再生を新たに実施

計画の柱1 市民とともに次世代につなぐ森を育む

森(樹林地)の多様な機能や役割に配慮しながら、緑のネットワークの核となるまとまりのある森を重点的に保全するとともに、保全した森を市民・事業者とともに育み、次世代に継承します。

5か年の主な取組

- 300haの樹林地を新規指定し、買入れ申し出に対応
- 森が持つ多様な機能が発揮できるよう、良好な森づくりを推進
- 指定した樹林地における維持管理の支援
- 森に関わるきっかけとなるイベントや広報を実施

施策1 樹林地の確実な保全の推進

事業① 緑地保全制度による指定の拡大・市による買取り

- 税の優遇措置の適用などが可能となる緑地保全制度による指定を進め、樹林地等を保全(300ha)
- 土地所有者の不測の事態等による、樹林地の買入れ申し出に対応(113haを想定)
- 市民の森において、散策路などの市民が自然に親しむために必要な施設を整備



市内に残るまとまりのある樹林地

施策2 良好な森を育成する取組の推進

事業② 良好な森の育成

- 市民の森などのまとまった樹林を対象に、生物多様性の保全、快適性の確保、良好な景観形成、防災・減災など森が持つ多様な機能が発揮できるように、良好な森づくりを推進
- 土地所有者の維持管理負担を軽減し、樹林地の安全性の向上などを図るため、樹林地外周部の危険・支障木のせん定・伐採や草刈り、樹林地内部の倒木や枯れ木の撤去処分などの費用の一部を助成(500件)

事業③ 森を育む人材の育成

- 森づくり活動に取り組む団体への活動に対する助成や、専門家派遣による支援を実施(150団体)



森の中でのイベント

施策3 森と市民とをつなげる取組の推進

事業④ 市民が森に関わるきっかけづくり

- 各区での催し等において、森に関わるきっかけとなり、環境を学ぶ機会にもなるイベントを実施(180回)
- ウェルカムセンターにおいて、市民が森について理解を深めるための取組を推進(50回)



計画の柱2 市民が身近に農を感じる場をつくる

良好な景観形成や生物多様性の保全など、農地が持つ環境面での機能や役割に着目した取組、地産地消や農体験の場の創出など、市民と農の関わりを深める取組を展開します。

5か年の主な取組

- 多様な機能を有する水田の継続的な保全を支援
- 様々な市民ニーズに合わせた農園を開設するなど、農とふれあう機会を提供
- 身近に農を感じ、市民や企業と連携した地産地消の推進

施策1 農に親しむ取組の推進

事業① 良好な農景観の保全

- 水田景観の保全や多様な機能が発揮できるよう、水稲の作付を10年間継続することを条件に奨励金を交付(125ha)
- 農地縁辺部への植栽や土砂流出防止対策など、良好な農景観を維持する活動を支援
- 多様な主体へ農地を貸し付けられるよう、遊休化した農地の復元を支援(1.5ha)



保全された水田

事業② 農とふれあう場づくり

- 収穫体験から本格的な農作業まで、様々な市民ニーズに合わせた農園を開設(22.8ha)
- 横浜ふるさと村や恵みの里等で農体験教室などを実施(450回)

施策2 地産地消の推進

事業③ 身近に農を感じる地産地消の推進

- 直売所や加工所に必要な設備の導入や、青空市・マルシェの開催等を支援(285件)
- 「横浜農場」を活用した市内産農畜産物のブランド化に向けたプロモーションを強化



都心臨海部のマルシェ

事業④ 市民や企業と連携した地産地消の展開

- 地産地消を広げる人材(はまふうどコンシェルジュ)の育成や活動の支援(150件)
- 生産者と企業等とのマッチングなどにより、連携を推進(50件)

効果的な広報の展開

取組の内容や実績について、より多くの市民・事業者理解されるとともに、緑を楽しみ、緑に関わる活動に参加していただけるよう、戦略的な広報を展開します。

事業① 市民の理解を広げる広報の展開

- 広報よこはま等の広報紙への記事掲載
- 広告、動画等の各種メディアを活用したPR
- メールマガジンやソーシャルメディア等による情報発信
- 取組に基づいて実施したことを示す現地掲示(プレート)
- 実績リーフレット作成、自治会・町内会への説明や回覧
- ホームページの充実
- 緑に関するイベントでのPR

計画の柱3 市民が実感できる緑や花をつくる

街の魅力を高め、賑わいづくりにつながる緑や花、街路樹などの緑の創出に、緑のネットワーク形成も念頭において取り組みます。また、地域で緑を創出・継承する市民や事業者の取組を支援します。

5か年の主な取組

- 地域で愛されている並木を再生
- 地域が主体となる地域緑のまちづくりや地域に根差した各区での取組を推進
- 子どもが多くの時間を過ごす場での緑の創出・育成を推進
- 多くの市民が訪れる場所で緑花による魅力ある空間づくりを推進

施策1 市民が実感できる緑をつくり、育む取組の推進

事業① まちなかでの緑の創出・育成

- 各区の主要な公共施設・公有地において、緑を充実させる取組を推進(36か所)
- 老木化した桜並木などの地域で愛されている並木の再生や、街路樹を良好に維持管理することにより、街路樹による良好な景観を創出・育成
- 多くの市民の目にふれる場所で土地利用転換などの機会に用地を確保し、緑豊かな空間を創出するほか、地域に親しまれている花畑や名所などが、所有者の不測の事態等により存続が困難な場合に用地を取得し、地域のシンボリックな空間として保全



地域で愛されている桜並木

施策2 緑や花に親しむ取組の推進

事業② 市民や企業と連携した緑のまちづくり

- 地域が主体となり、地域にふさわしい緑を創出する取組を支援(新規30地区)
- 緑や花に親しむ市民の盛り上げりを醸成していくため、地域に根差した各区での取組を推進

事業③ 子どもを育む空間での緑の創出・育成

- 子どもが多くの時間を過ごす保育園、幼稚園、小中学校での緑を創出する取組を推進(100か所)

事業④ 緑や花による魅力・賑わいの創出・育成

- 都心臨海部や全国都市緑化よこはまフェアの開催により多くの人で賑わった里山ガーデンなど、多くの市民が訪れる場所で、緑や花による魅力ある空間づくりを集中的に展開



花による魅力・賑わいの創出



計画の体系・5か年事業費

総事業費502億円(136億円)

※事業費の()はうちみどり税を記載しています ※端数調整により合計値が整合しない場合があります

計画の柱1 市民とともに次世代につなぐ森を育む 事業費367億円(72億円)

施策1 327億円(41億円) 樹林地の確実な保全の推進	事業① 緑地保全制度による指定の拡大・市による買取り 327億円(41億円)
施策2 37億円(30億円) 良好な森を育成する取組の推進	事業② 良好な森の育成 36億円(28億円) 事業③ 森を育む人材の育成 1億円(1億円)
施策3 3億円(1億円) 森と市民をつなげる取組の推進	事業④ 市民が森に関わるきっかけづくり 3億円(1億円)

計画の柱2 市民が身近に農を感じる場をつくる 事業費41億円(13億円)

施策1 37億円(13億円) 農に親しむ取組の推進	事業① 良好な農景観の保全 12億円(5億円) 事業② 農とふれあう場づくり 25億円(8億円)
施策2 4億円(-) 地産地消の推進	事業③ 身近に農を感じる地産地消の推進 3億円(-) 事業④ 市民や企業と連携した地産地消の展開 0.7億円(-)

計画の柱3 市民が実感できる緑や花をつくる 事業費93億円(51億円)

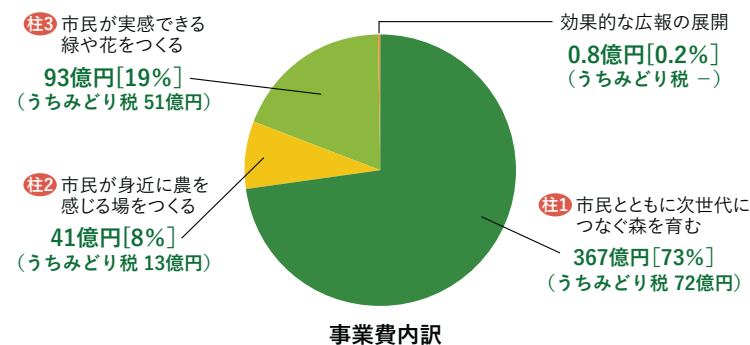
施策1 55億円(35億円) 市民が実感できる緑をつくり、育む取組の推進	事業① まちなかでの緑の創出・育成 55億円(35億円)
施策2 38億円(16億円) 緑や花に親しむ取組の推進	事業② 市民や企業と連携した緑のまちづくり 7億円(5億円) 事業③ 子どもを育む空間での緑の創出・育成 4億円(0.7億円) 事業④ 緑や花による魅力・賑わいの創出・育成 27億円(11億円)

効果的な広報の展開 事業費0.8億円(-)

事業① 市民の理解を広げる広報の展開	0.8億円(-)
---------------------------	----------

総事業費及び内訳

5か年総事業費 約502億円
(うちみどり税 約136億円)

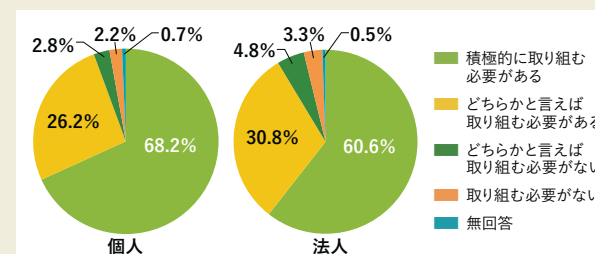


計画に対する市民意見募集の結果(抜粋)

横浜みどりアップ計画の策定に向けて、2018(平成30)年1月に、2019(平成31)年度以降に重点的に取り組む緑の施策を「これからの緑の取組[2019-2023]」(素案)としてまとめ、市民意見募集を行いました。

●取組の目標について

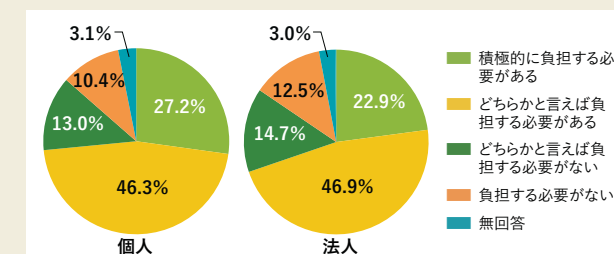
「これからの緑の取組」では、引き続き、緑の保全・創造の取組を進め、緑の減少に歯止めをかけようとしています。このことについてどう思いますか。



個人・法人とも、8~9割の方に「積極的に取り組む必要がある」又は「どちらかと言えば取り組む必要がある」とお答えいただきました。

●取組に必要な財源について

「これからの緑の取組」に掲げた施策を実施するためには、安定した財源が必要となります。その財源の一部を、横浜みどり税のように、市民が負担することについて、どう思いますか。



個人・法人ともに約7割の方に、「積極的に負担する必要がある」又は「どちらかと言えば負担する必要がある」とお答えいただきました。



計画を進めるにあたって



●計画を進めるための財源について(横浜みどり税)

横浜市では、緑の保全・創造に取り組むために必要な、安定的な財源を確保するため、2009(平成21)年度から市民の皆様にご負担いただいている「横浜みどり税」について、引き続き2019(平成31)年度から2023(平成35)年度までご負担をお願いし、この計画の重要な財源の一部として活用していきます。

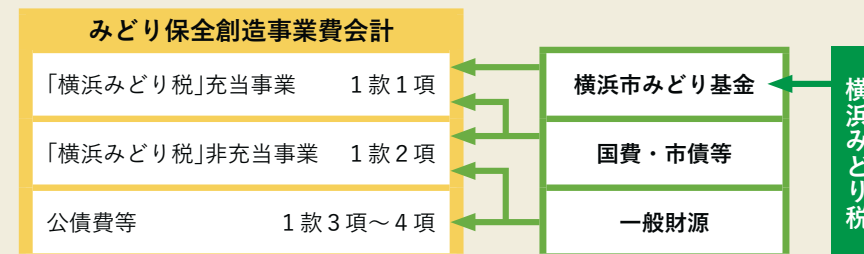
対象	税率
個人	市民税の均等割に年間900円上乘せ*
法人	市民税の年間均等割額の9%相当額

※所得が一定金額以下で市民税均等割が課税されない方は課税対象から除く

●横浜市みどり基金と特別会計

横浜みどり税は、市民税の超過課税の形でご負担をお願いするものですが、その税収の用途は横浜みどりアップ計画に限定されます。そこで、この税収を管理する基金を設置することにより、他の一般財源から明確に分離するとともに、年度間の財源調整も行います。

横浜みどり税の用途を明確にするためには、横浜みどり税を充当して実施する事業のみならず、横浜みどりアップ計画全体について、その内容や進捗状況を他の施策と分離して明らかにしていく必要があります。そこで、横浜みどり税非充当事業(既存事業費等)を含めた横浜みどりアップ計画全体を対象とする特別会計により、横浜みどり税の用途を明確にします。

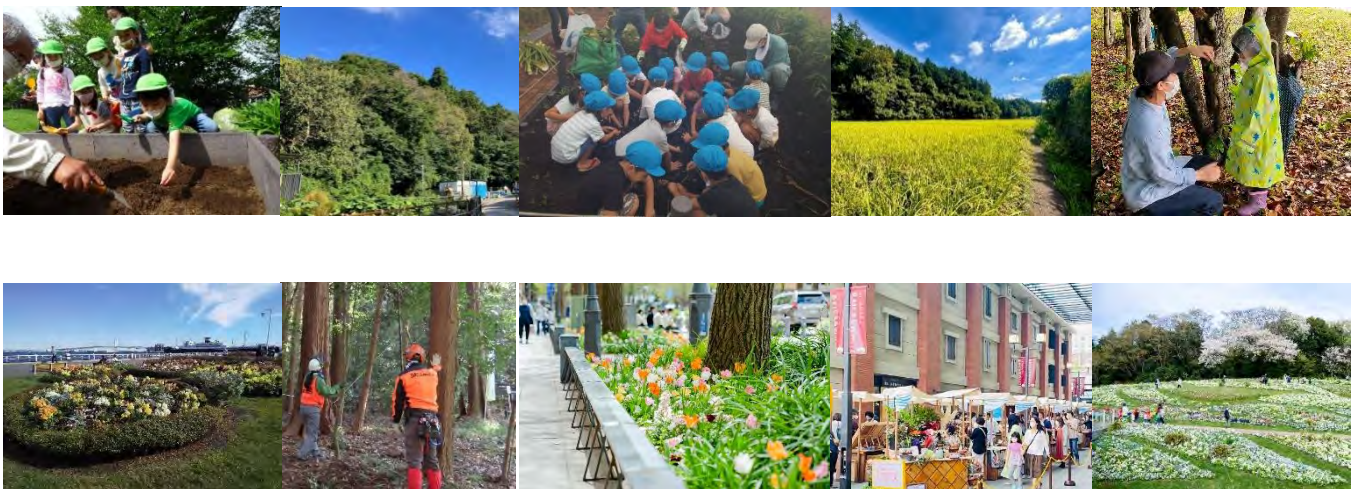


横浜みどリアップ計画
[2019 - 2023]



横浜みどリアップ計画 [2019-2023]

4 か年(2019 年度～2022 年度)の
事業・取組の評価・検証



2023 年 9 月
環境創造局

目次

1 横浜みどりアップ計画の概要	
横浜みどりアップ計画 [2019-2023]	1-2
計画の方針	1-3
計画の体系	1-4
計画を進めるための財源について	1-5
横浜みどりアップ計画市民推進会議	1-6
2 4か年の主な成果と課題	
計画の柱1 市民とともに次世代につなぐ森を育む	2-2
計画の柱2 市民が身近に農を感じる場をつくる	2-4
計画の柱3 市民が実感できる緑や花をつくる	2-6
効果的な広報の展開	2-8
3 事業・取組の実績と評価・検証	
評価の考え方	3-2
4か年の事業・取組の評価一覧	3-3
各事業・取組の実績と評価・検証	3-5
4か年の事業・取組の実績一覧（実績累計）	3-106
4か年の事業・取組の実績一覧（事業費累計）	3-109
4 横浜みどりアップ計画市民推進会議	
2022年度の活動実績	4-2
評価と提案の概要	4-6
5 各区の実績	
鶴見区	5-3
神奈川区	5-11
西区	5-19
中区	5-25
南区	5-33
港南区	5-39
保土ヶ谷区	5-47
旭区	5-55

目次

磯子区	5-65
金沢区	5-73
港北区	5-81
緑区	5-89
青葉区	5-99
都筑区	5-109
戸塚区	5-119
栄区	5-129
泉区	5-137
瀬谷区	5-147

実績の面積、事業費については、端数処理により、合計が一致しないことがあります。

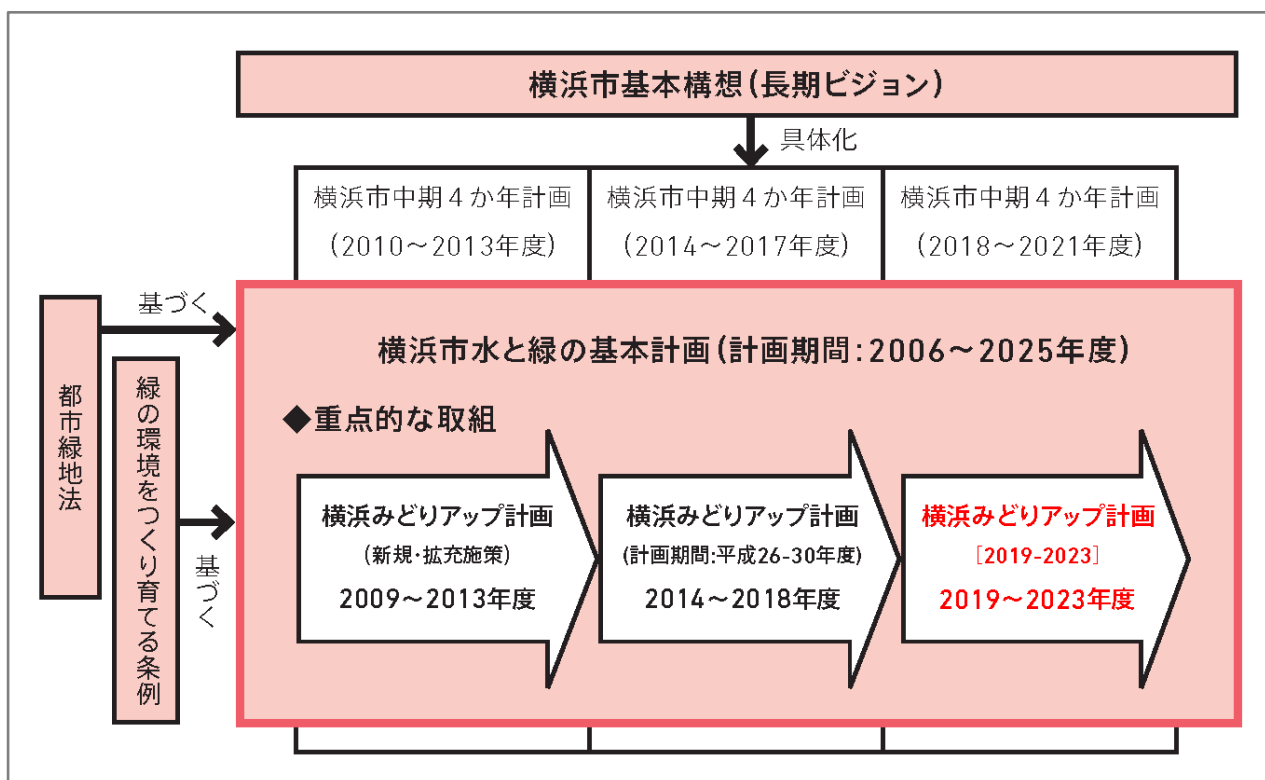
1

横浜みどりアップ計画の概要

横浜みどりアップ計画 [2019-2023]

横浜市は大都市でありながら、市民生活の身近な場所に、多くの樹林地や農地などの多様な緑を有しています。これらの緑を次世代に引き継ぐため、「横浜市水と緑の基本計画」を2006年に策定し、2016年の改定で「多様なライフスタイルを実現できる水・緑豊かな都市環境」を目標像に掲げ、水と緑の環境を育む様々な取組を展開しています。2009年度からは、緑の減少に歯止めをかけ、「緑豊かなまち横浜」を次世代に継承するため、「横浜みどり税」を財源の一部に活用した重点的な取組として「横浜みどりアップ計画」を推進しています。

緑の保全や創出は長い時間をかけて継続的に取り組むことが必要です。これまでの取組の成果や課題、この計画の素案に対する市民意見募集の結果などを踏まえ、2019年度以降に重点的に取り組む「横浜みどりアップ計画 [2019-2023]」を策定しました。



【図】「横浜みどりアップ計画 [2019-2023]」の位置付け

計画の方針

計画の理念

みんなで育む みどり豊かな美しい街 横浜

5か年の目標

計画の理念のもと、2019年度から2023年度までの5か年の目標を、次のとおりとします。

1 緑の減少に歯止めをかけ、総量の維持を目指します

緑地保全制度による指定が進むことで樹林地の担保量が増加、水田の保全面積を維持、市街地で緑を創出する取組が進展 など

2 地域特性に応じた緑の保全・創出・維持管理の充実により緑の質を高めます

森の保全面積など緑の多様な機能や役割を発揮する取組の進展、緑や花の創出により街の魅力・賑わいが向上 など

3 市民と緑との関わりを増やし、緑とともにある豊かな暮らしを実現します

森に関わるイベントや農作物の収穫体験、地域の緑化活動など、市民や事業者が緑に関わる機会が増加 など

計画の柱

5か年の目標の実現に向けて、「横浜みどりアップ計画」では、次の3つの計画の柱と、効果的な広報に重点的に取り組みます。

計画の柱1 市民とともに次世代につなぐ森を育む

森（樹林地）の多様な機能や役割に配慮しながら、緑のネットワークの核となるまとまりのある森を重点的に保全するとともに、保全した森を市民・事業者とともに育み、次世代に継承します。

計画の柱2 市民が身近に農を感じる場をつくる

良好な景観形成や生物多様性の保全など、農地が持つ環境面での機能や役割に着目した取組、地産地消や農体験の場の創出など、市民と農の関わりを深める取組を展開します。

計画の柱3 市民が実感できる緑や花をつくる

街の魅力を高め、賑わいづくりにつながる緑や花、街路樹などの緑の創出に、緑のネットワーク形成も念頭において取り組みます。また、地域で緑を創出・継承する市民や事業者の取組を支援します。

効果的な
広報の
展開

計画の体系

計画の柱1 市民とともに次世代につなぐ森を育む



施策1
樹林地の確実な保全の推進

事業① 緑地保全制度による指定の拡大・市による買取り

施策2
良好な森を育成する取組の推進

事業② 良好な森の育成

事業③ 森を育む人材の育成

施策3
森と市民とをつなげる取組の推進

事業④ 市民が森に関わるきっかけづくり

計画の柱2 市民が身近に農を感じる場をつくる



施策1
農に親しむ取組の推進

事業① 良好な農景観の保全

事業② 農とふれあう場づくり

施策2
地産地消の推進

事業③ 身近に農を感じる地産地消の推進

事業④ 市民や企業と連携した地産地消の展開

計画の柱3 市民が実感できる緑や花をつくる



施策1
市民が実感できる緑をつくり、
育む取組の推進

事業① まちなかでの緑の創出・育成

施策2
緑や花に親しむ取組の推進

事業② 市民や企業と連携した緑のまちづくり

事業③ 子どもを育む空間での緑の創出・育成

事業④ 緑や花による魅力・賑わいの創出・育成

効果的な広報の展開

事業① 市民の理解を広げる広報の展開

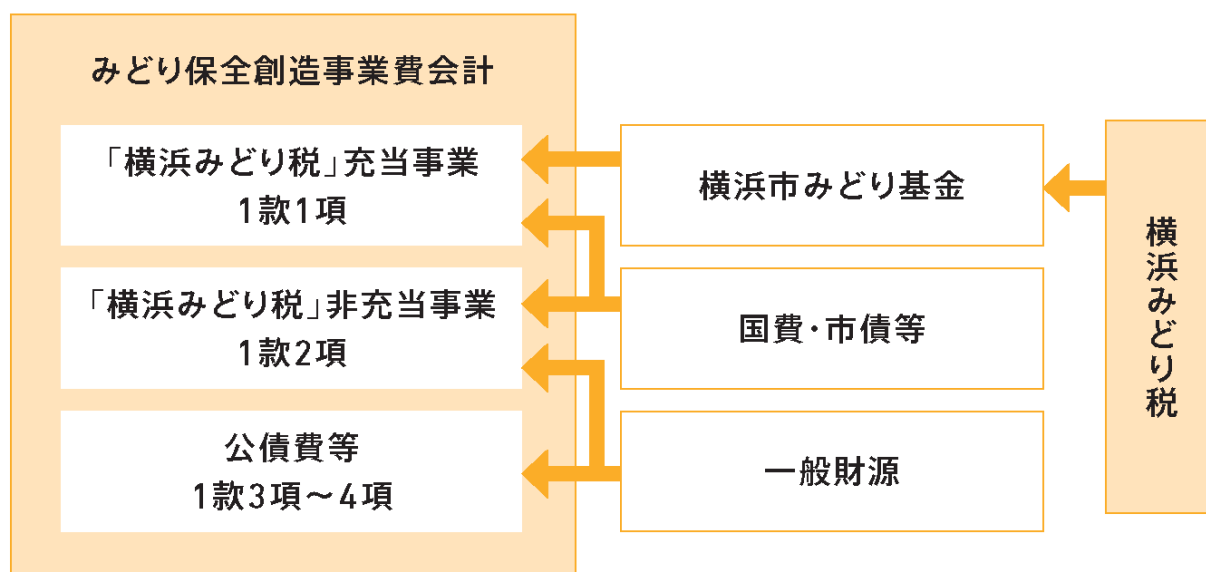
計画を進めるための財源について

横浜市では、緑の保全・創造に取り組むために必要な、安定的な財源を確保するため、2009年度から市民の皆様にご負担いただいている「横浜みどり税」について、引き続き2019年度から2023年度までご負担をお願いし、この計画の重要な財源の一部として活用しています。

対象	税率	期間	備考
個人	市民税の均等割に年間900円を上乗せ	2019年度から2023年度まで	所得が一定金額以下で市民税均等割が課税されない方は課税対象から除く
法人	市民税の年間均等割額の9%相当額を上乗せ	2019年4月1日から2024年3月31日までの間に開始する事業年度分	

横浜みどりアップ計画のうち、下記の横浜みどり税の使途に該当する事業へ横浜みどり税を充当します。

- ・樹林地・農地の確実な担保
- ・身近な緑化の推進
- ・維持管理の充実によるみどりの質の向上
- ・ボランティアなど市民参画の促進につながる事業



横浜みどりアップ計画市民推進会議

「横浜みどりアップ計画」の推進に向け、市民参加の組織により、みどりアップ計画の評価及び意見・提案、市民の方への情報提供等を行うことを目的として、公募市民や学識経験者などからなる「横浜みどりアップ計画市民推進会議」を2009年に設置し、2012年からは横浜市附属機関設置条例に基づく附属機関に位置付けています。

市民推進会議では、全体会議や各種部会、現地調査などにより、みどりアップ計画の評価・提案に向けた議論を行っているほか、広報誌や報告書を発行し、市民推進会議の活動内容や、みどりアップ計画の取組を紹介しています。

活動		取組内容
全体会議		みどりアップ計画の事業目標や事業進捗状況について意見交換、報告書について検討
部会	施策別専門部会	みどりアップ計画の取組の柱ごとに、取組の内容と進捗状況について意見交換を行い、評価・提案について検討
	広報・見える化部会	広報誌の編集 みどり税やみどりアップ計画のわかりやすい伝え方の検討
	調査部会	みどりアップ計画の取組が進められている現場を調査
広報誌の発行		市民推進会議の活動内容や、みどりアップ計画の取組を紹介する広報誌を発行
報告書の発行		みどりアップ計画の評価・提案等を報告書として発行

2

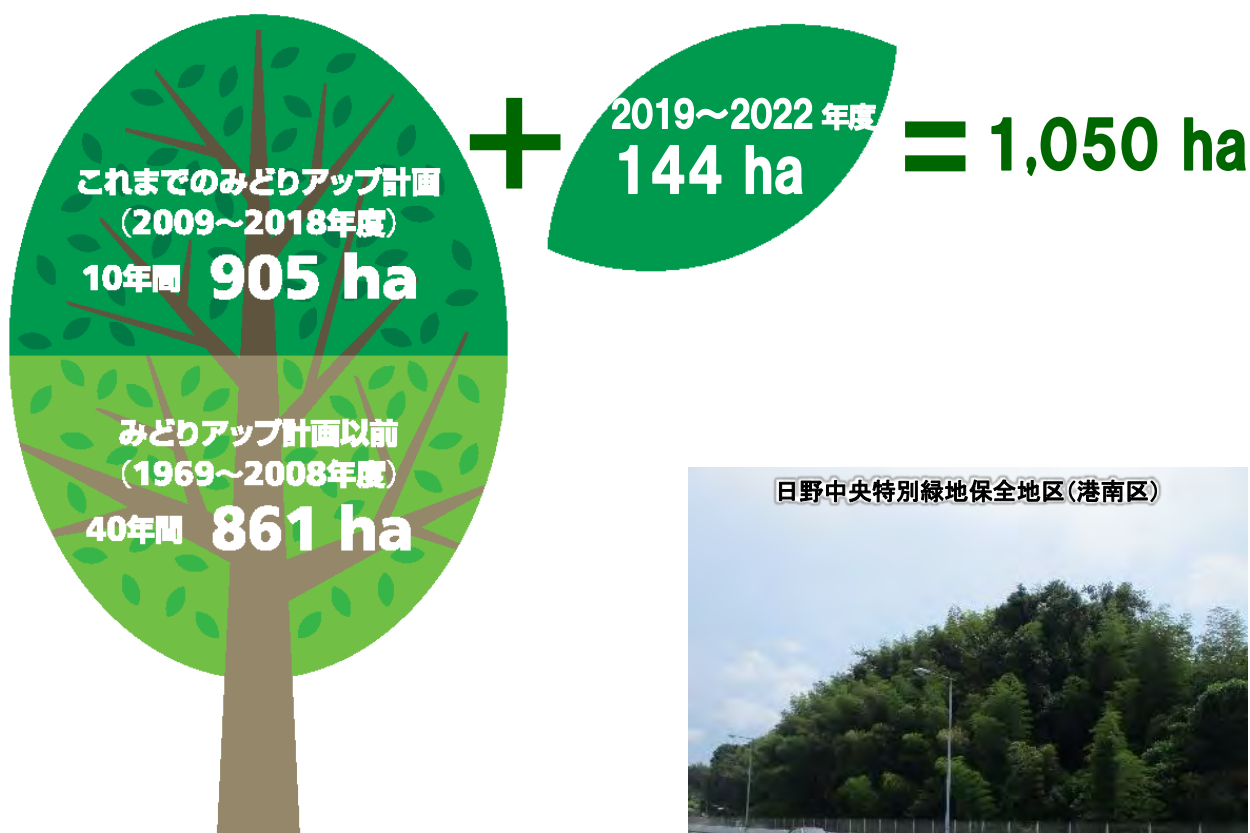
4か年の主な成果と課題

計画の柱 1 市民とともに次世代につなぐ森を育む

1. 樹林地の保全の進展



- 4か年で 144ha の樹林地を新たに緑地保全制度により指定しました。2009 年度のみどりアップ計画開始以降の 14 年間では、1,050ha を指定しています。これは、みどりアップ計画以前の 40 年間の 861ha を越える面積となります。
- 緑地保全制度による新規指定の4か年の実績は、コロナ禍の影響もあり、目標には及びませんでした。着実に指定を進めることができました。
- 土地所有者からの買入れ申し出に確実に対応しています。
- 今後も、緑の拠点となるまとまりある樹林地や市民利用を図る上で大切な場所にある樹林地などの保全に向け、土地所有者に継続した指定の働きかけをしていくことが必要です。



■ 4か年の主な実績 (累計)

- 緑地保全制度による新規指定：144.8ha [5か年目標：300ha]
- 市による買取り：67.0ha [5か年想定：113ha]

計画の柱 1 市民とともに次世代につなぐ森を育む

2. 市民が森に親しむための取組の展開



- 市民が気軽に森の中に入り、森に親しむことができるように、市民の森などの整備を進めました。
- 市民の身近な自然にふれあうニーズの高まりを受け、ガイドマップの作成や森に関わる子ども向けのイベントなどを幅広く開催しました。今後も、保全した樹林地をより一層活用し、子どもをはじめとした多くの市民が森に関わるきっかけとなるよう、様々な取組を増やす必要があります。



■ 園路の整備
(今井・境木市民の森／保土ヶ谷区)



■ 森の中のプレイパーク
(南図書館／南区)



■ よこはま森の楽校
(東洋英和女学院大学／緑区)

■ 4か年の主な実績（累計）

- 保全した樹林地の整備：312 か所 [5 か年目標：推進]
- 市内大学や関係団体などと連携したイベントや、区主催による地域の森でのイベントの実施：249 回 [5 か年目標：180 回]

3. 保全した樹林地の良好な維持管理や安全の確保を市民協働で推進



- 市が管理する樹林地を安全に維持管理しながら、緑の機能が発揮されるような森づくりを進めました。また、民有樹林地では、土地所有者が実施する維持管理の負担の軽減のため、倒木や枯れ木の撤去処分などの助成を拡大して支援しました。
- 今後も、ナラ枯れや台風被害にも対応しながら、土地所有者が樹林地を良好に管理していけるよう支援を充実していくことが必要です。
- 市民協働で良好な森づくりを推進するため、森づくり活動団体を支援しました。また、新しく森づくりを担う森づくりボランティアを増やすために森づくりボランティア体験会を実施しています。



■ 横浜市による維持管理の実施
(新橋市民の森／泉区)



■ 土地所有者による維持管理への支援
左：作業前 右：作業後(戸塚区)



■ 森づくり体験会
(池辺市民の森／都筑区)

■ 4か年の主な実績（累計）

- 森の維持管理：樹林地 636 か所、公園 150 か所 [5 か年目標：推進]
- 維持管理の助成：525 件 [5 か年目標：500 件]
- 森づくりを担う人材の育成：研修の実施 51 回、体験会の開催 34 回 [5 か年目標：推進]



1. 良好な農景観の保全の推進

- 市内の水田面積の約9割を保全しました。
- 農地縁辺部の草刈りや植栽の活動を支援し、良好な農景観を維持・形成しました。
- 遊休農地の復元を支援し、意欲ある農家等へ貸し付けることで、良好な農景観を保全しました。
- 今後も、担い手の減少や高齢化などによる遊休農地化を防ぐための取組をより一層進めていく必要があります。

水田の保全



■ 4か年の主な実績（累計）

- 水田保全面積：111.9ha [5か年目標：125ha]
- 集団農地維持面積：674.0ha [5か年目標：730ha]
- 井戸の改修：10地区 [5か年目標：5地区]
- 牧草等による環境対策：19.31ha [5か年目標：20ha]
- 遊休農地の復元支援：1.82ha [5か年目標：1.5ha]

※水田保全面積及び集団農地維持面積は、2022年度の保全面積及び維持面積を4か年の実績としています。

計画の柱2 市民が身近に農を感じる場をつくる



2. 農とふれあう場や機会の増加

- 市民が気軽に農とふれあうために様々なニーズに合わせた農園の開設を進めるとともに、感染症対策をとりながら、市民が農について学ぶイベントや講座を実施しました。
- 子育て世代をはじめとした多くの市民からの身近に農とふれあえる機会へのニーズが高まっており、農地が少ない都心部での農と触れ合う場づくりの展開など、取組を充実していく必要があります。



市民農園(鶴見区)



農体験教室(青葉区)



市民農業大学講座(保土ヶ谷区)

■ 4か年の主な実績 (累計)

- 様々なニーズに合わせた農園の開設：17.5ha [5か年目標：22.8ha]
- 横浜ふるさと村、恵みの里等で農体験教室などの実施：321回 [5か年目標：450回]
- 市民農業大学講座の開催：75回 [5か年目標：100回]

3. 地産地消の拡大



- 市民が身近なところで地産地消を実感できるよう、直売所・青空市等の支援を行ったほか、野菜を購入できる自動販売機の設置などを支援しました。
- Instagramに横浜農場アカウントを開設し、横浜の農の魅力を発信するなど、地産地消の情報をSNSも活用しながら発信しました。
- 地産地消を広げる人材「はまふうどコンシェルジュ」を増やし、活動を支援しました。
- はまふうどコンシェルジュなど地産地消に関わる人材がさらに活躍できるよう支援していく必要があります。



みなとみらい農家朝市(西区)



自動販売機(旭区)

10 はまふうどナビ
よこはまの農と暮らしを届く情報誌
10月号
「はまふうどナビ」を応援
「はまふうどナビ」は、横浜市の農と暮らしを届く情報誌です。毎月10月号と2月号の2回発行しています。内容は、横浜市の農と暮らしに関する情報、農産物の紹介、農家のインタビューなどです。ぜひご覧ください。横浜農場 食と農のマルシェ
横浜市内の生産者・加工者が参加し、新鮮な農産物の直売と、15品の手作り食品を販売しています。
11月25日(金) 11:00～15:00
横浜市庁舎1階 アトリウム・北プラザ (申込時6:50-10)
お楽しみ抽選会開催!!
横浜農場 Instagram
横浜農場 食と農のマルシェ
横浜環境創造局農産部農課
横浜農場 食と農のマルシェ

■ 4か年の主な実績 (累計)

- 直売所・青空市等の支援：196件 [5か年目標：285件]
- 情報発信・PR活動：情報誌などの発行：24回 [5か年目標：30回]
- はまふうどコンシェルジュの活動支援等：123件 [5か年目標：150件]

計画の柱3 市民が実感できる緑や花をつくる

1. 市民が実感できる緑と花の空間づくりの推進



- 公共施設や公園、保育園など、市民の身近な場所で実感できる緑を創出しました。
- 老木化したサクラの植え替えなど地域の花の名所を継承しています。
- 創出した緑を良好に維持管理するための支援を継続していく必要があります。



大岡川プロムナード(南区)



金沢地区センター(金沢区)



六角橋四丁目公園(神奈川区)



幼稚園の植栽(瀬谷区)



保育園の花壇(青葉区)



尾上町通り(中区)

2. 緑や花による街の賑わいづくりの推進



- 多くの市民が集まる都心臨海部の公共空間などで、緑や花による空間演出を集中的に展開し、街の魅力の向上、賑わいづくりを進めています。
- 市民が身近な街なかで緑や花を楽しむ機会が増えたことで、みどりアップ計画の成果をより多くの市民に実感いただいています。今後も多くの市民の目が触れる場所で取組を進めていく必要があります。



グランモール公園(西区)



日本大通り(中区)



里山ガーデン(旭区)



横浜市児童遊園地(保土ヶ谷区)



山手イタリア山庭園(中区)



新横浜駅周辺(港北区)

■ 4か年の主な実績 (累計)

- 公共施設・公有地での緑の創出：34 か所 [5 か年目標：36 か所]
- 並木の再生：9 路線 [5 か年目標：10 路線]
- 公有地化によるシンボリックな緑の創出：創出 1 か所、整備中 2 か所 [5 か年目標：推進]
- 保育園・幼稚園・小中学校での緑の創出：168 か所 [5 か年目標：100 か所]
- 都心臨海部等の緑花による魅力ある空間づくりと維持管理：58 か所 [5 か年目標：推進]

※並木の再生は、整備完了または整備中の路線数を4か年の実績としています。

計画の柱3 市民が実感できる緑や花をつくる

3. 全区での市民や企業との協働による緑と花の取組の展開 

- ・地域緑のまちづくりで、その地区ならではの緑のまちづくりを推進しました。
- ・オープンガーデンなどの市民が緑や花に親しむ取組を各区で推進しました。併せて、取組の成果をガーデンネックレス横浜の中で発信し、市民や地域・企業等の関心の高まりへとつなげました。今後も多様な主体と連携した取組を推進しながら、緑や花の取組に積極的な地域・企業が継続的に関わられるよう、支援を充実していく必要があります。
- ・公園愛護会と連携した地域の花いっぱいにつながる取組などを全市的に展開し、2027年国際園芸博覧会（GREEN×EXPO 2027）に向けた機運醸成につなげていきます。



■ 4か年の主な実績（累計）

- ・地域緑のまちづくり：20 地区 [5か年目標：30 地区]
- ・緑や花を身近に感じる各区の取組：18 区で推進 [5か年目標：18 区で推進]
- ・地域の花いっぱいにつながる取組：推進 [5か年目標：推進]

効果的な広報の展開

1. 効果的な広報の展開

- 様々な手法を用いて、みどりアップ計画を知っていただけるよう広報を展開しています。
- みどりアップ計画の取組や実績について、今後も多様な世代に向け効果的な情報発信を進める必要があります。

広報よこはま市版

X(旧 Twitter)を活用した広報

横浜みどりアップ葉っぱーが解説する計画紹介アニメーション

こどもタウンニュース

交通広告(横浜市営地下鉄車内動画放映)



農と緑のふれあい祭り ブース出展



公園花壇等での現地表示プレートの設置



秋の里山ガーデン ブース出展

- 4か年の主な実績
- 計画の周知や実績報告：推進 [5か年目標：推進]

これまでの取組に対するご意見

1. これまでの取組に対するご意見

「計画の柱1：市民とともに次世代につなぐ森を育む」について

- 自然を残して鳥や樹木、花などが生息するための保存は必要だと思います。（樹林地の土地所有者）
- 樹林地の保全は地球温暖化の問題や自然環境を守る上でとても大切だと思います。個人で管理するのはとても大変なので助成制度が活用できればいいと思います。（樹林地の土地所有者）
- 森を探検し、ふしぎなことをたくさん調べることができて、いい経験になったと思う。（森に関わるイベント参加者）
- イベントに参加したことで子供たちが自然を身近に感じる機会になった。（森に関わるイベント参加者）

「計画の柱2：市民が身近に農を感じる場をつくる」について

- 毎年秋に近所の農業専用地区を散歩すると、畑に沿ってコスモスが咲いている風景に出会うことができ、とても気持ちがよいです。こういった取組みが広がるといいですね。（地域住民）
- 実際に土を触って栽培を体験することができ有意義な時間となりました。（農体験講座参加者）
- 横浜の美味しいものを知ってもらえました！（マルシェ出展者）
- 新鮮で安い。お店にも行ってみたい！（マルシェ参加者）

「計画の柱3：市民が実感できる緑や花をつくる」について

- 保育園・幼稚園の子供たちがお散歩するときに日陰を歩くことができ助かっています。（地域住民）
- まちに花壇ができたことで、地域の中での多世代交流が活発になりました。（緑化活動団体）
- 通りがかりの人が喜んでくれ、きれいな花をありがとうと声をかけてくれ、励みになりました。手をかけた分だけ、きれいに咲いてくれるのでとてもやりがいがあります。（公園愛護会）
- 学校にビオトープを導入することで、生き物に興味・関心を持つ生徒が増えてきました。（学校関係者）

2 4か年の主な成果と課題



3

事業・取組の実績と評価・検証

評価の考え方

2019年度から2022年度までの事業・取組をふりかえり、4か年の事業・取組の実績・内容について、以下の方法により評価しました。

なお、評価にあたっては、横浜みどりアップ計画市民推進会議からの意見（P4-6）も参考にしています。

ア 進捗状況の評価

全27の取組ごとの、5か年の目標及び計画事業費に対するそれぞれの4か年の進捗および執行率を、次の評価基準により評価しました。

〔進捗状況についての評価基準〕

◎:80%以上

○:50%以上～80%未満

△:50%未満

イ 4か年の総合評価

アの進捗状況の評価に加えて、具体的な取組内容について評価・検証を行い、4か年の各事業・取組の成果を総合的に評価しました。

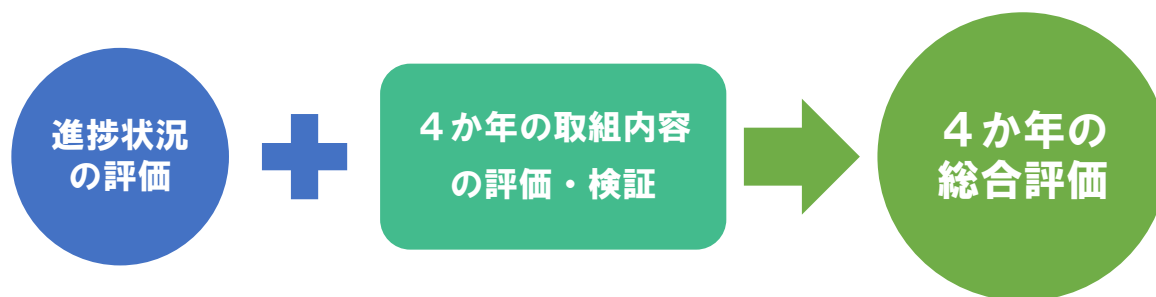
みどりアップ計画の5か年の目標に対してより高い事業効果を発揮した場合や、新型コロナウイルス感染症の影響により実施が困難な状況のなか工夫しながら実績を上げた場合などは、それらを踏まえて評価しました。

〔4か年の総合評価〕

A:計画を上回る成果

B:概ね計画通りの成果

C:計画を下回る成果



5か年の目標（再掲）

- 1 緑の減少に歯止めをかけ、総量の維持を目指します
緑地保全制度による指定が進むことで樹林地の担保量が増加、水田の保全面積を維持、市街地で緑を創出する取組が進展 など
- 2 地域特性に応じた緑の保全・創出・維持管理の充実により緑の質を高めます
森の保全面積など緑の多様な機能や役割を発揮する取組の進展、緑や花の創出により街の魅力・賑わいが向上 など
- 3 市民と緑との関わりを増やし、緑とともにある豊かな暮らしを実現します
森に関わるイベントや農作物の収穫体験、地域の緑化活動など、市民や事業者が緑に関わる機会が増加 など

4か年の事業・取組の評価一覧

事業・取組		総合評価	掲載ページ
計画の柱1 市民とともに次世代につなぐ森を育む			
施策1 樹林地の確実な保全の推進			
事業① 緑地保全制度による指定の拡大・市による買取り			
1	緑地保全制度による指定の拡大・市による買取り	B	3-5
施策2 良好な森を育成する取組の推進			
事業② 良好な森の育成			
2	森の多様な機能に着目した森づくりの推進	B	3-13
3	指定した樹林地における維持管理の支援	A	3-16
事業③ 森を育む人材の育成			
4	森づくりを担う人材の育成	A	3-18
5	森づくり活動団体への支援	B	3-21
施策3 森と市民とをつなげる取組の推進			
事業④ 市民が森に関わるきっかけづくり			
6	森の楽しみづくり	A	3-24
7	森に関する情報発信	B	3-27
計画の柱2 市民が身近に農を感じる場をつくる			
施策1 農に親しむ取組の推進			
事業① 良好な農景観の保全			
8	水田の保全	B	3-30
9	特定農業用施設保全契約の締結	B	3-33
10	農景観を良好に維持する活動の支援	B	3-35
11	多様な主体による農地の利用促進	A	3-41
事業② 農とふれあう場づくり			
12	様々な市民ニーズに合わせた農園の開設	B	3-43
13	市民が農を楽しむ支援する取組の推進	A	3-48
施策2 地産地消の推進			
事業③ 身近に農を感じる地産地消の推進			
14	地産地消にふれる機会の拡大	B	3-51
事業④ 市民や企業と連携した地産地消の展開			
15	地産地消を広げる人材の育成	B	3-57
16	市民や企業等との連携	A	3-60

3 事業・取組の実績と評価・検証

事業・取組		総合評価	掲載ページ
計画の柱3 市民が実感できる緑や花をつくる			
施策1 市民が実感できる緑をつくり、育む取組の推進			
事業① まちなかでの緑の創出・育成			
17	公共施設・公有地での緑の創出・育成	B	3-66
18	街路樹による良好な景観の創出・育成	B	3-69
19	シンボリックな緑の創出・育成	B	3-72
20	建築物緑化保全契約の締結	B	3-75
21	名木古木の保存	B	3-77
施策2 緑や花に親しむ取組の推進			
事業② 市民や企業と連携した緑のまちづくり			
22	地域緑のまちづくり	B	3-79
23	地域に根差した緑や花の楽しみづくり	A	3-82
24	人生記念樹の配布	B	3-88
事業③ 子どもを育む空間での緑の創出・育成			
25	保育園・幼稚園・小中学校での緑の創出・育成	A	3-90
事業④ 緑や花による魅力・賑わいの創出・育成			
26	都心臨海部等の緑花による魅力ある空間づくり	A	3-93
効果的な広報の展開			
事業① 市民の理解を広げる広報の展開			
27	計画の周知や実績報告	B	3-96

柱別 総合評価の集計

	A	B	C
計画の柱1 市民とともに次世代につなぐ森を育む	3	4	0
計画の柱2 市民が身近に農を感じる場をつくる	3	6	0
計画の柱3 市民が実感できる緑や花をつくる	3	7	0
効果的な広報の展開	0	1	0
合計	9	18	0

各事業・取組の実績と評価・検証

計画の柱1 市民とともに次世代につなぐ森を育む



1 緑地保全制度による指定の拡大・市による買取り

- ・ 土地所有者ができるだけ樹林地を持ち続けられるよう、固定資産税の減免などの優遇措置の適用や維持管理などの負担軽減が可能となる緑地保全制度による指定を進め、樹林地等を保全します。
- ・ 特別緑地保全地区の指定地等で、所有者に不測の事態等が発生し、市へ土地の買入れ申し出があった場合に、市が買取りに対応します。
- ・ 市民の森や市が取得した樹林地について、良好に維持管理するため、管理に必要なスペースの確保、柵の設置やのり面の安全対策、越境している樹木等のせん定や間伐などを行います。また、市民の森では、散策路やトイレなどの市民が自然に親しむために必要な施設の整備を行います。

■ 4か年の実績

□ 進捗状況

	緑地保全制度による 新規指定	市による買取り	保全した樹林地の 整備
2019年度実績	47.2ha	19.2ha	64か所
2020年度実績	28.9ha	18.9ha	77か所
2021年度実績	31.9ha	19.6ha	86か所
2022年度実績	36.8ha	9.3ha	85か所
4か年累計(a)	144.8ha	67.0ha	312か所
5か年目標(b)	300ha	想定 113ha	推進
進捗率(a/b)	48.3%	59.3%	—
評価	△	○	—

□事業費執行状況

	事業費	うち横浜みどり税
2019年度決算額	7,460百万円	1,767百万円
2020年度決算額	6,339百万円	1,002百万円
2021年度決算額	5,683百万円	944百万円
2022年度決算見込額	5,363百万円	1,182百万円
4か年累計見込(a)	24,845百万円	4,895百万円
5か年計画額(b)	32,682百万円	4,084百万円
執行率(a/b)	76.0%	119.9%
評価	○	◎

■4か年の評価・検証

- 今期のみどりアップ計画では、緑の10大拠点の樹林地や、市街化区域内の身近なまとまりのある樹林地の指定を重点的に推進することとし、5か年での指定目標300haのうち、4か年で144.8haを指定しています。
- また、特別緑地保全地区の指定地等で、所有者に不測の事態等が発生し、市へ土地の買入れ申し出があった場合の対応として、4か年で67.0haを買取り、市内に残る緑地の保全を進めています。
- 2020年度以降は、新型コロナウイルスの影響により、指定の働きかけに支障が生じています。
- これまで、大規模な樹林地の土地所有者から順次働きかけを行い、指定にご協力いただいておりますが、近年では働きかけの対象となる樹林地の面積が小規模化している傾向があります。
- 過去に働きかけを行ったものの指定にまで至らなかった土地所有者への再度の働きかけに、より一層、丁寧かつ時間をかけた説明が必要となっております。
- 今後も、緑の拠点となるまとまりある樹林地や市民利用を図る上で大切な場所にある樹林地などの保全に向け、土地所有者に継続した指定の働きかけをしていくことが必要です。
- 保全した樹林地において、土地所有者のご協力により園路や柵などを整備し、4か年で4か所を市民の森として公開し、市民の皆様に散策や自然観察などを楽しんでいただいております。より多くの樹林地を市民の森として公開できるよう、引き続き土地所有者の皆様に働きかけていきます。
- 樹林地外周部のがけ地に対しては、調査の結果必要な場合には、のり面保護や土留めを設置して住宅地や道路への防災対策を行いました。引き続き、必要な場所に対策工事を行い、樹林地外周部のがけ地の安全性を高めていきます。

4か年の総合評価

B

■ 4か年の実績詳細

□ 緑地保全制度による新規指定

※四捨五入のため合計と内訳は一致しないことがあります。

制度／面積	地区詳細
特別緑地保全地区、 近郊緑地特別保全地区 ／52.0ha	<p>【2019年度】27.7ha 野庭・上永谷町特別緑地保全地区（港南区）\square 1.1ha、今宿西町特別緑地保全地区（旭区）0.5ha、白根五丁目特別緑地保全地区（旭区）1.7ha、市沢町特別緑地保全地区（旭区）\square 0.4ha、追分特別緑地保全地区（旭区）\square 14.1ha、上白根町小池特別緑地保全地区（旭区）\square 0.4ha、朝比奈特別緑地保全地区（金沢区）\square 0.7ha、円海山近郊緑地特別保全地区（金沢区）\square 7.6ha、長津田町長月特別緑地保全地区（緑区）\square 0.7ha、大瀬町特別緑地保全地区（都筑区）\square 0.4ha、和泉町早稲田特別緑地保全地区（泉区）\square 0.1ha</p> <p>【2020年度】7.3ha 峰沢町特別緑地保全地区（保土ヶ谷区）0.9ha、仏向町横谷特別緑地保全地区（保土ヶ谷区）0.5ha、上白根町後谷特別緑地保全地区（旭区）\square 0.5ha、大倉山特別緑地保全地区（港北区）\square 0.2ha、綱島特別緑地保全地区（港北区）\square 0.4ha、長津田町長月特別緑地保全地区（緑区）\square 1.4ha、寺家町居谷戸特別緑地保全地区（青葉区）2.5ha、恩田町特別緑地保全地区（青葉区）\square 0.2ha、岡津町金堀谷特別緑地保全地区（泉区）\square 0.2ha、阿久和南一丁目藤ヶ谷特別緑地保全地区（瀬谷区）0.5ha</p> <p>【2021年度】9.5ha 中里三丁目特別緑地保全地区（南区）1.4ha、仏向町特別緑地保全地区（保土ヶ谷区）\square 0.1ha、中希望が丘特別緑地保全地区（旭区）1.1ha、川井本町特別緑地保全地区（旭区）\square 0.8ha、上白根町小池特別緑地保全地区（旭区）\square 2.9ha、寺家町居谷戸特別緑地保全地区（青葉区）\square 2.5ha、下永谷特別緑地保全地区（戸塚区）\square 0.1ha、和泉町蟹沢特別緑地保全地区（泉区）0.6ha</p> <p>【2022年度】7.5ha 日野中央特別緑地保全地区（港南区）1.4ha、下永谷四丁目特別緑地保全地区（港南区）2.2ha、仏向町横谷北特別緑地保全地区（保土ヶ谷区）1.4ha、上白根町小池特別緑地保全地区（旭区）\square 0.3ha、富岡東三丁目特別緑地保全地区（金沢区）\square 0.1ha、奈良町西ノ谷特別緑地保全地区（青葉区）\square 0.1ha、名瀬町緑園特別緑地保全地区（戸塚区）2.0ha</p>

3 事業・取組の実績と評価・検証

制度／面積	地区詳細
市民の森等 ／5.2ha	<p>【2019年度】2.2ha (仮称)市沢市民の森(旭区) 〇.1ha、追分市民の森(旭区) 〇.1ha、 (仮称)御伊勢山・権現山市民の森(金沢区) 〇.8ha、(仮称)富岡東三丁目市民の森(金沢区) 〇.001ha、新治市民の森(緑区) 〇.2ha</p> <p>【2020年度】0.4ha 下永谷市民の森(港南区) 〇.02ha、氷取沢市民の森(磯子区) 〇.3ha、 綱島市民の森(港北区) 〇.004ha、鍛冶ヶ谷市民の森(栄区) 〇.05ha</p> <p>【2021年度】2.5ha 獅子ヶ谷市民の森(鶴見区) 〇.04ha、金沢市民の森(金沢区) 1.7ha、 (仮称)富岡東三丁目市民の森(金沢区) 〇.05ha、熊野神社市民の森(港北区) 〇.02ha、新治市民の森(緑区) 〇.6ha、名瀬・上矢部市民の森(戸塚区) 〇.03ha、舞岡ふるさとの森(戸塚区) 〇.03ha</p> <p>【2022年度】0.1ha 瀬谷市民の森(瀬谷区) 〇.1ha</p>
緑地保存地区 ／19.7ha	<p>【2019年度】3.4ha 【2020年度】5.6ha 【2021年度】2.7ha 【2022年度】8.0ha</p>
源流の森保存地区 ／54.5ha	<p>【2019年度】13.4ha 【2020年度】15.3ha 【2021年度】12.5ha 【2022年度】13.3ha</p>
その他 ／13.5ha	<p>【2019年度】0.5ha 【2020年度】0.3ha 【2021年度】4.7ha 【2022年度】8.0ha</p> <p>※その他は、寄附、建築緑化保全、地区計画緑化保全等による緑地</p>



日野中央特別緑地保全地区
(港南区)



仏向町横谷北特別緑地保全地区
(保土ヶ谷区)



奈良町西ノ谷特別緑地保全地区
(青葉区)



緑地保存地区 (西区)



緑地保存地区 (磯子区)



緑地保存地区 (都筑区)



源流の森保存地区 (旭区)



源流の森保存地区 (緑区)



源流の森保存地区 (戸塚区)

□買入れ申し出への対応

制度	地区名
特別緑地保全地区、 近郊緑地特別保全地区	<p>【2019年度】 馬場五丁目特別緑地保全地区（鶴見区）、獅子ヶ谷・師岡特別緑地保全地区（鶴見区）、野庭町特別緑地保全地区（港南区）、上菅田町寺下橋特別緑地保全地区（保土ヶ谷区）、今井町美立橋特別緑地保全地区（保土ヶ谷区）、川島特別緑地保全地区（保土ヶ谷区）、仏向町特別緑地保全地区（保土ヶ谷区）、市沢町特別緑地保全地区（旭区）、川島町二ノ沢特別緑地保全地区（旭区）、今川町特別緑地保全地区（旭区）、上川井町露木谷特別緑地保全地区（旭区）、上白根町後谷特別緑地保全地区（旭区）、氷取沢町特別緑地保全地区（磯子区）、円海山近郊緑地特別保全地区（磯子区）、大丸山近郊緑地特別保全地区（金沢区）、小机城址特別緑地保全地区（港北区）、熊野神社特別緑地保全地区（港北区）、三保特別緑地保全地区（緑区）、長津田町深田特別緑地保全地区（緑区）、台村町特別緑地保全地区（緑区）、恩田東部特別緑地保全地区（青葉区）、奈良町西ノ谷特別緑地保全地区（青葉区）、名瀬・上矢部特別緑地保全地区（戸塚区）、上郷・中野特別緑地保全地区（栄区）、上郷町瀬上特別緑地保全地区（栄区）、上郷・尾月特別緑地保全地区（栄区）、和泉町天王森特別緑地保全地区（泉区）</p> <p>【2020年度】 東寺尾六丁目特別緑地保全地区（鶴見区）、菅田町赤坂特別緑地保全地区（神奈川区）、野庭町特別緑地保全地区（港南区）、野庭・上永谷町特別緑地保全地区（港南区）、上菅田町寺下橋特別緑地保全地区（保土ヶ谷区）、今井町特別緑地保全地区（保土ヶ谷区）、市沢町特別緑地保全地区（旭区）、上川井町露木谷特別緑地保全地区（旭区）、上白根町小池特別緑地保全地区（旭区）、追分特別緑地保全地区（旭区）、円海山近郊緑地特別保全地区（磯子区）、釜利谷東五丁目特別緑地保全地区（金沢区）、釜利谷特別緑地保全地区（金沢区）、大丸山近郊緑地特別保全地区（金沢区）、寺家特別緑地保全地区（青葉区）、元石川町平崎北特別緑地保全地区（青葉区）、寺家町居谷戸特別緑地保全地区（青葉区）、鉄町下ノ谷戸特別緑地保全地区（青葉区）、恩田東部特別緑地保全地区（青葉区）、恩田町特別緑地保全地区（青葉区）、大棚町特別緑地保全地区（都筑区）、池辺町滝ヶ谷戸特別緑地保全地区（都筑区）、汲沢四丁目特別緑地保全地区（戸塚区）、和泉町早稲田特別緑地保全地区（泉区）</p> <p>【2021年度】 獅子ヶ谷・師岡特別緑地保全地区（鶴見区）、菅田町堀上特別緑地保全地区（神奈川区）、菅田町赤坂特別緑地保全地区（神奈川区）、峰沢町特別緑地保全地区（保土ヶ谷区）、市沢町特別緑地保全地区（旭区）、追分特別緑地保全地区（旭区）、釜利谷東五丁目特別緑地保全地区（金沢区）、朝比奈特別緑地保全地区管理用地（金沢区）、大丸山近郊緑地特別保全地区（金沢区）、大倉山特別緑地保全地区（港北区）、三保特別緑地保全地区（緑区）、寺家町居谷戸特別緑地保全地区（青葉区）、川和特別緑地保全地区（都筑区）、大棚町特別緑地保全地区（都筑区）、池辺町八所谷戸特別緑地保全地区（都筑区）、和泉町早稲田特別緑地保全地区（泉区）、宮沢・蟹沢特別緑地保全地区（瀬谷区）</p> <p>【2022年度】 仏向町横谷特別緑地保全地区（保土ヶ谷区）、川井本町特別緑地保全地区（旭区）、市沢町特別緑地保全地区（旭区）、大丸山近郊緑地特別保全地区（金沢区）、御伊勢山・権現山特別緑地保全地区（金沢区）、大倉山特別緑地保全地区（港北区）、台村町特別緑地保全地区（緑区）、円海山近郊緑地特別保全地区（栄区）、阿久和南一丁目特別緑地保全地区（瀬谷区）、宮沢三丁目特別緑地保全地区（瀬谷区）</p>

制度	地区名
市民の森等	<p>【2019年度】 下永谷市民の森（港南区）、（仮称）今井・境木市民の森（保土ヶ谷区）、峯市民の森（磯子区）、綱島市民の森（港北区）、新治市民の森（緑区）、まさかりが淵市民の森（戸塚区）、深谷市民の森（戸塚区）、古橋市民の森（泉区）</p> <p>【2020年度】 （仮称）今井・境木市民の森（保土ヶ谷区）、峯市民の森（磯子区）、新治市民の森（緑区）、舞岡ふるさとの森（戸塚区）、深谷市民の森（戸塚区）、鍛冶ヶ谷市民の森（栄区）</p> <p>【2021年度】 追分市民の森（旭区）、南本宿市民の森（旭区）、称名寺市民の森管理用地（金沢区）</p> <p>【2022年度】 （仮称）台村市民の森（緑区）、新治市民の森（緑区）、上矢部ふれあいの樹林（戸塚区）、まさかりが淵市民の森（戸塚区）、鍛冶ヶ谷市民の森事業用地（栄区）、瀬谷市民の森（瀬谷区）</p>
公園樹林地部	<p>【2019年度】 南本宿公園（旭区）、高田西公園（港北区）、馬場二丁目公園（鶴見区）</p> <p>【2020年度】 南本宿公園（旭区）、四季美台ふれあい公園（旭区）</p>
計	106地区 67.0ha



大丸山近郊緑地特別保全地区
（栄区）



（仮称）台村市民の森
（緑区）



瀬谷市民の森
（瀬谷区）



樹林地の土地所有者の声

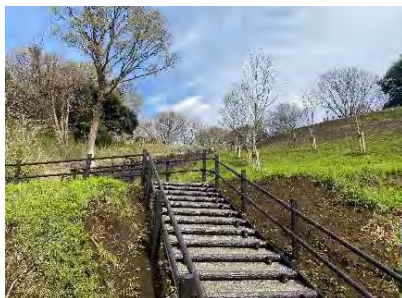
- ・自然を残して鳥や樹木、花などが生息するための保存は必要だと思います。
- ・樹林地所有者として、この取組にはとても感謝しています。樹林地の管理にも、市に協力していただいているので義務感だけではなく「やりがい」を感じるようになりました。身近な場所の緑が減ってマンションや擁壁になる昨今、みどりアップ計画が周知・利用される事を願っています。
- ・樹林地の保全は地球温暖化の問題や自然環境を守る上でとても大切だと思います。個人で管理するのはとても大変なので助成制度が活用できればいいと思います。

□保全した樹林地の整備

市民の森において、樹林地の散策等を楽しめるよう、散策路や野外卓、案内板などの施設整備を行いました。また、樹林地の安全性を確保するため、防災工事や住宅隣接地の樹木の伐採作業を実施するとともに、良好に樹林地を維持管理するための柵、倉庫、管理車両用駐車スペースなどの整備を進めました。



【案内板の設置】
新治市民の森（緑区）



【園路の整備】
今井・境木市民の森（保土ケ谷区）



【法面の防災工事】
舞岡ふるさとの森（戸塚区）



【土留めの設置】
獅子ヶ谷市民の森（鶴見区）



【柵等の整備】
東寺尾ふれあいの樹林（鶴見区）



【法面の防災工事】
恩田東部特別緑地保全地区
（青葉区）

☺ 利用者の声

- ・散策路が整備され案内板が設置されたことで、より安全で快適に歩くことができるようになりました。

☺ 近隣住民の声

- ・住宅の裏が明るくきれいになって安心しました。
- ・防災対策を施してくれてありがたいです。

2 森の多様な機能に着目した森づくりの推進

- 市民の森、ふれあいの樹林、市有緑地及び都市公園内のまとまった樹林を対象に、生物多様性の保全、快適性の確保、良好な景観形成、防災・減災など森が持つ多様な機能が発揮できるように、利用者や樹林地周辺の安全にも配慮しながら、良好な森づくりを進めます。森づくりにあたっては、地域の特性等を踏まえて策定した管理計画に沿って、愛護会など多様な主体と連携しながら実施します。

■ 4か年の実績

□ 進捗状況

	森の維持管理			
	保安全管理計画の策定		保安全管理計画や森づくりガイドラインを活用した維持管理	
	樹林地	公園	樹林地	公園
2019年度実績	3か所	4か所	141か所	34か所
2020年度実績	1か所	2か所	160か所	40か所
2021年度実績	2か所	2か所	163か所	38か所
2022年度実績	0か所	0か所	172か所	38か所
4か年累計(a)	6か所	8か所	636か所	150か所
5か年目標(b)	推進			
進捗率(a/b)	—			
評価	—			

□ 事業費執行状況

	事業費	うち横浜みどり税
2019年度決算額	524百万円	386百万円
2020年度決算額	615百万円	460百万円
2021年度決算額	577百万円	414百万円
2022年度決算見込額	565百万円	427百万円
4か年累計見込(a)	2,281百万円	1,687百万円
5か年計画額(b)	3,076百万円	2,313百万円
執行率(a/b)	74.2%	72.9%
評価	○	○

■ 4か年の評価・検証

- 多くの樹林地や公園で管理計画に沿った維持管理をすることができました。
- 市民の森や公園内のまとまった樹林などにおいて保全管理計画の策定が進み、樹林地の特性に応じた保全管理のあり方について、愛護会等と共通の認識を持ちながら、良好な森づくりを進めることができました。
- 保全管理計画や森づくりガイドラインを活用して森に手を入れることで、多様な環境が形成され、多くの生きものが確認できるなど、生物多様性の保全につながる成果が見られたほか、管理された樹林地外周部の斜面では、豪雨時の土砂流出が抑制されるなど森の防災・減災機能が向上しました。
- 大型台風やナラ枯れなどの被害により森の状況は今までと大きく変わっています。森の持つ多様な機能を維持するためには、これまでの作業内容を大きく見直すような順応的管理を行っていく必要があります。
- 管理する樹林地は年々増加しており、効果的かつ効率的な管理手法を検討・試行し、実施していくことが必要です。

4か年の総合評価	B
----------	---

■ 4か年の実績詳細

□保全管理計画の策定

森ごとに具体的な管理の計画を定めた「保全管理計画」を、愛護会などと連携して策定しました。

保全管理計画策定か所		区名
市民の森等	柏町市民の森	旭
	上川井市民の森	旭
	鶴ヶ峰ふれあいの樹林	旭
	上矢部ふれあいの樹林	戸塚
	舞岡ふるさとの森	戸塚
	泉の森ふれあい樹林	泉
まとまった樹林のある都市公園	白幡公園	鶴見
	金沢自然公園	金沢
	能見堂緑地	金沢
	牛久保公園	都筑
	烏山公園	都筑
	小雀公園	戸塚
	舞岡公園	戸塚
天王森泉公園	泉	



【保全管理計画の策定 検討会の様子】
柏町市民の森（旭区）



- 行政と愛護会の役割分担が明確になってよかったです。
- 愛護会の中でも管理の手法が理解・共有できました。

□保全管理計画や森づくりガイドラインを活用した維持管理

市民の森や公園内のまとまった樹林などを対象に、維持管理の技術的指針である「森づくりガイドライン」や森ごとに定めた「保全管理計画」に基づき、間伐や下草刈り等の維持管理を実施しました。



今宿市民の森（旭区）



柏町市民の森（旭区）



利用者の声

- 自然が多く鳥、虫などの生きものが豊富で、また来たいです。
- 園路が歩きやすく整備されていて、子どもたちも四季折々の自然を楽しむことができます。

3 指定した樹林地における維持管理の支援

- 土地所有者の維持管理負担を軽減し、樹林地の安全性の向上などを図るため、緑地保全制度により指定した樹林地の外周部で土地所有者が行う危険・支障樹木のせん定・伐採や草刈りなどの維持管理作業や、樹林地内部の倒木や枯れ木の撤去処分などの費用の一部を助成します。これにより、緑地保全制度による指定を推進します。

■ 4か年の実績

□ 進捗状況

	維持管理の助成
2019年度実績	122件
2020年度実績	162件
2021年度実績	130件
2022年度実績	111件
4か年累計(a)	525件
5か年目標(b)	500件
進捗率(a/b)	105.0%
評価	◎

□ 事業費執行状況

	事業費	うち横浜みどり税
2019年度決算額	97百万円	97百万円
2020年度決算額	142百万円	142百万円
2021年度決算額	120百万円	120百万円
2022年度決算見込額	93百万円	93百万円
4か年累計見込(a)	452百万円	452百万円
5か年計画額(b)	530百万円	530百万円
執行率(a/b)	85.3%	85.3%
評価	◎	◎

■ 4か年の評価・検証

- 緑地保全制度による指定の際の案内や、事業案内の送付により制度の認知度が向上したこと、また2019年度の台風を機に土地所有者の樹林地管理への関心がより高まったことにより、目標を超える助成を実施しました。
- 緑地保全制度の指定地において土地所有者が行う外周部の危険木やナラ枯れなどの枯損木を含む危険木の除去の維持管理作業にかかる費用を助成することで、樹林地の保全と指定の拡大に寄与しました。
- 2019年度に発生した台風では、外周部の維持管理作業に加えて、拡充したメニューである樹林地内部の倒木・枯れ木の撤去処分にかかる費用への助成も活用していただき、土地所有者の維持管理にかかる負担の軽減につなげました。
- より多くの土地所有者に、制度を使って良好に樹林地を管理していただくため、手続きのさらなる効率化が必要です。

4か年の総合評価

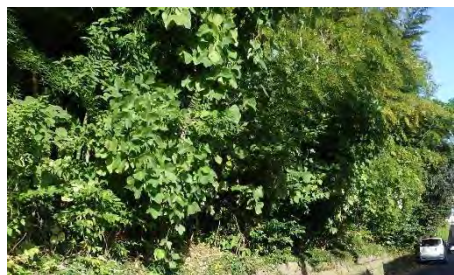
A

■ 4か年の実績詳細

□指定した樹林地における維持管理の支援

緑地保全制度により指定した民有樹林地の外周部において、隣接する住宅や道路等に対して危険な樹木や電線等の支障になっている樹木のせん定・伐採、火災や不法投棄等の恐れがある草地の草刈等の維持管理費用を助成しました。

区名	件数	区名	件数
鶴見	8	金沢	39
神奈川	15	港北	57
西	3	緑	29
中	10	青葉	31
南	13	都筑	36
港南	28	戸塚	72
保土ヶ谷	42	栄	35
旭	42	泉	31
磯子	20	瀬谷	14
		計	525



【維持管理の支援】
上：作業前 下：作業後（港南区）

助成利用者の声

- ・制度を使って隣接のお宅に落ちてしまいそうな木をせん定し、心配がなくなりました。
- ・書類の作成に手間がかかりましたが、施工をお願いした造園業者にも相談して、無事に作業を終えることができました。

4 森づくりを担う人材の育成

- 森づくりボランティアの登録者や森づくり活動に取り組む団体を対象に、基本的な知識と安全確保を学ぶための研修や、活動のスキルアップのための研修を開催します。
また、ニュースレターやウェブサイトを活用し、森づくりに関する情報発信を行うほか、森づくりボランティアが団体の活動に参加できる取組を推進します。

■ 4か年の実績

□進捗状況

	森づくりを担う人材の育成		広報誌等での森づくり活動に関する情報発信
	研修の実施	体験会の開催	
2019年度実績	17回	7回	4回
2020年度実績	10回	7回	4回
2021年度実績	11回	10回	4回
2022年度実績	13回	10回	4回
4か年累計(a)	51回	34回	16回
5か年目標(b)	推進		20回
進捗率(a/b)	—		80.0%
評価	—		◎

※森づくりを担う人材の育成（研修の実施）の実績数値については、過年度の報告書から修正しました。

□事業費執行状況

	事業費	うち横浜みどり税
2019年度決算額	10百万円	10百万円
2020年度決算額	16百万円	16百万円
2021年度決算額	7百万円	7百万円
2022年度決算見込額	8百万円	8百万円
4か年累計見込(a)	41百万円	41百万円
5か年計画額(b)	75百万円	75百万円
執行率(a/b)	54.7%	54.7%
評価	○	○

■ 4か年の評価・検証

- 森づくりボランティア登録者や森づくり活動に取り組む団体を対象に研修を実施し、森づくり活動を行う際の安全管理やスキルアップに寄与しました。
- 森づくりボランティア体験会の実施により、森づくりボランティアが団体の活動に参加できる機会が創出され、森づくりボランティア登録者や団体への入会が増え、森づくり活動が活性化されました。
- ニュースレターやウェブサイトを活用した森づくりに関する情報発信により、森づくりボランティアや森づくり活動団体の活動の円滑化や活性化につなげました。
- 体験会等を通じて、森づくりの活動への多様な関わり方が求められていることが分かりました。
- コロナ禍は集合研修ができなかったため、動画やアンケート形式等、開催形式を工夫して人材育成を実施しました。集合研修を徐々に再開してからは、研修方法を工夫したことで、ボランティア同士の交流が促進されました。

4か年の総合評価

A

■ 4か年の実績詳細

□ 森づくりを担う人材の育成（研修の実施）

新型コロナウイルス感染症対策を行いながら、森づくりボランティアの登録者や森づくり活動に取り組む団体を対象に、基本的な知識と安全確保を学ぶための講習会・研修を開催しました。

研修名	回数
自然観察講習会	10
森づくり作業研修	10
道具の使い方研修	8
ロープワーク実習	2
森づくりボランティア入門講座	7
安全管理研修	9
森づくり現場見学会	1
森づくり救急救命講習会	1
横浜市の森づくり塾！	3



【横浜市の森づくり塾！】（緑区）



【森づくりボランティア入門講座】（緑区）

□森づくりを担う人材の育成（体験会の開催）

新型コロナウイルス感染症対策を行いながら、市内の市民の森やふれあいの樹林において、4か年で計34回、森づくりボランティアが個人で森づくりを体験する「森づくり体験会」を開催しました。

参加者の声

- ・親切に教えていただき初体験でしたが、不安なくできました。
- ・とても楽しかったです。またぜひ参加したいです。
- ・達成感がありました。自分ができる作業で夢中になりました。
- ・普段はできないことが体験でき、勉強になりました。
- ・教えてもらったことを身に付けられるよう、今後も続けていきたいです。
- ・横浜の森を大切にしたいと思いました。



【森づくり体験会】（旭区）

□森づくり活動に関する情報発信

森づくりボランティアや森づくり活動団体に向けた森づくりに関する情報発信として、「よこはまの森ニュースレター」を年4回、計16回発行しました。



【よこはまの森ニュースレター】

5 森づくり活動団体への支援

- 市民の森や都市公園内のまとまった樹林で活動する団体を対象に、森づくりに必要な道具の貸出しを行います。また、活動に対する助成や、専門家派遣による支援を行います。
維持管理作業の際に発生した間伐材などを樹林地内でチップ化したり、樹名板を作成するなどの活用を推進します。

■ 4か年の実績

□進捗状況

	森づくり活動団体への支援		森づくり活動団体への専門家派遣		チップターの貸出し
	樹林地	公園	樹林地	公園	
2019年度実績	25団体	5団体	3回	1回	11か所
2020年度実績	27団体	6団体	3回	1回	11か所
2021年度実績	30団体	6団体	4回	0回	6か所
2022年度実績	27団体	6団体	4回	0回	8か所
4か年累計(a)	132団体		16回		36か所
5か年目標(b)	150団体		20回		推進
進捗率(a/b)	88.0%		80.0%		—
評価	◎		◎		—

※森づくり活動団体への支援（公園）及び、チップターの貸出の実績数値については、過年度の報告書から修正しました。

□事業費執行状況

	事業費	うち横浜みどり税
2019年度決算額	11百万円	10百万円
2020年度決算額	11百万円	10百万円
2021年度決算額	7百万円	7百万円
2022年度決算見込額	7百万円	7百万円
4か年累計見込(a)	36百万円	34百万円
5か年計画額(b)	55百万円	50百万円
執行率(a/b)	65.5%	68.0%
評価	○	○

■ 4か年の評価・検証

- 森づくり活動団体を対象に、研修の実施、ガイドブック作成への助成、イベントの開催に対する助成、道具の支援により、良好な森づくりを進めることができました。
- 課題を抱える森づくり活動団体に対して専門家（アドバイザー）派遣を行い、団体に草刈り等の作業の仕方や時期などのアドバイスを行うことで、希少種の保全や生物多様性に配慮した森づくりが促進され、課題の解決や団体の活動のスキルアップに寄与しました。
- 森づくり活動団体の維持管理活動により生じた間伐材を樹林地内でチップ化したり樹名板を作成することで、間伐材の有効活用が促進されました。
- 今後も、安全かつ幅広い森づくり活動を行っていただくために、団体への研修等の支援を継続させていくことが必要です。

4か年の総合評価	B
----------	---

■ 4か年の実績詳細

□森づくり活動団体への支援

来訪者の散策時に貴重な生育植物を紹介するためのガイドブック作成や森の観察や森づくり活動への関心を高めるイベントの開催に対して、助成を行いました。また、カマやノコギリといった樹林地を管理するための道具、救急セットなどの安全対策用の道具、腕章や帽子などの道具を貸し出して、活動への支援を行いました。

□森づくり活動団体への専門家派遣

森づくり活動団体が抱える課題解決に向け、専門家（アドバイザー）派遣による支援を行いました。

区名	回数
保土ケ谷	1
磯子	4
緑	1
都筑	1
栄	7
泉	2



【アドバイザー派遣】（栄区）

ロチップターの貸出し

市民の森等で活動する森づくり活動団体の維持管理活動により生じた間伐材をチップ化して、園路に敷くなど有効活用を図るため、チップターの貸出しを行いました。

区名	か所数
鶴見	1
保土ケ谷	1
旭	7
金沢	3
緑	5
青葉	4
都筑	7
戸塚	2
栄	4
泉	2



【チップ化作業支援】（青葉区）

活動団体の声

- 木の枝や篠竹などをチップ化し、カブトムシの養育床や、散策路の滑り止めとして活用できました。
- 間伐材から出来上がったチップを、ぬかるみになりやすい場所の補修に利用することができました。森が綺麗になりました。
- 竹チップを散策路に散布しました。ふかふかの、散策者の足腰に優しい道となりました。

6 森の楽しみづくり

- 各区での催し等において、森に関わるきっかけとなり環境を学ぶ機会にもなるイベントや広報の取組を展開します。特に、森に関わる第一歩として、親子で参加できるイベントの充実などに取り組みます。
- 森を楽しむためのプログラムを自ら企画・運営できる人材を育成するための講座などを開催します。

■4か年の実績

□進捗状況

	市内大学や関係団体などと連携したイベントや、 区主催による地域の森でのイベントの実施
2019年度実績	75回
2020年度実績	34回
2021年度実績	42回
2022年度実績	98回
4か年累計(a)	249回
5か年目標(b)	180回
進捗率(a/b)	138.3%
評価	◎

※実績数値については、過年度の報告書から修正しました。

□事業費執行状況

	事業費	うち横浜みどり税
2019年度決算額	12百万円	12百万円
2020年度決算額	7百万円	7百万円
2021年度決算額	6百万円	6百万円
2022年度決算見込額	11百万円	11百万円
4か年累計見込(a)	36百万円	36百万円
5か年計画額(b)	100百万円	100百万円
執行率(a/b)	36.0%	36.0%
評価	△	△

■ 4か年の評価・検証

- 各区でのイベントや市内各所でのクラフト等、様々な企画が実施され、実施実績の目標を大きく超えることができました。
- 新型コロナウイルス感染症対策を徹底したうえで、子どもから大人まで楽しめる幅広いイベントを開催しました。今後も引き続き、子どもをはじめとした多くの市民の皆様に森に関わるきっかけを提供できるよう、様々な取組を増やす必要があります。
- インタープリター養成講座では、森づくり活動をより充実させ、森の魅力を伝えるためのさまざまな手法を、座学と実習を通して習得してもらうことができました。
インタープリターの活動場所を広げるための支援が必要です。

4か年の総合評価

A

■ 4か年の実績詳細

□ 森の楽しみづくり

● 親子で参加できる森に親しむイベントの開催

市内大学と連携した「よこはま森の楽校」など市民を対象としたイベントを開催しました。

連携大学：東京都市大学、東洋英和女学院大学、フェリス女学院大学、
横浜創英大学、横浜市立大学



参加者の声

- ・ 普段なかなかできない自然に触れる体験を思う存分楽しめた。
- ・ 大人と子どもの視線では見えるものが違って面白かったです。



【よこはま森の楽校】
東洋英和女学院大学（緑区）

● 間伐材を活用したクラフト教室の開催

市内の樹林地を手入れする際に発生した間伐材を活用したクラフトキットを作成し、市内各所でクラフト教室の開催や、各種イベントでの配布によって、木にふれあう機会をつくりました。



参加者の声

- ・ はじめて木に絵を描いて楽しかったです。
- ・ 木のいいにおいのするマグネットでした。



【間伐材クラフト】（保土ケ谷区）

●図書館と連携したイベントの開催

子どもたちが自然や生き物に対する理解を深め、横浜の森について考えることができるネイチャーゲームを組み入れたイベントを市内7館（中図書館、南図書館、港南図書館、保土ヶ谷図書館、緑図書館、都筑図書館、瀬谷図書館）の図書館と連携して開催しました。



参加者の声

- ・森を探検し、ふしぎなことをたくさん調べることができて、いい経験になったと思う。



【図書館の子ども向けのイベント】
「森の中のプレイパーク」（南区）

□自然解説、プログラムリーダーの育成

●インタープリター養成講座の開催

市民が樹林地等に関心を持ち、保全へとつなげるために、自然を楽しみながら人々の関心を引き出し、自然と人との関わりや自然の大切さを伝える役割を担う人材であるインタープリターを養成する講座を開催しました。



参加者の声

- ・インタープリターの重要性を感じました。
- ・実際のインタープリターの説明は強い印象を感じました。いつかあのような案内ができれば嬉しいです。
- ・普段何も感じていなかった森の植物・動物に改めて興味を持ちました。



【インタープリター養成講座】
フォローアップ研修（栄区）

7 森に関する情報発信

- ・ 市民の森・ふれあいの樹林のガイドマップを作成し、市民が気軽に森を訪れ、楽しむ環境づくりを推進します。
- ・ ウェルカムセンターにおける展示解説や自然体験、環境学習の機会の提供等を、企業のCSR活動などと連携しながら実施し、市民が森について理解を深めるための取組を推進します。

■ 4か年の実績

□進捗状況

	ウェルカムセンター周辺の緑を活用したイベント等
2019年度実績	8回
2020年度実績	8回
2021年度実績	10回
2022年度実績	11回
4か年累計(a)	37回
5か年目標(b)	50回
進捗率(a/b)	74.0%
評価	○

□事業費執行状況

	事業費	うち横浜みどり税
2019年度決算額	40百万円	2百万円
2020年度決算額	43百万円	3百万円
2021年度決算額	39百万円	2百万円
2022年度決算見込額	39百万円	3百万円
4か年累計見込(a)	161百万円	10百万円
5か年計画額(b)	230百万円	30百万円
執行率(a/b)	70.0%	33.3%
評価	○	△

■ 4か年の評価・検証

- 森に関わる市民の裾野を広げるため、市内5か所あるウェルカムセンターでは、各館の特徴を生かしながら周辺の森に関するイベントや講座の開催などを行い、市民が森に関わるきっかけを提供することができました。
- 新規に指定された市民の森ではガイドマップを作成し、市民の皆様に横浜の森の魅力を発信することができました。

4か年の総合評価	B
----------	---

■ 4か年の実績詳細

□ウェルカムセンター周辺の緑を活用したイベント等

市内5か所にあるウェルカムセンターでは、各館周辺にある緑の情報提供や、緑を知り、楽しむための講座等を開催し、緑の普及啓発・環境教育を行いました。

ウェルカムセンター	主な周辺の緑地を活用したイベント
寺家ふるさと村 四季の家	まさかりが淵市民の森ガイドツアー
新治里山公園 にいはる里山交流センター	旬の里山探訪
環境活動支援センター	トンボ塾
舞岡ふるさと村 虹の家	バードウォッチング入門、秋の緑地を歩く
横浜自然観察の森 自然観察センター	つながりの森を歩こう



【ウェルカムセンターのイベント】
トンボ塾（鶴見区）



【ウェルカムセンターのイベント】
旬の里山探訪（港北区）

利用者の声

- ・イベントに参加したことで子どもたちが自然を身近に感じる機会になった。
- ・横浜にたくさんの自然が残っていることの大切さを実感した。

ロガイドマップの作成・リニューアル

市民が気軽に森を訪れるきっかけとなるよう、ウォーキング等の散策にも活用できるガイドマップを発行しており、4か年で、古橋市民の森、長津田宿市民の森、名瀬・上矢部市民の森のガイドマップを作成したほか、市民の森、ふれあいの樹林が市内のどこに位置しているかを示した、市民の森・ふれあいの樹林マップを新たに作成しました。

市民の森、ふれあいの樹林ガイドマップ	
1	寺家ふるさとの森、もえぎ野ふれあいの樹林
2	長津田宿市民の森
3	新治市民の森
4	三保市民の森
5	瀬谷市民の森、上川井市民の森、追分市民の森、矢指市民の森、宮沢ふれあい樹林、東山ふれあいの樹林
6	泉の森ふれあい樹林、中田宮の台市民の森、新橋市民の森
7	中田ふれあいの樹林、鯉ヶ久保ふれあいの樹林、上矢部ふれあいの樹林
8	古橋市民の森
9	まさかりが淵市民の森、ウィトリッヒの森、深谷市民の森
10	川和市民の森、池辺市民の森
11	小机城址市民の森、鴨居原市民の森
12	白根ふれあいの樹林、上山ふれあいの樹林
13	南本宿市民の森、市沢ふれあいの樹林、境木ふれあいの樹林
14	今宿市民の森、柏町市民の森、鶴ヶ峰ふれあいの樹林
15	飯島市民の森、下永谷市民の森、舞岡ふるさとの森
16	上郷市民の森、荒井沢市民の森、鍛冶ヶ谷市民の森
17	熊野神社市民の森、綱島市民の森
18	豊顕寺市民の森
19	瀬上市民の森
20	横浜自然観察の森
21	峯市民の森、朝比奈北市民の森
22	駒岡中郷市民の森、かぶと塚ふれあいの樹林
23	獅子ヶ谷市民の森、東寺尾ふれあいの樹林
24	称名寺市民の森、関ヶ谷市民の森
25	名瀬・上矢部市民の森
—	市民の森・ふれあいの樹林マップ



ガイドマップ 左：名瀬・上矢部市民の森ガイドマップ（戸塚） 右：市民の森・ふれあいの樹林マップ

計画の柱2 市民が身近に農を感じる場をつくる



8 水田の保全

- 土地所有者が水田を維持し、水田景観の保全や多様な機能が発揮できるよう、水稻の作付を10年間継続することを条件に、奨励金を交付します。
- 水田景観を保全するために、まとまりのある水田がある地区を対象に、水源や水路等の設置・改修等を支援します。

■ 4か年の実績

□ 進捗状況

	水田保全	水源・水路の確保
2019年度実績	113.5ha	2か所
2020年度実績	113.3ha	3か所
2021年度実績	112.2ha	2か所
2022年度実績	111.9ha	3か所
4か年累計(a)	111.9ha	10か所
5か年目標(b)	125ha	10か所
進捗率(a/b)	89.5%	100.0%
評価	◎	◎

※水田保全の4か年累計は、2022年度の面積としています。

□ 事業費執行状況

	事業費	うち横浜みどり税
2019年度決算額	94百万円	31百万円
2020年度決算額	80百万円	31百万円
2021年度決算額	94百万円	32百万円
2022年度決算見込額	97百万円	32百万円
4か年累計見込(a)	364百万円	127百万円
5か年計画額(b)	490百万円	190百万円
執行率(a/b)	74.3%	66.8%
評価	○	○

■ 4か年の評価・検証

○新規に保全された水田面積は、4か年で5.4haとなりました。市内の水田面積全体の約9割が保全されており、水田減少幅の縮小に効果があったと考えられます。

○水源・水路の確保については5か年目標10か所に対して、4か年で10か所の支援を実施しています。水田の耕作を続けるためには、井戸や取水堰などの水源施設や水路が欠かせないことから、今後も引き続き安定的な水源の確保のための支援が必要です。

4か年の総合評価

B

■ 4か年の実績詳細

□水田保全面積

市内の水田自体は減少傾向にありますますが、約9割の水田の保全を支援しました。併せて新規申し出に向けた働きかけも粘り強く行い、新たに5.4haの水田の支援につながりました。

年度	水田保全面積 (ha)	うち新規申出面積 (ha)
2019	113.5	1.9
2020	113.3	1.2
2021	112.2	1.1
2022	111.9	1.2



【保全された水田】（栄区）



【保全された水田】（旭区）



農家の声

- 水田は、一度、畑にすると水田に戻すのは難しく、子ども体験の場の確保や水田景観も残るなど、良いことなので、継続してもらいたいです。

□水源・水路の確保

水稻の栽培に不可欠な井戸や水路等の整備を支援しました。

年度	支援対象	か所数	区名
2019	井戸等の水源施設	1	青葉
	水路	1	青葉
2020	水路	3	緑、青葉、泉
2021	井戸等の水源施設	1	緑
	水路	1	緑
2022	井戸等の水源施設	2	戸塚、泉
	水路	1	泉
計		10	



【水源の確保】（戸塚区）



【老朽化した取水ポンプの更新】（泉区）



農家の声

- ・老朽化した水路から水が漏れてしまい、田んぼに十分に水が届かず困っていました。施設の改修には多額の費用がかかるので、支援はとても助かっています。

9 特定農業用施設保全契約の締結

- 農地を10年間適正に管理することと、農地の保全に不可欠な農業用施設を10年間継続利用することを条件として、農家の住宅敷地内等にある農業用施設用地の固定資産税・都市計画税を10年間軽減することにより、農地所有者の負担軽減と農地の保全を図ります。

■ 4か年の実績

□進捗状況

	特定農業用施設保全契約の締結
2019年度実績	31件(0.36ha)
2020年度実績	27件(0.43ha)
2021年度実績	17件(0.27ha)
2022年度実績	34件(0.42ha)
4か年累計(a)	109件(1.48ha)
5か年目標(b)	制度運用
進捗率(a/b)	—
評価	—

□事業費執行状況

	事業費	うち横浜みどり税
2019年度決算額	2百万円	0百万円
2020年度決算額	1百万円	0百万円
2021年度決算額	2百万円	0百万円
2022年度決算見込額	2百万円	0百万円
4か年累計見込(a)	7百万円	0百万円
5か年計画額(b)	10百万円	0百万円
執行率(a/b)	70.0%	—
評価	○	—

■ 4か年の評価・検証

- 概ね計画どおりの進捗となり、申し出に対して着実に対応しました。
- 固定資産税の支払という農家の負担を軽減することによって、農業用施設の維持及び営農の継続を図り、農家が耕作する農地を保全することにつながりました。

4か年の総合評価	B
----------	---

■ 4か年の実績詳細

□特定農業用施設保全契約の締結

新規及び更新あわせて109件の契約を結んだことで、農家の負担軽減ができ、営農の継続及び農地の保全につながりました。



【特定農業用施設の例】
上：出荷調製施設 下：農業用倉庫

区名	件数	指定面積(m ²)
鶴見	4	485
神奈川	6	805
港南	2	183
保土ヶ谷	4	874
旭	5	458
磯子	1	106
金沢	2	60
港北	3	362
緑	11	1,159
青葉	4	311
都筑	6	819
戸塚	12	2,263
栄	1	124
泉	25	3,900
瀬谷	23	2,812
計	109	14,721

※四捨五入のため、指定面積(m²)は進捗状況の面積(ha)と一致しません。

🗨️ 契約者の声

- ・農業を続けていく上で生産に必要な部分の固定資産税が軽減されるのはありがたいです。

10 農景観を良好に維持する活動の支援

- 良好な農景観を形成するため、水路等での清掃活動や農地縁辺部への植栽、水源の確保のための井戸の改修などに対して支援します。また、農地周辺の環境を良好に維持するため、土砂流出を防止する活動に対する支援や農地周辺の不法投棄対策を進めます。
- 都市の中で農景観を維持するためには、農地の周辺にお住まいの方々の農業への理解が必要です。このため、農地周辺の環境に配慮して、農地からの土ぼこりの飛散を予防・解消するために牧草等を栽培する活動や、農作業等により生じるせん定枝などを野焼きできない場合等に、たい肥化する活動などに対して支援します。

■ 4か年の実績

□進捗状況

	まとまりのある農地を良好に維持する団体の活動への支援			
	集団農地維持	農地縁辺部への植栽	井戸の改修	土砂流出防止対策
2019年度実績	641.7ha	15件	2地区	4件
2020年度実績	643.9ha	15件	4地区	5件
2021年度実績	679.0ha	18件	2地区	2件
2022年度実績	674.0ha	18件	2地区	2件
4か年累計(a)	674.0ha	66件	10地区	13件
5か年目標(b)	730ha	55件	5地区	15件
進捗率(a/b)	92.3%	120.0%	200.0%	86.7%
評価	◎	◎	◎	◎

※集団農地維持の4か年累計は、2022年度の面積としています。

3 事業・取組の実績と評価・検証

	周辺環境に配慮した活動への支援	
	牧草等による環境対策	たい肥化設備等の支援
2019年度実績	4.25ha	3件
2020年度実績	4.36ha	3件
2021年度実績	5.87ha	2件
2022年度実績	4.83ha	0件
4か年累計(a)	19.31ha	8件
5か年目標(b)	20ha	25件
進捗率(a/b)	96.6%	32.0%
評価	◎	△

□事業費執行状況

	事業費	うち横浜みどり税
2019年度決算額	91百万円	16百万円
2020年度決算額	96百万円	15百万円
2021年度決算額	89百万円	15百万円
2022年度決算見込額	88百万円	11百万円
4か年累計見込(a)	364百万円	57百万円
5か年計画額(b)	542百万円	111百万円
執行率(a/b)	67.2%	51.4%
評価	○	○

■ 4か年の評価・検証

- 集団農地維持は5か年目標730haに対して、2022年度は674haに支援を実施しました。活動団体数もわずかに増え、より多くの農家団体が農景観を維持する活動に取り組みました。
- 農地縁辺部への草花・花木などの景観植物の植栽は5か年目標55件に対して、4か年で66件を支援し、農景観づくりが進みました。
- 井戸の改修は5か年目標5地区に対して、4か年で10地区を実施しました。農地は耕作されることで農景観が保全されることから、耕作を続けるために必要な井戸の改修については、引き続き支援が必要です。
- 土砂流出防止対策は5か年目標15件に対して、4か年で13件を支援し、概ね計画通りに取組が進んでいます。土留め柵等を設置した農地では、土砂流出の発生が軽減され、着実に効果があらわれています。
- 牧草等による環境対策については、継続的な取組により毎年目標以上の申請があり、農地での土ぼこり防止や、土砂流出対策に寄与しました。
- たい肥化設備等の支援については、せん定枝等を有効に活用することで、良好な農景観の維持につながります。より多くの農家が取組めるよう、支援の対象を農家団体に加え、個人にも拡充することなどが必要です。

4か年の総合評価

B

■ 4か年の実績詳細

□ まとまりのある農地を良好に維持する団体の活動への支援

● 集団農地維持

まとまりのある農地の周辺で、道路や水路の清掃や草刈りを行う農家団体を支援しました。

年度	面積 (ha)	区名
2019	641.7	神奈川、保土ケ谷、旭、金沢、港北、緑、青葉、都筑、戸塚、栄、泉、瀬谷
2020	643.9	神奈川、保土ケ谷、旭、金沢、港北、緑、青葉、都筑、戸塚、栄、泉、瀬谷
2021	679.0	神奈川、保土ケ谷、旭、金沢、港北、緑、青葉、都筑、戸塚、栄、泉、瀬谷
2022	674.0	神奈川、保土ケ谷、旭、金沢、港北、緑、青葉、都筑、戸塚、栄、泉、瀬谷



【集団農地維持】（金沢区）

● 農地縁辺部への植栽

農地の縁辺部で、草花や花木などの景観植物を栽培・管理する農家団体を支援しました。

年度	件数	区名
2019	15	神奈川、旭、磯子、金沢、港北、緑、青葉、都筑、戸塚、泉、瀬谷
2020	15	神奈川、旭、磯子、金沢、港北、緑、青葉、都筑、戸塚、泉、瀬谷
2021	18	神奈川、旭、磯子、金沢、港北、緑、青葉、都筑、戸塚、泉、瀬谷
2022	18	神奈川、旭、磯子、金沢、港北、緑、青葉、都筑、戸塚、泉、瀬谷



【農地縁辺部への植栽】（青葉区）



【農地縁辺部への植栽】（緑区）



市民の声

- ・ 毎年秋に近所の農業専用地区を散歩すると、畑に沿ってコスモスが咲いている風景に出会うことができ、とても気持ちがよいです。こういった取組みが広がるといいですね。

●井戸の改修

まとまりのある農地を維持するために必要な、畑地かんがい用の井戸施設の整備を支援しました。

年度	地区数	区名
2019	2	金沢、都筑
2020	4	神奈川、都筑（2件）、戸塚
2021	2	戸塚（2件）
2022	2	戸塚（2件）



【井戸水の送水設備の更新】（戸塚区）

●土砂流出防止対策

傾斜のある農地などで、台風やゲリラ豪雨などによって耕作土が流出することを防ぐため、法面の保護や土留め柵の設置を支援しました。

年度	件数	区名
2019	4	緑、青葉、都筑（2件）
2020	5	旭、磯子、都筑（2件）、戸塚
2021	2	都筑（2件）
2022	2	都筑（2件）



【土留め柵を設置した農地】（都筑区）

□周辺環境に配慮した活動への支援

●牧草等による環境対策

土砂流出と土ぼこりの飛散を防ぐための対策として、牧草等を栽培する農家に対して支援を行いました。

区名	面積 (ha)	区名	面積 (ha)
神奈川	1.86	青葉	1.12
保土ヶ谷	0.98	都筑	3.33
旭	2.10	戸塚	1.35
金沢	0.10	栄	0.30
港北	0.75	泉	2.95
緑	2.80	瀬谷	1.67
		計	19.31



【牧草等による環境対策】（保土ヶ谷区）



- ・高台の傾斜地で土が下方に流出しやすい農地でしたが、本事業で麦類の植え付けをすることにより、土の流出を抑えることができました。
- ・牧草類を植え付けることで土ぼこりが減るだけでなく、栽培後に有機物のすき込みができ、良質な野菜の栽培にも役立っています。

●たい肥化設備等の支援（共同利用設備の整備）

農業活動により生じるせん定枝や作物残さ等をたい肥化してリサイクルに取り組む団体に対して、必要な機械や設備の購入を支援しました。

区名	件数
神奈川	1
旭	2
緑	3
都筑	1
戸塚	1
計	8

11 多様な主体による農地の利用促進

- 遊休化して荒れた農地は、貸し借りが進まず、良好な農景観が損なわれます。このため、意欲ある農家や新規に参入を希望する個人・法人など多様な主体へ農地を貸し付けられるよう遊休化した農地の復元を支援することで、良好な農景観を保全します。

■ 4か年の実績

□ 進捗状況

	遊休農地の復元支援
2019年度実績	0.84ha
2020年度実績	0.28ha
2021年度実績	0.26ha
2022年度実績	0.44ha
4か年累計(a)	1.82ha
5か年目標(b)	1.5ha
進捗率(a/b)	121.3%
評価	◎

□ 事業費執行状況

	事業費	うち横浜みどり税
2019年度決算額	26百万円	26百万円
2020年度決算額	22百万円	22百万円
2021年度決算額	21百万円	21百万円
2022年度決算見込額	16百万円	16百万円
4か年累計見込(a)	85百万円	84百万円
5か年計画額(b)	153百万円	153百万円
執行率(a/b)	55.6%	54.9%
評価	○	○

■ 4か年の評価・検証

〇5か年目標 1.5ha に対して、4か年で 1.82ha の遊休農地が解消し意欲ある農家等により有効利用されました。JA 横浜等との情報共有・連携により効果的な事業推進が図られ、目標達成につながりました。

〇草や雑木が繁茂した荒地が、農地として適切に管理されることにより、農景観の保全に加えて、防犯や防災の観点でも周辺的环境に寄与すると考えられます。

4か年の総合評価	A
----------	---

■ 4か年の実績詳細

□遊休化した農地の復元を支援

遊休化して荒れた農地を、規模拡大を希望する農家等に貸し付けることを条件に、土地所有者等が農地を良好な状態に復元する取組を支援しました。

区名	か所数	面積 (ha)
保土ケ谷	1	0.11
旭	4	0.88
青葉	1	0.20
都筑	3	0.47
瀬谷	1	0.14

※四捨五入のため、内訳と本文にある合計は一致しません。



【遊休農地の復元】左：復元前 右：復元後（都筑区）



事業利用者の声

- ・（貸し手）きれいな農地になり、周辺の方に迷惑がからなくなりました。
- ・（借り手）広い畑を借りることができ、経営の大規模化につながりました。

12 様々な市民ニーズに合わせた農園の開設

- 野菜の収穫や果物のもぎとりなどを気軽に体験することができる収穫体験農園の開設に必要な施設整備等を支援します。
- 農作業の経験がない人でも農家から指導を受けることで栽培から収穫までを楽しめる農園や、利用者が自由に農作業を楽しめる農園など、土地所有者等が農園を開設するための支援を行います。また、農園の開設のノウハウを持った市民農園コーディネーターの活用などにより、円滑な農園開設に向けた支援を行います。
- 土地所有者による維持管理が難しくなった農地等を公園として市が買取るなどして、市民が農作業を楽しめる農園を公園に開設します。

■ 4か年の実績

□進捗状況

	様々なニーズに合わせた農園の開設		
	収穫体験農園	市民農園	農園付公園
2019年度実績	2.06ha	1.32ha	0.55ha
2020年度実績	2.87ha	1.11ha	0.00ha
2021年度実績	3.99ha	0.60ha	0.00ha
2022年度実績	3.35ha	1.65ha	0.00ha
4か年累計(a)	17.50ha		
5か年目標(b)	22.80ha		
進捗率(a/b)	76.8%		
評価	○		

□事業費執行状況

	事業費	うち横浜みどり税
2019年度決算額	295百万円	37百万円
2020年度決算額	150百万円	56百万円
2021年度決算額	321百万円	41百万円
2022年度決算見込額	54百万円	43百万円
4か年累計見込(a)	820百万円	177百万円
5か年計画額(b)	2,453百万円	829百万円
執行率(a/b)	33.4%	21.4%
評価	△	△

■4か年の評価・検証

- 収穫体験農園の開設支援を行った農園での果物のもぎとりや市民農園での野菜の栽培など、市民が農を楽しむ場が多く作られました。
- 農園付公園の整備では、公園として開設するための用地取得や、農園だけでなく周辺のインフラ等の施設整備が必要となり、事業を行う土地の条件によって供用までに長期間を要することが多くなっています。
- 2019年度に整備を行った阿久和富士見小金台公園では、協働農園を活用した収穫体験イベントを指定管理者が開催し、地域住民が参加しています。

4か年の総合評価

B

■ 4か年の実績詳細

□ 収穫体験農園

ナシ、ブドウなどの果樹園の整備支援を行い、農家が栽培した旬の果物を収穫体験できる農園が増えました。

- ・ 農園開設整備の支援 68件

区名	件数	区名	件数	区名	件数
神奈川	2	港北	4	戸塚	15
保土ヶ谷	1	緑	14	栄	1
旭	5	青葉	8	泉	6
金沢	2	都筑	8	瀬谷	2

- ・ イモ掘取り等の支援 11件

区名	件数
緑	3
都筑	4
泉	4



【収穫体験農園】（戸塚区）

- ・ 果樹苗木育成の支援 4件



農園開設者の声

- ・ 来園者の皆さんが笑顔になることを楽しみに、愛情をこめて育てています。ご来園を心よりお待ちしております。

□市民農園

土地所有者等が認定市民菜園や環境学習農園を開設するための支援を実施し、4 か年で4.68haの農園が開設されました。

市内で開設されている主な市民農園

- ・認定市民菜園
農園利用者が農地の一部の区画を借りて、農作物を自由に耕作する農園
- ・環境学習農園
児童や生徒などが農家と一緒に種まき、収穫などの農作業の一部を継続して体験できる農園



【認定市民菜園】（都筑区）

区名	認定市民菜園 (ha)	環境学習農園 (ha)
鶴見	0.21	—
神奈川	0.31	—
西	—	—
中	—	—
南	—	—
港南	0.40	—
保土ヶ谷	—	—
旭	0.87	—
磯子	0.03	—
金沢	0.08	—
港北	0.36	0.05
緑	0.38	—
青葉	0.92	—
都筑	0.24	—
戸塚	0.19	—
栄	0.07	—
泉	0.39	0.08
瀬谷	0.10	—
小計	4.55	0.13
計	4.68	



利用者の声

- ・作物の成長過程を観察し作業することで、農地の大切さ、農業の楽しさや大変さを知ることができた。（環境学習農園の参加者）
- ・野菜づくりを通して、気持ちのリフレッシュになっています。（認定市民菜園の利用者）

□農園付公園

阿久和富士見小金台公園（瀬谷区）の整備を完了し、2020年4月1日に開園しました。利用者が自由に耕作できる区画貸しの分区園や協働農園のほか、広場や遊具などを設置した都市公園として、地域の憩いの場としてご利用いただいています。分区園では、指定管理者による利用者に向けた栽培相談会や、協働農園での収穫体験イベントが開催されています。

現在整備中の農園付公園予定地（4.4ha）においては、周辺のインフラに関する協議や、測量、設計等を実施しました。引き続き、開園に向けて取り組みます。



利用者の声

- ・職員の方々のアドバイスが参考になります。
- ・水道や必要な農具がそろっていて、とても便利です。
- ・季節の野菜の収穫を、近くの園児と一緒に楽しく参加できるのはとても楽しいですし、癒されています。また参加したいです。
- ・遊具の広場など、近隣子ども達によく使われていて、明るい公園です。



【農園付公園】阿久和富士見小金台公園（瀬谷区）
上段：指定管理者による協働農園の管理と収穫体験 下段：園内の様子

13 市民が農を楽しむ支援する取組の推進

- 横浜ふるさと村や恵みの里等で、苗の植え付けや農産物の収穫などを行う農体験教室、横浜の農を知ってもらおうアグリツーリズムの推進など、市民が農とふれあう機会を提供します。
- 市民農業大学講座や農体験講座を開催し、市民が栽培技術などを学ぶ場を提供します。子どもたちが楽しく農を学べるよう、家族で参加できる農体験講座の充実に取り組みます。また、援農コーディネーター等を活用し、市民農業大学講座修了生などによる農家への援農活動を支援します。

■ 4か年の実績

□ 進捗状況

	横浜ふるさと村、 恵みの里等で 農体験教室などの実施	市民農業大学講座の 開催	農体験講座の開催
2019年度実績	91回	20回	6回
2020年度実績	50回	0回	6回
2021年度実績	86回	20回	5回
2022年度実績	94回	35回	6回
4か年累計(a)	321回	75回	23回
5か年目標(b)	450回	100回	30回
進捗率(a/b)	71.3%	75.0%	76.7%
評価	○	○	○

□ 事業費執行状況

	事業費	うち横浜みどり税
2019年度決算額	8百万円	0百万円
2020年度決算額	14百万円	0百万円
2021年度決算額	19百万円	0百万円
2022年度決算見込額	28百万円	0百万円
4か年累計見込(a)	69百万円	0百万円
5か年計画額(b)	61百万円	0百万円
執行率(a/b)	113.1%	—
評価	◎	—

■ 4か年の評価・検証

- 横浜ふるさと村、恵みの里での米作りやみそ造り等の教室、野菜や果物の収穫体験等の農体験教室などは、新型コロナウイルス感染症の影響で2020年度には開催数が大きく減りましたが、2021年度以降は感染予防対策を講じたうえで開催しています。2022年度は複数地区で新規の収穫体験が実施され、市民の方に農とふれあっていただく機会を増やすことができました。
- 市民農業大学講座では、市民の皆様が農作業の基礎を学ぶ機会を提供し、援農や緑化ボランティア等で活躍する人材育成を行いました。
- 農体験講座では、小学生が家族と一緒に作物の植え付けから収穫までを体験することで、農とふれあう機会を提供しました。収穫に至るまでの様々な農作業を通じて、楽しみながら農業を身近に感じる体験の取組を進めました。

4か年の総合評価

A

■ 4か年の実績詳細

□ 農体験教室などの実施

横浜ふるさと村や恵みの里において、農家団体が実施する農体験教室等のイベントの開催を支援しました。また、2020年4月に緑区北八朔地区を市内5地区目の恵みの里として新たに指定しました。

地区	回数	内容
寺家ふるさと村	25	みそ造り、そば打ち
舞岡ふるさと村	76	梅もぎ取り、じゃがいも掘り、ねぎ狩りほか
田奈恵みの里	52	体験水田、落花生掘り、玉ねぎ掘りほか
都岡地区恵みの里	46	小麦作り、とうもろこし狩り、白菜・大根の収穫ほか
新治恵みの里	90	冬野菜作り、新米体験、里芋掘りほか
柴シーサイド恵みの里	20	みかん狩り、じゃがいも掘り、さつまいも掘りほか
北八朔恵みの里	12	体験水田
計	321	



教室参加者の声

- ・(収穫体験) 毎年親子で楽しく参加しています。
- ・(野菜作り教室) 子どもが毎回参加するのを楽しみにしていました。



【体験水田・田植え】(青葉区)



【野菜作り】(緑区)

□市民農業大学講座の開催

野菜・果樹や花・緑栽培管理の基礎について実習を中心として学び、修了後に農家での農作業のお手伝い（援農）や公園、緑地等でのボランティア活動など、地域で活躍していただく人材育成講座を環境活動支援センター（保土ヶ谷区）内の畑を中心に開催しました。



【アジサイの挿し木】



【ナスの植え付け】



受講生の声

- 講座実習を通して、自然環境を相手にする農家の大変さがよくわかりました。
- 学んだことを活かしてボランティア活動にどんどん参加していきたいと思います。
- 幅広い種類の農作業を学べ、今まで知らなかった分野も興味がわきました。
- 植物全般に対する意識が高くなりました。

□農体験講座の開催

小学生が家族と一緒に作物の植え付けから収穫までを体験する連続講座を環境活動支援センター（保土ヶ谷区）内の畑で開催しました。



【ダイコンの種まき】



【ダイコンの収穫】



参加者の声

- 子どもが野菜に興味を持ち、食べず嫌いがなくなり、積極的に自ら食べるようになりました。
- 近所に畑がないので畑に入る機会になって良かったです。
- 実際に土を触って栽培を体験することができ有意義な時間となりました。
- とれたてを食べられてよかったし、普段しない植付けや種まきができて楽しかったです。

14 地産地消にふれる機会の拡大

- 直売所や加工所に必要な設備の導入等を支援します。
また、市民が楽しみながら農畜産物を購入できる青空市やマルシェの開催等を支援します。
- 市内の植木農家や花き農家が生産した苗木や花苗を、市民への配布や公共施設、農地の縁辺部への植栽等に活用し、市民が市内産の植木や草花に親しめる機会を創出します。
- 情報誌やパンフレットなどの制作・発行やウェブサイトなどの活用、地産地消に関する各区局での取組の支援により、地産地消の取組のPRを推進します。
また、「横浜農場」を活用した市内産農畜産物のブランド化に向けたプロモーションの強化を図ります。

※横浜農場：食や農に関わる多様な人々、農畜産物、農景観など
横浜らしい農業全体を一つの農場に見立てた言葉。

■ 4か年の実績

□ 進捗状況

	直売所・青空市等の支援	緑化用苗木の配布	情報発信・PR活動： 情報誌などの発行
2019年度実績	43件	25,727本	6回
2020年度実績	41件	25,000本	6回
2021年度実績	49件	22,505本	6回
2022年度実績	63件	25,574本	6回
4か年累計(a)	196件	98,806本	24回
5か年目標(b)	285件	125,000本	30回
進捗率(a/b)	68.8%	79.0%	80.0%
評価	○	○	◎

□事業費執行状況

	事業費	うち横浜みどり税
2019年度決算額	42百万円	0百万円
2020年度決算額	47百万円	0百万円
2021年度決算額	43百万円	0百万円
2022年度決算見込額	49百万円	0百万円
4か年累計見込(a)	181百万円	0百万円
5か年計画額(b)	293百万円	0百万円
執行率(a/b)	61.8%	—
評価	○	—

■4か年の評価・検証

- 直売所・加工所の設置に必要な機械・設備・備品等の導入支援のほか、生産者に直売での効果的な商品の見せ方などのアドバイスを行い、充実した直売所・加工所の運営につなげました。
- 市内の生産者等がマルシェに出店するための支援を行うことにより、市民が身近な場所で市内産農畜産物を購入できる機会を提供しました。また、市内各地の直売団体の青空市等の運営を支援するため、直売に活用できる物品を提供しました。
- 市民協働による緑化や市の主催するイベント等で、市内産の苗木を市民に配布したり、公共施設の緑化に役立てたりすることで、市民が市内産の植木や草花に親しめる機会を創出しました。
- 横浜の農業や農畜産物をより身近に感じていただくため、マルシェ情報等を掲載する情報誌の発行、Instagramを用いた情報発信、11月の地産地消月間に合わせた様々なイベント・キャンペーン等を実施し、横浜の農の魅力を発信しました。

4か年の総合評価

B

■ 4か年の実績詳細

□直売所・青空市等の支援

●直売所・加工所整備の支援

直売所や加工所の整備支援として、自動販売機や冷蔵ショーケース、調理台や食品乾燥機等の導入に対して支援しました。

また、直売所・加工所を運営している生産者に、ディスプレイの方法や SNS を活用した PR 方法などのアドバイスを行い、より良い運営ができるよう支援しました。

区名	件数	区名	件数
神奈川	1	青葉	3
中	1	都筑	4
南	1	戸塚	11
旭	8	栄	3
港北	6	泉	15
緑	8	瀬谷	5
		計	66



【野菜の自動販売機】（旭区）



生産者の声

- 直売の販売状況等について、SNS 等で発信したくても方法が分からずにいましたが、設定方法や投稿内容についてのアドバイスをもらい、直売状況の情報発信を始めることができました。
- 加工所の整備に支援をしてもらうことで、農産物に付加価値を付けて販売ができるようになりました。

●青空市・マルシェ等への支援

市内の生産者等がマルシェに出店するための出店料支援のほか、直売団体に「横浜農場」の、のぼり旗やプライスカード等の物品を提供し、青空市等の運営支援を行いました。

区名	件数	青空市等の名称
鶴見	1	JA 横浜鶴見支店駐車場直売所
神奈川	1	きよ・マルシェ
西	4	みなとみらい農家朝市
中	56	横浜北仲マルシェ、戸塚4Hクラブ協議会よこはま野菜販売
保土ケ谷	13	西谷朝市会、横浜中部地区市民朝市、和田町駅前直売会、新桜ヶ丘直売所
旭	4	横浜農協二俣川直売所
磯子	3	杉田野菜直売所
金沢	4	柴シーサイド恵みの里直売所
港北	5	JA 小机農産物直売所、日吉朝市の会、港北支店 朝市
緑	15	長津田支店前野菜直売会、みどり地場野菜の直売会、北八朔日曜朝市、北八朔農産物直売所、にいほる長屋門朝市、中山駅前梨直売所
戸塚	16	東戸塚市民朝市、戸塚区地産地消 PR・直売コーナー、舞岡ふるさと村・JA 横浜ハマッ子直売所「舞岡や」、JA 横浜戸塚野菜直売所
泉	4	いずみ野即売会
瀬谷	4	上瀬谷直売所グループ
計	130	

※マルシェへの出店支援は、1 か所に対して複数回行う場合があります。



【みなとみらい農家朝市】（西区）



【横浜北仲マルシェ】（中区）

□緑化用苗木の配布

市内産の苗木を公共施設の緑化や、市民への配布、公園などに市民と協働で植樹することで、市民が市内産の植木や草花に親しめる機会を創出しました。



苗木を受け取った方の声

- 横浜の農家さんが作った苗木なので大切に育てます！
- 横浜農場を知ることができた。



【苗木の市民配布】（中区）

□情報発信・PR活動

市民が農を身近に感じるための取組として、4か年を通して地産地消の情報誌「はまふうどナビ」を年に3回発行しました。また、Instagramに横浜農場アカウントを開設し、農風景や農畜産物の写真、各地で開催されている農のイベント情報や地産地消の取組などの情報発信を行いました。加えて11月の地産地消月間に合わせて「横浜農場 食と農のマルシェ」や「横浜農場エコバッグプレゼントキャンペーン」、Instagramでの「フォロー&いいね！」キャンペーン等、様々なイベント・キャンペーンを実施し、横浜の農の魅力を発信しました。

年度	回数	PR内容
2019	6	はまふうどナビ(3回/年)、よこはま地産地消サポート店マップ(新横浜エリア)の作成、横浜農場プレゼントキャンペーンの実施、デジタルサイネージを活用した地産地消月間のPR活動
2020	6	はまふうどナビ(3回/年)、横浜農場Instagramアカウントの運用、マルシェカレンダーの更新、よこはま地産地消サポート店マップデジタル版の公開
2021	6	はまふうどナビ(3回/年)、横浜農場Instagramアカウントの運用、マルシェカレンダーの更新、地産地消月間(11月)における地産地消キャンペーンの実施
2022	6	はまふうどナビ(3回/年)、横浜農場Instagramアカウントの運用、マルシェカレンダーの更新、地産地消月間(11月)におけるキャンペーンやイベントの実施

・はまふうどナビ

第51号	横浜のニューウェーブフルーツ特集
第52号	鉄人たちの地産地消
第53号	横浜の大学×地産地消
第54号	はまふうどコンシェルジュのおうちごはん
第55号	農福連携
第56号	横浜のお酒
第57号	小学生の食育
第58号	横浜の直売とマルシェイベントの現在地
第59号	はまふうどコンシェルジュのヒミツ
第60号	横浜の地産地消キッチンカー
第61号	イモ・いも・芋
第62号	横浜のイチゴに首っだけ



【はまふうどナビ】

・横浜農場 Instagram



左：【横浜農場 Instagram 公式アカウント】
右：【フォロー&いいね！キャンペーン】

・横浜農場 食と農のマルシェ

日時：2022年11月25日（金）11時～15時

場所：横浜市役所アトリウム・北プラザ

内容：野菜やパン、焼き菓子、ワイン、ビール、ドレッシング

12店舗による物販

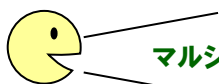
地産地消メニューを提供するキッチンカー3台の出店



【横浜農場 食と農のマルシェの開催の様子】

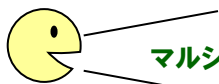


【横浜農場 食と農のマルシェのチラシ】



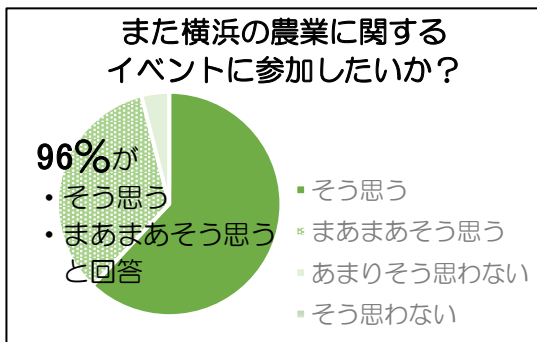
マルシェ出店者の声

- ・横浜の美味しいものを知ってもらえました！
- ・会話を楽しませていただきました。



マルシェ来場者の声

- ・コンセプトが面白い。
- ・新鮮で安い。お店にも行ってみたい！

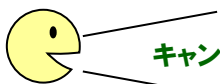


【来場者アンケート】

・横浜農場 エコバッグプレゼントキャンペーン

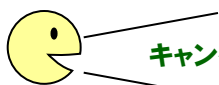
日時：2022年11月1日（火）～

場所：よこはま地産地消サポート店等 約40か所



キャンペーン協力店舗の声

- ・販売促進につながり横浜野菜をアピールできました。
- ・お客様が地産地消を意識するきっかけになったと思います。



キャンペーン参加者の声

- ・横浜でこのような取組がなされているとは知らなかった。



【横浜農場エコバッグプレゼントキャンペーンのチラシ】

15 地産地消を広げる人材の育成

- 講座の開催により、地産地消を広げるはまふうどコンシェルジュを育成します。また、コンシェルジュの自発的な活動を支援します。
- 直売を行う生産者やよこはま地産地消サポート店、はまふうどコンシェルジュ、地産地消に取り組む市民・企業等をつなげる交流会等を開催し、ネットワークづくりを支援することで、「農のプラットフォーム」の充実を図ります。

■ 4か年の実績

□進捗状況

	はまふうどコンシェルジュの活動支援等	地産地消ネットワーク交流会の開催
2019年度実績	28件	1回
2020年度実績	27件	1回
2021年度実績	32件	1回
2022年度実績	36件	1回
4か年累計(a)	123件	4回
5か年目標(b)	150件	5回
進捗率(a/b)	82.0%	80.0%
評価	◎	◎

□事業費執行状況

	事業費	うち横浜みどり税
2019年度決算額	2百万円	0百万円
2020年度決算額	1百万円	0百万円
2021年度決算額	2百万円	0百万円
2022年度決算見込額	3百万円	0百万円
4か年累計見込(a)	8百万円	0百万円
5か年計画額(b)	25百万円	0百万円
執行率(a/b)	32.0%	—
評価	△	—

■ 4か年の評価・検証

- はまふうどコンシェルジュの育成は着実に進んでおり、市民向けのマルシェ、農作業体験教室等の活動が活発になっています。コンシェルジュによる自主的な活動の場や機会をさらに充実させるため、引き続き、きめ細やかに育成・支援を進める必要があります。
- ネットワーク交流会については、毎年テーマを変えながら開催することで、生産者、事業者、市民の皆様の情報交換や交流の機会を創出しました。新型コロナウイルス感染症の感染状況を踏まえながら一部オンラインで実施するなど、出席する人が参加しやすいよう工夫しました。

4か年の総合評価	B
----------	---

■ 4か年の実績詳細

□はまふうどコンシェルジュの活動支援等

地産地消を広げる人材である、はまふうどコンシェルジュの育成講座については、新型コロナウイルス感染症の影響により2020年度は中止、2021年度及び2022年度は規模を縮小して開催しました。コンシェルジュが開催するマルシェなどの活動に支援するほか、公共機関で実施する地産地消の講座や料理教室の講師としてコンシェルジュを派遣するなどの支援も行っています。

4か年で、奨励事業110件、補助事業1件、講師派遣制度12件の計123件の活動支援を行いました。

※はまふうどコンシェルジュ：横浜の「食」と「農」をつなぎ地産地消を広めるための活動を行い、市が主催する講座を修了された方をはまふうどコンシェルジュとして認定しています。

・はまふうどコンシェルジュ活動支援・活躍促進事業

奨励事業	件数
マルシェの開催	83
農作業体験教室の開催（単日）	13
農作業体験教室の開催（期間）	14
補助事業	件数
リーフレット作成やSNSでの情報発信	1
講師派遣制度	件数
教育機関における授業や講習	7
公共機関における料理教室	5



【コンシェルジュの活動支援】
農体験教室の開催（金沢区）

・はまふうどコンシェルジュ育成講座

年度	内容
2019	5回連続講座を開催(①、②、③、④、⑤)
2020	中止
2021	連続4回講座(①、③、④、⑤) ※②及び⑤の内容を一部変更した縮小開催
2022	連続5回講座(①、②、③、④、⑤) ※②の内容を一部変更した縮小開催

※講座内容

- ①横浜の「農」と地産地消
…市の農業の概要と地産地消の取組についての講義
- ②横浜の「農」を味わう
…中央卸売市場の見学と横浜野菜を使った調理実習等
- ③横浜の「農」を体験する
…生産者と一緒に収穫や直売の体験
- ④横浜の「農」を巡る
…市内の生産現場を見学するバスツアー
- ⑤これからの地産地消
…今後の活動を考えるワークショップ



【はまふうどコンシェルジュ育成講座】



はまふうどコンシェルジュ
講座参加者の声

- ・講座受講が終わりではなく、スタートとして取り組んでいきたい。
- ・いろいろな体験を通し、また様々な職種の方とつながらせていただき貴重な時間でした。

□地産地消ネットワーク交流会の開催

地産地消に取り組む市民・企業等の交流や情報交換等を行うフォーラムを、市民・企業と連携して開催しました。

年度	内容
2019	・基調講演「情報で横浜の地産地消をつなぐ」ほか ・地産地消の取組紹介 ・パネルディスカッション ・市内農家による横浜野菜直売
2020	・事例紹介「よこはま地産地消サポート店の取組」ほか ・グループワーク
2021	・地産地消を取り入れた地域活性の事例紹介 ・パネルディスカッション
2022	・講義「変化する消費者トレンドを発見する」 ・グループワーク



【食と農のフォーラムのチラシ】



フォーラム参加者の声

- ・関係が増え、橋渡しが色々できそうなのでよかったです。ネットワークが増えると解決策が増えそうなので、またこのようなイベントをしてほしいです。

16 市民や企業等との連携

- 地産地消を広げるため、生産者と企業等とのマッチングなどにより、連携を推進します。
- 地産地消に貢献する新たなビジネスに取り組む意欲のある市民や市内中小企業等を対象に、ビジネスプランを策定するための講座を開催し、選定されたプランを支援します。
- 小学校の給食メニューにおける市内産農産物の利用促進や食育の推進を図るため、企業などと連携し、学校給食での市内産農産物の一斉供給や、小学生を対象とした料理コンクールを開催します。

■ 4か年の実績

□ 進捗状況

	市民や企業等との連携	地産地消ビジネス創出支援	学校給食での市内産農産物の一斉供給	料理コンクールの開催
2019年度実績	13件	1件	327校	1回
2020年度実績	15件	3件	316校	1回
2021年度実績	13件	5件	311校	1回
2022年度実績	15件	6件	316校	1回
4か年累計(a)	56件	14件	1,270校	4回
5か年目標(b)	50件	16件	推進	5回
進捗率(a/b)	112.0%	87.5%	—	80.0%
評価	◎	◎	—	◎

※地産地消ビジネス創出支援は、1年目は育成講座、2年目から事業支援の実施となります。

□事業費執行状況

	事業費	うち横浜みどり税
2019年度決算額	5百万円	0百万円
2020年度決算額	4百万円	0百万円
2021年度決算額	6百万円	0百万円
2022年度決算見込額	6百万円	0百万円
4か年累計見込(a)	21百万円	0百万円
5か年計画額(b)	42百万円	0百万円
執行率(a/b)	50.0%	—
評価	○	—

■4か年の評価・検証

- 地産地消に関心のある企業等との連携により、市内産農畜産物やそれらを使用した加工品を販売するマルシェの開催、ホテルや飲食店における市内産農畜産物を使用したメニュー提供などの取組を実施しました。相談件数も増加しており、スポーツなどの食や農と異なる業種や、大学生といった若い世代との連携など、取組の幅が広がっています。
- 地産地消ビジネスの創出支援を通じて、市内産農畜産物を使用した様々な加工品やサービスが生まれています。企業等の主体的な取組により、市民が農を味わう多様な機会を創出しました。
- 小学校給食での市内産農産物（ダイコン、キャベツなど）の一斉供給を行うとともに、小学生が市内産農産物を使用した学校給食のメニューを提案する「はま菜ちゃん料理コンクール」の取組でも年々参加者が増加し、子どもたちに地産地消の重要性が浸透しています。

4か年の総合評価

A

■ 4か年の実績詳細

□ 市民や企業等との連携

企業と連携し、市内産農畜産物を使用した新商品の開発やマルシェの開催等を行い、市内産農畜産物のPRを図りました。

年度	連携実績
2019 (13件)	JR 東日本との連携によるマルシェの開催
	春の里山ガーデンフェスタでの JA 横浜による市内産農畜産物の販売
	ガーデンネックレス横浜 2019「ローズ&ガーデンマーケット」での地産地消サポート店による市内産農産物を使ったお弁当の販売
	横浜ガストロノミ協議会との連携によるアペリティフ in 横濱 2019 の開催
	かながわ食育フォーラムでのパネル展示、クイズ等による横浜農場のPR
	秋の里山ガーデンフェスタでの地産地消サポート店によるキッチンカー出店やJA横浜による市内産農産物の販売
	東京ガス、横浜ガストロノミ協議会との連携による「生産者と飲食店の交流会」開催
	横浜国立大学との協力による朝市やマルシェでのアンケート調査の実施
	市内のレストラン・飲食店との連携による地産地消フェアの開催
	横浜ワールドポーターズ及び西武東戸塚店との連携による花き展覧会のPR
	北仲マルシェとの連携による「食と農の祭典」の開催
	株式会社横浜赤レンガへの協力による「Yokohama Strawberry Festival 2020」での市内産イチゴの販売・PR
	イオンリテール株式会社、JA横浜との連携による「イオンスタイル戸塚」への市内生産者野菜コーナーの設置
2020 (15件)	JA 横浜との連携による市庁舎直売の開催
	JA横浜及び株式会社ベネフィット・ワンとの連携によるハマッ子直売所等におけるグルメクーポンの利用開始
	横浜国立大学との連携による地産地消の見える化に向けた調査の実施
	横浜ハンマーヘッドへの協力によるマルシェへの「横浜農場ブース」出展
	秋の里山ガーデンフェスタにおけるキッチンカー（地産地消サポート店）の出店
	北仲マルシェにおける「横浜農場ブース」の展開
	西武東戸塚店との連携による市内産シクラメンの展示
	株式会社東北新社との連携による食と農の祭典における「ひつじのショー」の活用
	セカンドリーグ神奈川との連携によるひとり親世帯等への市内産野菜の提供
	市庁舎北プラザにおける地産地消サポート店のキッチンカー出店
	横浜銀行及び株式会社ルミネとの連携によるニューマン横浜における地産地消フェアの開催
	cubic 株式会社への情報提供による情報誌「mirea」での地産地消情報の発信
	CDA 合同会社との連携による市庁舎北プラザにおける市内産農畜産物を使用したキッチンカーの出店
	JA 横浜青壮年部と連携した横浜市役所アトリウムでの市内産農産物の直売実施
スターツ出版株式会社及びJA横浜との連携によるランドマークプラザにおける「地産地消を食べて応援。春の横浜ベジフルフェア」の開催	

年度	連携実績
2021 (13件)	北仲マルシェ・いそご丘の上マルシェへの協力による「横浜農場ブース」の展開
	JA 横浜との連携による市庁舎直売の開催
	株式会社グリーンピースとの連携による市庁舎内「TSUBAKI 食堂」における 18 区丼の実施
	株式会社ルミネへの協力による「LUMINE AGRI MARCHE」の開催
	横浜 FC との連携による横浜 FC ホームゲームにおける地産地消イベントの実施
	株式会社相鉄ビルマネジメントへの協力による「相鉄いずみ野線旅するマルシェ」での横浜農場ブースの展開
	横浜ベイサイドマリーナマルシェ運営事務局への協力による「横浜ベイサイドマリーナマルシェ」での「横浜農場ブース」の展開
	一般社団法人横浜みなとみらい 21 及び JA 横浜と連携した、クイーンズスクエアにおける「横浜花き品評会」の開催
	株式会社良品計画との連携による無印良品港南台パース店における市内産農畜産物の PR
	CDA 合同会社との連携による市内産農畜産物を使ったメニューを提供するキッチンカーの市庁舎北プラザ出店
	ヨコハマグランドインターコンチネンタルホテル内のbuffet・ダイニング「オーシャンテラス」において開催された「ヨコハマ・マルシェ」での横浜農場ノベルティの配布
	横浜商工会議所への協力による「農商工連携セミナー」の開催
	株式会社三越伊勢丹への協力による「フード&タイムイセタン大船 地域連携マルシェ」への「横浜農場ブース」の展開
2022 (15件)	北仲マルシェ・いそご丘の上マルシェへの協力による「横浜農場ブース」の展開
	JA 横浜との連携による市庁舎直売の開催
	JA 横浜への協力による「横浜市内産カーネーション即売会」
	横浜 FC との連携による横浜 FC ホームゲームにおける地産地消イベントの実施
	横浜ベイサイドマリーナマルシェ運営事務局への協力による「横浜ベイサイドマリーナマルシェ」での「横浜農場ブース」の展開
	CDA 合同会社との連携による市内産農畜産物を使ったメニューを提供するキッチンカーの市庁舎北プラザ出店
	株式会社グリーンピースとの連携による市庁舎内「TSUBAKI 食堂」における 18 区丼の実施
	一般社団法人横浜みなとみらい 21 及び JA 横浜と連携した横浜ガーデンライフ 2022 の開催
	CDA 合同会社、公益財団法人帆船日本丸記念財団との連携による日本丸メモリアルパークでの地産地消キッチンカー出店の展開
	株式会社横浜アリーナとの連携とした「ヨコアrikunミニ七夕まつり」での地産地消の PR
	神奈川大学経営学部の学生と連携した地産地消の PR
	ユーコープと連携した地産地消の PR
	JA 横浜青壮年部と連携した横浜市役所アトリウムでの市内産農産物の直売実施
UNIQLO PARK 横浜ベイサイド店と連携した地産地消キッチンカーの出店	
ららぽーと横浜と連携した地産地消イベントの実施	



左：【神奈川大学経営学部の学生と連携した地産地消の PR】（西区）
右：【横浜 FC ホームゲームにおける地産地消イベント】（神奈川区）

□地産地消ビジネス創出支援

市内産農畜産物を用いた新たな商品やサービスの開発などのビジネスプランを持っている方を対象に、プランの充実を図るための育成講座を実施しました。開催に当たっては、新型コロナウイルス感染症の状況を踏まえ、オンラインを活用するなど、感染症対策に留意しました。

また、育成講座後に支援の対象となるプランを選定し、地産地消×福祉で生まれるドレッシングの開発・販売や、地産地消・フードロス削減・共生社会をテーマにしたマルシェの運営等の事業に対して、事業開始にかかる初期費用の補助や経営に関する相談対応を行いました。

・育成講座

年度	内容
2019	6回連続講座を開催（①事業計画の作成を見据えた基本コンセプト作り、②事業計画の作成、③事業計画のブラッシュアップ、④先輩企業家の事例紹介、⑤収益力向上とプレゼンテーション講座、⑥ビジネスプラン発表会）
2020	6回連続講座をオンラインをベースに開催（①事業計画の作成を見据えた基本コンセプト作り、②事業計画の作成、③事業計画のブラッシュアップ、④先輩企業家の事例紹介、⑤収益力向上とプレゼンテーション講座、⑥ビジネスプラン発表会）※⑥のみリアル開催
2021	5回連続講座をオンラインとリアルを併用しながら開催（①事業計画の作成を見据えた基本コンセプト作り、②事業計画の作成、③先輩企業家の事例紹介、④収益力向上とプレゼンテーション講座、⑤ビジネスプラン発表会）※①、②、④はオンライン、③、⑤はオンラインとリアルの併用
2022	5回連続講座をオンラインとリアルを併用しながら開催（①事業計画の作成を見据えた基本コンセプト作り、②事業計画の作成、③先輩企業家の事例紹介、④収益力向上とプレゼンテーション講座、⑤ビジネスプラン発表会）※①、②、④はオンライン、③、⑤はリアルでの開催



【育成講座】
左：リーフレット 右：育成講座の様子（中区）

【地産地消ビジネス創出支援事業】
左：「小松菜ドレッシング」、右：「夕方マルシェ」



育成講座参加者の声

- ・大変勉強になりました。講座が楽しみで仕方なかったです。
- ・企画までは得意分野なのですが、一番大事な実際の販売についてのお金関係があまり得意ではないので、確実に進めていきたいと考えています。

□学校給食での市内産農産物の一斉供給利用促進

横浜市教育委員会、(公財)よこはま学校食育財団、JA横浜及び市内の生産者等と連携し、市内の小学校・特別支援学校に、給食で使用するダイコンやキャベツを届け、子ども達に提供しました。

□料理コンクールの開催（はま菜ちゃん料理コンクール）

市内の小学生を対象に、市内産農産物を使用した学校給食のメニューを募集する「はま菜ちゃん料理コンクール」を開催しました。横浜市教育委員会、(公財)よこはま学校食育財団、JA横浜等の協力のもと、応募作品の書類審査を行い、各年6作品ずつ選出しました。

2020年度からは新型コロナウイルス感染症の状況を踏まえ、入選作品の考案者を集めて実際に調理・試食を行う本選は中止しましたが、レシピ集やレシピ動画を作成し、ホームページに掲載しました。また、2022年度は第20回を記念して、入賞した6作品の料理にアレンジを加えたメニューを、市庁舎2階の「TSUBAKI 食堂」で提供しました。



【選出作品レシピ集】



はま菜ちゃん料理コンクール参加者の声

- これまでの受賞作品を給食で食べて、自分が考えたレシピが実際の給食のメニューになったらいいなと思い、チャレンジしました。
- 地産地消活動を応援するために参加しました。
- 自分が考えた料理を、学校みんなに食べてもらえることを想像しながら料理をすると楽しかったです。



【入賞作品のアレンジメニュー】

計画の柱3 市民が実感できる緑や花をつくる



17 公共施設・公有地での緑の創出・育成

- 各区の主要な公共施設・公有地において、緑を充実させる取組を推進します。また、充実を図った公共施設・公有地の緑を良好に維持管理します。

■ 4か年の実績

□ 進捗状況

	緑の創出	緑の維持管理
2019年度実績	4か所	63か所
2020年度実績	12か所	50か所
2021年度実績	5か所	47か所
2022年度実績	13か所	44か所
4か年累計(a)	34か所	204か所
5か年目標(b)	36か所	推進
進捗率(a/b)	94.4%	—
評価	◎	—

□ 事業費執行状況

	事業費	うち横浜みどり税
2019年度決算額	80百万円	0百万円
2020年度決算額	91百万円	0百万円
2021年度決算額	86百万円	0百万円
2022年度決算見込額	86百万円	0百万円
4か年累計見込(a)	344百万円	0百万円
5か年計画額(b)	690百万円	0百万円
執行率(a/b)	49.9%	—
評価	△	—

■ 4か年の評価・検証

- 多くの市民が利用する各区の公共施設や公有地で緑化整備を行いました。
- 各施設では、花壇整備、屋上や壁面での緑化など、多様な緑化を進めました。
- 今後も、多くの市民が利用する公共施設を率先して緑化することで、市民が実感できる緑を創出するとともに、創出した緑を良好に維持管理することが必要です。

4か年の総合評価

B

■ 4か年の実績詳細

□緑の創出

中本牧コミュニティハウス敷地内こどもの遊び場、金沢地区センター、港北区庁舎、緑区庁舎など、多くの市民が利用する施設等を緑化しました。

区名	施設名	か所数
神奈川	神奈川区庁舎	1
中	柏葉公園、中本牧コミュニティハウス敷地内こどもの遊び場、ハンマーヘッドパーク（2019年度、2020年度）	4
港南	港南台北公園こどもログハウス	1
保土ケ谷	西谷地区センター	1
旭	旭台中央公園、帷子川親水護岸、ふるさと尾根道緑道（2020年度、2021年度）	4
磯子	洋光台西公園、横浜市立脳卒中・神経脊椎センター	2
金沢	金沢地区センター、金沢町公園、釜利谷第二公園、釜利谷緑道、富岡緑地（2020年度、2021年度）	6
港北	菊名コミュニティハウス、港北区庁舎	2
緑	緑区庁舎	1
青葉	青葉消防署、市ヶ尾第三公園、松風台第三公園	3
都筑	加賀原地域ケアプラザ、北山田地区センター、センター北広場、仲町台地区センター、東山田地域ケアプラザ、東山田中学校コミュニティハウス	6
泉	泉区民文化センター、泉スポーツセンター、下和泉地区センター	3



中本牧コミュニティハウス敷地内こどもの遊び場（中区）



金沢地区センター（金沢区）

□緑の維持管理

創出した緑を良好に維持するために、各施設において適切な維持管理が行われました。



都筑区庁舎（都筑区）



旭図書館（旭区）

18 街路樹による良好な景観の創出・育成

- ・ 老木化した桜並木などの地域で愛されている並木の再生や、空いている植栽柵への補植など、街路樹による良好な景観づくりを進めます。
- ・ 駅周辺や各区の主要な路線など、多くの市民の目にふれ、街並みの美観向上に寄与する街路樹を良好に育成します。

■ 4か年の実績

□ 進捗状況

	並木の再生	空き樹の補植	良好な維持管理
2019年度実績	8路線	高木0本 低木889本	18,428本
2020年度実績	6路線	高木180本 低木1,080本	17,710本
2021年度実績	4路線	高木29本 低木788本	16,993本
2022年度実績	3路線	高木23本 低木1,369本	15,545本
4か年累計(a)	9路線	高木232本 低木4,126本	68,676本
5か年目標(b)	10路線	推進	18区で推進
進捗率(a/b)	90.0%	—	—
評価	◎	—	—

※並木の再生の累計は、2022年度末時点で整備完了または整備中の路線数です。

□ 事業費執行状況

	事業費	うち横浜みどり税
2019年度決算額	477百万円	477百万円
2020年度決算額	502百万円	502百万円
2021年度決算額	458百万円	458百万円
2022年度決算見込額	436百万円	436百万円
4か年累計見込(a)	1,873百万円	1,873百万円
5か年計画額(b)	2,910百万円	2,910百万円
執行率(a/b)	64.4%	64.4%
評価	○	○

■ 4か年の評価・検証

- 地域に愛されている桜並木などの街路樹を再生し、7路線で整備を完了しました。
- 空いている植栽柵に補植することで、良好な景観づくりを進めました。
- 市民が目にする機会が多い街路樹を計画的にせん定することで、良好な街並みを形成しました。

4か年の総合評価	B
----------	---

■ 4か年の実績詳細

□並木の再生

大岡川プロムナード、環状4号線、あざみ野中学校通りなどの地域で愛されている桜並木などを再生しました。

路線名	区名	状況
本牧通り	中	完了
本牧桜道	中	完了
谷戸坂	中	完了
大岡川プロムナード	南	整備中
港南桜道	港南	完了
月見台	保土ヶ谷	完了
環状4号線	緑	整備中
あざみ野中学校通り	青葉	完了
たまプラーザ駅周辺	青葉	完了



環状4号線／サクラ（ヨウコウ）（緑区）

□空き樹の補植

枯損等で空いていた植栽柵に高木、低木を補植しました。



中村川プロムナード（南区）

□良好な維持管理

街路樹を良好に育成するために、樹種や路線の特性を考慮しながら、目標とする樹形とせん定方法をあらかじめ定め、街路樹せん定士の指導のもと、計画的なせん定をしています。

全ての区の街路樹で毎年事業を実施したことで、街路樹の健全な育成が進み、良好な景観を創出しました。



尾上町通り／イチョウ（中区）



谷津第410号線／ケヤキ（金沢区）



市民の声

- ・ 保育園・幼稚園の子どもたちがお散歩するときに日陰を歩くことができ助かっています。
- ・ 秋の紅葉時には季節を感じることができて楽しんでいます。

19 シンボリックな緑の創出・育成

- 多くの市民の目にふれる場所で、土地利用転換などの機会をとらえて用地を確保し、緑豊かな空間を創出することで、街の魅力や賑わいづくりにつなげます。
また、花畑や名所など、地域に親しまれている緑のオープンスペースが、所有者の不測の事態等により、存続が困難となった場合に用地を取得し、緑や花による地域のシンボリックな空間として保全します。
- 多くの人が訪れる場所における、公開性のある緑化などを行う市民・事業者に対し、その費用の一部を助成します。

■ 4か年の実績

□ 進捗状況

	公有地化によるシンボリックな 緑の創出・管理	公開性のある緑空間の創出支援
2019年度実績	緑の創出：1か所 整備完了 1か所 整備中 緑の管理：2か所	1か所
2020年度実績	緑の創出：1か所 整備中 緑の管理：2か所	2か所
2021年度実績	緑の創出：1か所 整備中 緑の管理：2か所	1か所
2022年度実績	緑の創出：2か所 整備中 緑の管理：2か所	2か所
4か年累計(a)	緑の創出：1か所 整備完了 2か所 整備中 緑の管理：8か所	6か所
5か年目標(b)	推進	推進
進捗率(a/b)	—	—
評価	—	—

□事業費執行状況

	事業費	うち横浜みどり税
2019年度決算額	559百万円	185百万円
2020年度決算額	91百万円	25百万円
2021年度決算額	97百万円	19百万円
2022年度決算見込額	147百万円	111百万円
4か年累計見込(a)	894百万円	341百万円
5か年計画額(b)	1,789百万円	497百万円
執行率(a/b)	50.0%	68.6%
評価	○	○

■4か年の評価・検証

- 公有地化によるシンボリックな緑の創出では、2019年度に六角橋四丁目公園を整備し公開しました。また、2箇所の予定地（中区山手町、鶴見区北寺尾六丁目）において、開園に向けて設計・基盤整備工事などを進めています。
- これまで本事業で整備した箇所では、地域のシンボリックな緑となる公園として、質の高い維持管理を進めています。
- 緑の少ない市街地における新たな用地の確保が難しい中、引き続き、多くの市民の目にふれる場所で地域からのニーズも高い緑化のための用地を機会を捉えて確保していくことが必要です。
- 多くの市民の目に触れる場所で制度がさらに活用され、まちなかの緑の創出が実感できる取組のモデルとなるよう、効果的に広報を行い、市民・事業者の相談・利用につなげていく工夫が必要です。
- 公開性のある緑空間の創出支援事業については、より多くの市民に活用していただけるよう、事業の周知をさらに進める必要があります。

4か年の総合評価

B

■ 4か年の実績詳細

□ 公有地化によるシンボリックな緑の創出・管理

緑の創出については、廃止された国家公務員宿舎の跡地について市が用地を取得し、2020年4月1日に六角橋四丁目公園が開園しました。また、中区山手町の予定地では、基盤整備工事や設計などを行ったほか、鶴見区北寺尾六丁目の予定地では、整備に向けて設計を実施しました。

緑の管理については、これまでに本事業で整備し開園した下野谷町三丁目公園（鶴見区）、伊勢町もくせい公園（西区）において、緑豊かな空間を維持するために、草刈り等の頻度を上げた維持管理を毎年行い、多くの市民の目にふれる場所での貴重な緑の育成を実施しました。



【シンボリックな緑の創出】
六角橋四丁目公園（神奈川区）



【シンボリックな緑の管理】
伊勢町もくせい公園（西区）

地域住民の声

- ・子どもが、のびのびと遊べる、広い草地を残してほしかったので、公園として整備されることが決まって良かったです。

□ 公開性のある緑空間の創出支援

多くの人を訪れる公開性のある民有地において、地面や屋上、壁面などに法令等で定める基準以上の緑化を行う市民、事業者に対し、その費用の一部を助成し緑化にかかる経費負担を軽減しました。4か年で、鶴見区、西区、中区、港南区（2件）、緑区で支援を実施し、緑化創出面積は、859.54㎡となりました。

事業者の声

- ・助成を受けることで、質の高い緑化を行えました。



公開性のある緑空間（緑区）

20 建築物緑化保全契約の締結

- ・ 緑の環境をつくり育てる条例や緑化地域制度等に定める基準以上の緑化を行い、保全することに対し、建築物所有者（管理者）の建築物の敷地に対する固定資産税・都市計画税を軽減します。

■ 4か年の実績

□進捗状況

	建築物緑化保全契約の締結
2019年度実績	35件（22.0ha）
2020年度実績	15件（66.1ha）
2021年度実績	2件（8.2ha）
2022年度実績	7件（10.8ha）
4か年累計(a)	59件（107.1ha）
5か年目標(b)	制度運用
進捗率(a/b)	—
評価	—

□事業費執行状況

	事業費	うち横浜みどり税
2019年度決算額	2百万円	0百万円
2020年度決算額	1百万円	0百万円
2021年度決算額	1百万円	0百万円
2022年度決算見込額	0百万円	0百万円
4か年累計見込(a)	4百万円	0百万円
5か年計画額(b)	5百万円	0百万円
執行率(a/b)	80.0%	—
評価	◎	—

■ 4か年の評価・検証

- この制度の活用により、市民や企業が主体となった緑地保全が進み、地域の緑の保全につながっています。
- 制度開始当初（2009、2010年度）の契約が全契約件数に対する高い割合を占めていたことから、それらが契約満了を迎える2019年度から契約者に再契約のご案内をしたことで、再度多くの契約を締結することができました。

4か年の総合評価	B
----------	---

■ 4か年の実績詳細

□建築物緑化保全契約の締結

4か年で、集合住宅17件、個人宅37件、事業所5件について保全契約を締結し、約107.1haの緑地が10年間保全されることになりました。

区名	件数	区名	件数
鶴見	5	金沢	2
神奈川	3	港北	4
西	1	緑	3
中	3	青葉	4
南	2	都筑	1
港南	5	戸塚	6
旭	5	泉	5
磯子	4	瀬谷	6



【建築物緑化保全契約を締結した緑地】
(磯子区)



活用(希望)者の声

- ・緑地の保全に取り組むインセンティブを生む良い制度であり、横浜市の緑化推進に貢献したい。

21 名木古木の保存

- 地域住民に古くから町の象徴として親しまれ、故事、来歴等のある樹木を、保存すべき樹木として指定します。
また、指定木の維持管理に必要な樹木の診断や治療及びせん定等の維持管理費用の一部を助成します。

■ 4か年の実績

□ 進捗状況

	名木古木の保存	
2019年度実績	新規指定：27本	維持管理の助成：40本
2020年度実績	新規指定：28本	維持管理の助成：72本
2021年度実績	新規指定：11本	維持管理の助成：82本
2022年度実績	新規指定：1本	維持管理の助成：74本
4か年累計(a)	新規指定：67本	維持管理の助成：268本
5か年目標(b)	推進	
進捗率(a/b)	—	
評価	—	

※維持管理の助成の実績数値については、過年度の報告書から修正しました。

□ 事業費執行状況

	事業費	うち横浜みどり税
2019年度決算額	14百万円	10百万円
2020年度決算額	17百万円	14百万円
2021年度決算額	18百万円	16百万円
2022年度決算見込額	18百万円	17百万円
4か年累計見込(a)	67百万円	57百万円
5か年計画額(b)	88百万円	74百万円
執行率(a/b)	76.1%	77.0%
評価	○	○

■ 4か年の評価・検証

- 制度の周知が図られ、4か年で新たに67本を名木古木に指定したほか、維持管理等にかかる助成金は268本に対して行うなど、高い実績となりました。
- 指定された名木古木には、定期調査として、樹木の専門家である樹木医が育成状況を確認するとともに、維持管理について適切な助言をするなど、所有者に対する支援を行いました。

4か年の総合評価	B
----------	---

■ 4か年の実績詳細

□名木古木の保存

名木古木の指定のご希望がある樹木所有者から指定申請をいただき、書類審査や樹木医による調査を経て、基準に該当する樹木が名木古木に指定されました。指定には、単指定（1本）と群指定（複数本）があります。

名木古木の枯損防止や病害虫の駆除、良好な育成の管理に助成金をご活用いただきました。

4か年で新たに67本を名木古木に指定したほか、268本に対して維持管理等にかかる助成を行い、名木古木の保存に役立ちました。

区名	新規指定（本）	維持管理に対する助成（本）	区名	新規指定（本）	維持管理に対する助成（本）
鶴見	6	17	金沢	3	21
神奈川	3	14	港北	—	17
西	2	1	緑	2	11
中	4	49	青葉	—	9
南	—	5	都筑	10	23
港南	7	6	戸塚	8	26
保土ヶ谷	—	13	栄	—	4
旭	9	20	泉	—	15
磯子	13	12	瀬谷	—	5
			計	67	268



名木古木所有者の声

- ・大きくて立派な木だが維持費が高額で困っていた。助成金があればこれからも維持できるのでうれしい。
- ・古木の維持管理にはお金がかかる。維持の断念も考えるが、助成金があるので継続できている。



【名木古木指定樹木】イチョウ（神奈川区）

22 地域緑のまちづくり

- 「緑や花でいっぱいの街をつくりたい」という地域の思いを実現するため、計画づくり、花や木の植栽、維持管理など、緑のまちづくりに協働で取り組みます。
ご近所同士や集合住宅の管理組合でも気軽に取り組める仕組みを継続しながら、地域での緑化整備や維持管理活動を支援します。
また、2018年度までに地域緑化計画を策定した地区については、継続して支援を行います。

■ 4か年の実績

□進捗状況

	地域緑のまちづくり
2019年度実績	4地区
2020年度実績	4地区
2021年度実績	7地区
2022年度実績	5地区
4か年累計(a)	20地区
5か年目標(b)	30地区
進捗率(a/b)	66.7%
評価	○

□事業費執行状況

	事業費	うち横浜みどり税
2019年度決算額	54百万円	54百万円
2020年度決算額	40百万円	40百万円
2021年度決算額	53百万円	53百万円
2022年度決算見込額	49百万円	49百万円
4か年累計見込(a)	197百万円	197百万円
5か年計画額(b)	446百万円	446百万円
執行率(a/b)	44.2%	44.2%
評価	△	△

■ 4か年の評価・検証

○地域の緑化計画に基づく緑化活動により、住宅地から商業・工業地域まで、その地区ならではの緑のまちづくりが進むとともに、緑をテーマとした地域コミュニティ活動も盛んになりました。

○市の助成が終了した後も、地域で自立的な緑化活動が継続できるように、団体同士の交流会などの支援の取組を、今後も継続する必要があります。

4か年の総合評価

B

■ 4か年の実績詳細

□ 地域緑のまちづくり事業

「緑や花でいっぱいの街をつくりたい」という地域の皆様から、緑化計画の提案を公募し、緑化やまちづくりの専門家による提案計画づくりの支援を行い、4か年で20地区の団体と新たに協定を締結しました。

商業・住居系の地区では、少ないスペースを活用して、多くの人が目にする店先や沿道にプランターなどを用いて緑化することで、地区の緑化が進みました。

各地区では、緑化整備や緑の活動が行われ、地域の緑化推進に大きな成果を上げています。

・ 協定締結地区 20地区

協定締結年度	地区名	区名
2019	磯子3丁目地区	磯子
	綱島西地区	港北
	六浦台地区	金沢
	若葉台もみじ自治会周辺地区	旭
2020	すすき野三丁目地区	青葉
	日吉地区	港北
	緑園都市地区	泉
	元町河岸通り地区	中
2021	白根二丁目地区	旭
	深谷町東山地区	戸塚
	野庭団地地区	港南
	青葉台地区	青葉
	中川西地区	都筑
	お三の宮通り周辺地区	南
	関内桜通り地区	中

協定締結年度	地区名	区名
2022	柏尾町地区	戸塚
	仲町台駅前地区	都筑
	フローラ桂台自治会周辺地区	栄
	六浦東地区	金沢
	寺谷地区	鶴見

・前計画からの継続地区

協定期間	地区名	区名
2017～2019 年度	中之丸地区	港南
	日野団地地区	港南
	武蔵中山台地区	緑
	前田町桜の丘地区	戸塚
	霧が丘六丁目地区	緑
	汐見台2丁目地区	磯子
	磯子・岡村地区	磯子
2018～2020 年度	山下公園通り地区	中
	洋光台五街区周辺地区	磯子
	上菅田地区	保土ヶ谷
	新横浜二丁目地区	港北
	大倉山地区	港北



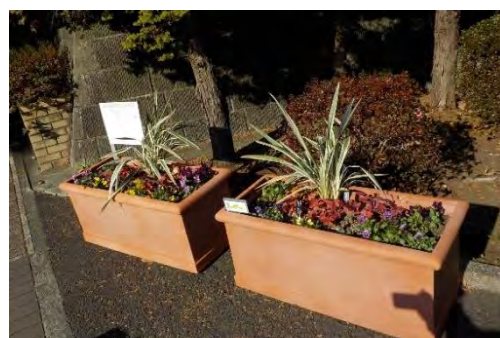
野庭団地地区（港南区）



綱島西地区（港北区）



磯子3丁目地区（磯子区）



緑園都市地区（泉区）

 **活動団体の声**

- ・緑化を通じて、地域に草花に関心を持つ人が増えてきました。
- ・まちに花壇ができたことで、地域の中での多世代交流が活発になりました。

23 地域に根差した緑や花の楽しみづくり

- ・ 緑や花に親しむ市民の盛り上がりを醸成していくため、地域をはじめとする多様な主体と連携した緑や花に関するイベントの開催や、緑や花を育む活動の支援など、地域に根差した各区での取組や公園等での地域の花いっぱいにつながる取組を推進します。

■ 4か年の実績

□進捗状況

	緑や花を身近に感じる 各区の取組	地域の花いっぱいにつながる 取組
2019年度実績	18区で推進	推進
2020年度実績	18区で推進	推進
2021年度実績	18区で推進	推進
2022年度実績	18区で推進	推進
4か年累計(a)	18区で推進	推進
5か年目標(b)	18区で推進	推進
進捗率(a/b)	—	—
評価	—	—

□事業費執行状況

	事業費	うち横浜みどり税
2019年度決算額	39百万円	0百万円
2020年度決算額	46百万円	0百万円
2021年度決算額	51百万円	0百万円
2022年度決算見込額	47百万円	0百万円
4か年累計見込(a)	183百万円	0百万円
5か年計画額(b)	209百万円	0百万円
執行率(a/b)	87.6%	—
評価	◎	—

■ 4か年の評価・検証

- オープンガーデン等の緑や花に関するイベントの開催、駅前での花壇整備や、緑や花を育む活動の支援など、地域に根差した各区での取組や、それを担う人材育成等を推進しました。
- 新型コロナウイルス感染症対策をしながら緑や花に親しむ取組を企画したり、イベントの実施に代わり動画配信を実施するなど、工夫して緑と花の取組を実施しました。
- 令和4年度には、青葉区においても新たにオープンガーデンを実施し、市民・企業・団体などの皆様との連携をさらに拡大・強化しました。
- 緑や花への関心や市民参加の広がりを全市的に展開することで、2027年国際園芸博覧会（GREEN×EXPO 2027）に向けた緑や花による機運醸成につながっています。
- 公園愛護会を対象とした花壇講習会を実施し、球根・花苗等を公園愛護会に毎年配布しました。各区の公園花壇に植えていただき、地域の花いっぱい、つなげました。

4か年の総合評価

A

■ 4か年の実績詳細

□ 緑や花を身近に感じる各区の取組

オープンガーデンなどの緑や花に関するイベントの開催、駅前での花壇整備や、緑や花を育む活動の支援など、地域に根差した各区での取組を推進しました。

区名	実施内容
鶴見	・JR鶴見線で巡る 緑のスタンプラリー（2019～2022年度）
神奈川	・東横フラワー緑道における花壇整備 ・神奈川区総合庁舎のシンボル花壇設置
西	・回遊性向上を目的としたガーデンベアフォトスポット及びハンギングバスケット設置 ・バラ育成講座の開催
中	・市民参加型イベント等における「ガーデンネックレス横浜」PR ・「ガーデンネックレス横浜」に関連したウォーキングツアー実施
南	・公園愛護会活動周知看板の設置及び花苗の支援 ・区内公園での桜の更新
港南	・地域住民とのひまわり栽培 ・区内公園における花壇整備
保土ヶ谷	・星川中央公園での「ほどがや花フェスタ」の実施 ・区庁舎における花時計設置及び植栽の実施
旭	・区民利用施設における花壇整備 ・区内公園の花壇整備及び花苗支援
磯子	・はまぎんこども宇宙科学館におけるガーデンベア立体花壇の設置 ・区の花PRを目的とした区内の公園愛護会及び指定管理者への種配布
金沢	・区内公園における区の花「ボタン」の植栽 ・谷津坂第一公園におけるプロのガーデナーによる維持管理講習会の実施
港北	・オープンガーデンの開催支援 ・大倉山観梅会の開催支援
緑	・区内公園愛護会への花苗支援 ・寄せ植え講座の実施
青葉	・地元NPOと連携した花と緑の風土づくり・普及啓発（フラワーダイアログ）に関するプログラムの実施（2019～2021年度） ・オープンガーデンの開催
都筑	・センター南すきっぷ広場及びセンター北駅前広場における花壇整備 ・江川せせらぎ緑道における花壇の植栽
戸塚	・阿久和川周辺における土壌整備、シバザクラ植栽 ・区内鉄道駅における花植え等を行う団体への支援
栄	・オープンガーデンの開催支援 ・いたち川の桜ライトアップ
泉	・区民利用施設等における花壇整備 ・区庁舎前花壇の植栽
瀬谷	・オープンガーデンの実施 ・国際園芸博覧会に向けた機運醸成を目的としたイベント実施及び花壇設置

※各区の2019～2022年度の取組を2例ずつ記載しています。



【区内保育園でのひまわり栽培】（港南区）



【下和泉公園での花壇整備】（泉区）



【藤の花再生プロジェクト】（西区）



【オープンガーデン】（青葉区）

 **参加者の声**

- 個人のお宅での会話など、とても楽しかったです。
- 楽しいひと時でした。初対面の人たちとも気軽に話ができ、良い催しだと思います。
- 他の参加者の方々との交流もでき、美しいガーデニングを1年を通して感じられたらと思います。
- 4日間家を開放し、ピンポンで呼んでもらった。たくさん人が来てくれて来場者さんと庭づくりの話が弾んだいい時間だった。近所の方達との対話も生まれた。

□地域の花いっぱいにつながる取組

公園愛護会を対象に山下公園や各区での花壇講習会などの開催、花苗の配布などを実施しました。

年度	実施内容
2019	山下公園で公園愛護会を対象とした球根ミックス花壇講座の実施（4月、5月、10月）
	各区公園愛護会とともに花いっぱい推進の実施（4公園）
	各区の公園愛護会への花苗の配布（224公園 約18,000鉢）
	各区の公園愛護会への花の種（マリーゴールド、ひまわり、百日草）の配布
2020	山下公園で公園愛護会を対象とした球根ミックス花壇講座の実施（7月）
	公園愛護会を対象とした「球根ミックス花壇の作り方」動画作成（12月）
	各区の公園愛護会への球根の配布（957公園 107,000球）
	各区の公園愛護会への多年草の配布（243公園 4,000鉢）
	各区の公園愛護会への花の種（マリーゴールド、百日草、ミニヒマワリ等）の配布
2021	山下公園で公園愛護会を対象とした球根ミックス花壇講座の実施（11月）
	各区の公園で花壇づくり講習会の実施（7月栄区・鶴見区、11月港北区）
	各区の公園愛護会への球根の配布（1,148公園 256,000球）
	各区の公園愛護会への多年草の配布（387公園 9,500鉢）
	各区の公園愛護会への堆肥の配布（12,000kg）
2022	山下公園で公園愛護会を対象とした球根ミックス花壇講座の実施（4月、10月）
	各区の公園で花壇づくり講習会の実施（8月栄区、10月磯子区、11月金沢区）
	各区への球根の配布（1,141公園 272,000球）
	各区への多年草の配布（355公園 7,600鉢）
	各区への堆肥の配布（12,100kg）



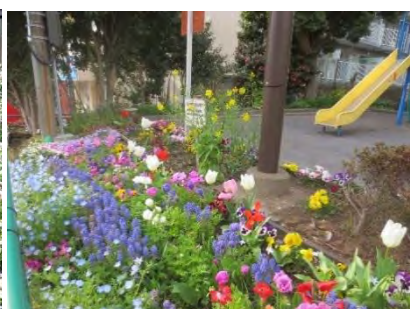
【球根ミックス花壇講座】山下公園（中区） 左：球根の植付け講習 右：開花の観察と手入れ講習



【各区の公園での花壇づくり講習会】
左：笠間町公園（栄区） 中：汐見台二丁目公園（磯子区） 右：能見台中央公園（金沢区）



【球根の配布】 左：あさもや公園（栄区） 右：菅田廻三戸公園（神奈川区）



【花苗の配布】 左：南太田公園（南区） 中：本宿町第一公園（旭区） 右：丸山中公園（磯子区）



公園愛護会の声

- 皆で作業をするのが楽しく、花壇に植えた植物の成長も嬉しいです。生活に楽しみが増えました。
- 自分が散歩しているときに花壇を見たり、近所の人とも花壇の話をしたりしています。SNSで世話している花壇について言及されていると嬉しいです。
- 通りがかりの人が喜んでくれ、きれいな花をありがとうと声をかけてくれ、励みになりました。手をかけた分だけ、きれいに咲いてくれるのでとてもやりがいがあります。
- 自分が植えた球根がどのように成長するのかがとても楽しみで、公園に足を運ぶ機会が増えました。
- 花壇の手入れをするようになってから、ごみのポイ捨ても減るようになりました。

24 人生記念樹の配布

- 多くの市民の皆様に緑をつくり、育むきっかけとなるよう、出生や入学、住宅の新築や購入などの人生の節目の記念に、希望した市民に、苗木を無料で配布します。

■ 4か年の実績

□ 進捗状況

	人生記念樹の配布
2019年度実績	6,403本
2020年度実績	6,284本
2021年度実績	7,423本
2022年度実績	6,912本
4か年累計(a)	27,022本
5か年目標(b)	40,000本
進捗率(a/b)	67.6%
評価	○

□ 事業費執行状況

	事業費	うち横浜みどり税
2019年度決算額	6百万円	2百万円
2020年度決算額	8百万円	3百万円
2021年度決算額	9百万円	3百万円
2022年度決算見込額	7百万円	5百万円
4か年累計見込(a)	30百万円	13百万円
5か年計画額(b)	58百万円	15百万円
執行率(a/b)	51.7%	86.7%
評価	○	◎

■ 4か年の評価・検証

- 横浜市内産苗木を活用することで、みどりアップ計画の一環である地産地消にも取り組みました。
- 問合せの多い内容等について、ホームページに随時反映するなど利用しやすい制度となるよう改善に取り組みました。
- 小学校入学説明会での周知や、市内郵便局へのチラシ配架を行いました。
- より多くの方に苗木を育てていただけるよう、次期計画の樹種見直しを検討していきます。

4か年の総合評価

B

■ 4か年の実績詳細

□ 人生記念樹の配布

民有地緑化の普及・啓発を図るため、人生の節目の記念に、希望した苗木を無料で配布しました。

区名	配布本数	区名	配布本数	区名	配布本数
鶴見	1,413	保土ケ谷	1,243	青葉	3,564
神奈川	1,212	旭	1,805	都筑	2,027
西	789	磯子	1,293	戸塚	2,304
中	729	金沢	1,905	栄	866
南	814	港北	2,089	泉	993
港南	1,626	緑	1,309	瀬谷	1,041
				計	27,022



【人生記念樹配布】(南区)



【人生記念樹配布】(戸塚区)

利用者の声

- ・もらった木の開花を毎年楽しみにしています。木の成長とともに記念を思い出します。
- ・果物のように食べられるものや、低木・花のようにマンションでも育てられるものを追加してほしいです。

25 保育園・幼稚園・小中学校での緑の創出・育成

- 子どもを育む空間である保育園、幼稚園、小中学校において、園庭・校庭の芝生化や生き物とふれあい学べるビオトープの整備、花壇づくり、屋上や壁面の緑化など、多様な緑を創出する取組を推進します。
また、創出した緑を良好に維持するとともに、芝生やビオトープに関する技術支援を行います。

■ 4か年の実績

□進捗状況

	緑の創出	緑の維持管理
2019年度実績	43か所	115か所
2020年度実績	41か所	120か所
2021年度実績	47か所	102か所
2022年度実績	37か所	130か所
4か年累計(a)	168か所	467か所
5か年目標(b)	100か所	推進
進捗率(a/b)	168.0%	—
評価	◎	—

□事業費執行状況

	事業費	うち横浜みどり税
2019年度決算額	62百万円	7百万円
2020年度決算額	59百万円	3百万円
2021年度決算額	48百万円	6百万円
2022年度決算見込額	48百万円	5百万円
4か年累計見込(a)	217百万円	22百万円
5か年計画額(b)	414百万円	67百万円
執行率(a/b)	52.4%	32.8%
評価	○	△

■ 4か年の評価・検証

- 保育園、幼稚園、小中学校において、PRにより制度の周知が進んだことから、4か年で5か年目標値を達成し、多様な緑を創出しました。
- 子どもたちが日常的に利用している芝生やビオトープを、常に良好な状態で維持していくためには、施設管理者へのフォローアップが重要であり、今後も継続した技術支援が必要です。

4か年の総合評価

A

■ 4か年の実績詳細

□緑の創出

校庭・園庭の芝生化、ビオトープや花壇、樹木による植栽など、子どもたちが多くの時間を過ごす場所で、施設ごとのニーズに合わせた多様な緑が増えました。

小学校等からのビオトープの整備に関するアドバイスを求める声に応じるため、専門家の派遣も実施しました。

区名	か所数	区名	か所数
鶴見	10	金沢	8
神奈川	9	港北	10
西	5	緑	9
中	5	青葉	19
南	17	都筑	25
港南	4	戸塚	3
保土ヶ谷	11	栄	8
旭	8	泉	5
磯子	9	瀬谷	3
		計	168



【園庭の芝生化】（旭区）



【小学校へのビオトープアドバイザー派遣】（鶴見区）

□緑の維持管理

みどりアップ計画に基づき緑化した芝生や植栽の維持管理について、費用の一部を支援するとともに、芝生の維持管理についての技術講習会や訪問指導、ビオトープの維持管理の訪問指導を実施しました。

区名	か所数	区名	か所数
鶴見	9	金沢	10
神奈川	88	港北	7
西	10	緑	6
中	12	青葉	21
南	66	都筑	20
港南	16	戸塚	10
保土ヶ谷	8	栄	35
旭	67	泉	51
磯子	12	瀬谷	19
		計	467



【小学校での緑の維持管理】（戸塚区）



【校庭・園庭芝生の育て方講座】
（保土ヶ谷区）

利用者の声

- ・園庭芝生の管理方法に悩んでいたのですが、専門家からのアドバイスで不安がなくなりました。
- ・学校にビオトープを導入することで、生き物に興味・関心を持つ生徒が増えてきました。

26 都心臨海部等の緑花による魅力ある空間づくり

- みなとみらい21地区などの都心臨海部や、第33回全国都市緑化よこはまフェアの開催により多くの人で賑わった里山ガーデン（よこはま動物園ズーラシア隣接）など、多くの市民が訪れる場所で、観光資源となっている公園や港湾緑地、街路樹、文化施設などの公共空間を相互に連携させ、地域や施設の特性に合わせた季節感ある緑花による場づくりを集中的に展開します。また、こども自然公園などの都市公園において、桜などの花木による花の名所づくりを進めます。あわせて、いつ訪れても緑や花で彩られた魅力ある街を目指し、創出した質の高い緑花を良好に育てます。

■ 4か年の実績

□ 進捗状況

	緑花による空間づくりと維持管理
2019年度実績	15か所
2020年度実績	15か所
2021年度実績	14か所
2022年度実績	14か所
4か年累計(a)	58か所
5か年目標(b)	推進
進捗率(a/b)	—
評価	—

□事業費執行状況

	事業費	うち横浜みどり税
2019年度決算額	800百万円	322百万円
2020年度決算額	721百万円	329百万円
2021年度決算額	683百万円	306百万円
2022年度決算見込額	694百万円	317百万円
4か年累計見込(a)	2,898百万円	1,274百万円
5か年計画額(b)	2,712百万円	1,119百万円
執行率(a/b)	106.9%	113.9%
評価	◎	◎

■4か年の評価・検証

- 都市公園や港湾緑地、街路樹などにおいて緑のネットワーク形成が進み、季節の花による空間演出が行われ、都心臨海部の季節の景観として定着しました。
- 山下公園や港の見える丘公園などでは、バラ園や美しい花壇が整備され、いつ訪れても緑や花が楽しめる質の高い管理が行われています。
- こども自然公園、横浜市児童遊園地などで桜などの花木による花の名所づくりが進み、里山ガーデンでは緑や花で会場を彩りました。
- 多くの市民や観光客が訪れるエリアである都心臨海部などにおいて、質の高い維持管理を進めながら、緑や花により魅力を高めることが重要です。

4か年の総合評価

A

■4か年の実績詳細

□緑花による空間づくりと維持管理

4か年で、みなとみらい21地区から山下地区を中心とした都心臨海部や、こども自然公園、横浜市児童遊園地、里山ガーデン、新横浜駅周辺などで空間づくりと維持管理を進めました。

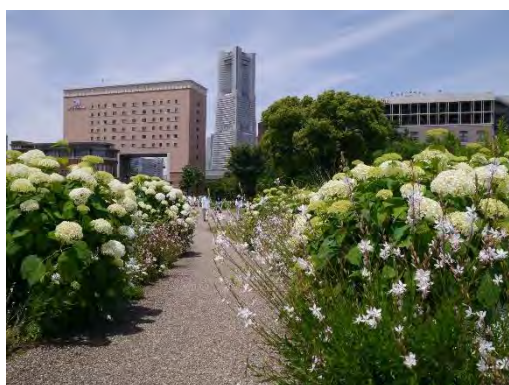
区名	施設名
西	グランモール公園、キングモール橋
中	港の見える丘公園、山下公園、山手イタリア山庭園、横浜公園、日本大通り、山下公園通り、新港中央広場、横浜ハンマーヘッド周辺、元町公園
港南	久良岐公園
保土ヶ谷	横浜市児童遊園地
旭	こども自然公園、里山ガーデン
港北	新横浜駅周辺



こども自然公園（旭区）



新横浜駅周辺（港北区）



新港中央広場（中区）



元町公園（中区）



山下公園（中区）



日本大通り（中区）

効果的な広報の展開

27 計画の周知や実績報告

- ・ 広報よこはま等の広報紙への記事掲載
- ・ 実績リーフレット作成、自治会・町内会への説明
- ・ 広告、動画等の各種メディアを活用したPR
- ・ ホームページの充実
- ・ メールマガジンやソーシャルメディア等による情報発信
- ・ 緑に関するイベントでのPR
- ・ 取組に基づいて実施したことを示す現地掲示（プレート）

■ 4か年の実績

□進捗状況

	計画の周知や実績報告
2019年度実績	推進
2020年度実績	推進
2021年度実績	推進
2022年度実績	推進
4か年累計(a)	推進
5か年目標(b)	推進
進捗率(a/b)	—
評価	—

□事業費執行状況

	事業費	うち横浜みどり税
2019年度決算額	14百万円	0百万円
2020年度決算額	11百万円	0百万円
2021年度決算額	17百万円	0百万円
2022年度決算見込額	14百万円	0百万円
4か年累計見込(a)	57百万円	0百万円
5か年計画額(b)	80百万円	0百万円
執行率(a/b)	71.3%	—
評価	○	—

■4か年の評価・検証

- 広報よこはま全市版1面への記事掲載、実績リーフレットの自治会・町内会への配布など、広報効果の高い取組を毎年度実施し、取組及び事業実績の周知を着実に進めました。
- 財政局や各区役所と連携し、市連会・区連会での実績説明や、庁舎内のデジタルサイネージでの動画放映、イベントへのブース出展等を行い、横浜みどり税及び横浜みどりアップ計画の周知を進めました。
- マスコットキャラクター「横浜みどりアップ葉っぱー」を活用し、より多くの方の目に留まるよう公園花壇などへの現地表示や着ぐるみと並んでの写真撮影会などを行いました。また、視覚的に横浜の緑の魅力や横浜みどりアップ計画の取組が伝わるよう、SNSや交通広告、市役所アトリウム等での映像PRを実施しました。
- 2019～2022年度に実施した「横浜みどりアップ計画認知度調査」の結果、計画を知っている人の割合は40%前後、横浜みどり税を知っている割合は50%前後でした。
- 令和4年5月から環境創造局の公式X(旧Twitter)アカウント「横浜 GO GREEN」にてマスコットキャラクター「横浜みどりアップ葉っぱー」が、みどりアップのイベントや取組を紹介する投稿を開始し、355件の投稿をしたほか、横浜市の公式LINEアカウントでのメッセージの投稿やイベント会場でのフォローキャンペーンを行い、SNSによる発信やPRの強化を行いました。
- 引き続き効果の高い広報よこはま等の広報紙、自治会・町内会への配布での情報提供を行うとともにSNSや映像を用いた交通広告など手法・媒体を工夫し、積極的に広報していく必要があります。
- 今後は、取組への理解が広がるとともに参加することにもつなげられるよう、効果的な広報手法による発信の強化がより必要と考えています。

4か年の総合評価 **B**

■ 4か年の実績詳細

□ 広報よこはま等の広報紙への記事掲載

市民の皆様へ、横浜みどりアップ計画の取組や事業実績を広く広報するため、広報よこはまをはじめとする広報紙に記事掲載を行いました。

- ・ 広報よこはま 市版：4か年 12回
- ・ 広報よこはま 区版：4か年 31回
- ・ その他広報紙：4か年 12回



上：広報よこはま市版
(2022年10月号)
右：広報よこはま市版
(2022年10月号)
下：広報よこはま戸塚区版
(2023年2月号)



人生記念樹を育ててみませんか?

横浜みどりアップ計画

市では、出生・成人・結婚などの人生の思い出となる機会に、記念の苗木を差し上げています。ぜひ苗木鉢や庭に植えて、育ててください。

申込から受取まで

- ①専用往復はがき(※)か電子申請・届出システムで申込
- ②配布実施日についてご連絡
- ③年に2回、区役所などでお渡し
- ④自宅で大切に育てましょう

※はがきは区役所9階93番窓口
広報相談係で配布

苗木の種類

※花の色は写真と異なることがあります。

低木	アジサイ	サツキ	ドウダンツツジ	モッコウバラ	ハコネウツギ
・鉢植えで育てられます。 ・枝が増えたら剪定します。					
中木	キンモクセイ	レッドロビン	ハナミズキ		
・高さ3~5m程度に成長します。					
高木	ヤマザクラ				
・広い庭向けです。 ・高さ10~15m程度に成長します。					

ポイント キンモクセイ、レッドロビンは、毎年剪定することで、高さを抑えることができます。

詳細はこちら▶

環境創造局みどりアップ推進課 (☎671-3447 ㊟224-6627)

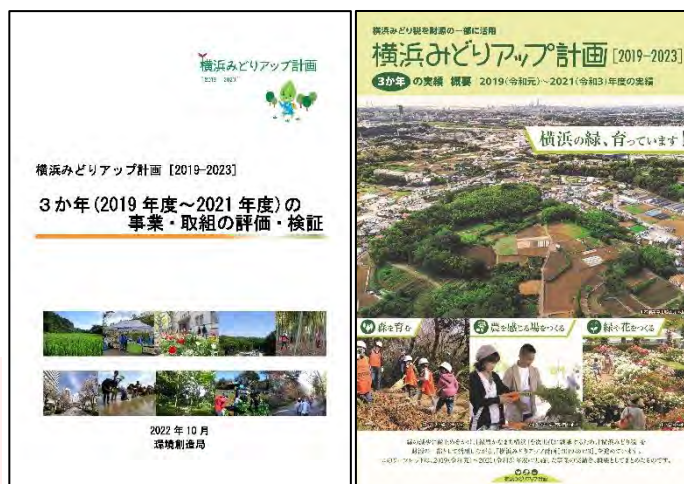
□実績リーフレット作成、自治会・町内会への説明

市民の皆様に、横浜みどりアップ計画の事業の実績を分かりやすく伝えるため、事業報告書及び実績リーフレットを毎年度作成し、自治会・町内会への説明と、公共施設等への配架を行いました。

<4 か年実施>

- ・市連会・区連会への実績説明
- ・事業報告書の公共施設での配架
- ・実績リーフレットの自治会・町内会、駅PRボックス等での配布

左：横浜みどりアップ計画3か年の事業・取組の評価・検証
右：横浜みどりアップ計画3か年の実績概要リーフレット



□広告、動画等の各種メディアを活用したPR

視覚的に横浜みどりアップ計画をアピールするため、プロモーション動画や横浜みどりアップ葉っぱーが計画を解説するアニメーションを作成し、市役所や交通広告での放映、YouTubeでの動画配信を行いました。

<動画関連>

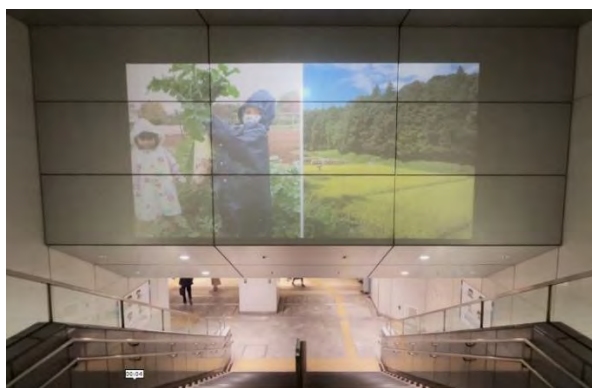
- ・横浜市役所アトリウム及び市役所デジタルサイネージ動画放映：3 か年実施
- ・18 区役所で動画放映：4 か年実施
- ・交通広告での放映：市営地下鉄ブルーライン・グリーンライン：3 か年実施
JR 横浜線、市営バス 3 営業所：2 か年実施
- ・YouTube 動画配信：3 か年実施

<ポスター等>

- ・地域情報 web への記事掲載：2 か年実施
- ・市営バス・公用車等への PR 用ステッカーの貼付掲載：4 か年実施
- ・電車内ポスター掲出（京浜急行電鉄、東急東横線、相鉄線、みなとみらい線）：1 か年実施
- ・日産スタジアムへの PR 看板の掲出：4 か年実施
- ・横断幕の掲出（動物園、水再生センター、ウェルカムセンター等に掲出）：4 か年実施等



横浜みどりアップ葉っぱが解説する計画紹介アニメーション



新横浜駅デジタルサイネージでの動画放映



交通広告（JR 横浜線車内動画放映）

□ホームページの充実

横浜みどりアップ計画の取組を体感してもらえよう、動画ページの充実や市民の皆様が参加できるイベントや体験スポット、制度を紹介するページを更新し、分かりやすい情報発信に努めました。

また、ホームページへ誘導するため、二次元バーコード入りのカードやリーフレットを作成し、イベント等で広く配布を行いました。

- 横浜市ホームページの更新
(実績報告書、計画関連動画の掲載等)



イベント等で配布した二次元バーコード入りカード

□メールマガジンやソーシャルメディア等による情報発信

横浜みどりアップ計画メールマガジンの発行や、X（旧 Twitter）を活用し、幅広く情報発信を行いました。

- 横浜みどりアップ計画メールマガジンの発行（毎月 1 日の発行）
- X（旧 Twitter）を活用した広報（「#みんなのみどりアップ」を使用した投稿延べ 355 回）
- 市公式 LINE アカウントを活用した広報
- イベント会場での X（旧 Twitter）フォローキャンペーンの実施



2022 年 12 月 X（旧 Twitter）



2023 年 3 月 X（旧 Twitter）

横浜市では、緑豊かな環境を将来に残すために、**「横浜みどりアップ計画」**をすすめています。

動画も見てね！

横浜みどりアップ計画

緑は、暑さを和らげたり、生き物のすみかになります！

横浜みどりアップ計画

紹介動画はこちら >

市公式 LINE アカウントを活用した広報

口緑に関するイベントでのPR

農と緑のふれあい祭りや里山ガーデンフェスタ等、市民向けイベントにブースを出展し、横浜みどりアップ計画についてPR活動を行いました。（4か年 15回）



【秋の里山ガーデン】苗木配付時のPRの様子（旭区）



【農と緑のふれあい祭り】イベントでのPRの様子（保土ケ谷区）



参加者の声

- ・ 緑のある雰囲気の中でとても気持ちよかった。
- ・ 横浜では意外といろいろな野菜が作られていることを知りました。
- ・ 税金をこういうことにたくさん使ってほしい。
- ・ さらに広く広報したほうがよい。

口取組に基づいて実施したことを示す現地掲示（プレート）

多くの市民の方が訪れる公園花壇や里山ガーデンなどの取組実施箇所での現地表示看板の設置や、工事看板へのロゴマーク等の表示、市民の森・ふれあいの樹林の案内板へのロゴマークステッカーの掲示を行いました。

- ・ 取組実施箇所での現地表示看板の設置
（公園愛護会の取組と連携した約 1,300 枚の公園花壇現地表示プレートの設置等）
- ・ 工事看板への表示
- ・ 市民の森・ふれあいの樹林の案内板へのロゴマークステッカーの掲示等



花壇での現地表示

□横浜みどり税の広報

市民の皆様にご負担いただいている横浜みどり税について、実績説明や PR チラシの配布等を行いました。

- ・「広報よこはま」に記事掲載
- ・市連会・区連会での説明
- ・個人住民税納税通知書、税額決定通知書に案内掲載
- ・固定資産税納税通知書発送用封筒への案内掲載
- ・法人市民税申告書送付時にチラシ同封
- ・横浜市ホームページへの案内掲載
- ・交通広告（市営地下鉄 LCD(テロップ) 広告・市営バス車内モニター）に案内掲載
- ・横浜市へ転入された方へのチラシ配布
- ・税務協力団体(法人会・青色申告会・間税会・納税貯蓄組合等)の会報誌へ記事掲載
- ・各区区民まつり等イベントでのブース出展及びチラシ配布
- ・市庁舎・区庁舎のデジタルサイネージ等に案内掲載
- ・冊子「税の知識」に案内掲載
- ・口座振替勧奨チラシに案内掲載
- ・「ひと目で分かる横浜の財政」へ記事掲載
- ・子どもアドベンチャーカレッジ 2022 での説明、チラシ等配布
- ・税関 150 周年記念企画 税関パネル展でのチラシ配架

□ロゴ・マスコットキャラクターを活用した PR

<ロゴマークを活用した広報>

2019 年度から横浜みどりアップ計画の 3 期目がスタートするのに合わせ、計画のロゴマークを更新し、幅広く広報に活用しました。



<マスコットキャラクターを活用した広報>

市民の皆様にも、より横浜みどりアップに親しんでいただくため、2015 年度に作成したマスコットキャラクター「横浜みどりアップ葉っぱー」をイベント等で活用し、より幅広い層に横浜みどりアップ計画を PR しました。

また、SNS や現地表示板、地域情報誌等にキャラクターのイラストを使用し、より市民の目に留まる工夫をしました。



横浜みどりアップ 葉っぱー

□「横浜みどりアップ計画認知度調査」の実施

実施した広報手法を検証し、より効果的に広報を展開していくため、「横浜みどりアップ計画」や「横浜みどり税」の広報に関する調査を毎年実施しています。

(1) 調査の概要 (2019~2022 年度の4年間)

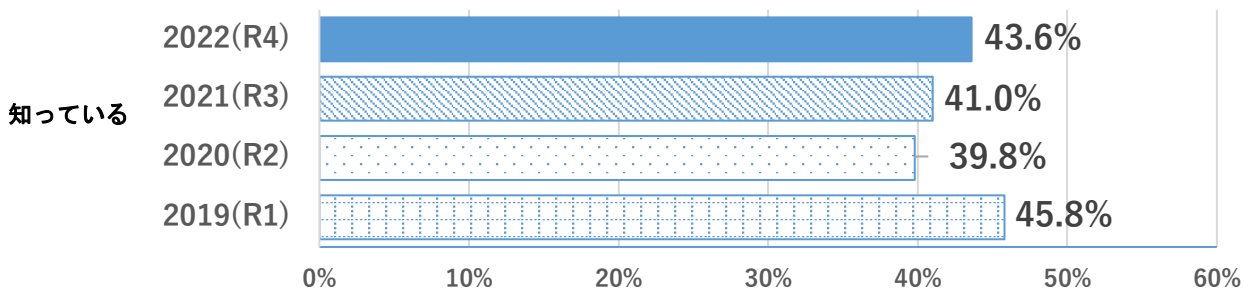
	2022(R4)年度	2021(R3)年度	2020(R2)年度	2019(R1)年度
調査対象	市民 5,000 人(住民基本台帳から無作為に抽出した満 18 歳以上の市民)	市民 5,000 人 (住民基本台帳から無作為に抽出した満 20 歳以上の市民)		
調査方法	郵送調査・インターネット回答方式併用(調査票を郵送、回答は郵送またはインターネット)	郵送配布、郵送回収		
実施期間	2022 年 6 月 13 日~6 月 28 日	2021 年 6 月 14 日~7 月 5 日	2020 年 10 月 21 日~11 月 11 日	2019 年 10 月 21 日~11 月 11 日
回収数	1,785 票 (回収率 35.7%)	1,564 票 (回収率 31.3%)	1,647 票 (回収率 32.9%)	1,504 票 (回収率 30.1%)

(2) 主な調査結果 (2019~2022 年度の4年間)

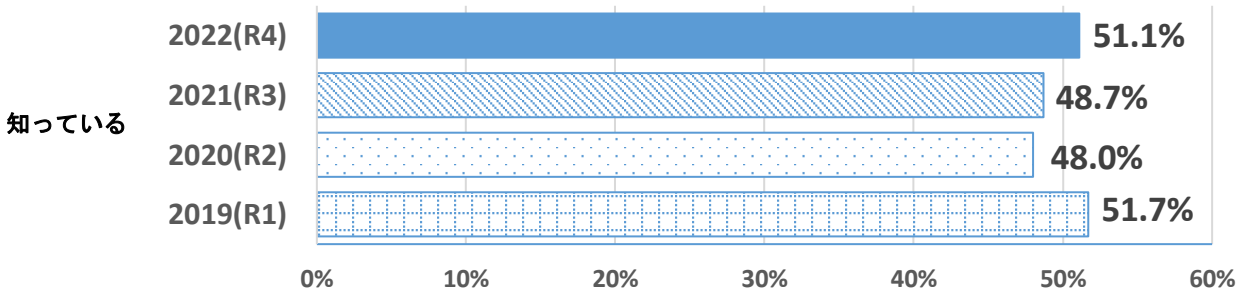
(ア)あなたは「横浜みどりアップ計画」「横浜みどり税」をご存知ですか？

→計画を知っている人の割合は約 40%、税を知っている人の割合は 50%前後とほぼ横ばい。

あなたは「横浜みどりアップ計画」をご存知ですか？



あなたは「横浜みどり税」をご存知ですか？

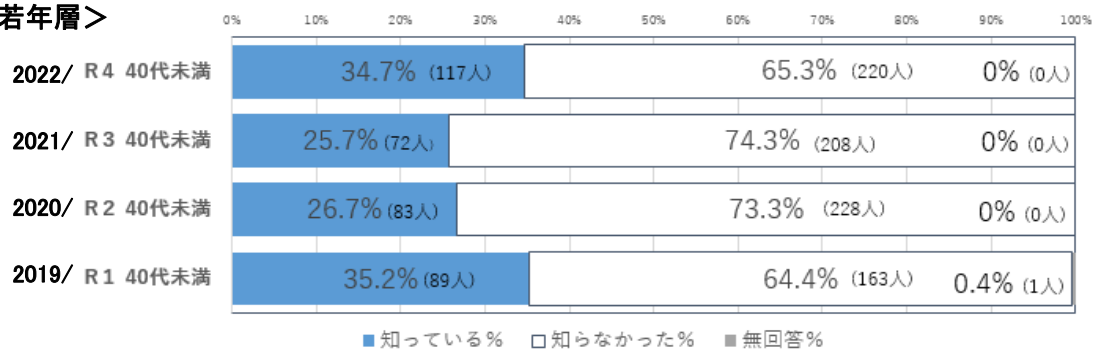


(イ)年代別の傾向

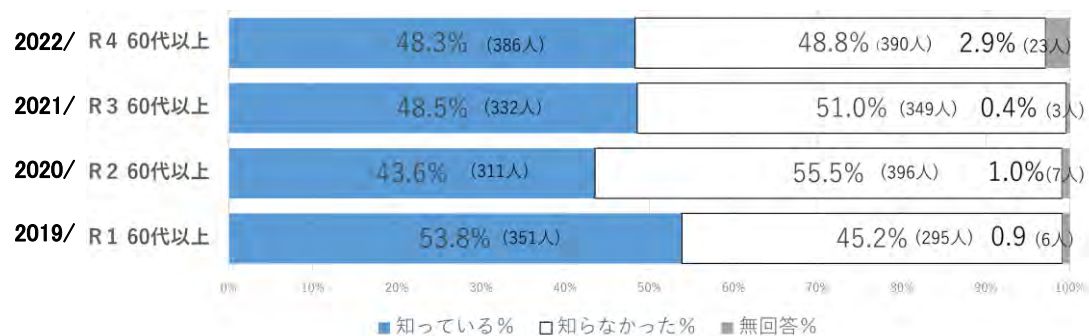
→計画を知っている人の割合※は、高年層で高く、若年層で低い傾向が続いている。

(※「取組内容を知っている」「計画があることを知っている」「名称を見たことや聞いたことがある」と回答した人の割合)

<若年層>



<高年層>



4か年の事業・取組の実績一覧（実績累計）

事業・取組／取組内容		2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度	2023 年度	累計 (4か年)	5か年 目標
計画の柱1 市民とともに次世代につなぐ森を育む								
施策1 樹林地の確実な保全の推進								
事業① 緑地保全制度による指定の拡大・市による買取り								
1 緑地保全制度による指定の拡大・市による買取り								
緑地保全制度による新規指定(ha)		47.2	28.9	31.9	36.8	—	144.8	300
市による買取り(ha)		19.2	18.9	19.6	9.3	—	67.0	113
保全した樹林地の整備(か所)		64	77	86	85	—	312	推進
施策2 良好な森を育成する取組の推進								
事業② 良好な森の育成								
2 森の多様な機能に着目した森づくりの推進								
森の維持管理	保安全管理計画の策定(か所)	7	3	4	0	—	14	推進
	保安全管理計画や森づくりガイドラインを活用した維持管理(か所)	175	200	201	211	—	787	
3 指定した樹林地における維持管理の支援								
維持管理の助成(件)		122	162	130	111	—	525	500
事業③ 森を育む人材の育成								
4 森づくりを担う人材の育成								
森づくりを担う人材の育成	研修の実施(回)	17	10	11	13	—	51	推進
	体験会の開催(回)	7	7	10	10	—	34	
広報誌等での森づくり活動に関する情報発信(回)		4	4	4	4	—	16	20
5 森づくり活動団体への支援								
森づくり活動団体への支援(団体)		30	33	36	33	—	132	150
森づくり活動団体への専門家派遣(回)		4	4	4	4	—	16	20
チッパーの貸出し(か所)		11	11	6	8	—	36	推進
施策3 森と市民とをつなげる取組の推進								
事業④ 市民が森に関わるきっかけづくり								
6 森の楽しみづくり								
市内大学や関係団体などと連携したイベントや、区主催による地域の森でのイベントの実施(回)		75	34	42	98	—	249	180
7 森に関する情報発信								
ウェルカムセンター周辺の緑を活用したイベント等(回)		8	8	10	11	—	37	50

累計について

累計(4か年)は、各年度の実績を合計した数値としています。

※「8 水田の保全」の水田保全面積は、2022年度の実績を累計としています。

「10 農景観を良好に維持する活動の支援」の集団農地維持は、2022年度の実績を累計としています。

「18 街路樹による良好な景観の創出・育成」の並木の再生は、整備完了または整備中の路線数を累計としています。

「19 シンボリックな緑の創出・育成」の公有地化によるシンボリックな緑の創出は、整備完了または整備中のか所数を累計としています。

事業・取組／取組内容	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度	2023 年度	累計 (4か年)	5か年 目標	
計画の柱2 市民が身近に農を感じる場をつくる								
施策1 農に親しむ取組の推進								
事業① 良好な農景観の保全								
8 水田の保全								
水田保全面積(ha)	113.5	113.3	112.2	111.9	—	111.9	125	
水源・水路の確保(か所)	2	3	2	3	—	10	10	
9 特定農業用施設保全契約の締結								
特定農業用施設保全契約の保全(件)	31	27	17	34	—	109	制度運用	
10 農景観を良好に維持する活動の支援								
まとまりのある農地を良好に維持する団体の活動への支援	集団農地維持(ha)	641.7	643.9	679.0	674.0	—	674.0	730
	農地縁辺部への植栽(件)	15	15	18	18	—	66	55
	井戸の改修(地区)	2	4	2	2	—	10	5
	土砂流出防止対策(件)	4	5	2	2	—	13	15
周辺環境に配慮した活動への支援	牧草等による環境対策(ha)	4.25	4.36	5.87	4.83	—	19.31	20
	たい肥化設備等の支援(件)	3	3	2	0	—	8	25
11 多様な主体による農地の利用促進								
遊休農地の復元支援(ha)	0.84	0.28	0.26	0.44	—	1.82	1.5	
事業② 農とふれあう場づくり								
12 様々な市民ニーズに合わせた農園の開設								
様々な市民ニーズに合わせた農園の開設	収穫体験農園(ha)	2.06	2.87	3.99	3.35	—	17.50	22.80
	市民農園(ha)	1.32	1.11	0.60	1.65	—		
	農園付公園(ha)	0.55	0	0	0	—		
13 市民が農を楽しむ支援する取組の推進								
横浜ふるさと村、恵みの里等で農体験教室などの実施(回)	91	50	86	94	—	321	450	
市民農業大学講座の開催(回)	20	0	20	35	—	75	100	
農体験講座の開催(回)	6	6	5	6	—	23	30	
施策2 地産地消の推進								
事業③ 身近に農を感じる地産地消の推進								
14 地産地消にふれる機会の拡大								
直売所・青空市等の支援(件)	43	41	49	63	—	196	285	
緑化用苗木の配布(本)	25,727	25,000	22,505	25,574	—	98,806	125,000	
情報発信・PR活動:情報誌などの発行(回)	6	6	6	6	—	24	30	
事業④ 市民や企業と連携した地産地消の展開								
15 地産地消を広げる人材の育成								
はまふうどコンシェルジュの活動支援等(件)	28	27	32	36	—	123	150	
地産地消ネットワーク交流会の開催(回)	1	1	1	1	—	4	5	
16 市民や企業等との連携								
市民や企業等との連携(件)	13	15	13	15	—	56	50	
ビジネス創出支援(件)	—	3	5	6	—	14	16	
学校給食での市内産農産物の一斉供給(校)	327	316	311	316	—	1,270	推進	
料理コンクールの開催(回)	1	1	1	1	—	4	5	

3 事業・取組の実績と評価・検証

事業・取組／取組内容	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度	2023 年度	累計 (4か年)	5か年 目標
計画の柱3 市民が実感できる緑や花をつくる							
施策1 市民が実感できる緑をつくり、育む取組の推進							
事業① まちなかでの緑の創出・育成							
17 公共施設・公有地での緑の創出・育成							
緑の創出(か所)	4	12	5	13	—	34	36
緑の維持管理(か所)	63	50	47	44	—	204	推進
18 街路樹による良好な景観の創出・育成							
並木の再生(路線)	8	6	4	3	—	9	10
空き樹の補植 高木(本)・低木(本)	0・ 889	180・ 1,080	29・ 788	23・ 1,369	—	232・ 4,126	推進
良好な維持管理(本)	18,428	17,710	16,993	15,545	—	68,676	18区で推進
19 シンボリックな緑の創出・育成							
公有地化によるシンボリックな緑の創出・管理 創出(か所)・管理(か所)	2・2	1・2	1・2	2・2	—	3・8	推進
公開性のある緑空間の創出支援(か所)	1	2	1	2	—	6	推進
20 建築物緑化保全契約の締結							
建築物緑化保全契約の締結(件)	35	15	2	7	—	59	制度運用
21 名木古木の保存							
新規指定(本)・維持管理の助成(本)	27・40	28・72	11・82	1・74	—	67・268	推進
施策2 緑や花に親しむ取組の推進							
事業② 市民や企業と連携した緑のまちづくり							
22 地域緑のまちづくり							
地域緑のまちづくり(地区)	4	4	7	5	—	20	30
23 地域に根差した緑や花の楽しみづくり							
緑や花を身近に感じる各区の取組	18区で推進	18区で推進	18区で推進	18区で推進	—	18区で推進	18区で推進
地域の花いっぱいにつながる取組	推進	推進	推進	推進	—	推進	推進
24 人生記念樹の配布							
人生記念樹の配布(本)	6,403	6,284	7,423	6,912	—	27,022	40,000
事業③ 子どもを育む空間での緑の創出・育成							
25 保育園・幼稚園・小中学校での緑の創出・育成							
緑の創出(か所)	43	41	47	37	—	168	100
緑の維持管理(か所)	115	120	102	130	—	467	推進
事業④ 緑や花による魅力・賑わいの創出・育成							
26 都心臨海部等の緑花による魅力ある空間づくり							
都心臨海部等の緑花による魅力ある空間づくり (か所)	15	15	14	14	—	58	推進
効果的な広報の展開							
事業① 市民の理解を広げる広報の展開							
27 計画の周知や実績報告							
計画の周知や実績報告	推進	推進	推進	推進	—	推進	推進

4か年の事業・取組の実績一覧（事業費累計）

事業費の欄の見方

上段:事業費
下段:うちみどり税

単位:百万円

事業・取組／取組内容	2019年度 決算額	2020年度 決算額	2021年度 決算額	2022年度 決算見込額	2023年度	累計 (4か年)	5か年 事業費
計画の柱1 市民とともに次世代につなぐ森を育む							
施策1 樹林地の確実な保全の推進							
事業① 緑地保全制度による指定の 拡大・市による買取り	7,460 1,767	6,339 1,002	5,683 944	5,363 1,182	—	24,845 4,895	32,682 4,084
1 緑地保全制度による指定の 拡大・市による買取り	7,460 1,767	6,339 1,002	5,683 944	5,363 1,182	—	24,845 4,895	32,682 4,084
施策2 良好な森を育成する取組の推進							
事業② 良好な森の育成	621 482	757 602	698 534	657 520	—	2,733 2,138	3,606 2,843
2 森の多様な機能に着目した 森づくりの推進	524 386	615 460	577 414	565 427	—	2,281 1,687	3,076 2,313
3 指定した樹林地における 維持管理の支援	97 97	142 142	120 120	93 93	—	452 452	530 530
事業③ 森を育む人材の育成	21 20	27 26	14 14	15 15	—	77 74	130 125
4 森づくりを担う人材の育成	10 10	16 16	7 7	8 8	—	41 41	75 75
5 森づくり活動団体への支援	11 10	11 10	7 7	7 7	—	36 34	55 50
施策3 森と市民とをつなげる取組の推進							
事業④ 市民が森に関わるきっかけ づくり	53 15	50 10	45 8	50 14	—	198 47	330 130
6 森の楽しみづくり	12 12	7 7	6 6	11 11	—	36 36	100 100
7 森に関する情報発信	40 2	43 3	39 2	39 3	—	161 10	230 30
計画の柱1 合計	8,154 2,285	7,173 1,639	6,440 1,500	6,085 1,730	—	27,852 7,154	36,747 7,181

3 事業・取組の実績と評価・検証

事業費の欄の見方

上段:事業費
下段:うちみどり税

単位:百万円

事業・取組／取組内容		2019年度 決算額	2020年度 決算額	2021年度 決算額	2022年度 決算見込額	2023年度	累計 (4か年)	5か年 事業費
計画の柱2 市民が身近に農を感じる場をつくる								
施策1 農に親しむ取組の推進								
事業① 良好な農景観の保全		212 73	199 68	206 68	203 59	—	820 268	1,194 454
8	水田の保全	94 31	80 31	94 32	97 32	—	364 127	490 190
9	特定農業用施設保全契約の締結	2 0	1 0	2 0	2 0	—	7 0	10 0
10	農景観を良好に維持する活動の支援	91 16	96 15	89 15	88 11	—	364 57	542 111
11	多様な主体による農地の利用促進	26 26	22 22	21 21	16 16	—	85 84	153 153
事業② 農とふれあう場づくり		303 37	164 56	340 41	82 43	—	888 177	2,513 829
12	様々な市民ニーズに合わせた農園の開設	295 37	150 56	321 41	54 43	—	820 177	2,453 829
13	市民が農を楽しむ支援する取組の推進	8 0	14 0	19 0	28 0	—	69 0	61 0
施策2 地産地消の推進								
事業③ 身近に農を感じる地産地消の推進		42 0	47 0	43 0	49 0	—	181 0	293 0
14	地産地消にふれる機会の拡大	42 0	47 0	43 0	49 0	—	181 0	293 0
事業④ 市民や企業と連携した地産地消の展開		7 0	5 0	8 0	9 0	—	29 0	66 0
15	地産地消を広げる人材の育成	2 0	1 0	2 0	3 0	—	8 0	25 0
16	市民や企業等との連携	5 0	4 0	6 0	6 0	—	21 0	42 0
計画の柱2 合計		563 110	415 124	598 109	343 102	—	1,918 445	4,067 1,283

事業費の欄の見方

上段:事業費
下段:うちみどり税

単位:百万円

事業・取組／取組内容		2019年度 決算額	2020年度 決算額	2021年度 決算額	2022年度 決算見込額	2023年度	累計 (4か年)	5か年 事業費
計画の柱3 市民が実感できる緑や花をつくる								
施策1 市民が実感できる緑をつくり、育む取組の推進								
事業① まちなかでの緑の創出・育成		1,132 672	703 541	660 493	688 565	—	3,182 2,271	5,481 3,481
17	公共施設・公有地での 緑の創出・育成	80 0	91 0	86 0	86 0	—	344 0	690 0
18	街路樹による良好な景 観の創出・育成	477 477	502 502	458 458	436 436	—	1,873 1,873	2,910 2,910
19	シンボリックな緑の創出・ 育成	559 185	91 25	97 19	147 111	—	894 341	1,789 497
20	建築物緑化保全契約の 締結	2 0	1 0	1 0	0 0	—	4 0	5 0
21	名木古木の保存	14 10	17 14	18 16	18 17	—	67 57	88 74
施策2 緑や花に親しむ取組の推進								
事業② 市民や企業と連携した緑の まちづくり		99 56	95 43	113 56	103 54	—	410 210	713 461
22	地域緑のまちづくり	54 54	40 40	53 53	49 49	—	197 197	446 446
23	地域に根差した緑や花 の楽しみづくり	39 0	46 0	51 0	47 0	—	183 0	209 0
24	人生記念樹の配布	6 2	8 3	9 3	7 5	—	30 13	58 15
事業③ 子どもを育む空間での緑の 創出・育成		62 7	59 3	48 6	48 5	—	217 22	414 67
25	保育園・幼稚園・小中学 校での緑の創出・育成	62 7	59 3	48 6	48 5	—	217 22	414 67
事業④ 緑や花による魅力・賑わいの 創出・育成		800 322	721 329	683 306	694 317	—	2,898 1,274	2,712 1,119
26	都心臨海部等の緑花に よる魅力ある空間づくり	800 322	721 329	683 306	694 317	—	2,898 1,274	2,712 1,119
計画の柱3 合計		2,093 1,057	1,577 917	1,504 860	1,533 942	—	6,707 3,776	9,320 5,128

3 事業・取組の実績と評価・検証

事業費の欄の見方		上段:事業費 下段:うちみどり税					単位:百万円	
事業・取組/取組内容	2019年度 決算額	2020年度 決算額	2021年度 決算額	2022年度 決算見込額	2023年度	累計 (4か年)	5か年 事業費	
効果的な広報の展開								
事業① 市民の理解を広げる広報の 展開	14 0	11 0	17 0	14 0	—	57 0	80 0	
27 計画の周知や実績報告	14 0	11 0	17 0	14 0	—	57 0	80 0	
広報 合計	14 0	11 0	17 0	14 0	—	57 0	80 0	

事業費総計	10,824 3,451	9,176 2,680	8,558 2,469	7,975 2,774	—	36,534 11,375	50,214 13,592
-------	-----------------	----------------	----------------	----------------	---	------------------	------------------

※端数調整により、合計値は一致しないことがあります。

計画の柱別 4か年の事業費総額(見込) (百万円)

	執行額	うち横浜みどり税充当額
計画の柱1 市民とともに次世代につなぐ森を育む	27,852	7,154
計画の柱2 市民が身近に農を感じる場をつくる	1,918	445
計画の柱3 市民が実感できる緑や花をつくる	6,707	3,776
効果的な広報の展開	57	0
合計	36,534	11,375

※端数処理により、合計値は一致しないことがあります。

横浜市みどり基金残高の推移 (百万円)

	みどり基金積立金	執行額	基金残高
計画前			903
2019年度	2,848	3,471	281
2020年度	2,897	2,680	498
2021年度	2,798	2,469	827
2022年度	2,920	2,774	972

2018年度分繰越を含む

※横浜市みどり基金について

緑の保全及び創造に資する事業の充実を図るために設置された基金で、横浜みどり税の税收相当額を積み立てて一般財源との分離を図ることで、税收の用途を明らかにするとともに、年度間の財源調整を行っています。

4

横浜みどリアップ計画市民推進会議

2022 年度の活動実績

「横浜みどりアップ計画」の推進に向け、市民参加の組織により、横浜みどりアップ計画の評価・提案、市民の方への情報提供等を行うことを目的として、公募市民や学識経験者などからなる「横浜みどりアップ計画市民推進会議」を設置しています。

2022 年度は、新型コロナウイルス感染症対策（リモート会議、検温、消毒等）をとりながら全体会議や各種部会、現地調査などを実施し、横浜みどりアップ計画の内容、進捗状況について意見交換等を行うとともに、広報誌「Yokohama みどりアップ Action」を発行しました。

（1）全体会議

部会の構成や調査の実施など年間の活動内容を確認し、横浜みどりアップ計画の内容、進捗状況について質疑応答、意見交換を行い、市民推進会議 2021 年度報告書の発行及び 2022 年度報告書骨子案の検討を行いました。

	開催日	主な討議内容
第 36 回会議	6 月 15 日	<ul style="list-style-type: none"> 横浜みどりアップ計画 3 か年の進捗状況について 横浜みどりアップ計画市民推進会議 2021 年度報告書骨子案について
第 37 回会議	10 月 28 日	<ul style="list-style-type: none"> 横浜みどりアップ計画 3 か年の事業実績について 横浜みどりアップ計画市民推進会議 2021 年度報告書（案）について 横浜みどりアップ計画市民推進会議 2023 年度の取組について
第 38 回会議	2 月 3 日	<ul style="list-style-type: none"> 横浜みどりアップ計画 4 か年の進捗状況について 横浜みどりアップ計画市民推進会議 2022 年度報告書骨子案について 「これからの緑の取組[2024-2028]（素案）」について

（2）部会

《施策別専門部会》

計画の柱ごとに施策別専門部会を設置し、事業分野ごとに、実績の説明を受け、意見交換、提案の検討を行いました。

	開催日	主な討議内容
第 15 回「森を育む」施策を検討する部会	9 月 6 日	横浜みどりアップ計画「森を育む」施策の評価・提案について
第 16 回「森を育む」施策を検討する部会	3 月 13 日	
第 15 回「農を感じる」施策を検討する部会	9 月 15 日	横浜みどりアップ計画「農を感じる」施策の評価・提案について
第 16 回「農を感じる」施策を検討する部会	3 月 27 日	
第 15 回「緑をつくる」施策を検討する部会	9 月 6 日	横浜みどりアップ計画「緑をつくる」施策の評価・提案について
第 16 回「緑をつくる」施策を検討する部会	3 月 29 日	

《広報・見える化部会》

市民推進会議の広報誌「Yokohama みどりアップ Action」の編集を行いました。
市民の視点から、横浜みどりアップ計画と横浜みどり税を市民の皆様へわかりやすく伝える方法について引き続き検討しました。

	開催日	主な討議内容
第50回会議	8月12日	・みどりアップ Action 第7号原稿案について ・みどりアップ Action 第8号記事内容について
第51回会議	9月21日	・「効果的な広報の展開」事業の評価・提案について
第52回会議	11月25日	・みどりアップ Action 第8号原稿案について ・2023年度みどりアップ Action について
第53回会議	3月15日	・「効果的な広報の展開」事業の評価・提案について

■ 広報誌等の発行

「Yokohama みどりアップ Action」を10月と2月に発行しました。また、若い世代に向けた森づくりボランティア体験会の案内チラシも発行しました。



Yokohama みどりアップ Action Vol.7



Yokohama みどりアップ Action Vol.8

《調査部会》

横浜みどりアップ計画の取組を実感し、現場で活動する方々の声を直接聞くため、現地調査を実施しました。

	開催日	主な内容
第22回会議	10月21日	<p><場所></p> <p>①フローラルつなしま運営委員会（港北区） ②環状2号線 新横浜駅周辺（港北区） ③今井・境木市民の森（保土ヶ谷区） ④本宿農園（旭区）</p> <p><内容></p> <p>港北区綱島西地区の地域緑のまちづくり事業の支援を受けた「フローラルつなしま運営委員会」の方々から、緑化計画や活動概要、課題などの説明を受けるとともに、計画地の視察を行いました。続いて、環状2号線新横浜駅周辺で、並木の再生が進められるとともに良好に管理されている街路樹の見学をしました。次に保土ヶ谷区にある今井・境木市民の森を徒歩で視察し、市担当者から森の整備や管理等の説明を受けました。最後に、旭区本宿農園で実施されている「環境学習農園」の役割や実績について、園長から説明を受けるとともに、視察しました。</p>



【現地調査】フローラルつなしま運営委員会活動場所（港北区）



【現地調査】本宿農園（環境学習農園）（旭区）

(3) 報告書の発行

横浜みどりアップ計画市民推進会議 2022 年度報告書を発行します。

(4) 委員

氏名	所属部会	区分	備考
池島 祥文	・「農を感じる」施策を検討する部会委員	学識経験者	横浜国立大学大学院 准教授
池邊 このみ	・「緑をつくる」施策を検討する部会部会長	学識経験者	千葉大学グランドフェロー
石原 信也	・「緑をつくる」施策を検討する部会委員	関係団体	横浜商工会議所 産業振興部長
今関 美津枝	・「緑をつくる」施策を検討する部会委員	関係団体	よこはま緑の推進団体連絡協議会 会長
岩本 誠	・「森を育む」施策を検討する部会委員	関係団体	三保市民の森愛護会 会長
内海 宏	・副座長 ・「農を感じる」施策を検討する部会部会長	学識経験者	(株)地域計画研究所代表取締役
奥井 奈都美	・「森を育む」施策を検討する部会委員 ・広報・見える化部会委員	公募市民	
小野 英明	・「農を感じる」施策を検討する部会委員	関係団体	横浜農業協同組合 組織部長
国吉 純	・「緑をつくる」施策を検討する部会委員 ・広報・見える化部会委員	公募市民	
進士 五十八	・座長	学識経験者	東京農業大学名誉教授・元学長
関根 宏一	・「森を育む」施策を検討する部会委員	関係団体	横浜市町内会連合会 幹事
高田 房枝	・「緑をつくる」施策を検討する部会委員 ・広報・見える化部会部会長	公募市民	
高橋 秀忠	・「森を育む」施策を検討する部会委員 ・広報・見える化部会委員	公募市民	
野渡 リツ子	・「農を感じる」施策を検討する部会委員	関係団体	横浜市南西部農業委員会 委員
村松 晶子	・「農を感じる」施策を検討する部会委員 ・広報・見える化部会委員	公募市民	
望月 正光	・「森を育む」施策を検討する部会部会長 ・広報・見える化部会委員	学識経験者	関東学院常務理事、 関東学院大学名誉教授

(50音順・敬称略、2023年4月時点)

評価と提案の概要

※「横浜みどりアップ計画3か年の評価・提案」より抜粋

「計画の柱1：市民とともに次世代につなぐ森を育む」について

- ・コロナ禍により地所有者への働きかけが難しい状況においても土地所有者への丁寧な働きかけを継続したことを評価します。
- ・樹林地を良好に管理することは様々な観点から重要であり、良好な管理を行っていることを評価します。引き続き、森の魅力を高める管理を進めるとともに、維持管理助成についても、土地所有者が安心して樹林地を持ち続けられる支援を期待しています。

「計画の柱2：市民が身近に農を感じる場をつくる」について

- ・身近な場所のできる家庭菜園や農体験などへのニーズが高まってきています。今後は、地域の特色や様々なニーズに合わせ、市民が農にふれあう場が増えていくことを期待します。
- ・農景観保全の取組や地域のニーズに合わせた農の取組を進めることは、担い手の創出や農地の継承にもつながり、農地減少の歯止めになると考えます。今後は、農地だけではなく樹林地や緑の施策と連携しながら地域全体で取り組むことを期待します。

「計画の柱3：市民が実感できる緑や花をつくる」について

- ・取組により地域の緑や花が増えて親しむきっかけを生み、維持する活動がコミュニティ醸成につながっています。また、保育園・幼稚園・小学校においても、子どもたちが緑に親しむ空間づくりが広がっています。今後も緑や花の取組において、あらゆる世代の市民や企業の参加につながるようPRを工夫し、活動を継続する支援を充実させていくことを望みます。
- ・地域活動が支える質の高い緑や花の取組が一層発展し、市内外へのアピールにつながることを期待しています。

「効果的な広報の展開」について

- ・事業実施場所の現地表示に二次元バーコードを記載することで、活動している公園愛護会について簡単に知ることができ、身近なみどりへの理解が一層深まるよう取り組んでいます。引き続き二次元バーコードを活用した現地表示を進めてください。
- ・マスコットキャラクターを用いた計画の解説アニメーションを新たに YouTube で発信する取組や、花や緑の映像による市庁舎内デジタルサイネージでの放映、幅広く市民が目にする電車やバスの車内広告による広報の取組を評価します。若年層の認知が低いため、映像やSNSなど若年層が認知しやすい広報ツールを積極的に取り入れることに期待します。

5

各区の実績

2019年度から2022年度までの実績を区ごとにまとめています。

取組ごとに実績累計を示しており、実績累計は、各年度の実績を合計した数値としています。

※「8 水田の保全」の水田保全面積は、2022年度の保全面積を実績累計としています。

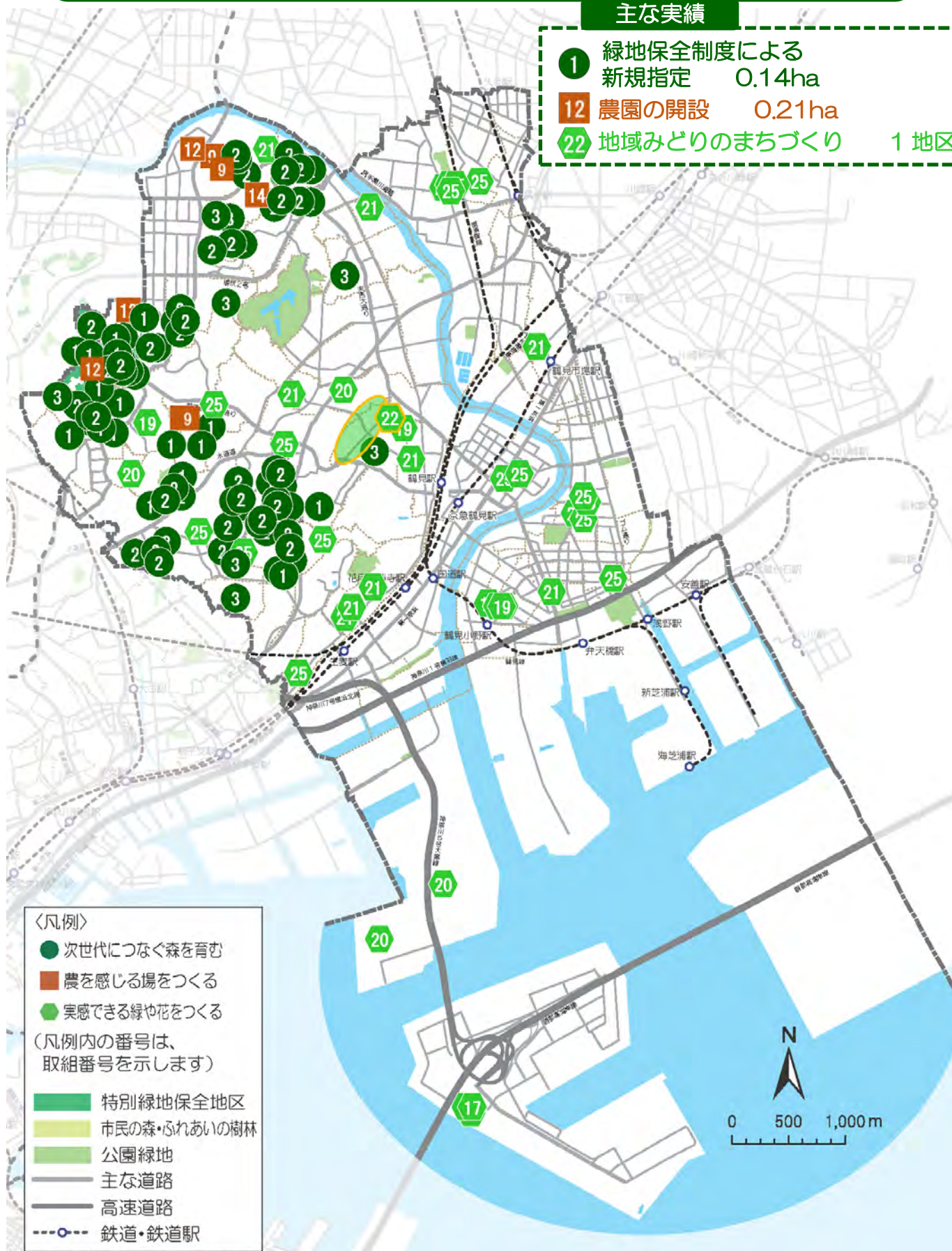
「10 農景観を良好に維持する活動の支援」の集団農地維持は、2022年度の維持面積を実績累計としています。

なお、市域全体から広く参加者を募ったイベントや講座など、全市的に効果が及ぶものは各区の実績には含めていません。

鶴見区

主な実績

- ① 緑地保全制度による
新規指定 0.14ha
- ⑫ 農園の開設 0.21ha
- ⑳ 地域みどりのまちづくり 1地区



〈凡例〉

- 次世代につなぐ森を育む
- 農を感じる場をつくる
- 実感できる緑や花をつくる

(凡例内の番号は、
取組番号を示します)

- 特別緑地保全地区
- 市民の森・ふれあいの樹林
- 公園緑地
- 主な道路
- 高速道路
- 鉄道・鉄道駅

計画の柱1 市民とともに次世代につなぐ森を育む

1 緑地保全制度による指定の拡大・市による買取り

○緑地保全制度による新規指定 0.14ha

・市民の森等

2021年度 0.04ha 獅子ヶ谷市民の森（指定拡大）

・緑地保存地区

2021年度 0.1ha 北寺尾七丁目

○市による買取り

・特別緑地保全地区・近郊緑地特別保全地区

2019年度 2地区 獅子ヶ谷・師岡特別緑地保全地区、馬場五丁目特別緑地保全地区

2020年度 1地区 東寺尾六丁目特別緑地保全地区

2021年度 1地区 獅子ヶ谷・師岡特別緑地保全地区

・公園樹林部

2019年度 1地区 馬場二丁目公園

○保全した樹林地の整備 20か所

2019年度 2か所 北寺尾七丁目特別緑地保全地区、獅子ヶ谷市民の森

2020年度 8か所 北寺尾七丁目特別緑地保全地区、馬場五丁目特別緑地保全地区、東寺尾六丁目特別緑地保全地区、東寺尾六丁目南特別緑地保全地区、獅子ヶ谷市民の森（2か所）、二本木第二公園、馬場二丁目公園

2021年度 6か所 東寺尾六丁目特別緑地保全地区、北寺尾七丁目特別緑地保全地区、獅子ヶ谷市民の森（2か所）、東寺尾ふれあいの樹林、馬場二丁目公園

2022年度 4か所 北寺尾七丁目特別緑地保全地区、獅子ヶ谷市民の森（2か所）、東寺尾ふれあいの樹林

2 森の多様な機能に着目した森づくりの推進

○森の維持管理 51 か所

・保安全管理計画の策定（公園）

2020 年度 1 か所 白幡公園

・維持管理（樹林地）

2019 年度 6 か所 駒岡・梶山特別緑地保全地区、獅子ケ谷・師岡特別緑地保全地区、駒岡中郷市民の森、獅子ケ谷市民の森、かぶと塚ふれあいの樹林、東寺尾ふれあいの樹林

2020 年度 7 か所 駒岡・梶山特別緑地保全地区、獅子ケ谷・師岡特別緑地保全地区、馬場二丁目特別緑地保全地区、駒岡中郷市民の森、獅子ケ谷市民の森、東寺尾ふれあいの樹林、かぶと塚ふれあいの樹林

2021 年度 8 か所 駒岡・梶山特別緑地保全地区、獅子ケ谷・師岡特別緑地保全地区、馬場二丁目特別緑地保全地区、東寺尾六丁目南特別緑地保全地区、駒岡中郷市民の森、獅子ケ谷市民の森、かぶと塚ふれあいの樹林、東寺尾ふれあいの樹林

2022 年度 9 か所 駒岡・梶山特別緑地保全地区、獅子ケ谷・師岡特別緑地保全地区、馬場二丁目特別緑地保全地区、東寺尾六丁目南特別緑地保全地区（2）、駒岡中郷市民の森、獅子ケ谷市民の森、かぶと塚ふれあいの樹林、東寺尾ふれあいの樹林

・維持管理（公園）

2019 年度 5 か所 駒岡堂ノ前公園、白幡公園、二本木第二公園、馬場町公園、二ツ池公園

2020 年度 3 か所 白幡公園、馬場町公園、二ツ池公園

2021 年度 6 か所 駒岡堂ノ前公園、白幡公園、二本木第二公園、馬場町公園、二ツ池公園、北寺尾七丁目緑地

2022 年度 6 か所 駒岡堂ノ前公園、白幡公園、二本木第二公園、馬場町公園、二ツ池公園、北寺尾七丁目緑地

3 指定した樹林地における維持管理の支援

○維持管理の助成 8 件

2019 年度 4 件 上末吉一丁目、駒岡一丁目、駒岡三丁目、寺谷一丁目

2021 年度 3 件 駒岡三丁目、東寺尾二丁目、東寺尾三丁目

2022 年度 1 件 上の宮二丁目

計画の柱2 市民が身近に農を感じる場をつくる

9 特定農業用施設保全契約の締結

○特定農業用施設保全契約の締結 4 件

2019 年度 2 件 北寺尾五丁目、駒岡四丁目

2022 年度 2 件 北寺尾五丁目、駒岡四丁目

12 様々な市民ニーズに合わせた農園の開設

○様々なニーズに合わせた農園の開設 0.21ha

・市民農園

2019年度 0.06ha 獅子ケ谷三丁目

2020年度 0.09ha 駒岡五丁目、獅子ケ谷三丁目

2022年度 0.06ha 獅子ケ谷三丁目

14 地産地消にふれる機会の拡大

○直売所・青空市等の支援 1件

・青空市・マルシェ等

2021年度 1件 JA 横浜鶴見支店駐車場直売所

計画の柱3 市民が実感できる緑や花をつくる

17 公共施設・公有地での緑の創出・育成

○緑の維持管理 3か所

2019年度 1か所 大黒ふ頭西緑地

2020年度 1か所 大黒ふ頭西緑地

2021年度 1か所 大黒ふ頭西緑地

18 街路樹による良好な景観の創出・育成

○良好な維持管理

2019年度 小野末広線（末広町通り）・末広水際線プロムナード、平安町栄町公園通りほか 計1,159本

2020年度 小野末広線（末広町通り）・末広水際線プロムナード、平安町栄町公園通りほか 計1,065本

2021年度 小野末広線（末広町通り）・末広水際線プロムナード、平安町栄町公園通りほか 計995本

2022年度 小野末広線（末広町通り）・末広水際線プロムナード、平安町栄町公園通りほか 計975本

19 シンボリックな緑の創出・育成

○公有地化によるシンボリックな緑の創出・管理

2019年度 1 箇所 下野谷町三丁目公園（管理）

2020年度 1 箇所 下野谷町三丁目公園（管理）

2021年度 1 箇所 下野谷町三丁目公園（管理）

2022年度 2 箇所 北寺尾六丁目（整備中）、下野谷町三丁目公園（管理）

○公開性のある緑空間の創出支援 1 箇所

2019年度 1 箇所 佃野町

20 建築物緑化保全契約の締結

○建築物緑化保全契約の締結 5 件

2019年度 4 件 諏訪坂（2件）、大黒町、馬場七丁目

2020年度 1 件 大黒町

21 名木古木の保存

○名木古木の保存

・新規指定

2020年度 6 本 寺谷一丁目（3本）、東寺尾一丁目（3本）

・維持管理の助成

2019年度 1 本 駒岡三丁目

2020年度 1 本 上末吉一丁目

2021年度 10 本 市場上町、岸谷一丁目（2本）、岸谷四丁目（4本）、仲通（3本）

2022年度 5 本 北寺尾二丁目（5本）

22 地域緑のまちづくり

○地域緑のまちづくり事業に関する協定の締結 1 地区

・新規

2022年度 1 地区 寺谷地区

23 地域に根差した緑や花の楽しみづくり

○緑や花を身近に感じる各区の取組

2019年度 JR鶴見線で巡る 緑のスタンプラリー

2020年度 JR鶴見線で巡る 緑のスタンプラリー

2021年度 JR鶴見線で巡る 緑のスタンプラリー

2022年度 JR鶴見線で巡る 緑のスタンプラリー

○地域の花いっぱいにつながる取組

2019年度 花の種の配布、花苗などの配布（汐入公園ほか 10 箇所）

2020年度 球根などの配布（江ヶ崎町公園ほか 1 箇所）

2021年度 花壇講習会（中町公園）、球根などの配布（芦穂崎公園ほか 55 箇所）

2022年度 球根などの配布（市場公園ほか 53 箇所）

5 各区の実績
鶴見区

24 人生記念樹の配布

○人生記念樹の配布 1,413 本

2019 年度 343 本

2020 年度 327 本

2021 年度 347 本

2022 年度 396 本

※過年度の報告書から本数を修正しました。

25 保育園・幼稚園・小中学校での緑の創出・育成

○緑の創出 10 箇所

2019 年度 4 箇所 潮田小学校、岸谷小学校、鶴見小学校、矢向小学校

2020 年度 3 箇所 鶴見小学校、寺尾小学校、東高等学校

2021 年度 1 箇所 フラッフィー小規模保育園

2022 年度 2 箇所 旭小学校、東台小学校

○緑の維持管理 9 箇所

2019 年度 2 箇所 潮田小学校、新鶴見小学校

2020 年度 2 箇所 潮田小学校、新鶴見小学校

2021 年度 2 箇所 潮田小学校、新鶴見小学校

2022 年度 3 箇所 入船小学校、潮田小学校、新鶴見小学校



1 保全した樹林地の整備
(東寺尾ふれあいの樹林)



1 保全した樹林地の整備
(獅子ヶ谷市民の森)



12 市民農園の開設
(獅子ヶ谷三丁目)



23 緑や花を身近に感じる各区の取組
(JR 鶴見線で巡る 緑のスタンプラリー)



24 地域の花いっぱいにつながる取組
(中町公園)



25 小学校での緑の創出・育成
(東台小学校)

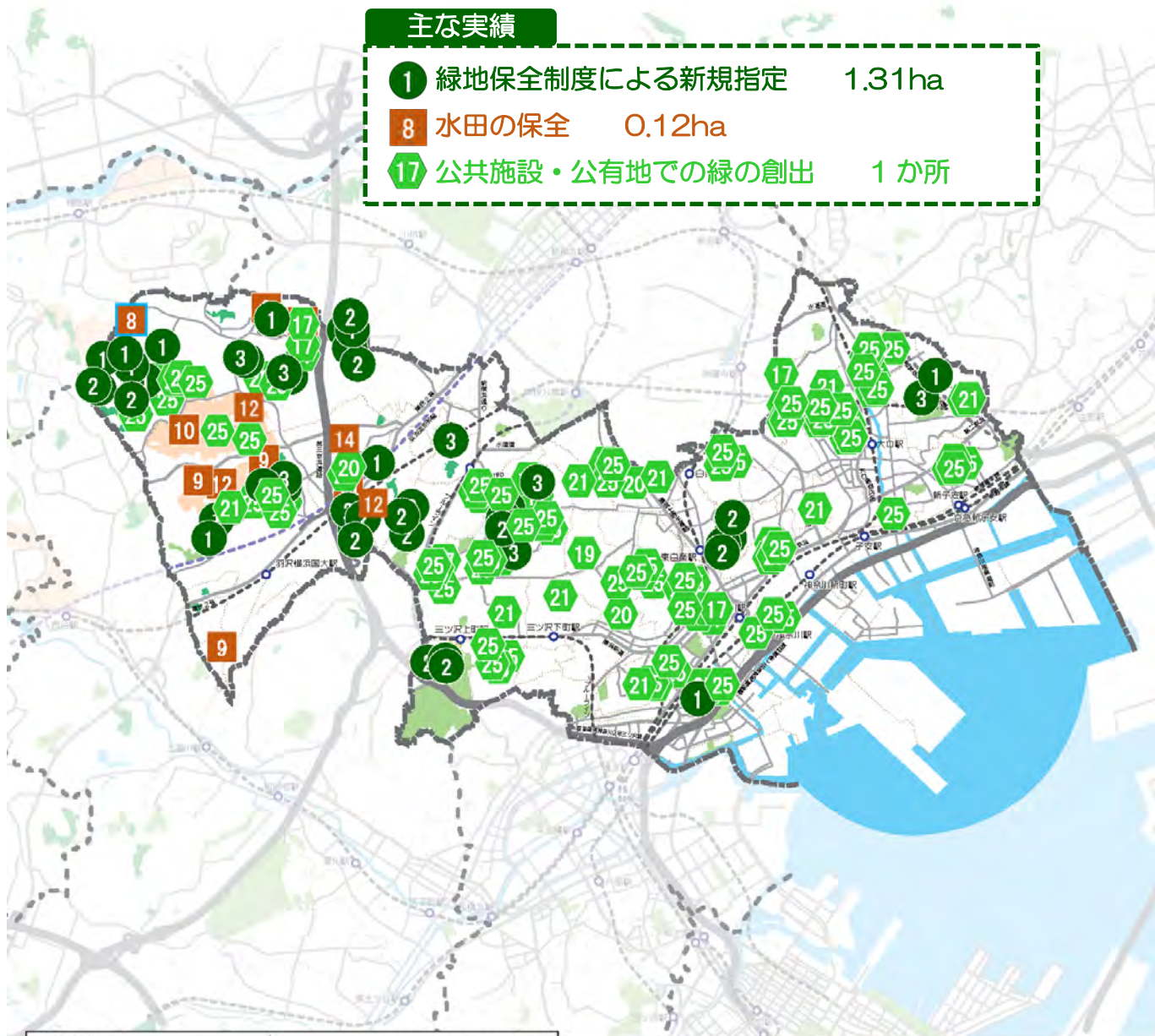
5 各区の実績
鶴見区



神奈川区

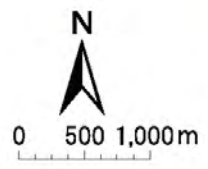
主な実績

- ① 緑地保全制度による新規指定 1.31ha
- ⑧ 水田の保全 0.12ha
- ⑰ 公共施設・公有地での緑の創出 1か所



〈凡例〉

● 次世代につなぐ森を育む	■ 特別緑地保全地区
■ 農を感じる場をつくる	■ 市民の森・心れあいの樹林
● 実感できる緑や花をつくる	■ 公園緑地
(凡例内の番号は、 取組番号を示します)	■ 農業専用地区
	— 主な道路
	— 高速道路
	— 鉄道・鉄道駅
	— 新幹線



計画の柱1 市民とともに次世代につなぐ森を育む

1 緑地保全制度による指定の拡大・市による買取り

○緑地保全制度による新規指定 1.31ha

・緑地保存地区

2021年度 0.01ha 西寺尾三丁目

2022年度 0.2ha 青木町、菅田町

・源流の森保存地区

2019年度 0.4ha 羽沢町（2件）

2022年度 0.5ha 羽沢町

・その他

2020年度 0.2ha 羽沢町

○市による買取り

・特別緑地保全地区・近郊緑地特別保全地区

2020年度 1地区 菅田町赤坂特別緑地保全地区

2021年度 2地区 菅田町赤坂特別緑地保全地区、菅田町堀上特別緑地保全地区

○保全した樹林地の整備 6か所

2019年度 2か所 神大寺二丁目特別緑地保全地区、三枚町矢崎特別緑地保全地区

2020年度 2か所 神大寺二丁目特別緑地保全地区、菅田町出戸谷特別緑地保全地区

2021年度 1か所 菅田町赤坂特別緑地保全地区

2022年度 1か所 菅田町赤坂特別緑地保全地区

2 森の多様な機能に着目した森づくりの推進

○森の維持管理 24か所

・維持管理（樹林地）

2019年度 4か所 三枚町牛道根特別緑地保全地区、菅田町堀上特別緑地保全地区、豊頭寺市民の森、白幡西緑地

2020年度 6か所 三枚町特別緑地保全地区、三枚町牛道根特別緑地保全地区、菅田町出戸谷特別緑地保全地区、菅田町堀上特別緑地保全地区、豊頭寺市民の森、白幡西緑地

2021年度 7か所 神大寺二丁目特別緑地保全地区、三枚町特別緑地保全地区、三枚町牛道根特別緑地保全地区、菅田町出戸谷特別緑地保全地区、菅田町堀上特別緑地保全地区、豊頭寺市民の森、白幡西緑地

2022年度 7か所 神大寺二丁目特別緑地保全地区、三枚町特別緑地保全地区、三枚町牛道根特別緑地保全地区、菅田町出戸谷特別緑地保全地区、菅田町堀上特別緑地保全地区、豊頭寺市民の森、白幡西緑地

3 指定した樹林地における維持管理の支援

○維持管理の助成 15 件

2019 年度 2 件 菅田町 (2件)

2020 年度 5 件 片倉三丁目、神大寺二丁目、菅田町 (2件)、羽沢町

2021 年度 6 件 神大寺四丁目、菅田町、西寺尾三丁目 (2件)、羽沢町 (2件)

2022 年度 2 件 菅田町、羽沢町

計画の柱2 市民が身近に農を感じる場をつくる

8 水田の保全

○水田保全面積 0.12ha

2019 年度 0.12ha 菅田町

2020 年度 0.12ha 菅田町

2021 年度 0.12ha 菅田町

2022 年度 0.12ha 菅田町

9 特定農業用施設保全契約の締結

○特定農業用施設保全契約の締結 6 件

2019 年度 1 件 羽沢町

2020 年度 3 件 菅田町 (2件)、羽沢南二丁目

2021 年度 2 件 羽沢町 (2件)

10 農景観を良好に維持する活動の支援

○まとまりのある農地を良好に維持する団体の活動への支援

・集団農地維持 32.1ha

2019年度 32.1ha 神奈川農地整備組合

2020年度 32.1ha 神奈川農地整備組合

2021年度 31.5ha 神奈川農地整備組合

2022年度 32.1ha 神奈川農地整備組合

・農地縁辺部への植栽 4件

2019年度 1件 神奈川農地整備組合

2020年度 1件 神奈川農地整備組合

2021年度 1件 神奈川農地整備組合

2022年度 1件 神奈川農地整備組合

・井戸の改修 1地区

2020年度 1地区 神奈川農地整備組合

○周辺環境に配慮した活動への支援

・牧草等による環境対策 1.86ha

2019年度 0.41ha 羽沢町（2か所）

2020年度 0.65ha 羽沢町（4か所）

2021年度 0.28ha 羽沢町

2022年度 0.52ha 羽沢町（2か所）

・たい肥化設備等の支援 1件

2021年度 1件 菅田町

12 様々な市民ニーズに合わせた農園の開設

○様々なニーズに合わせた農園の開設 0.42ha

・収穫体験農園

2020年度 0.02ha 羽沢町

2022年度 0.09ha 菅田町

・市民農園

2022年度 0.31ha 三枚町

14 地産地消にふれる機会の拡大

○直売所・青空市等の支援 2件

・直売所・加工所

2019年度 1件 羽沢町

・青空市・マルシェ等

2022年度 1件 きよ・マルシェ

計画の柱3 市民が実感できる緑や花をつくる

17 公共施設・公有地での緑の創出・育成

○緑の創出 1 箇所

2022 年度 1 箇所 神奈川区庁舎

○緑の維持管理 12 箇所

2019 年度 4 箇所 神奈川区庁舎、砂田川、神奈川土木事務所、片倉消防出張所

2020 年度 3 箇所 神奈川区庁舎、神奈川土木事務所、砂田川

2021 年度 3 箇所 神奈川区庁舎、砂田川、松見町二丁目子どもの遊び場

2022 年度 2 箇所 神奈川区庁舎、砂田川

18 街路樹による良好な景観の創出・育成

○良好な維持管理

2019 年度 鶴見三ツ沢線、栄本町線ほか 計548本

2020 年度 鶴見三ツ沢線、ギャラリーロードほか 計488本

2021 年度 鶴見三ツ沢線、栄本町線ほか 計421本

2022 年度 新横浜通り、ギャラリーロードほか 計420本

19 シンボリックな緑の創出・育成

○公有地化によるシンボリックな緑の創出・管理

2019 年度 1 箇所 六角橋四丁目公園（整備完了）

20 建築物緑化保全契約の締結

○建築物緑化保全契約の締結 3 件

2019 年度 2 件 栗田谷、六角橋二丁目

2020 年度 1 件 羽沢町

21 名木古木の保存

○名木古木の保存

・新規指定

2019 年度 1 本 三ツ沢中町

2021 年度 2 本 松見町（2本）

・維持管理の助成

2020 年度 2 本 西寺尾三丁目（2本）

2021 年度 4 本 羽沢町、三ツ沢下町、六角橋二丁目（2本）

2022 年度 8 本 白幡南町（2本）、高島台、松見町（2本）、六角橋二丁目（3本）

5 各区の実績
神奈川県

23 地域に根差した緑や花の楽しみづくり

○緑や花を身近に感じる各区の取組

2019年度	反町公園でのモッコウバラ等つる性植物の植栽
2020年度	反町公園等における花壇整備
2021年度	東横フラワー緑道における花壇整備
2022年度	神奈川県庁舎におけるシンボル花壇の設置

○地域の花いっぱいにつながる取組

2019年度	花の種の配布、花苗などの配布（三枚町第一公園ほか6か所）
2020年度	球根などの配布（浦島公園ほか37か所）
2021年度	球根などの配布（赤坂公園ほか103か所）
2022年度	球根などの配布（三ツ沢南町公園ほか141か所）

24 人生記念樹の配布

○人生記念樹の配布 1,212本

2019年度	297本
2020年度	255本
2021年度	361本
2022年度	299本

※過年度の報告書から本数を修正しました。

25 保育園・幼稚園・小中学校での緑の創出・育成

○緑の創出 9か所

2019年度 2か所 なないろきつど保育園、浦島小学校

2020年度 2か所 白幡小学校、三ツ沢小学校

2021年度 2か所 浦島小学校、三ツ沢小学校

2022年度 3か所 幸ヶ谷小学校、西寺尾小学校、三ツ沢小学校

○緑の維持管理 88か所

2019年度 24か所 神大寺保育園、西菅田保育園、松見保育園、青木小学校、池上小学校、浦島小学校、大口台小学校、神奈川小学校、神橋小学校、神大寺小学校、幸ヶ谷小学校、子安小学校、斎藤分小学校、白幡小学校、菅田小学校、捜真小学校、中丸小学校、西寺尾小学校、西寺尾第二小学校、羽沢小学校、二谷小学校、三ツ沢小学校、南神大寺小学校、盲特別支援学校

2020年度 23か所 神大寺保育園、西菅田保育園、松見保育園、青木小学校、池上小学校、浦島小学校、大口台小学校、神奈川小学校、神橋小学校、神大寺小学校、幸ヶ谷小学校、子安小学校、斎藤分小学校、白幡小学校、菅田小学校、中丸小学校、西寺尾小学校、西寺尾第二小学校、羽沢小学校、二谷小学校、三ツ沢小学校、南神大寺小学校、盲特別支援学校

2021年度 19か所 神大寺保育園、西菅田保育園、松見保育園、青木小学校、浦島小学校、大口台小学校、神大寺小学校、幸ヶ谷小学校、子安小学校、斎藤分小学校、白幡小学校、菅田の丘小学校、中丸小学校、西寺尾第二小学校、羽沢小学校、二谷小学校、三ツ沢小学校、南神大寺小学校、盲特別支援学校

2022年度 22か所 神大寺保育園、西菅田保育園、松見保育園、青木小学校、浦島小学校、大口台小学校、神奈川小学校、神橋小学校、神大寺小学校、幸ヶ谷小学校、子安小学校、斎藤分小学校、白幡小学校、菅田の丘小学校、中丸小学校、西寺尾小学校、西寺尾第二小学校、羽沢小学校、二谷小学校、三ツ沢小学校、南神大寺小学校、盲特別支援学校

5 各区の実績
神奈川県



1 緑地保全制度による新規指定
源流の森保存地区（羽沢町）



1 保全した樹林地の整備
（菅田町赤坂特別緑地保全地区）



8 水田の保全
（菅田町）



10 農景観を良好に維持する活動
（神奈川農地整備組合）



17 公共施設・公有地での緑の創出・育成
（神奈川県庁舎）

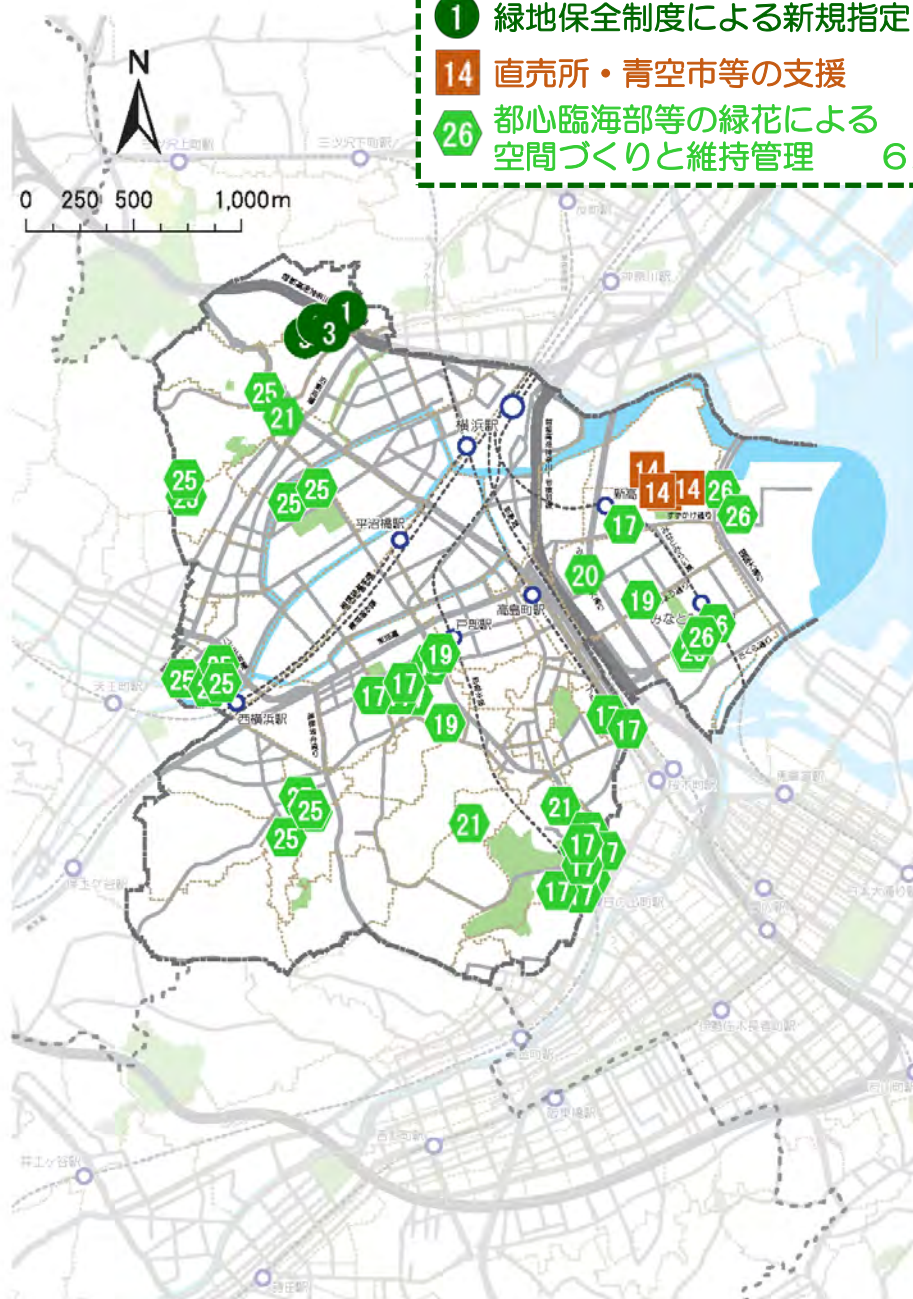


23 地域の花いっぱいにつながる取組
（菅田廻三戸公園）

西区

主な実績

- 1 緑地保全制度による新規指定 0.6ha
- 14 直売所・青空市等の支援 4件
- 26 都心臨海部等の緑花による空間づくりと維持管理 6か所



〈凡例〉	特別緑地保全地区
● 次世代につなぐ森を育む	市民の森・ふれあいの樹林
■ 農を感じる場をつくる	公園緑地
● 実感できる緑や花をつくる	主な道路
(凡例内の番号は、取組番号を示します)	高速道路
	鉄道・鉄道駅

計画の柱1 市民とともに次世代につなぐ森を育む

1 緑地保全制度による指定の拡大・市による買取り

○緑地保全制度による新規指定 0.6ha

・緑地保存地区

2022年度	0.6ha	南軽井沢
--------	-------	------

3 指定した樹林地における維持管理の支援

○維持管理の助成 3件

2019年度	1件	南軽井沢
--------	----	------

2020年度	1件	南軽井沢
--------	----	------

2022年度	1件	南軽井沢
--------	----	------

計画の柱2 市民が身近に農を感じる場をつくる

14 地産地消にふれる機会の拡大

○直売所・青空市等の支援 4件

・青空市・マルシェ等

2019年度	1件	みなとみらい農家朝市
--------	----	------------

2020年度	1件	みなとみらい農家朝市
--------	----	------------

2021年度	1件	みなとみらい農家朝市
--------	----	------------

2022年度	1件	みなとみらい農家朝市
--------	----	------------

計画の柱3 市民が実感できる緑や花をつくる

17 公共施設・公有地での緑の創出・育成

○緑の維持管理 15か所

2019年度	4か所	西区庁舎、新高島駅周辺暫定通路、中央図書館、市長公舎
--------	-----	----------------------------

2020年度	4か所	西区庁舎、東横線廃線跡地（未供用区間）、中央図書館、市長公舎
--------	-----	--------------------------------

2021年度	3か所	西区庁舎、中央図書館、市長公舎
--------	-----	-----------------

2022年度	4か所	西区庁舎、東横線廃線跡地（未供用区間）、中央図書館、市長公舎
--------	-----	--------------------------------

18 街路樹による良好な景観の創出・育成

○空き樹の補植

2019年度 低木 439本

2020年度 低木 65本

○良好な維持管理

2019年度 すずかけ通り、いちょう通りほか 計414本

2020年度 栄本町線、桜川新道ほか 計865本

2021年度 栄本町線、桜川新道ほか 計1,136本

2022年度 青木浅間線、すずかけ通りほか 計690本

19 シンボリックな緑の創出・育成

○公有地化によるシンボリックな緑の創出・管理

2019年度 1か所 伊勢町もくせい公園（管理）

2020年度 1か所 伊勢町もくせい公園（管理）

2021年度 1か所 伊勢町もくせい公園（管理）

2022年度 1か所 伊勢町もくせい公園（管理）

○公開性のある緑空間の創出支援 1か所

2020年度 1か所 みなとみらい四丁目

20 建築物緑化保全契約の締結

○建築物緑化保全契約の締結 1件

2022年度 1件 みなとみらい四丁目

21 名木古木の保存

○名木古木の保存

・新規指定

2019年度 1本 老松町

2022年度 1本 浅間町

・維持管理の助成

2022年度 1本 西戸部町

23 地域に根差した緑や花の楽しみづくり

○緑や花を身近に感じる各区の取組

2019年度	西区庁舎での植栽帯の整備
2020年度	回遊性向上を目的としたガーデンベアフォトスポット及びハンギングバスケット設置（2か所）、フジの管理作業を学ぶ講習会の実施
2021年度	回遊性向上を目的としたガーデンベアフォトスポット及びハンギングバスケット設置、フジの管理作業を学ぶ講習会の実施、バラ育成講座の開催
2022年度	回遊性向上を目的としたガーデンベアフォトスポットの設置、フジの管理作業を学ぶ講習会の実施、バラ育成講座の開催、にしく緑花サポーター制度登録者への花苗配布

○地域の花いっぱいにつながる取組

2019年度	花の種の配布
2020年度	球根などの配布（池ノ上公園ほか 21 か所）
2021年度	球根などの配布（池ノ上公園ほか 10 か所）
2022年度	球根などの配布（池ノ上公園ほか 28 か所）

24 人生記念樹の配布

○人生記念樹の配布 789 本

2019年度	181 本
2020年度	133 本
2021年度	188 本
2022年度	287 本

※過年度の報告書から本数を修正しました。

25 保育園・幼稚園・小中学校での緑の創出・育成

○緑の創出 5 か所

2019年度	1 か所	南浅間保育園
2020年度	1 か所	浅間台小学校
2021年度	1 か所	宮谷小学校
2022年度	2 か所	浅間台小学校、稲荷台小学校

○緑の維持管理 10 か所

2019年度	3 か所	南浅間保育園、稲荷台小学校、岡野中学校
2020年度	3 か所	南浅間保育園、稲荷台小学校、岡野中学校
2021年度	2 か所	南浅間保育園、稲荷台小学校
2022年度	2 か所	南浅間保育園、稲荷台小学校

26 都心臨海部等の緑花による魅力ある空間づくり

○緑花による空間づくりと維持管理 6 箇所

2019 年度 2 箇所 グランモール公園、キングモール橋

2020 年度 2 箇所 グランモール公園、キングモール橋

2021 年度 1 箇所 グランモール公園

2022 年度 1 箇所 グランモール公園

5 各区の実績
西区



1 緑地保全制度による新規指定
緑地保存地区（南軽井沢町）



14 青空市・マルシェ等
（みなとみらい農家朝市）



18 街路樹の良好な維持管理
（けやき通り）



19 シンボリックな緑の創出・育成
（伊勢町もくせい公園）



23 緑や花を身近に感じる各区の取組
（区内小学校）

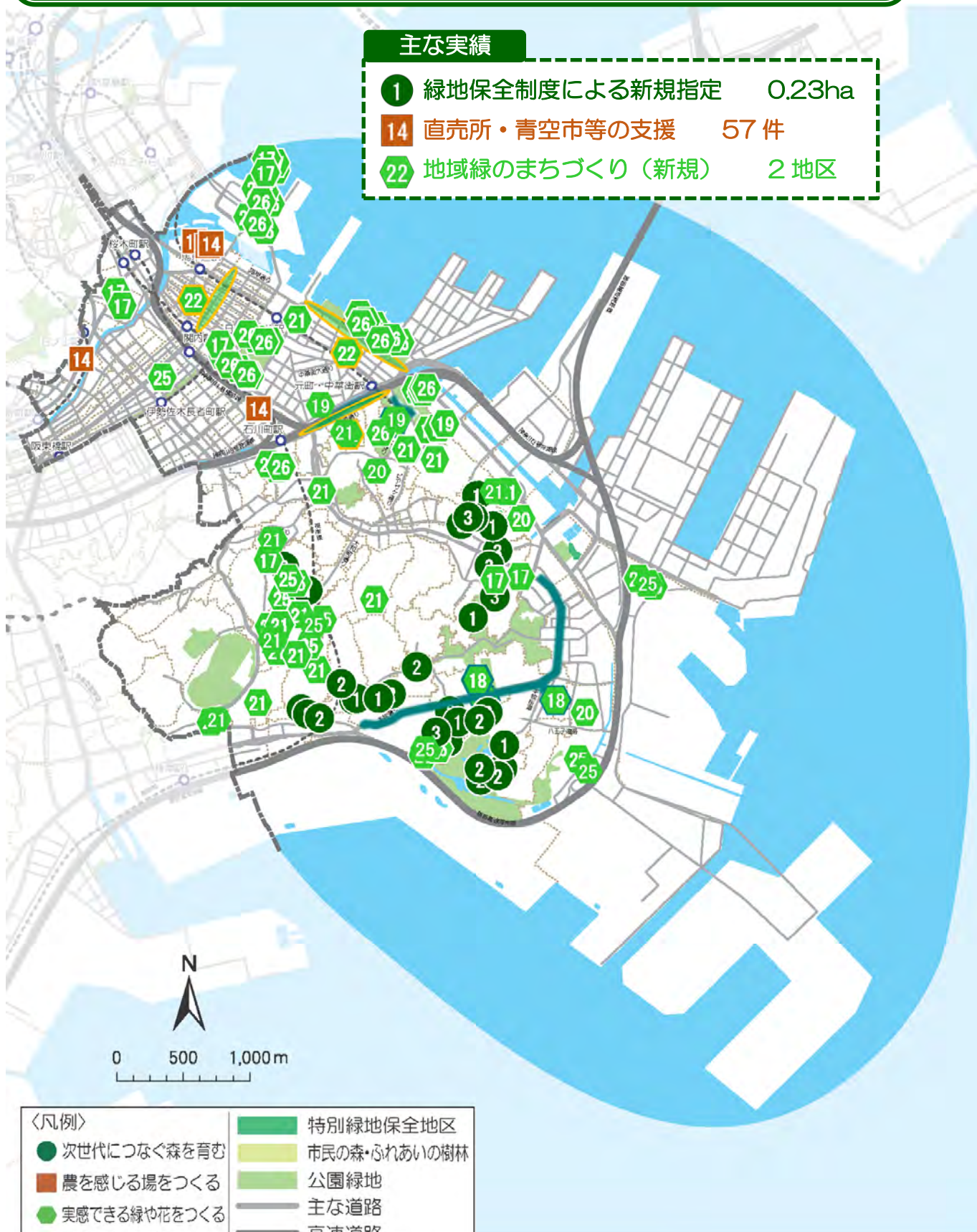


26 緑花による空間づくりと維持管理
（グランモール公園）

中区

主な実績

- ① 緑地保全制度による新規指定 0.23ha
- ⑭ 直売所・青空市等の支援 57件
- ⑳ 地域緑のまちづくり（新規） 2地区



<p>〈凡例〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 次世代につなぐ森を育む ■ 農を感じる場をつくる ● 実感できる緑や花をつくる <p>(凡例内の番号は、 取組番号を示します)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■ 特別緑地保全地区 ■ 市民の森・心れあいの樹林 ■ 公園緑地 — 主な道路 — 高速道路 ---○--- 鉄道・鉄道駅
---	--

計画の柱1 市民とともに次世代につなぐ森を育む

1 緑地保全制度による指定の拡大・市による買取り

○緑地保全制度による新規指定 0.23ha

・緑地保存地区

2019年度 0.1ha 北方町、竹之丸

2020年度 0.1ha 本牧町、山手町

2022年度 0.03ha 池袋

○保全した樹林地の整備 3か所

2020年度 1か所 本牧間門緑地

2021年度 1か所 三溪園緑地

2022年度 1か所 本牧荒井緑地

2 森の多様な機能に着目した森づくりの推進

○森の維持管理 16か所

・維持管理（樹林地）

2019年度 4か所 加曽台緑地、三溪園緑地、本牧荒井緑地、本牧間門緑地

2020年度 4か所 加曽台緑地、三溪園緑地、本牧荒井緑地、本牧間門緑地

2021年度 4か所 加曽台緑地、三溪園緑地、本牧荒井緑地、本牧間門緑地

2022年度 4か所 加曽台緑地、三溪園緑地、本牧荒井緑地、本牧間門緑地

3 指定した樹林地における維持管理の支援

○維持管理の助成 10件

2019年度 5件 北方町（2件）、竹之丸、本牧町、本牧間門

2020年度 1件 池袋

2021年度 2件 北方町、本牧町

2022年度 2件 北方町、本牧間門

計画の柱2 市民が身近に農を感じる場をつくる

14 地産地消にふれる機会の拡大

○直売所・青空市等の支援 57件

・直売所・加工所

2021年度 1件 日ノ出町

・青空市・マルシェ等

2019年度 16件 横浜北仲マルシェ（16件）

2020年度 5件 横浜北仲マルシェ（4件）、戸塚4Hクラブ協議会よこはま野菜販売

2021年度 11件 横浜北仲マルシェ（10件）、戸塚4Hクラブ協議会よこはま野菜販売

2022年度 24件 横浜北仲マルシェ（24件）

計画の柱3 市民が実感できる緑や花をつくる

17 公共施設・公有地での緑の創出・育成

○緑の創出 4か所

2019年度 1か所 ハンマーヘッドパーク

2020年度 1か所 ハンマーヘッドパーク

2022年度 2か所 中本牧コミュニティハウス敷地内こどもの遊び場、柏葉公園

○緑の維持管理 8か所

2019年度 3か所 旧市庁舎、中本牧コミュニティハウス、野毛地区センター

2020年度 3か所 旧市庁舎、野毛地区センター、ハンマーヘッドパーク

2021年度 1か所 ハンマーヘッドパーク

2022年度 1か所 ハンマーヘッドパーク

18 街路樹による良好な景観の創出・育成

○並木の再生

2019年度 3路線 本牧通り（整備中）、本牧桜道（整備完了）、谷戸坂（整備完了）

2020年度 1路線 本牧通り（整備完了）

○良好な維持管理

2019年度 豊浦町第52号線、山下本牧磯子線（本牧通り）ほか 計1,286本

2020年度 山下本牧磯子線（本牧通り）、山下本牧磯子線（新山下通り）ほか 計1,138本

2021年度 山下本牧磯子線（新山下通り）、山下高砂線（大棧橋浦舟線）ほか 計858本

2022年度 山下本牧磯子線（新山下通り）、国道133号・新港第79号線（本町通り）ほか 計846本

5 各区の実績
中区

19 シンボリックな緑の創出・育成

○公有地化によるシンボリックな緑の創出・管理

2019年度 1 箇所 山手町（整備中）

2020年度 1 箇所 山手町（整備中）

2021年度 1 箇所 山手町（整備中）

2022年度 1 箇所 山手町（整備中）

○公開性のある緑空間の創出支援 1 箇所

2022年度 1 箇所 山下町

20 建築物緑化保全契約の締結

○建築物緑化保全契約の締結 3 件

2019年度 2 件 本牧元町、山手町

2022年度 1 件 山手町

21 名木古木の保存

○名木古木の保存

・新規指定

2019年度 3 本 山手町（3本）

2020年度 1 本 滝之上

・維持管理の助成

2019年度 11 本 日本大通、豆口台、山手町（4本）、山元町（5本）

2020年度 15 本 滝之上、仲尾台、西之谷町、山手町（7本）、山元町（5本）

2021年度 10 本 根岸旭台（3本）、豆口台、山手町、山元町（5本）

2022年度 13 本 柏葉、根岸台、元町（2本）、山手町（4本）、山元町（5本）

22 地域緑のまちづくり

○地域緑のまちづくり事業に関する協定の締結 2 地区

・新規

2020年度 1 地区 元町河岸通り地区

2021年度 1 地区 関内桜通り地区

・継続

2019年度 1 地区 山下公園通り地区

2020年度 1 地区 山下公園通り地区

2021年度 1 地区 元町河岸通り地区

2022年度 2 地区 元町河岸通り地区、関内桜通り地区

23 地域に根差した緑や花の楽しみづくり

○緑や花を身近に感じる各区の取組

2019年度	市民参加型イベント等における「ガーデンネックレス横浜2019」PR、「ガーデンネックレス横浜2019」PR写真・絵画展、「ガーデンネックレス横浜2019」ウォーキングツアー
2020年度	市民参加型イベント等における「ガーデンネックレス横浜2020」PR、「秋のローズ&ガーデンマーケット」連携イベント、「ガーデンネックレス横浜2020」ウォーキングツアー
2021年度	市民参加型イベント等における「ガーデンネックレス横浜2021」PR（開港記念会館イベントなど）、「ガーデンネックレス横浜2021」ウォーキングツアー
2022年度	市民参加型イベント等における「ガーデンネックレス横浜2022」PR、「ガーデンネックレス横浜2022」ウォーキングツアー、花と緑の作品展の開催

○地域の花いっぱいにつながる取組

2019年度	球根ミックス花壇講座（山下公園）、花の種の配布
2020年度	球根ミックス花壇講座（山下公園）、公園愛護会を対象とした「球根ミックス花壇の作り方」動画作成（山下公園）、球根などの配布（山手町公園ほか36か所）
2021年度	球根ミックス花壇講座（山下公園）、球根などの配布（石川町五丁目公園ほか34か所）
2022年度	球根ミックス花壇講座（山下公園）、球根などの配布（石川町五丁目公園ほか35か所）

24 人生記念樹の配布

○人生記念樹の配布 729本

2019年度	157本
2020年度	180本
2021年度	209本
2022年度	183本

※過年度の報告書から本数を修正しました。

25 保育園・幼稚園・小中学校での緑の創出・育成

○緑の創出 5か所

2019年度	2か所	立野小学校、仲尾台中学校
2021年度	1か所	本牧南小学校
2022年度	2か所	仲尾台中学校、本牧南小学校

○緑の維持管理 12か所

2019年度	4か所	竹之丸保育園、錦保育園、間門小学校、横浜吉田中学校
2020年度	3か所	竹之丸保育園、錦保育園、間門小学校
2021年度	3か所	竹之丸保育園、錦保育園、間門小学校
2022年度	2か所	錦保育園、間門小学校

26 都心臨海部等の緑花による魅力ある空間づくり

○緑花による空間づくりと維持管理 33 箇所

2019 年度	8 箇所	港の見える丘公園、山下公園、山手イタリア山庭園、横浜公園、日本大通り、山下公園通り、新港中央広場、横浜ハンマーヘッド周辺
2020 年度	8 箇所	港の見える丘公園、山下公園、山手イタリア山庭園、横浜公園、日本大通り、山下公園通り、新港中央広場、横浜ハンマーヘッド周辺
2021 年度	8 箇所	港の見える丘公園、山下公園、山手イタリア山庭園、横浜公園、日本大通り、山下公園通り、新港中央広場、横浜ハンマーヘッド周辺
2022 年度	9 箇所	港の見える丘公園、元町公園、山下公園、山手イタリア山庭園、横浜公園、日本大通り、山下公園通り、新港中央広場、横浜ハンマーヘッド周辺



1 緑地保全制度による新規指定
緑地保存地区（池袋）



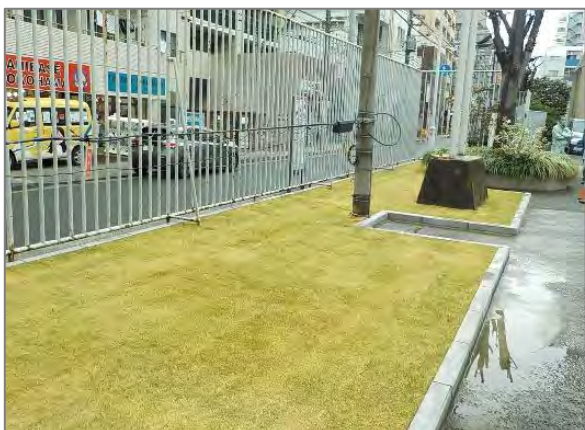
2 森の維持管理
（三溪園緑地）



14 青空市・マルシェ等
（横浜北仲マルシェ）



17 公共施設・公有地での緑の創出・育成
（中本牧コミュニティハウス敷地内
こどもの遊び場）



19 公開性のある緑空間の創出支援
（山下町）



26 緑花による空間づくりと維持管理
（日本大通り）

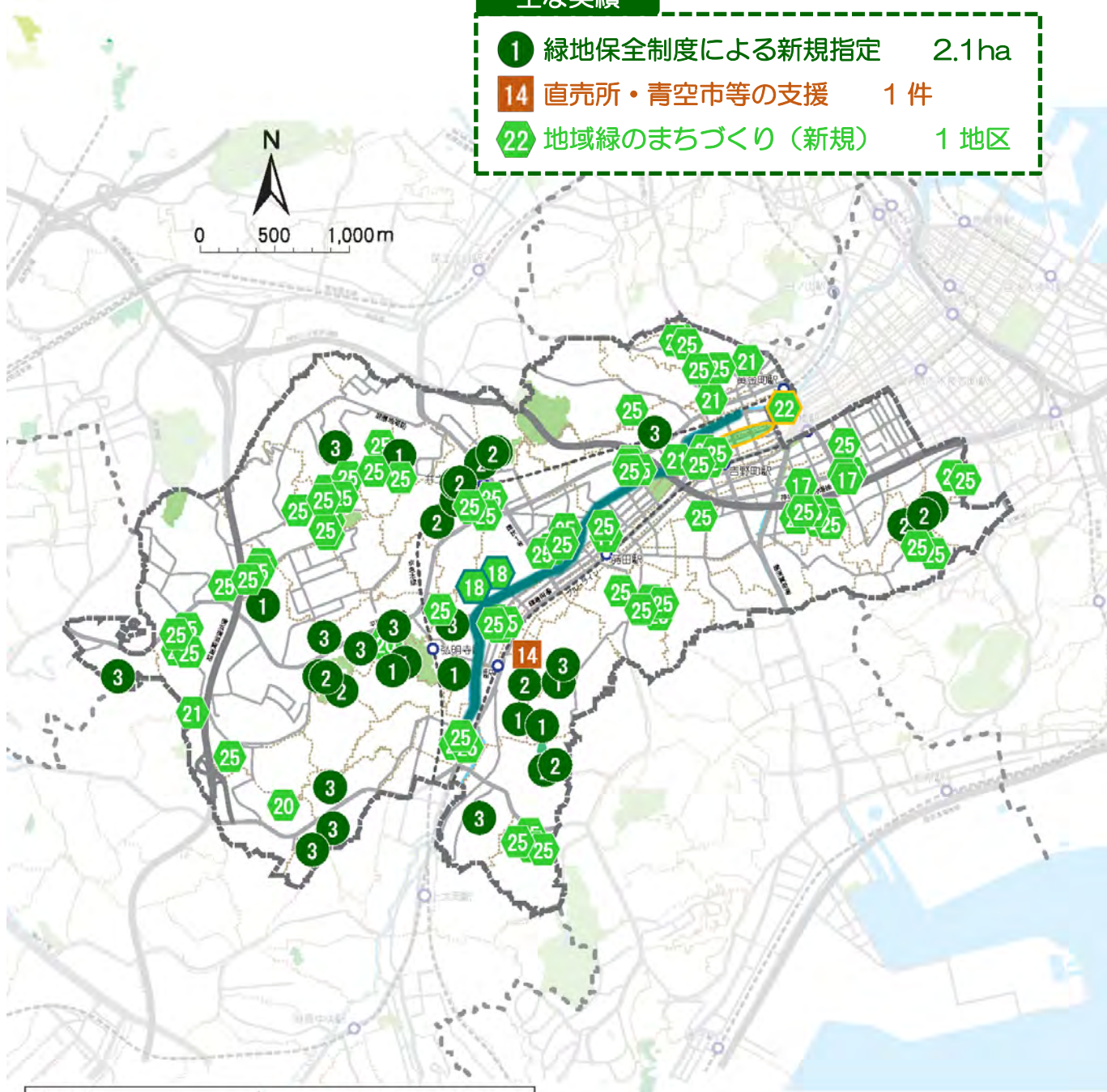
5 各区の実績
中区



南区

主な実績

- ① 緑地保全制度による新規指定 2.1ha
- ⑭ 直売所・青空市等の支援 1件
- ⑳ 地域緑のまちづくり（新規） 1地区



● 次世代につなぐ森を育む	■ 特別緑地保全地区
■ 農を感じる場をつくる	■ 市民の森・ふれあいの樹林
● 実感できる緑や花をつくる	■ 公園緑地
(凡例内の番号は、 取組番号を示します)	— 主な道路
	— 高速道路
	---○--- 鉄道・鉄道駅

計画の柱1 市民とともに次世代につなぐ森を育む

1 緑地保全制度による指定の拡大・市による買取り

○緑地保全制度による新規指定 2.1ha

- ・特別緑地保全地区・近郊緑地特別保全地区

2021年度 1.4ha 中里三丁目特別緑地保全地区

- ・緑地保存地区

2019年度 0.3ha 弘明寺町、六ツ川一丁目

2020年度 0.1ha 永田東二丁目

2021年度 0.1ha 大岡一丁目

- ・その他

2020年度 0.2ha 別所五丁目

○保全した樹林地の整備 4か所

2019年度 2か所 大岡三丁目緑地（2か所）

2020年度 1か所 大岡特別緑地保全地区

2022年度 1か所 中里三丁目特別緑地保全地区

2 森の多様な機能に着目した森づくりの推進

○森の維持管理 18か所

- ・維持管理（樹林地）

2019年度 2か所 大岡三丁目緑地、永田東緑地

2020年度 2か所 大岡三丁目緑地、永田東緑地

2021年度 2か所 大岡三丁目緑地、永田東緑地

2022年度 2か所 大岡三丁目緑地、永田東緑地

- ・維持管理（公園）

2019年度 2か所 唐沢公園、六ツ川中央公園

2020年度 2か所 唐沢公園、南太田四丁目公園

2021年度 3か所 唐沢公園、南太田四丁目公園、六ツ川中央公園

2022年度 3か所 唐沢公園、南太田四丁目公園、六ツ川中央公園

3 指定した樹林地における維持管理の支援

○維持管理の助成 13件

2019年度 5件 大岡五丁目、永田北二丁目（2件）、別所三丁目、六ツ川一丁目

2020年度 3件 弘明寺町、別所二丁目、別所三丁目

2021年度 3件 南太田一丁目、六ツ川一丁目、六ツ川四丁目

2022年度 2件 大岡一丁目、六ツ川一丁目

計画の柱2 市民が身近に農を感じる場をつくる

14 地産地消にふれる機会の拡大

○直売所・青空市等の支援 1件

・直売所・加工所

2020年度 1件 大岡町

計画の柱3 市民が実感できる緑や花をつくる

17 公共施設・公有地での緑の創出・育成

○緑の維持管理 6か所

2019年度 3か所 南区庁舎、中村地区センター、蒔田消防出張所

2020年度 1か所 南区庁舎

2021年度 1か所 南区庁舎

2022年度 1か所 南区庁舎

18 街路樹による良好な景観の創出・育成

○並木の再生

2019年度 1路線 大岡川プロムナード（整備中）

2020年度 1路線 大岡川プロムナード（整備中）

2021年度 1路線 大岡川プロムナード（整備中）

2022年度 1路線 大岡川プロムナード（整備中）

○空き樹の補植

2022年度 低木 808本

○良好な維持管理

2019年度 県道横浜鎌倉（鎌倉街道）、中村川プロムナードほか 計628本

2020年度 県道横浜鎌倉（鎌倉街道）、平戸桜木線ほか 計614本

2021年度 県道横浜鎌倉（鎌倉街道）、平戸桜木線ほか 計746本

2022年度 平戸桜木線、永楽町一丁目通り・永真北通り・永真仲通りほか 計640本

20 建築物緑化保全契約の締結

○建築物緑化保全契約の締結 2件

2019年度 1件 六ツ川一丁目

2020年度 1件 別所五丁目

5 各区の実績
南区

21 名木古木の保存

○名木古木の保存

・維持管理の助成

2020年度 1本 三春台

2021年度 4本 山王町(2本)、三春台、六ツ川四丁目

1 地域緑のまちづくり

○地域緑のまちづくり事業に関する協定の締結 1地区

・新規

2021年度 1地区 お三の宮通り周辺地区

・継続

2022年度 1地区 お三の宮通り周辺地区

23 地域に根差した緑や花の楽しみづくり

○緑や花を身近に感じる各区の取組

2019年度 大岡公園での桜の更新、公園愛護会活動周知看板の設置、公園愛護会への花苗の支援

2020年度 阪東橋公園・餅井坂公園での桜の更新、公園愛護会活動周知看板の設置、公園愛護会への花苗の支援

2021年度 公園愛護会活動周知看板の設置、公園愛護会への花苗の支援

2022年度 公園愛護会活動周知看板の設置、公園愛護会への花苗の支援

○地域の花いっぱいにつながる取組

2019年度 花の種の配布、花苗などの配布(蒔田公園ほか6か所)

2020年度 球根などの配布(東橋公園ほか78か所)

2021年度 球根などの配布(池下橋公園ほか86か所)

2022年度 球根などの配布(池下橋公園ほか74か所)

24 人生記念樹の配布

○人生記念樹の配布 814本

2019年度 175本

2020年度 187本

2021年度 252本

2022年度 200本

※過年度の報告書から本数を修正しました。

25 保育園・幼稚園・小中学校での緑の創出・育成

○緑の創出 17か所

2019年度 3か所 日枝小学校、南吉田小学校、六つ川小学校

2020年度 5か所 井土ヶ谷小学校、大岡小学校、太田小学校、日枝小学校、六つ川台小学校

2021年度 6か所 青山学院横浜英和小学校、石川小学校、井土ヶ谷小学校、大岡小学校、日枝小学校、南小学校

2022年度 3か所 大岡小学校、永田台小学校、南中学校

○緑の維持管理 66か所

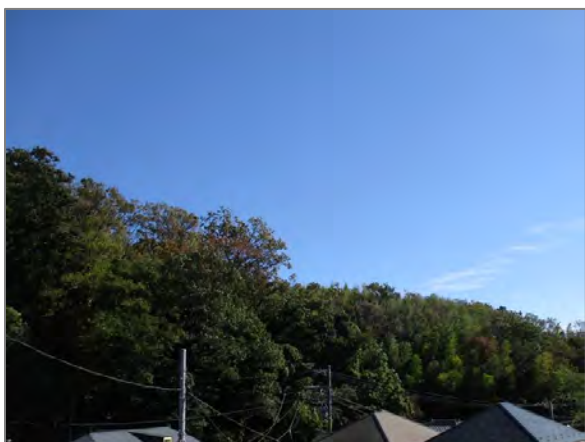
2019年度 16か所 井土ヶ谷保育園、清水ヶ丘保育園、しろばら保育園、永田保育園、三春台保育園、石川小学校、井土ヶ谷小学校、大岡小学校、太田小学校、永田小学校、永田台小学校、藤の木小学校、蒔田小学校、南太田小学校、六つ川西小学校、平楽中学校

2020年度 18か所 井土ヶ谷保育園、しろばら保育園、永田保育園、三春台保育園、井土ヶ谷小学校、大岡小学校、太田小学校、永田小学校、永田台小学校、藤の木小学校、別所小学校、蒔田小学校、南小学校、南太田小学校、六つ川小学校、六つ川西小学校、共進中学校、蒔田中学校

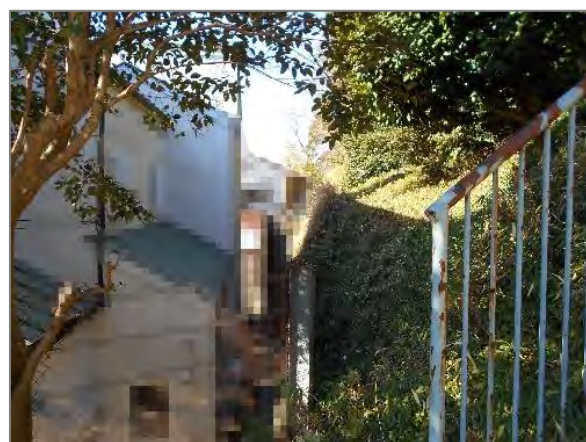
2021年度 16か所 井土ヶ谷保育園、しろばら保育園、永田保育園、三春台保育園、石川小学校、井土ヶ谷小学校、大岡小学校、太田小学校、永田小学校、永田台小学校、藤の木小学校、蒔田小学校、南太田小学校、六つ川西小学校、永田中学校、平楽中学校

2022年度 16か所 しろばら保育園、井土ヶ谷小学校、大岡小学校、太田小学校、中村小学校、永田小学校、永田台小学校、日枝小学校、藤の木小学校、蒔田小学校、南小学校、南太田小学校、六つ川小学校、六つ川西小学校、平楽中学校、南中学校

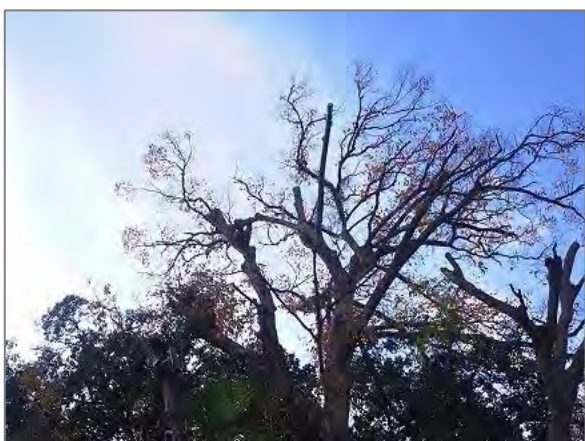
5 各区の実績
南区



1 保全した樹林地の整備
(中里三丁目特別緑地保全地区)



2 森の維持管理
(大岡三丁目緑地)



3 樹林地の維持管理の助成
(別所二丁目)



17 公共施設・公有地での緑の創出・育成
(南区庁舎)

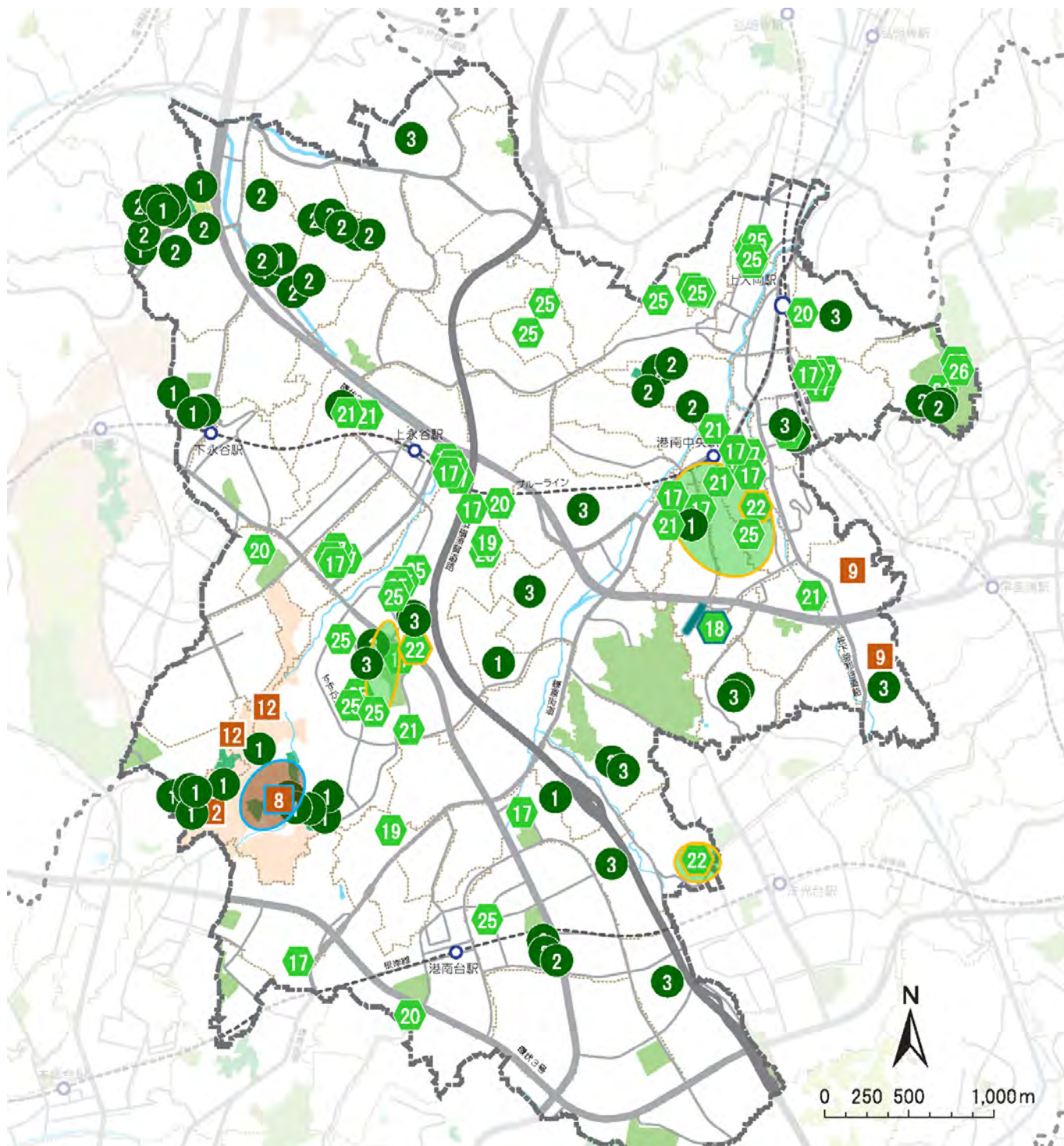


18 並木の再生
(大岡川プロムナード)



24 地域の花いっぱいにつながる取組
(大岡三丁目第二公園)

港南区



- 〈凡例〉
- 次世代につなぐ森を育む
 - 農を感じる場をつくる
 - 実感できる緑や花をつくる
 - (凡例内の番号は、取組番号を示します)
- 特別緑地保全地区
 - 市民の森・ふれあいの樹林
 - 公園緑地
 - 農業専用地区
 - 主な道路
 - 高速道路
 - 鉄道・鉄道駅

主な実績

- ① 緑地保全制度による新規指定 6.75ha
- ⑧ 水田の保全 0.71ha
- ⑫ 地域緑のまちづくり (新規) 1地区

計画の柱1 市民とともに次世代につなぐ森を育む

1 緑地保全制度による指定の拡大・市による買取り

○緑地保全制度による新規指定 6.75ha

・特別緑地保全地区・近郊緑地特別保全地区

2019年度 1.1ha 野庭・上永谷町特別緑地保全地区（指定拡大）

2022年度 3.6ha 日野中央特別緑地保全地区、下永谷四丁目特別緑地保全地区

・市民の森等

2020年度 0.02ha 下永谷市民の森（指定拡大）

・緑地保存地区

2020年度 0.8ha 上大岡西三丁目、港南六丁目、下永谷四丁目、日野六丁目

・源流の森保存地区

2020年度 0.6ha 下永谷四丁目、野庭町

2021年度 0.03ha 野庭町

2022年度 0.6ha 野庭町

○市による買取り

・特別緑地保全地区・近郊緑地特別保全地区

2019年度 1地区 野庭町特別緑地保全地区

2020年度 2地区 野庭町特別緑地保全地区、野庭・上永谷町特別緑地保全地区

・市民の森等

2019年度 1地区 下永谷市民の森

○保全した樹林地の整備 13か所

2019年度 3か所 下永谷市民の森（3か所）

2020年度 2か所 下永谷市民の森、下永谷長町緑地

2021年度 4か所 野庭町特別緑地保全地区、野庭・上永谷町特別緑地保全地区、下永谷市民の森、下永谷長町緑地

2022年度 4か所 野庭町特別緑地保全地区、野庭・上永谷町特別緑地保全地区、下永谷市民の森（2か所）

2 森の多様な機能に着目した森づくりの推進

○森の維持管理 22 か所

・維持管理（樹林地）

2019 年度 4 か所 下永谷市民の森、港南一丁目緑地、下永谷長町緑地、芹が谷五丁目緑地

2020 年度 4 か所 下永谷市民の森、港南一丁目緑地、下永谷長町緑地、芹が谷五丁目緑地

2021 年度 4 か所 港南一丁目特別緑地保全地区、芹が谷五丁目特別緑地保全地区、下永谷市民の森、下永谷長町緑地

2022 年度 4 か所 港南一丁目特別緑地保全地区、芹が谷五丁目特別緑地保全地区、下永谷市民の森、下永谷長町緑地

・維持管理（公園）

2019 年度 1 か所 港南台中央公園

2020 年度 2 か所 久良岐公園、港南台中央公園

2021 年度 2 か所 久良岐公園、港南台中央公園

2022 年度 1 か所 久良岐公園

3 指定した樹林地における維持管理の支援

○維持管理の助成 28 件

2019 年度 7 件 上大岡東一丁目、上永谷五丁目、笹下六丁目、野庭町（3件）、日野二丁目

2020 年度 9 件 港南台七丁目、笹下三丁目、芹が谷二丁目、野庭町（4件）、日野中央二丁目、日野四丁目

2021 年度 5 件 港南台一丁目、芹が谷五丁目、野庭町（2件）、日野中央二丁目

2022 年度 7 件 上大岡西三丁目、笹下六丁目、野庭町（5件）

計画の柱2 市民が身近に農を感じる場をつくる

8 水田の保全

○水田保全面積 0.71ha

2019 年度 0.71ha 野庭町

2020 年度 0.71ha 野庭町

2021 年度 0.71ha 野庭町

2022 年度 0.71ha 野庭町

9 特定農業用施設保全契約の締結

○特定農業用施設保全契約の締結 2件

2020 年度 2件 笹下二丁目、笹下三丁目

12 様々な市民ニーズに合わせた農園の開設

○様々なニーズに合わせた農園の開設 0.40ha

・市民農園

2020年度 0.06ha 野庭町

2021年度 0.34ha 野庭町（2か所）

計画の柱3 市民が実感できる緑や花をつくる

17 公共施設・公有地での緑の創出・育成

○緑の創出 1か所

2019年度 1か所 港南台北公園こどもログハウス

○緑の維持管理 21か所

2019年度 9か所 港南区庁舎、上大岡コミュニティハウス、桜道コミュニティハウス、日野南コミュニティハウス、港南地区センター、野庭地区センター、下野庭スポーツ会館、横浜藤沢線、港南図書館

2020年度 4か所 港南区庁舎、上大岡コミュニティハウス、横浜藤沢線、港南図書館

2021年度 4か所 港南区庁舎、上大岡コミュニティハウス、横浜藤沢線、港南図書館

2022年度 4か所 港南区庁舎、上大岡コミュニティハウス、横浜藤沢線、港南図書館

18 街路樹による良好な景観の創出・育成

○並木の再生

2019年度 1路線 港南桜道（整備中）

2020年度 1路線 港南桜道（整備完了）

○良好な維持管理

2019年度 舞岡上郷線（北部）、舞岡上郷線（南部）ほか 計1,271本

2020年度 環状2号線（下永谷）、県道横浜鎌倉（鎌倉街道）ほか 計1,132本

2021年度 環状2号線、舞岡上郷線ほか 計633本

2022年度 県道横浜鎌倉線（鎌倉街道）、環状2号線ほか 計868本

19 シンボリックな緑の創出・育成

○公開性のある緑空間の創出支援 2か所

2020年度 1か所 日野南四丁目

2021年度 1か所 野庭町

20 建築物緑化保全契約の締結

○建築物緑化保全契約の締結 5件

2019年度 2件 野庭町（2件）

2020年度 1件 丸山台四丁目

2021年度 1件 港南台九丁目

2022年度 1件 上大岡東一丁目

21 名木古木の保存

○名木古木の保存

・新規指定

2020年度 4本 大久保二丁目、港南五丁目（3本）

2021年度 3本 上大岡西三丁目、港南六丁目（2本）

・維持管理の助成

2020年度 2本 港南三丁目、笹下四丁目

2021年度 3本 上永谷五丁目、港南六丁目、野庭町

2022年度 1本 上永谷町五丁目

22 地域緑のまちづくり

○地域緑のまちづくり事業に関する協定の締結 1地区

・新規

2021年度 1地区 野庭団地地区

・継続

2019年度 2地区 中之丸地区、日野団地地区

2022年度 1地区 野庭団地地区

23 地域に根差した緑や花の楽しみづくり

○緑や花を身近に感じる各区の取組

2019年度 港南区役所で区制50周年記念特設花壇の設置、港南区役所・港南中央駅でのカウントダウンボックスの設置、区制50周年を記念した秋のひまわりプロジェクト、平戸永谷川での花の植え付け、いけばなワークショップの実施、下永谷第二公園での花壇整備

2020年度 上永谷第二公園、上永谷六丁目公園における公園愛護会の活動PR花壇の整備

2021年度 地域住民とのひまわり栽培、港南台北公園における花壇整備

2022年度 地域住民とのひまわり栽培、六反田公園・籠森公園・上永谷第二公園における花壇の設置

○地域の花いっぱいにつながる取組

2019年度 花の種の配布、花苗などの配布（下永谷八木第三公園ほか13か所）

2020年度 球根などの配布（榎戸公園ほか56か所）

2021年度 球根などの配布（臼杵公園ほか64か所）

2022年度 球根などの配布（港南台北公園ほか56か所）

5 各区の実績
港南区

24 人生記念樹の配布

○人生記念樹の配布 1,626 本

2019 年度 388 本

2020 年度 356 本

2021 年度 429 本

2022 年度 453 本

25 保育園・幼稚園・小中学校での緑の創出・育成

○緑の創出 4 箇所

2020 年度 1 箇所 下永谷小学校

2021 年度 1 箇所 下永谷小学校

2022 年度 2 箇所 関東学院のびのびのば園、南台小学校

○緑の維持管理 16 箇所

2019 年度 3 箇所 野庭第二保育園、野庭聖佳幼稚園、桜岡小学校

2020 年度 4 箇所 大久保保育園、野庭第二保育園、野庭聖佳幼稚園、桜岡小学校

2021 年度 4 箇所 大久保保育園、野庭第二保育園、野庭聖佳幼稚園、桜岡小学校

2022 年度 5 箇所 大久保保育園、野庭第二保育園、野庭聖佳幼稚園、港南台第三小学校、桜岡小学校

26 都心臨海部等の緑花による魅力ある空間づくり

○緑花による空間づくりと維持管理 3 箇所

2019 年度 1 箇所 久良岐公園

2020 年度 1 箇所 久良岐公園

2021 年度 1 箇所 久良岐公園



1 緑地保全制度による新規指定
(日野中央特別緑地保全地区)



3 樹林地の維持管理の助成
(笹下六丁目)



8 水田の保全
(野庭町)



12 市民農園の開設
(野庭町)



22 地域緑のまちづくり
(野庭団地地区)

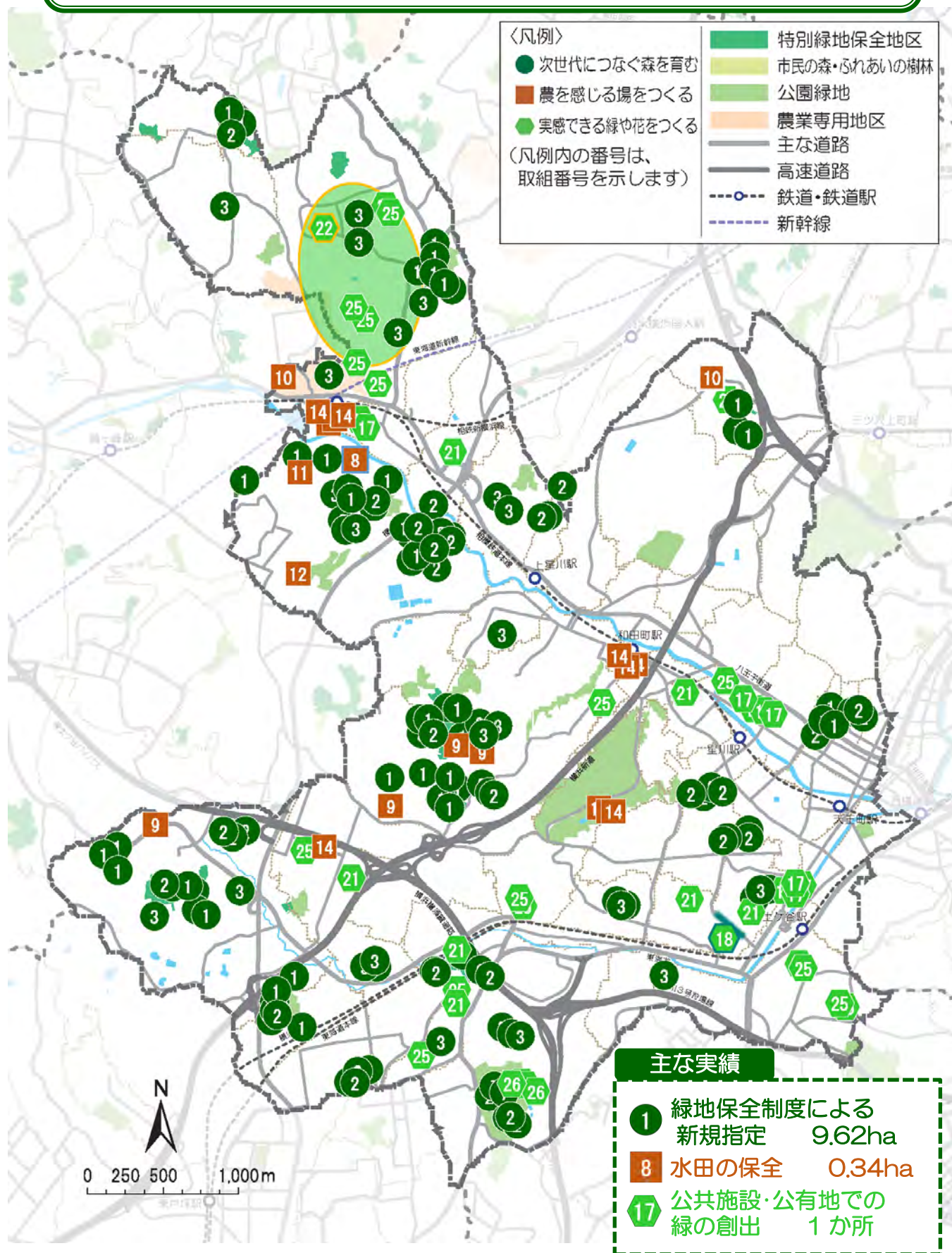


23 緑や花を身近に感じる各区の取組
(区内保育園)

5 各区の実績
港南区



保土ヶ谷区



計画の柱1 市民とともに次世代につなぐ森を育む

1 緑地保全制度による指定の拡大・市による買取り

○緑地保全制度による新規指定 9.62ha

・特別緑地保全地区・近郊緑地特別保全地区

2020年度 1.4ha 仏向町横谷特別緑地保全地区、峰沢町特別緑地保全地区

2021年度 0.1ha 仏向町特別緑地保全地区（指定拡大）

2022年度 1.4ha 仏向町横谷北特別緑地保全地区

・緑地保存地区

2019年度 0.5ha 仏向町（3件）

・源流の森保存地区

2019年度 0.7ha 川島町（3件）、仏向町

2020年度 2.8ha 川島町（2件）

2021年度 0.3ha 川島町

2022年度 2.4ha 仏向町

・その他

2022年度 0.02ha 上菅田町緑地

○市による買取り

・特別緑地保全地区・近郊緑地特別保全地区

2019年度 4地区 今井町美立橋特別緑地保全地区、上菅田町寺下橋特別緑地保全地区、川島特別緑地保全地区、仏向町特別緑地保全地区

2020年度 2地区 今井町特別緑地保全地区、上菅田町寺下橋特別緑地保全地区

2021年度 1地区 峰沢町特別緑地保全地区

2022年度 1地区 仏向町横谷特別緑地保全地区

・市民の森等

2019年度 1地区 （仮称）今井・境木市民の森

2020年度 1地区 （仮称）今井・境木市民の森

○保全した樹林地の整備	29 箇所
2019 年度	5 箇所 川島特別緑地保全地区、榑太坂特別緑地保全地区、(仮称)今井・境木市民の森、仏向町市有緑地、宮田緑地
2020 年度	8 箇所 今井町美立橋特別緑地保全地区、上菅田町金草沢東特別緑地保全地区、上菅田町寺下橋特別緑地保全地区、川島特別緑地保全地区、榑太坂特別緑地保全地区、仏向町特別緑地保全地区、(仮称)今井・境木市民の森、宮田緑地
2021 年度	9 箇所 今井町特別緑地保全地区、今井町美立橋特別緑地保全地区、上菅田町金草沢東特別緑地保全地区、上菅田町寺下橋特別緑地保全地区、川島特別緑地保全地区(2 箇所)、仏向町特別緑地保全地区、(仮称)今井・境木市民の森、宮田緑地
2022 年度	7 箇所 今井町特別緑地保全地区、今井町美立橋特別緑地保全地区、上菅田町寺下橋特別緑地保全地区、川島特別緑地保全地区(2 箇所)、峰沢町特別緑地保全地区、今井・境木市民の森

※市による買取りの特別緑地保全地区・近郊緑地特別緑地保全地区について、過年度の報告書から実施箇所を修正しました。

2 森の多様な機能に着目した森づくりの推進

○森の維持管理	46 箇所
・維持管理(樹林地)	
2019 年度	7 箇所 上星川一丁目特別緑地保全地区、川島特別緑地保全地区、境木ふれあいの樹林、川島向台緑地、神戸緑地、桜ヶ丘緑地、宮田緑地
2020 年度	10 箇所 今井町大久保特別緑地保全地区、上星川一丁目特別緑地保全地区、川島特別緑地保全地区、榑太坂特別緑地保全地区、境木ふれあいの樹林、川島向台緑地、神戸緑地、桜ヶ丘緑地、仏向町緑地、宮田緑地
2021 年度	11 箇所 今井町大久保特別緑地保全地区、今井町美立橋美立橋特別緑地保全地区、上星川一丁目特別緑地保全地区、川島特別緑地保全地区、榑太坂特別緑地保全地区、境木ふれあいの樹林、川島向台緑地、神戸緑地、桜ヶ丘緑地、仏向町緑地、宮田緑地
2022 年度	14 箇所 今井町大久保特別緑地保全地区、今井町美立橋美立橋特別緑地保全地区、上菅田町金草沢東特別緑地保全地区、上星川一丁目特別緑地保全地区、川島特別緑地保全地区、榑太坂特別緑地保全地区、仏向町特別緑地保全地区、今井・境木市民の森、境木ふれあいの樹林、川島向台緑地、神戸緑地、桜ヶ丘緑地、仏向町緑地、宮田緑地
・維持管理(公園)	
2019 年度	1 箇所 横浜市児童遊園地
2020 年度	1 箇所 横浜市児童遊園地
2021 年度	1 箇所 横浜市児童遊園地
2022 年度	1 箇所 横浜市児童遊園地

3 指定した樹林地における維持管理の支援

○維持管理の助成 42件

2019年度 11件 新井町、今井町（2件）、岩崎町、上菅田町、川島町（3件）、月見台、仏向町、法泉三丁目

2020年度 13件 今井町、岩崎町、上菅田町、上星川一丁目、狩場町、川島町、瀬戸ヶ谷町（2件）、月見台、西谷町、仏向町（2件）、法泉三丁目

2021年度 8件 今井町、上菅田町、上星川二丁目、狩場町、川島町（2件）、坂本町、仏向町

2022年度 10件 岩崎町、上菅田町、狩場町、川島町（2件）、権太坂二丁目、月見台（2件）、仏向町、法泉三丁目

7 森に関する情報発信

○ウェルカムセンター周辺の緑を活用したイベント等

2019年度 環境活動支援センター交流スペース

2020年度 環境活動支援センター交流スペース

2021年度 環境活動支援センター交流スペース

2022年度 環境活動支援センター交流スペース

計画の柱2 市民が身近に農を感じる場をつくる

8 水田の保全

○水田保全面積 0.34ha

2019年度 0.24ha 川島町

2020年度 0.24ha 川島町

2021年度 0.34ha 川島町

2022年度 0.34ha 川島町

9 特定農業用施設保全契約の締結

○特定農業用施設保全契約の締結 4件

2020年度 3件 今井町、仏向町（2件）

2021年度 1件 仏向町

10 農景観を良好に維持する活動の支援

○まとまりのある農地を良好に維持する団体の活動への支援

・集団農地維持 11.4ha

2019年度 11.5ha 西谷農業専用地区協議会（保土ヶ谷区・旭区）、峰沢地区農地保全協議会

2020年度 11.5ha 西谷農業専用地区協議会（保土ヶ谷区・旭区）、峰沢地区農地保全協議会

2021年度 11.5ha 西谷農業専用地区協議会（保土ヶ谷区・旭区）、峰沢地区農地保全協議会

2022年度 11.4ha 西谷農業専用地区協議会（保土ヶ谷区・旭区）、峰沢地区農地保全協議会

○周辺環境に配慮した活動への支援

・牧草等による環境対策 0.98ha

2019年度 0.15ha 上菅田町

2020年度 0.15ha 上菅田町

2021年度 0.25ha 上菅田町、法泉二丁目

2022年度 0.43ha 上菅田町、仏向町

11 多様な主体による農地の利用促進

○遊休農地の復元支援 0.11ha

2021年度 0.11ha 川島町

12 様々な市民ニーズに合わせた農園の開設

○様々なニーズに合わせた農園の開設 0.03ha

・収穫体験農園

2020年度 0.03ha 川島町

14 地産地消にふれる機会の拡大

○直売所・青空市等の支援 13件

・青空市・マルシェ等

2019年度 3件 西谷朝市会、横浜中部地区市民朝市、和田町駅前直売会

2020年度 3件 西谷朝市会、横浜中部地区市民朝市、和田町駅前直売会

2021年度 3件 西谷朝市会、横浜中部地区市民朝市、和田町駅前直売会

2022年度 4件 西谷朝市会、横浜中部地区市民朝市、和田町駅前直売会、新桜ヶ丘直売所

計画の柱3 市民が実感できる緑や花をつくる

17 公共施設・公有地での緑の創出・育成

○緑の創出 1 箇所

2020 年度 1 箇所 西谷地区センター

○緑の維持管理 8 箇所

2019 年度 2 箇所 保土ケ谷区庁舎、保土ケ谷バイオガーデン

2020 年度 2 箇所 保土ケ谷区庁舎、保土ケ谷バイオガーデン

2021 年度 2 箇所 保土ケ谷区庁舎、保土ケ谷バイオガーデン

2022 年度 2 箇所 保土ケ谷区庁舎、保土ケ谷バイオガーデン

18 街路樹による良好な景観の創出・育成

○並木の再生

2019 年度 1 路線 月見台（整備完了）

○空き樹の補植

2020 年度 高木 5 本

○良好な維持管理

2019 年度 菅田第181号線（笹山団地前）、保土ケ谷駅浅間線ほか 計233本

2020 年度 保土ケ谷駅浅間線、今井町第321号線（境木本町）ほか 計181本

2021 年度 菅田第181号線（笹山団地前）、保土ケ谷駅浅間線ほか 計235本

2022 年度 保土ケ谷駅浅間線、環状2号線（今井町）ほか 計244本

21 名木古木の保存

○名木古木の保存

・維持管理の助成

2020 年度 2 本 権太坂二丁目、峰沢町

2021 年度 7 本 霞台（4 本）、上星川町、権太坂二丁目、峰沢町

2022 年度 4 本 今井町（2 本）、霞台（2 本）

22 地域緑のまちづくり

○地域緑のまちづくり事業に関する協定の締結

・継続

2019 年度 1 地区 上菅田地区

2020 年度 1 地区 上菅田地区

23 地域に根差した緑や花の楽しみづくり

○緑や花を身近に感じる各区の取組

2019年度	星川中央公園での「ほどがや花フェスタ」の実施
2020年度	和田町駅前の花壇整備
2021年度	区庁舎における花時計設置
2022年度	星川中央公園での「ほどがや花フェスタ」の実施、区庁舎花時計花壇等への植栽

○地域の花いっぱいにつながる取組

2019年度	花の種の配布、花苗などの配布（帷子公園ほか8か所）
2020年度	球根などの配布（南原ふれあい公園ほか25か所）
2021年度	球根などの配布（岩井町第三公園ほか32か所）
2022年度	球根などの配布（峰沢町北公園ほか29か所）

24 人生記念樹の配布

○人生記念樹の配布 1,243本

2019年度	282本
2020年度	276本
2021年度	340本
2022年度	345本

※過年度の報告書から本数を修正しました。

25 保育園・幼稚園・小中学校での緑の創出・育成

○緑の創出 11か所

2019年度	6か所	えがお園、えぶち保育園、初音丘学園PICCOLINO、みんなのみらい星川園、藤塚小学校、上菅田中学校
2020年度	2か所	権太坂小学校、上菅田中学校
2021年度	2か所	権太坂小学校、新井中学校
2022年度	1か所	新井中学校

○緑の維持管理 8か所

2019年度	2か所	岩井保育園、上菅田小学校
2020年度	3か所	岩井保育園、初音丘学園 PICCOLINO、上菅田小学校
2021年度	1か所	岩井保育園
2022年度	2か所	岩井保育園、仏向小学校

26 都心臨海部等の緑花による魅力ある空間づくり

○緑花による空間づくりと維持管理

2019年度	1か所	横浜市児童遊園地
2020年度	1か所	横浜市児童遊園地
2021年度	1か所	横浜市児童遊園地
2022年度	1か所	横浜市児童遊園地

5 各区の実績
保土ヶ谷区



1 緑地保全制度による新規指定
源流の森保存地区（仏向町）



1 保全した樹林地の整備
（今井町特別緑地保全地区）



8 水田の保全
（川島町）



14 青空市・マルシェ等
（和田町駅前直売会）



23 地域の花いっぱいにつながる取組
（区庁舎における花時計設置）

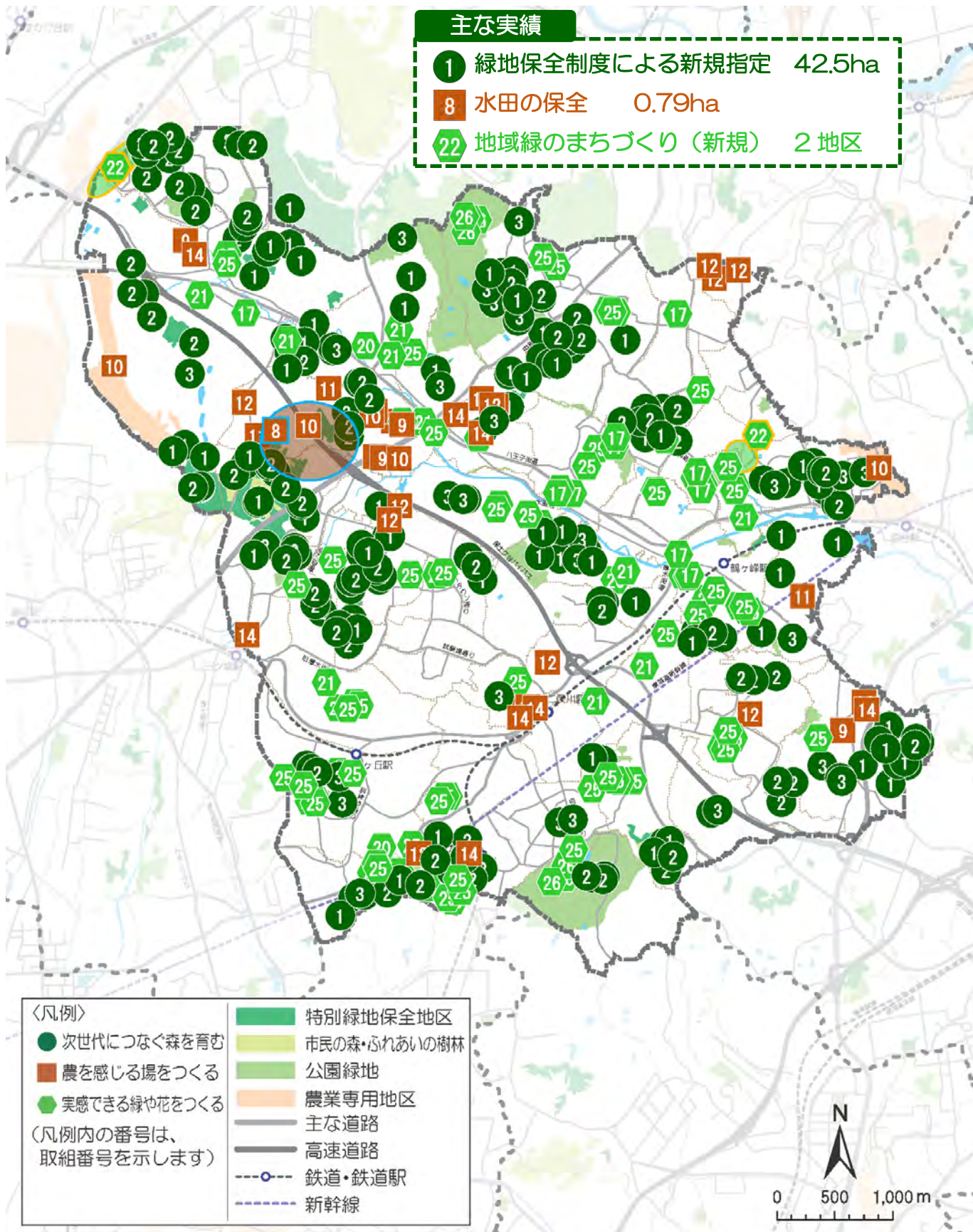


26 緑花による空間づくりと維持管理
（横浜市児童遊園地）

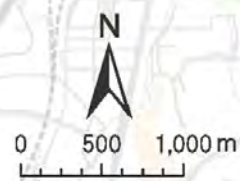
旭区

主な実績

- ① 緑地保全制度による新規指定 42.5ha
- ⑧ 水田の保全 0.79ha
- ②② 地域緑のまちづくり（新規） 2地区



〈凡例〉	
● 次世代につなぐ森を育む	■ 特別緑地保全地区
■ 農を感じる場をつくる	■ 市民の森・ふれあいの樹林
● 実感できる緑や花をつくる	■ 公園緑地
(凡例内の番号は、 取組番号を示します)	■ 農業専用地区
	— 主な道路
	— 高速道路
	— 鉄道・鉄道駅
	— 新幹線



計画の柱1 市民とともに次世代につなぐ森を育む

1 緑地保全制度による指定の拡大・市による買取り

○緑地保全制度による新規指定 42.5ha

・特別緑地保全地区・近郊緑地特別保全地区

2019年度 17.1ha 今宿西町特別緑地保全地区、市沢町特別緑地保全地区（指定拡大）、追分特別緑地保全地区（指定拡大）、上白根町小池特別緑地保全地区（指定拡大）、白根五丁目特別緑地保全地区

2020年度 0.5ha 上白根町後谷特別緑地保全地区（指定拡大）

2021年度 4.8ha 上白根町小池特別緑地保全地区（指定拡大）、川井本町特別緑地保全地区（指定拡大）、中希望が丘特別緑地保全地区

2022年度 0.3ha 上白根町小池特別緑地保全地区（指定拡大）

・市民の森等

2019年度 1.2ha （仮称）市沢市民の森（指定拡大）、追分市民の森（指定拡大）

・緑地保存地区

2020年度 0.8ha 今宿町、今宿二丁目、白根二丁目、中希望が丘

2021年度 0.2ha 川島町

2022年度 0.2ha 今川町

・源流の森保存地区

2019年度 2.0ha 上川井町、上白根町、川島町、西川島町（3件）

2020年度 2.5ha 今宿一丁目、今川町、上川井町、上白根町、川井本町

2021年度 10.1ha 今川町、上白根町、川井宿町、善部町

2022年度 1.9ha 今川町（2件）、上川井町、川井宿町

・その他

2019年度 0.4ha 市沢町緑地

2021年度 0.3ha 今宿1号緑地、今宿7号緑地

2022年度 0.2ha 今宿3号緑地

○市による買取り

・特別緑地保全地区・近郊緑地特別保全地区

2019年度 5地区 市沢町特別緑地保全地区、今川町特別緑地保全地区、川島町二ノ沢特別緑地保全地区、上川井町露木谷特別緑地保全地区、上白根町後谷特別緑地保全地区

2020年度 4地区 市沢町特別緑地保全地区、追分特別緑地保全地区、上川井町露木谷特別緑地保全地区、上白根町小池特別緑地保全地区

2021年度 2地区 市沢町特別緑地保全地区、追分特別緑地保全地区

2022年度 2地区 川井本町特別緑地保全地区、市沢町特別緑地保全地区

・市民の森等

2021年度 2地区 追分市民の森、南本宿市民の森

・公園樹林部

2019年度 1地区 南本宿公園

2020年度 2地区 四季美台ふれあい公園、南本宿公園

○保全した樹林地の整備 37 か所

2019年度 11 か所	上川井町堂谷特別緑地保全地区、下川井町特別緑地保全地区、都岡町特別緑地保全地区、中沢二丁目特別緑地保全地区、三保特別緑地保全地区（旭区内）、（仮称）市沢市民の森、追分市民の森、柏町市民の森（2 か所）、白根ふれあいの樹林、上白根二丁目緑地
2020年度 9 か所	今川町特別緑地保全地区、上川井町堂谷特別緑地保全地区、上白根町小池特別緑地保全地区、川井本町特別緑地保全地区、鶴ヶ峰二丁目特別緑地保全地区、中沢二丁目特別緑地保全地区、市沢市民の森、柏町市民の森、白根ふれあいの樹林
2021年度 6 か所	上白根町後谷特別緑地保全地区、上白根町小池特別緑地保全地区、川井本町特別緑地保全地区、川島町二ノ沢特別緑地保全地区、市沢市民の森、猪子山緑地
2022年度 11 か所	今川町特別緑地保全地区、上白根町後谷特別緑地保全地区、上白根町小池特別緑地保全地区、川井本町特別緑地保全地区、川島町二ノ沢特別緑地保全地区、市沢市民の森、今宿市民の森、追分市民の森、柏町市民の森、南本宿市民の森、白根ふれあいの樹林

2 森の多様な機能に着目した森づくりの推進

○森の維持管理 117 か所

・保安全管理計画の策定（樹林地）

2019年度 1 か所	柏町市民の森
2021年度 2 か所	上川井市民の森、鶴ヶ峰ふれあいの樹林

・維持管理（樹林地）

2019年度 19 か所	猪子山特別緑地保全地区、川井特別緑地保全地区、川島町二ノ沢特別緑地保全地区、今宿市民の森、追分市民の森、柏町市民の森、南本宿市民の森、矢指市民の森、市沢ふれあいの樹林、白根ふれあいの樹林、鶴ヶ峰ふれあいの樹林、猪子山緑地、今宿第二緑地、上白根南の森、笹野台緑地、笹野台三丁目緑地、二俣川ニュータウン緑地、若葉台一丁目緑地、若葉台四丁目緑地
2020年度 22 か所	上川井町中田谷特別緑地保全地区、上川井町堀谷特別緑地保全地区、上白根町小池特別緑地保全地区、川島町二ノ沢特別緑地保全地区、善部町特別緑地保全地区、今宿市民の森、追分市民の森、柏町市民の森、上川井市民の森、南本宿市民の森、矢指市民の森、市沢ふれあいの樹林、白根ふれあいの樹林、鶴ヶ峰ふれあいの樹林、猪子山緑地、今宿第二緑地、上白根南の森、笹野台緑地、笹野台三丁目緑地、二俣川ニュータウン緑地、若葉台一丁目緑地、若葉台四丁目緑地
2021年度 25 か所	猪子山特別緑地保全地区、上川井町中田谷特別緑地保全地区、上川井町堀谷特別緑地保全地区、上白根町小池特別緑地保全地区、川井町特別緑地保全地区、川島町二ノ沢特別緑地保全地区、善部町特別緑地保全地区、中沢二丁目特別緑地保全地区、市沢市民の森、今宿市民の森、追分市民の森、柏町市民の森、上川井市民の森、

5 各区の実績
旭区

南本宿市民の森、矢指市民の森、市沢ふれあいの樹林、白根ふれあいの樹林、鶴ヶ峰ふれあいの樹林、今宿第二緑地、上白根南の森、笹野台緑地、笹野台三丁目緑地、二俣川ニュータウン緑地、若葉台一丁目緑地、若葉台四丁目緑地

2022年度 28か所 猪子山特別緑地保全地区、上川井町堂谷特別緑地保全地区、上川井町中田谷特別緑地保全地区、上白根町小池特別緑地保全地区、川井特別緑地保全地区、川井本町特別緑地保全地区、川島町二ノ沢特別緑地保全地区、下川井町特別緑地保全地区、善部町特別緑地保全地区、中沢二丁目特別緑地保全地区、市沢市民の森、今宿市民の森、追分市民の森、柏町市民の森、上川井市民の森、南本宿市民の森、矢指市民の森、市沢ふれあいの樹林、白根ふれあいの樹林、鶴ヶ峰ふれあいの樹林、猪子山緑地、今宿第二緑地、上白根南の森、笹野台緑地、笹野台三丁目緑地、二俣川ニュータウン緑地、若葉台一丁目緑地、若葉台四丁目緑地

・維持管理（公園）

2019年度 5か所 大貫谷公園、こども自然公園、四季美台ふれあい公園、桧山公園、若葉台公園

2020年度 5か所 大貫谷公園、こども自然公園、四季美台ふれあい公園、桧山公園、若葉台公園

2021年度 5か所 大貫谷公園、こども自然公園、四季美台ふれあい公園、桧山公園、若葉台公園

2022年度 4か所 希望が丘水の森公園、こども自然公園、四季美台ふれあい公園、若葉台公園

3 指定した樹林地における維持管理の支援

○維持管理の助成 42件

2019年度 9件 市沢町、今宿西町、今宿南町、上白根町、川島町、桐が作、白根二丁目、善部町（2件）

2020年度 11件 市沢町、今宿南町（2件）、上川井町、上白根町、川井本町、下川井町（3件）、中希望が丘、都岡町

2021年度 10件 市沢町、今川町、上白根町、川井本町、川島町（2件）、白根二丁目、善部町、二俣川1丁目、万騎が原

2022年度 12件 今川町、今宿西町、今宿南町（2件）、上川井町、上白根町、川井本町、川島町、桐が作、下川井町、中希望が丘、万騎が原

計画の柱2 市民が身近に農を感じる場をつくる

8 水田の保全

○水田保全面積 0.79ha

2019年度 0.79ha 下川井町、矢指町

2020年度 0.79ha 下川井町、矢指町

2021年度 0.79ha 下川井町、矢指町

2022年度 0.79ha 下川井町、矢指町

9 特定農業用施設保全契約の締結

○特定農業用施設保全契約の締結 5件

2019年度 2件 市沢町、下川井町

2020年度 1件 下川井町

2022年度 2件 上川井町、下川井町

10 農景観を良好に維持する活動の支援

○まとまりのある農地を良好に維持する団体の活動への支援

・集団農地維持 31.6ha

2019年度 21.7ha 西谷農業専用地区協議会（保土ヶ谷区・旭区）、上川井農業専用地区協議会

2020年度 21.3ha 西谷農業専用地区協議会（保土ヶ谷区・旭区）、上川井農業専用地区協議会

2021年度 31.9ha 西谷農業専用地区協議会（保土ヶ谷区・旭区）、上川井農業専用地区協議会、下川井農地整備組合

2022年度 31.6ha 西谷農業専用地区協議会（保土ヶ谷区・旭区）、上川井農業専用地区協議会、下川井農地整備組合

・農地縁辺部への植栽 4件

2019年度 1件 都岡地区恵みの里運営協議会

2020年度 1件 都岡地区恵みの里運営協議会

2021年度 1件 都岡地区恵みの里運営協議会

2022年度 1件 都岡地区恵みの里運営協議会

・土砂流出防止対策 1件

2020年度 1件 下川井農地整備組合

○周辺環境に配慮した活動への支援

・牧草等による環境対策 2.10ha

2019年度 1.03ha 今宿南町（2か所）、下川井町、矢指町（2か所）

2020年度 0.65ha 上白根町、川井本町、下川井町（2か所）

2021年度 0.42ha 上白根町、川井本町、下川井町、矢指町

・たい肥化設備等の支援 2件

2020年度 2件 市沢町、下川井町

5 各区の実績
旭区

11 多様な主体による農地の利用促進

○遊休農地の復元支援 0.88ha

2019年度 0.64ha 今宿西町、下川井町（2か所）

2022年度 0.24ha 川島町

12 様々な市民ニーズに合わせた農園の開設

○様々なニーズに合わせた農園の開設 1.32ha

・収穫体験農園

2019年度 0.27ha 下川井町

2020年度 0.07ha 今宿西町

2021年度 0.09ha 今宿一丁目、今宿西町

2022年度 0.02ha 今宿一丁目

・市民農園

2020年度 0.66ha 小高町、上白根町、白根町、本村町

2021年度 0.13ha 下川井町、白根町（2か所）

2022年度 0.08ha 善部町

14 地産地消にふれる機会の拡大

○直売所・青空市等の支援 12件

・直売所・加工所

2019年度 1件 市沢町

2020年度 1件 今宿西町

2021年度 2件 市沢町、笹野台一丁目

2022年度 4件 柏町、上川井町（2件）、今宿西町

・青空市・マルシェ等

2019年度 1件 横浜農協二俣川直売所

2020年度 1件 横浜農協二俣川直売所

2021年度 1件 横浜農協二俣川直売所

2022年度 1件 横浜農協二俣川直売所

計画の柱3 市民が実感できる緑や花をつくる

17 公共施設・公有地での緑の創出・育成

○緑の創出 4 箇所

2020 年度 3 箇所 旭台中央公園、帷子川親水護岸、ふるさと尾根道緑道

2021 年度 1 箇所 ふるさと尾根道緑道

○緑の維持管理 13 箇所

2019 年度 3 箇所 旭区庁舎、旭土木事務所、旭図書館

2020 年度 3 箇所 旭区庁舎、旭図書館、旭土木事務所

2021 年度 4 箇所 旭区庁舎、旭図書館、旭土木事務所、ふるさと尾根道緑道

2022 年度 3 箇所 旭区庁舎、旭図書館、ふるさと尾根道緑道

18 街路樹による良好な景観の創出・育成

○良好な維持管理

2019 年度 県道丸子中山茅ヶ崎（中原街道）、水道道プロムナードほか
計720本

2020 年度 今宿南郵便局通り、ニュータウン通りほか 計665本

2021 年度 ニュータウン通り、県道丸子中山茅ヶ崎（中原街道）ほか
計535本

2022 年度 今宿南郵便局通り、ニュータウン通りほか 計594本

20 建築物緑化保全契約の締結

○建築物緑化保全契約の締結 5 件

2019 年度 5 件 川井本町、四季美台、善部町（3件）

21 名木古木の保存

○名木古木の保存

・新規指定

2020 年度 7 本 川井宿町（7本）

2021 年度 2 本 東希望が丘（2本）

・維持管理の助成

2019 年度 1 本 下川井町

2020 年度 8 本 今宿西町（2本）、上川井町、白根六丁目（3本）、本宿町（2本）

2021 年度 8 本 今川町、川井宿町（3本）、下川井町（3本）、本宿町

2022 年度 3 本 川井本町（3本）

22 地域緑のまちづくり

○地域緑のまちづくり事業に関する協定の締結 2 地区

・新規

2019 年度 1 地区 若葉台もみじ自治会周辺地区

2021 年度 1 地区 白根二丁目地区

・継続

2020 年度 1 地区 若葉台もみじ自治会周辺地区

2021 年度 1 地区 若葉台もみじ自治会周辺地区

2022 年度 2 地区 白根二丁目地区、若葉台もみじ自治会周辺地区、

23 地域に根差した緑や花の楽しみづくり

○緑や花を身近に感じる各区の取組

2019 年度 里山ガーデンでのあさひくん花壇づくり

2020 年度 区民利用施設（13か所）における花壇整備、区内公園の花壇整備及び花苗支援

2021 年度 区内公園における花壇・プランターの設置

2022 年度 笹野台北公園・大原西公園における花壇の植栽、区民まつりににおける花苗の配布

○地域の花いっぱいにつながる取組

2019 年度 花苗などの配布（鶴ヶ峰公園ほか 13 か所）

2020 年度 球根などの配布（二俣川二丁目第三公園ほか 38 か所）

2021 年度 球根などの配布（旭台中央公園ほか 93 か所）

2022 年度 球根などの配布（旭台中央公園ほか 85 か所）

24 人生記念樹の配布

○人生記念樹の配布 1,805 本

2019 年度 444 本

2020 年度 471 本

2021 年度 535 本

2022 年度 355 本

※過年度の報告書から本数を修正しました。

25 保育園・幼稚園・小中学校での緑の創出・育成

○緑の創出 8 か所

2019 年度 3 か所 鶴ヶ峯幼稚園、柏保育園、中沢小学校

2020 年度 3 か所 笹野台小学校、白根小学校、万騎が原中学校

2021 年度 2 か所 柏保育園、不動丸小学校

○緑の維持管理 67 か所

2019 年度 17 か所 柏保育園、左近山保育園、市沢小学校、今宿小学校、今宿南小学校、上白根小学校、川井小学校、希望ヶ丘小学校、さちが丘小学校、善部小学校、鶴ヶ峯小学校、東希望が丘小学校、二俣川小学校、南本宿小学校、旭中学校、上白根中学校、南希望が丘中学校

2020年度 13か所 柏保育園、左近山保育園、鶴ヶ峯幼稚園、今宿小学校、今宿南小学校、希望ヶ丘小学校、さちが丘小学校、善部小学校、鶴ヶ峯小学校、東希望が丘小学校、不動丸小学校、南本宿小学校、南希望が丘中学校

2021年度 16か所 柏保育園、左近山保育園、中希望が丘保育園、鶴ヶ峯幼稚園、今宿小学校、今宿南小学校、上白根小学校、川井小学校、希望ヶ丘小学校、さちが丘小学校、善部小学校、鶴ヶ峯小学校、東希望が丘小学校、不動丸小学校、南本宿小学校、南希望が丘中学校

2022年度 21か所 柏保育園、左近山保育園、中希望が丘保育園、今宿小学校、今宿南小学校、上白根小学校、川井小学校、希望ヶ丘小学校、笹野台小学校、さちが丘小学校、善部小学校、都岡小学校、鶴ヶ峯小学校、中沢小学校、東希望が丘小学校、不動丸小学校、本宿小学校、万騎が原小学校、南本宿小学校、上白根中学校、南希望が丘中学校

26 都心臨海部等の緑花による魅力ある空間づくり

○緑花による空間づくりと維持管理 8か所

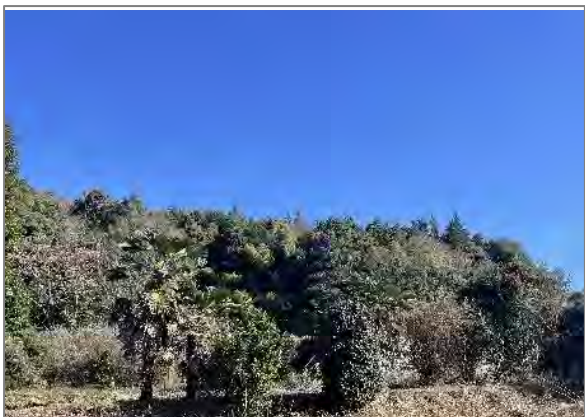
2019年度 2か所 こども自然公園、里山ガーデン

2020年度 2か所 こども自然公園、里山ガーデン

2021年度 2か所 こども自然公園、里山ガーデン

2022年度 2か所 こども自然公園、里山ガーデン

5 各区の実績
旭区



1 緑地保全制度による新規指定
(上白根町小池特別緑地保全地区)



2 森の維持管理
(希望が丘水の森公園)



8 水田の保全
(矢指町)



12 収穫体験農園の開設
(今宿一丁目)

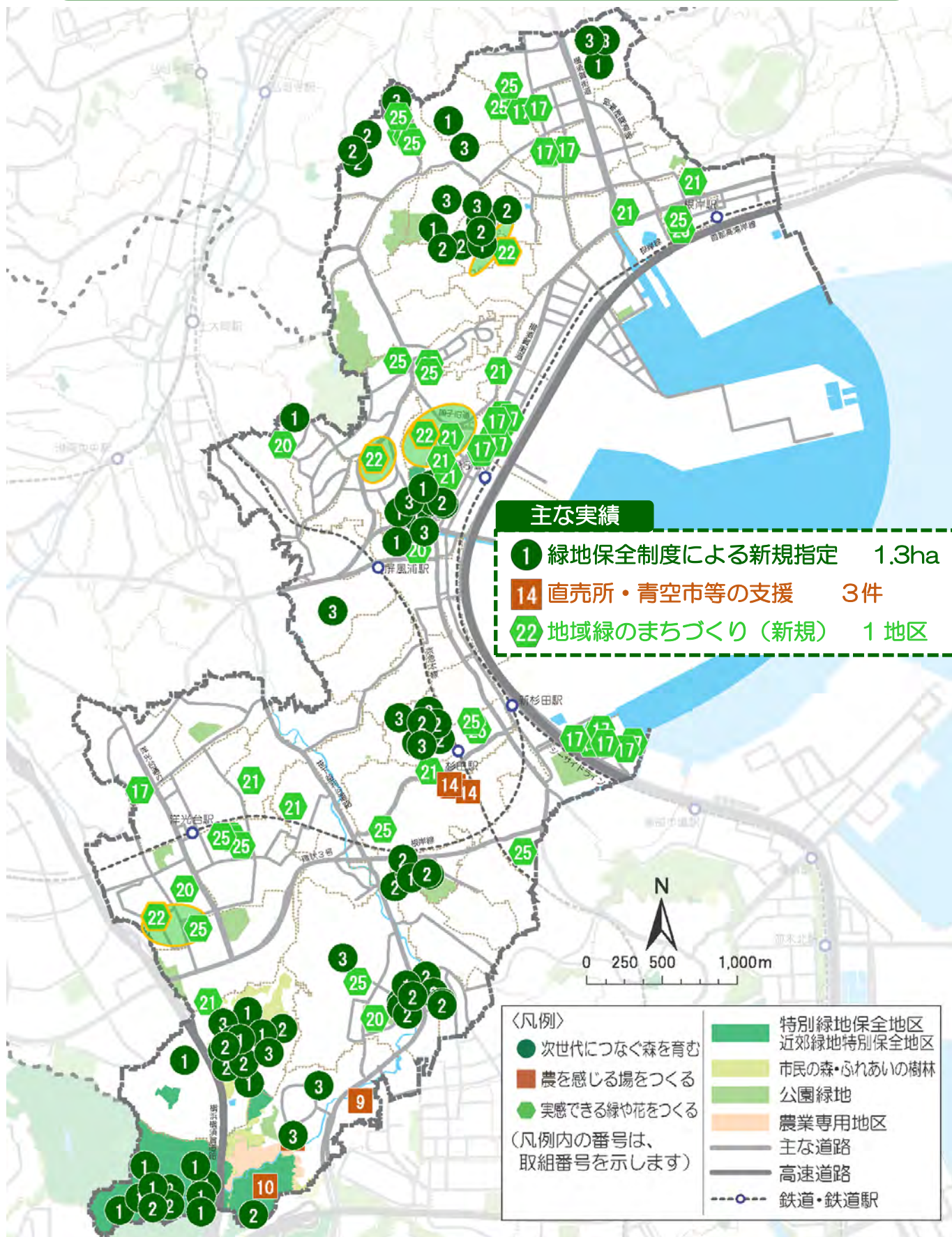


17 公共施設・公有地での緑の創出・育成
(旭図書館)



26 緑花による空間づくりと維持管理
(こども自然公園)

磯子区



計画の柱1 市民とともに次世代につなぐ森を育む

1 緑地保全制度による指定の拡大・市による買取り

○緑地保全制度による新規指定 1.3ha

・市民の森等

2020年度 0.3ha 氷取沢市民の森（指定拡大）

・緑地保存地区

2019年度 0.1ha 上町

2020年度 0.2ha 岡村二丁目、滝頭一丁目

2021年度 0.1ha 森二丁目

2022年度 0.1ha 森二丁目

・源流の森保存地区

2022年度 0.2ha 峰町

・その他

2019年度 0.1ha 汐見台

2021年度 0.2ha 洋光台五丁目

○市による買取り

・特別緑地保全地区・近郊緑地特別保全地区

2019年度 2地区 円海山近郊緑地特別保全地区、氷取沢町特別緑地保全地区

2020年度 1地区 円海山近郊緑地特別保全地区

・市民の森等

2019年度 1地区 峯市民の森

2020年度 1地区 峯市民の森

○保全した樹林地の整備 18か所

2019年度 5か所 峯市民の森（2か所）、杉田坪呑緑地、中原四丁目緑地、森浅間社緑地

2020年度 3か所 岡村一丁目緑地、氷取沢市民の森（2か所）

2021年度 6か所 岡村一丁目緑地、森浅間社緑地、氷取沢市民の森（3か所）、峯市民の森

2022年度 4か所 峯市民の森（2か所）、上中里緑地、杉田坪呑緑地

2 森の多様な機能に着目した森づくりの推進

○森の維持管理 35 か所

・維持管理（樹林地）

2019年度 8 か所 氷取沢市民の森、峯市民の森、岡村一丁目緑地、上中里緑地、杉田九丁目緑地、杉田坪呑緑地、中原四丁目緑地、森浅間社緑地

2020年度 9 か所 氷取沢市民の森、峯市民の森、岡村一丁目緑地、岡村四丁目緑地、上中里緑地、杉田九丁目緑地、杉田坪呑緑地、中原四丁目緑地、森浅間社緑地

2021年度 9 か所 氷取沢市民の森、峯市民の森、岡村一丁目緑地、岡村四丁目緑地、上中里緑地、杉田九丁目緑地、杉田坪呑緑地、中原四丁目緑地、森浅間社緑地

2022年度 9 か所 氷取沢市民の森、峯市民の森、岡村一丁目緑地、岡村四丁目緑地、上中里緑地、杉田九丁目緑地、杉田坪呑緑地、中原四丁目緑地、森浅間社緑地

3 指定した樹林地における維持管理の支援

○維持管理の助成 20 件

2019年度 4 件 岡村四丁目、中原四丁目、氷取沢町、峰町

2020年度 4 件 岡村三丁目、上町、峰町、森二丁目

2021年度 7 件 岡村一丁目、岡村二丁目（2件）、上町、上中里町、峰町、森五丁目

2022年度 5 件 中原四丁目、森二丁目（2件）、氷取沢町（2件）

計画の柱2 市民が身近に農を感じる場をつくる

9 特定農業用施設保全契約の締結

○特定農業用施設保全契約の締結 1 件

2020年度 1 件 氷取沢町

10 農景観を良好に維持する活動の支援

○まとまりのある農地を良好に維持する団体の活動への支援

・農地縁辺部への植栽 4 件

2019年度 1 件 氷取沢畑地かんがい組合

2020年度 1 件 氷取沢畑地かんがい組合

2021年度 1 件 氷取沢畑地かんがい組合

2022年度 1 件 氷取沢畑地かんがい組合

・土砂流出防止対策 1 件

2020年度 1 件 氷取沢畑地かんがい組合

12 様々な市民ニーズに合わせた農園の開設

○様々なニーズに合わせた農園の開設 0.03ha

・市民農園

2019年度 0.03ha 氷取沢町

14 地産地消にふれる機会の拡大

○直売所・青空市等の支援 3件

・青空市・マルシェ等

2020年度 1件 杉田野菜直売所

2021年度 1件 杉田野菜直売所

2022年度 1件 杉田野菜直売所

計画の柱3 市民が実感できる緑や花をつくる

17 公共施設・公有地での緑の創出・育成

○緑の創出 2か所

2020年度 2か所 洋光台西公園、横浜市立脳卒中・神経脊椎センター

○緑の維持管理 20か所

2019年度 5か所 磯子区庁舎、市道新杉田第117号線、滝頭コミュニティハウス、社会教育コーナー、杉田臨海緑地

2020年度 4か所 磯子区庁舎、市道新杉田第117号線、滝頭コミュニティハウス、横浜市社会教育コーナー

2021年度 6か所 磯子区庁舎、市道新杉田第117号線、滝頭コミュニティハウス、横浜市社会教育コーナー、杉田臨海緑地、横浜市脳卒中・神経脊椎センター

2022年度 5か所 磯子区庁舎、市道新杉田第117号線、滝頭コミュニティハウス、横浜市社会教育コーナー、杉田臨海緑地

18 街路樹による良好な景観の創出・育成

○良好な維持管理

2019年度 磯子産業道路、横浜逗子線（栗木-釜利谷）ほか 計1,128本

2020年度 洋光台第5号線（洋光台六丁目第三公園東側）、洋光台通り（洋光台南公園西側）ほか 計1,109本

2021年度 洋光台第183号線（上中里団地）、環状3号線ほか 計906本

2022年度 中原第288・459号線（洋光台入口～洋光台5丁目交差点）、洋光台通り（洋光台団地1号線）ほか 計829本

20 建築物緑化保全契約の締結

○建築物緑化保全契約の締結 4件

2019年度	3件	上中里町、汐見台、森二丁目
2021年度	1件	洋光台五丁目

21 名木古木の保存

○名木古木の保存

・新規指定

2019年度	11本	磯子三丁目(3本)、峰町(8本)
2021年度	2本	森二丁目(2本)

・維持管理の助成

2019年度	4本	杉田二丁目(2本)、原町(2本)
2020年度	1本	磯子三丁目
2021年度	4本	栗木二丁目、西町(3本)
2022年度	3本	磯子三丁目、栗木(2本)

22 地域緑のまちづくり

○地域緑のまちづくり事業に関する協定の締結 1地区

・新規

2019年度	1地区	磯子3丁目地区
--------	-----	---------

・継続

2019年度	3地区	磯子・岡村地区、汐見台2丁目地区、洋光台五街区周辺地区
2020年度	2地区	磯子3丁目地区、洋光台五街区周辺地区
2021年度	1地区	磯子3丁目地区
2022年度	1地区	磯子3丁目地区

23 地域に根差した緑や花の楽しみづくり

○緑や花を身近に感じる各区の取組

2019年度	はまぎんこども宇宙科学館でのガーデンベア立体花壇の設置
2020年度	JR洋光台駅前における立体花壇の設置
2021年度	公園愛護会周知サインの設置、区の花PRを目的とした区内の公園愛護会及び指定管理者への種配布
2022年度	公園愛護会周知サインの設置、区の花PRを目的とした区内の公園愛護会及び指定管理者への種配布

○地域の花いっぱいにつながる取組

2019年度	花の種の配布、花苗などの配布(坪呑公園ほか17か所)
2020年度	球根などの配布(泉谷公園ほか27か所)
2021年度	球根などの配布(泉谷第二公園ほか29か所)
2022年度	花壇講習会(汐見台二丁目公園)、球根などの配布(栗木花園緑地ほか16か所)

5 各区の実績
磯子区

24 人生記念樹の配布

○人生記念樹の配布 1,293 本

2019 年度 388 本

2020 年度 261 本

2021 年度 340 本

2022 年度 304 本

※過年度の報告書から本数を修正しました。

25 保育園・幼稚園・小中学校での緑の創出・育成

○緑の創出 9 箇所

2019 年度 2 箇所 浜小学校、汐見台中学校

2020 年度 2 箇所 さわの里小学校、浜小学校

2021 年度 3 箇所 梅林小学校、洋光台第四小学校、杉田小学校

2022 年度 2 箇所 杉田小学校、浜中学校

○緑の維持管理 12 箇所

2019 年度 4 箇所 滝頭保育園、洋光台第二保育園、岡村小学校、根岸中学校

2020 年度 4 箇所 滝頭保育園、洋光台第二保育園、岡村小学校、根岸中学校

2021 年度 2 箇所 洋光台第二保育園、岡村小学校

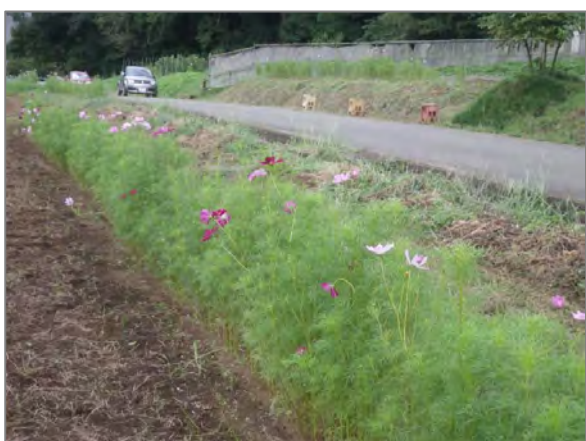
2022 年度 2 箇所 洋光台第二保育園、岡村小学校



1 緑地保全制度による新規指定
緑地保存地区（森二丁目）



1 緑地保全制度による新規指定
源流の森保存地区（峰町）



10 農景観を良好に維持する活動
（氷取沢畑地かんがい組合）



14 青空市・マルシェ等
（杉田野菜直売所）



22 地域緑のまちづくり
（磯子3丁目地区）



23 地域の花いっぱいにつながる取組
（汐見台二丁目公園）

5 各区の実績
磯子区



金沢区

主な実績

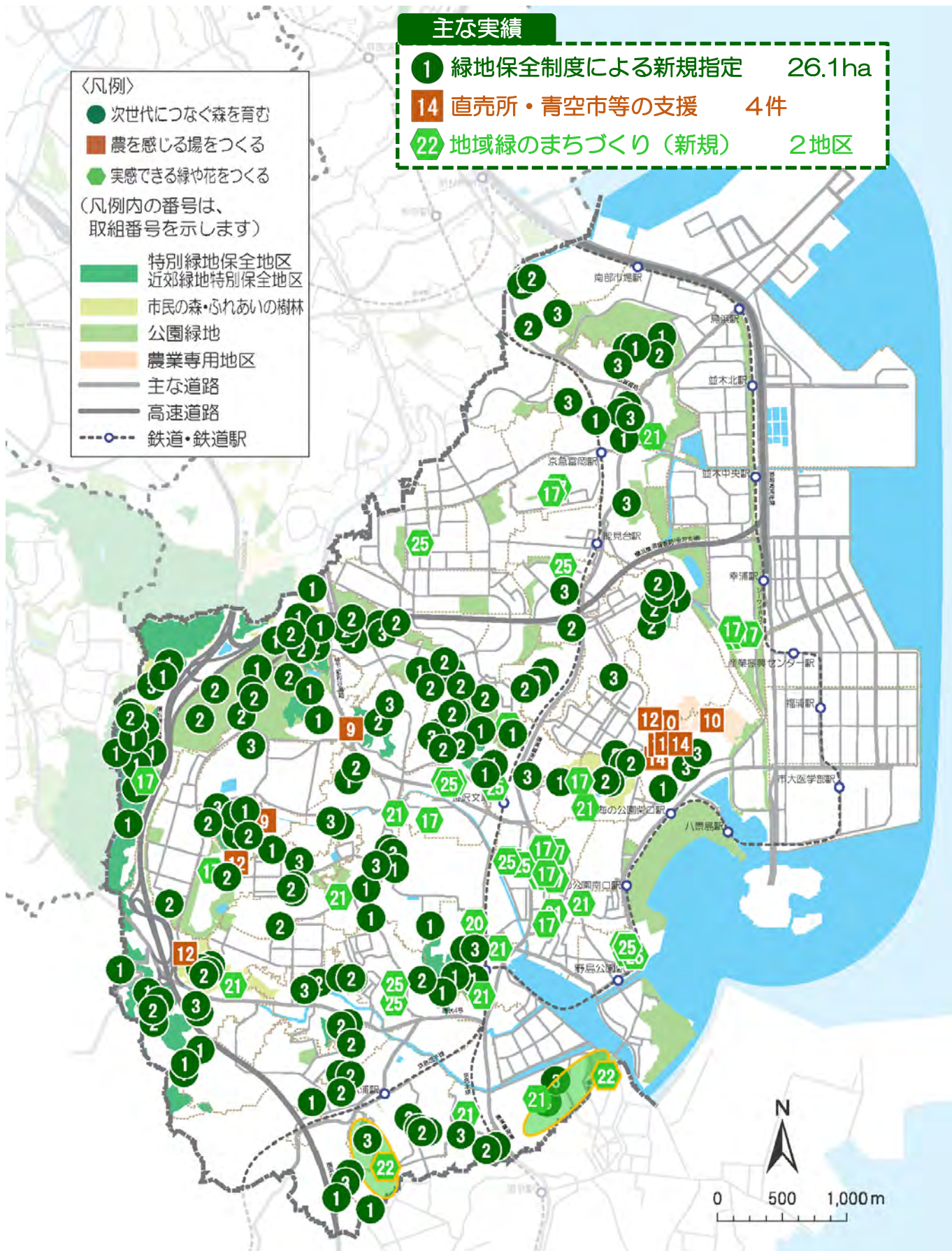
- ① 緑地保全制度による新規指定 26.1ha
- ⑭ 直売所・青空市等の支援 4件
- ⑳ 地域緑のまちづくり（新規） 2地区

〈凡例〉

- 次世代につなぐ森を育む
- 農を感じる場をつくる
- 実感できる緑や花をつくる

（凡例内の番号は、
取組番号を示します）

- 特別緑地保全地区
- 近郊緑地特別保全地区
- 市民の森・ふれあいの樹林
- 公園緑地
- 農業専用地区
- 主な道路
- 高速道路
- 鉄道・鉄道駅



計画の柱1 市民とともに次世代につなぐ森を育む

1 緑地保全制度による指定の拡大・市による買取り

○緑地保全制度による新規指定 26.1ha

・特別緑地保全地区・近郊緑地特別保全地区

2019年度 8.3ha 朝比奈特別緑地保全地区（指定拡大）、円海山近郊緑地特別保全地区（指定拡大）

2022年度 0.1ha 富岡東三丁目特別緑地保全地区（指定拡大）

・市民の森等

2019年度 0.8ha （仮称）御伊勢山・権現山市民の森（指定拡大）、（仮称）富岡東三丁目市民の森（指定拡大）

2021年度 1.8ha （仮称）富岡東三丁目市民の森（指定拡大）、金沢市民の森（指定拡大）

・緑地保存地区

2019年度 0.5ha 釜利谷東六丁目、瀬戸、大道二丁目、能見台六丁目（2件）

2020年度 0.2ha 柴町、富岡東五丁目、六浦東三丁目

2022年度 3.8ha 大川（2件）、釜利谷南一丁目、六浦三丁目、六浦南四丁目

・源流の森保存地区

2019年度 0.8ha 釜利谷町

2020年度 2.8ha 朝比奈町

・その他

2022年度 7.0ha 氷取沢市民の森、富岡東五丁目緑地

○市による買取り

・特別緑地保全地区・近郊緑地特別保全地区

2019年度 1地区 大丸山近郊緑地特別保全地区

2020年度 3地区 釜利谷特別緑地保全地区、釜利谷東五丁目特別緑地保全地区、大丸山近郊緑地特別保全地区

2021年度 3地区 朝比奈特別緑地保全地区管理用地、釜利谷東五丁目特別緑地保全地区、大丸山近郊緑地特別保全地区

2022年度 2地区 大丸山近郊緑地特別保全地区、御伊勢山・権現山特別緑地保全地区

・市民の森等

2021年度 1地区 称名寺市民の森管理用地

○保全した樹林地の整備 22 か所

2019 年度	7 か所	金沢市民の森（2 か所）、釜利谷市民の森、関ヶ谷市民の森（2 か所）、柴・長浜緑地、六浦五丁目緑地
2020 年度	7 か所	朝比奈特別緑地保全地区、釜利谷特別緑地保全地区（2 か所）、柴・長浜特別緑地保全地区、大丸山近郊緑地特別保全地区、釜利谷市民の森、関ヶ谷市民の森
2021 年度	5 か所	朝比奈特別緑地保全地区、釜利谷特別緑地保全地区、釜利谷東五丁目特別緑地保全地区、称名寺市民の森、関ヶ谷市民の森
2022 年度	3 か所	朝比奈特別緑地保全地区、釜利谷特別緑地保全地区、（仮称）御伊勢山・権現山市民の森

2 森の多様な機能に着目した森づくりの推進

○森の維持管理 80 か所

・保安全管理計画の策定（公園）

2019 年度	1 か所	金沢自然公園
2021 年度	1 か所	能見堂緑地

・維持管理（樹林地）

2019 年度	16 か所	朝比奈北市民の森、金沢市民の森、釜利谷市民の森、称名寺市民の森、関ヶ谷市民の森、朝比奈緑地、片吹緑地、釜利谷緑地、釜利谷南二丁目緑地、柴・長浜緑地、富岡東一丁目緑地、能見台六丁目緑地、六浦緑地、六浦三艘緑地、六浦東三丁目緑地、六浦五丁目緑地
2020 年度	18 か所	朝比奈北市民の森、金沢市民の森、釜利谷市民の森、称名寺市民の森、関ヶ谷市民の森、（仮称）富岡東三丁目市民の森、朝比奈緑地、片吹緑地、釜利谷緑地、釜利谷東三丁目緑地、釜利谷南二丁目緑地、柴・長浜緑地、富岡東一丁目緑地、能見台六丁目緑地、六浦緑地、六浦三艘緑地、六浦東三丁目緑地、六浦五丁目緑地
2021 年度	17 か所	朝比奈北市民の森、金沢市民の森、釜利谷市民の森、称名寺市民の森、関ヶ谷市民の森、朝比奈緑地、片吹緑地、釜利谷緑地、釜利谷東三丁目緑地、釜利谷南二丁目緑地、柴・長浜緑地、大道二丁目緑地、富岡東一丁目緑地、能見台六丁目緑地、六浦緑地、六浦三艘緑地、六浦五丁目緑地
2022 年度	18 か所	朝比奈北市民の森、金沢市民の森、釜利谷市民の森、称名寺市民の森、関ヶ谷市民の森、朝比奈緑地、片吹緑地、釜利谷緑地、釜利谷東三丁目緑地、釜利谷南二丁目緑地、柴・長浜緑地、大道二丁目緑地、富岡東一丁目緑地、能見台六丁目緑地、六浦緑地、六浦三艘緑地、六浦二丁目緑地、六浦五丁目緑地

・維持管理（公園）

2019 年度	3 か所	金沢自然公園、釜利谷五号緑地、能見堂緑地
2020 年度	2 か所	金沢自然公園、能見堂緑地
2021 年度	2 か所	金沢自然公園、能見堂緑地
2022 年度	2 か所	金沢自然公園、能見堂緑地

3 指定した樹林地における維持管理の支援

○維持管理の助成 39件

2019年度	8件	釜利谷町、釜利谷東七丁目、釜利谷南一丁目（2件）、釜利谷南四丁目、富岡東一丁目、西柴二丁目、六浦南四丁目
2020年度	11件	釜利谷町、釜利谷三丁目、釜利谷東三丁目、釜利谷東七丁目、釜利谷南一丁目、柴町（2件）、富岡東五丁目、能見台六丁目、六浦東三丁目、六浦南四丁目
2021年度	12件	朝比奈町、釜利谷東三丁目、釜利谷東四丁目、釜利谷南一丁目、柴町（2件）、富岡東五丁目（2件）、富岡西二丁目、富岡東六丁目、六浦東一丁目、六浦南四丁目
2022年度	8件	釜利谷南一丁目、瀬戸、大道一丁目、富岡東三丁目、富岡東五丁目、能見台東、六浦東一丁目、谷津町

計画の柱2 市民が身近に農を感じる場をつくる

9 特定農業用施設保全契約の締結

○特定農業用施設保全契約の締結 2件

2019年度	2件	釜利谷東四丁目、釜利谷東八丁目
--------	----	-----------------

10 農景観を良好に維持する活動の支援

○まとまりのある農地を良好に維持する団体の活動への支援

・集団農地維持 9.9ha

2019年度	9.8ha	柴農業機械利用組合
2020年度	9.9ha	柴農業機械利用組合
2021年度	9.8ha	柴農業機械利用組合
2022年度	9.9ha	柴農業機械利用組合

・農地縁辺部への植栽 4件

2019年度	1件	柴農業機械利用組合
2020年度	1件	柴農業機械利用組合
2021年度	1件	柴農業機械利用組合
2022年度	1件	柴農業機械利用組合

・井戸の改修 1地区

2019年度	1地区	横浜市金沢区柴土地改良区
--------	-----	--------------

○周辺環境に配慮した活動への支援

・牧草等による環境対策 0.10ha

2021年度	0.10ha	朝比奈町
--------	--------	------

12 様々な市民ニーズに合わせた農園の開設

○様々なニーズに合わせた農園の開設 0.24ha

・収穫体験農園

2019年度 0.14ha 釜利谷東八丁目

2021年度 0.02ha 柴町

・市民農園

2021年度 0.08ha 朝比奈町

14 地産地消にふれる機会の拡大

○直売所・青空市等の支援 4件

・青空市・マルシェ等

2019年度 1件 柴シーサイド恵みの里直売所

2020年度 1件 柴シーサイド恵みの里直売所

2021年度 1件 柴シーサイド恵みの里直売所

2022年度 1件 柴シーサイド恵みの里直売所

計画の柱3 市民が実感できる緑や花をつくる

17 公共施設・公有地での緑の創出・育成

○緑の創出 6か所

2020年度 1か所 富岡緑地

2021年度 1か所 富岡緑地

2022年度 4か所 金沢地区センター、金沢町公園、釜利谷第二公園、釜利谷緑道

○緑の維持管理 13か所

2019年度 4か所 金沢区庁舎、泥亀公園、長浜水路、釜利谷消防出張所

2020年度 3か所 金沢区庁舎、泥亀公園、長浜水路

2021年度 3か所 金沢区庁舎、泥亀公園、長浜水路

2022年度 3か所 金沢区庁舎、泥亀公園、長浜水路

5 各区の実績
金沢区

18 街路樹による良好な景観の創出・育成

○空き樹の補植

2020年度 高木 140 本、低木 852 本

○良好な維持管理

2019年度 洋光台第384号線（能見台）、杉田第590号線（並木）ほか 計 2,318本

2020年度 杉田第590号線（並木）、洋光台第384号線（能見台）ほか 計 2,473本

2021年度 杉田第590号線（並木）、洋光台第384号線（能見台）ほか 計 2,614本

2022年度 杉田第590号線（並木）、パークタウン団地周辺ほか 計1,905本

20 建築物緑化保全契約の締結

○建築物緑化保全契約の締結 2 件

2019年度 2 件 瀬戸、能見台五丁目

21 名木古木の保存

○名木古木の保存

・新規指定

2020年度 3 本 町屋町（3本）

・維持管理の助成

2019年度 2 本 六浦東二丁目（2本）

2020年度 5 本 釜利谷南一丁目（2本）、瀬戸（3本）

2021年度 9 本 朝比奈町、釜利谷南一丁目（4本）、瀬戸、町屋町（3本）

2022年度 5 本 金沢町、富岡東四丁目、六浦東一丁目（2本）、六浦東二丁目

※維持管理の助成について、過年度の報告書から実施箇所を修正しました。

22 地域緑のまちづくり

○地域緑のまちづくり事業に関する協定の締結 2 地区

・新規

2019年度 1 地区 六浦台地区

2022年度 1 地区 六浦東地区

・継続

2020年度 1 地区 六浦台地区

2021年度 1 地区 六浦台地区

2022年度 1 地区 六浦台地区

23 地域に根差した緑や花の楽しみづくり

○緑や花を身近に感じる各区の取組

2019年度	旧川合玉堂別邸（二松庵）庭園のリーフレット・ポスター作成、区の花「ボタン」の苗木配布、谷津坂第一公園におけるプロのガーデナーによる維持管理講習会の実施
2020年度	区内公園における区の花「ボタン」の植栽、谷津坂第一公園における維持管理講習会の実施、金沢八景駅前におけるプランター緑化
2021年度	区内27公園における区の花「ボタン」の植栽、「黒梅」の苗木購入、金沢土木事務所フラワーセンターにおけるボランティア活動支援
2022年度	公園愛護会による花苗の生産

○地域の花いっぱいにつながる取組

2019年度	花の種の配布、花苗などの配布（片吹公園ほか20か所）
2020年度	球根などの配布（北谷公園ほか115か所）
2021年度	球根などの配布（北谷公園ほか113か所）
2022年度	花壇講習会（能見台中央公園）、球根などの配布（阿王ヶ台公園ほか115か所）

24 人生記念樹の配布

○人生記念樹の配布 1,905本

2019年度	420本
2020年度	415本
2021年度	514本
2022年度	556本

※過年度の報告書から本数を修正しました。

25 保育園・幼稚園・小中学校での緑の創出・育成

○緑の創出 8か所

2019年度	1か所	聖星保育園
2020年度	4か所	聖星保育園、釜利谷東小学校、六浦小学校、富岡中学校
2021年度	1か所	きらら保育園
2022年度	2か所	釜利谷東小学校、六浦小学校

○緑の維持管理 10か所

2019年度	2か所	釜利谷東小学校、八景小学校
2020年度	1か所	八景小学校
2021年度	3か所	聖星保育園、釜利谷東小学校、八景小学校
2022年度	4か所	聖星保育園、釜利谷東小学校、八景小学校、六浦小学校

5 各区の実績
金沢区



1 緑地保全制度による新規指定
(富岡東三丁目特別緑地保全地区)



2 森の維持管理
(能見堂緑地)



10 農景観を良好に維持する活動
(柴農業機械利用組合)



14 収穫体験農園の開設
(柴シーサイド恵みの里)

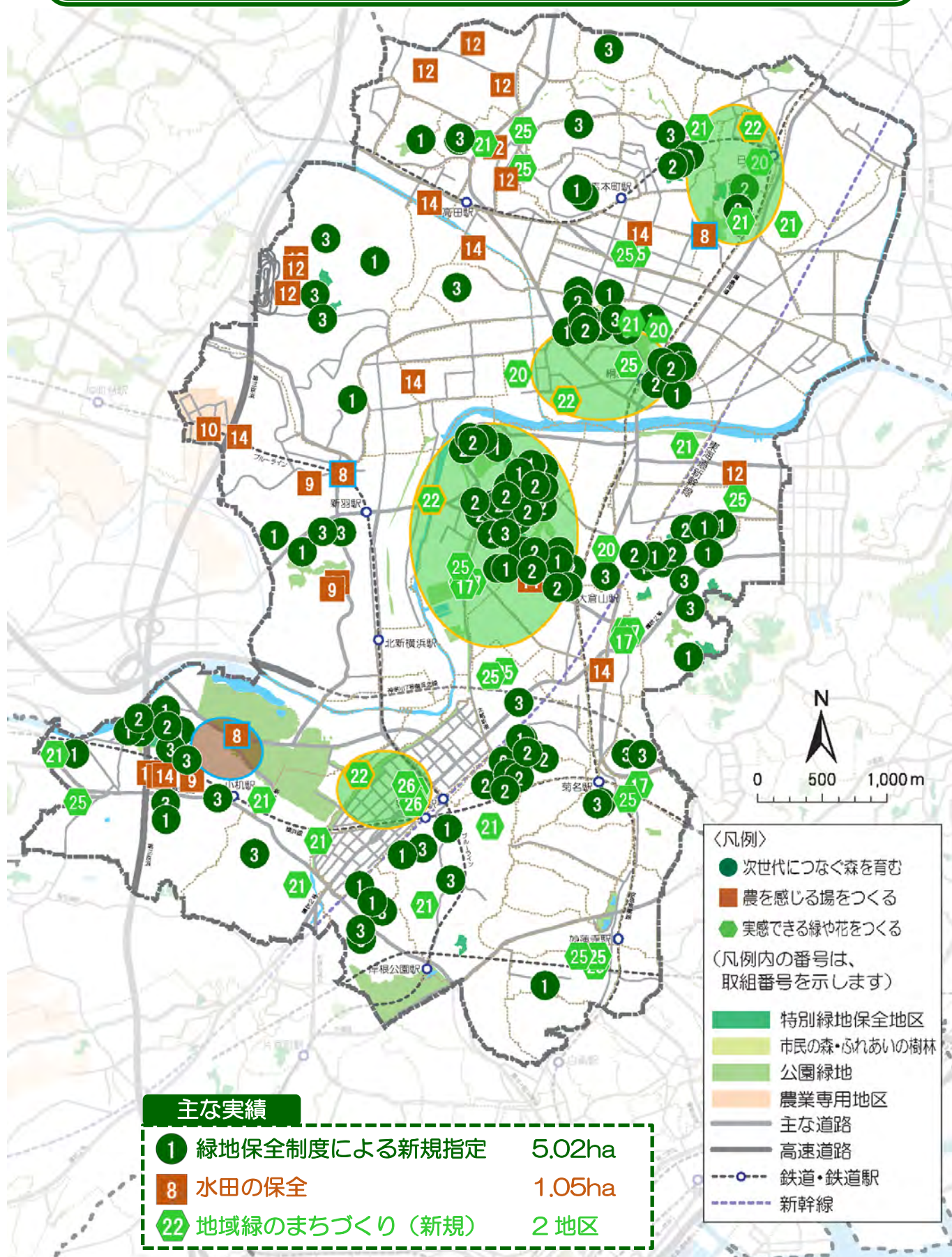


17 公共施設・公有地での緑の創出・育成
(金沢地区センター)



23 緑や花を身近に感じる各区の取組
(金沢土木事務所内フラワーセンター)

港北区



計画の柱1 市民とともに次世代につなぐ森を育む

1 緑地保全制度による指定の拡大・市による買取り

○緑地保全制度による新規指定 5.02ha

・特別緑地保全地区・近郊緑地特別保全地区

2020年度 0.6ha 大倉山特別緑地保全地区（指定拡大）、綱島特別緑地保全地区（指定拡大）

・市民の森等

2020年度 0.004ha 綱島市民の森（指定拡大）

2021年度 0.02ha 熊野神社市民の森（指定拡大）

・緑地保存地区

2019年度 0.2ha 大倉山六丁目、岸根町、小机町、師岡町

2020年度 1.2ha 小机町、篠原町

2022年度 2.0ha 岸根町、小机町、篠原町、綱島台、仲手原二丁目、大豆戸町、師岡町

・源流の森保存地区

2019年度 0.1ha 新吉田町

2020年度 0.3ha 新羽町（2か所）

2022年度 0.1ha 新吉田町

・その他

2021年度 0.5ha 熊野神社市民の森

○市による買取り

・特別緑地保全地区・近郊緑地特別保全地区

2019年度 2地区 熊野神社特別緑地保全地区、小机城址特別緑地保全地区

2021年度 1地区 大倉山特別緑地保全地区

・市民の森等

2019年度 1地区 綱島市民の森

・公園樹林部

2019年度 1地区 高田西公園

○保全した樹林地の整備 17か所

2019年度 4か所 大曽根台特別緑地保全地区、綱島市民の森、綱島東二丁目緑地、大豆戸緑地

2020年度 4か所 大倉山特別緑地保全地区、大曽根台特別緑地保全地区、小机城址市民の森、綱島東二丁目緑地

2021年度 4か所 大倉山特別緑地保全地区、大曽根台特別緑地保全地区、日吉特別緑地保全地区、熊野神社市民の森

2022年度 5か所 日吉特別緑地保全地区、熊野神社市民の森（4か所）

2 森の多様な機能に着目した森づくりの推進

○森の維持管理 52 か所

・維持管理（樹林地）

2019年度	13 か所	大倉山特別緑地保全地区、大曽根台特別緑地保全地区、日吉特別緑地保全地区、熊野神社市民の森、小机城址市民の森、綱島市民の森、大倉山二丁目緑地、篠原城址緑地、綱島東二丁目緑地、太尾緑地、棒田谷緑地、大豆戸緑地、牢尻緑地
2020年度	13 か所	大倉山特別緑地保全地区、大曽根台特別緑地保全地区、日吉特別緑地保全地区、熊野神社市民の森、小机城址市民の森、綱島市民の森、大倉山二丁目緑地、篠原城址緑地、綱島東二丁目緑地、太尾緑地、棒田谷緑地、大豆戸緑地、牢尻緑地
2021年度	13 か所	大倉山特別緑地保全地区、大曽根台特別緑地保全地区、日吉特別緑地保全地区、熊野神社市民の森、小机城址市民の森、綱島市民の森、大倉山二丁目緑地、篠原城址緑地、綱島東二丁目緑地、太尾緑地、棒田谷緑地、大豆戸緑地、牢尻緑地
2022年度	13 か所	大倉山特別緑地保全地区、大曽根台特別緑地保全地区、日吉特別緑地保全地区、熊野神社市民の森、小机城址市民の森、綱島市民の森、大倉山二丁目緑地、篠原城址緑地、綱島東二丁目緑地、太尾緑地、棒田谷緑地、大豆戸緑地、牢尻緑地

3 指定した樹林地における維持管理の支援

○維持管理の助成 57 件

2019年度	11 件	菊名五丁目、岸根町（2件）、小机町（2件）、下田町三丁目、綱島台、錦が丘、新羽町、大豆戸町、師岡町
2020年度	14 件	大倉山二丁目、岸根町（3件）、小机町、篠原町、新吉田町（4件）、鳥山町、日吉本町六丁目、箕輪町三丁目（2件）
2021年度	14 件	大倉山二丁目、菊名五丁目、小机町、新吉田町（8件）、新吉田東一丁目、高田西三丁目、師岡町
2022年度	18 件	岸根町（3件）、小机町（4件）、篠原町、下田町三丁目、新吉田町（3件）、高田西三丁目、綱島台、錦が丘、新羽町（2件）、師岡町

計画の柱2 市民が身近に農を感じる場をつくる

8 水田の保全

○水田保全面積 1.05ha

2019年度	1.05ha	小机町、新羽町、箕輪町三丁目
2020年度	1.05ha	小机町、新羽町、箕輪町三丁目
2021年度	1.05ha	小机町、新羽町、箕輪町三丁目
2022年度	1.05ha	小机町、新羽町、箕輪町三丁目

5 各区の実績
港北区

9 特定農業用施設保全契約の締結

○特定農業用施設保全契約の締結 3件

2019年度	1件	新羽町
2021年度	1件	小机町
2022年度	1件	新羽町

10 農景観を良好に維持する活動の支援

○まとまりのある農地を良好に維持する団体の活動への支援

・集団農地維持 11.0ha

2019年度	10.9ha	新羽大熊農業専用地区協議会（港北区・都筑区）
2020年度	11.0ha	新羽大熊農業専用地区協議会（港北区・都筑区）
2021年度	11.0ha	新羽大熊農業専用地区協議会（港北区・都筑区）
2022年度	11.0ha	新羽大熊農業専用地区協議会（港北区・都筑区）

・農地縁辺部への植栽 4件

2019年度	1件	新羽大熊農業専用地区協議会（港北区・都筑区）
2020年度	1件	新羽大熊農業専用地区協議会（港北区・都筑区）
2021年度	1件	新羽大熊農業専用地区協議会（港北区・都筑区）
2022年度	1件	新羽大熊農業専用地区協議会（港北区・都筑区）

○周辺環境に配慮した活動への支援

・牧草等による環境対策 0.75ha

2020年度	0.32ha	新羽町（3か所）
2021年度	0.33ha	新羽町（2か所）、日吉本町六丁目
2022年度	0.10ha	新羽町

12 様々な市民ニーズに合わせた農園の開設

○様々なニーズに合わせた農園の開設 0.69ha

・収穫体験農園

2019年度	0.03ha	新吉田町
2020年度	0.11ha	新吉田町（2件）
2022年度	0.14ha	高田町

・市民農園

2019年度	0.17ha	高田町、樽町三丁目
2020年度	0.16ha	高田町、高田東三丁目
2022年度	0.08ha	高田東三丁目

14 地産地消にふれる機会の拡大

○直売所・青空市等の支援 11 件

・直売所・加工所

2020 年度	5 件	大倉山三丁目、新吉田町、新吉田東八丁目、新羽町（2 件）
2022 年度	1 件	新吉田東三丁目

・青空市・マルシェ等

2019 年度	1 件	JA小机農産物直売所
---------	-----	------------

2020 年度	1 件	JA小机農産物直売所
---------	-----	------------

2021 年度	1 件	JA 小机農産物直売所
---------	-----	-------------

2022 年度	2 件	日吉朝市の会、港北支店 朝市
---------	-----	----------------

計画の柱3 市民が実感できる緑や花をつくる

17 公共施設・公有地での緑の創出・育成

○緑の創出 2 か所

2020 年度	1 か所	菊名コミュニティハウス
---------	------	-------------

2021 年度	1 か所	港北区庁舎
---------	------	-------

○緑の維持管理 7 か所

2019 年度	2 か所	港北区庁舎、港北土木事務所
---------	------	---------------

2020 年度	2 か所	港北区庁舎、港北土木事務所
---------	------	---------------

2021 年度	1 か所	港北土木事務所
---------	------	---------

2022 年度	2 か所	港北区庁舎、港北土木事務所
---------	------	---------------

18 街路樹による良好な景観の創出・育成

○空き樹の補植

2019 年度	低木 450 本
---------	----------

2020 年度	高木 3 本、低木 50 本
---------	----------------

2021 年度	低木 735 本
---------	----------

○良好な維持管理

2019 年度	環状2号線（鳥山町～大豆戸町）、環状2号線（大豆戸町～師岡町） ほか 計752本
---------	---

2020 年度	環状2号線（師岡町～鳥山町）、宮内新横浜線ほか 計796本
---------	-------------------------------

2021 年度	太尾新道、早渕川左岸（高田西）ほか 計992本
---------	-------------------------

2022 年度	環状2号線（大豆戸町～師岡町）、宮内新横浜線ほか 計492本
---------	--------------------------------

20 建築物緑化保全契約の締結

○建築物緑化保全契約の締結 4 件

2019 年度	2 件	大曽根一丁目、日吉本町一丁目
---------	-----	----------------

2022 年度	2 件	綱島上町、綱島台
---------	-----	----------

5 各区の実績
港北区

21 名木古木の保存

○名木古木の保存

・維持管理の助成

2020年度	8本	小机町(2本)、樽町四丁目、烏山町(3本)、箕輪町一丁目(2本)
2021年度	7本	小机町、篠原町、下田町三丁目、高田町(2本)、烏山町、箕輪町三丁目
2022年度	2本	篠原町、綱島台

22 地域緑のまちづくり

○地域緑のまちづくり事業に関する協定の締結 2地区

・新規

2019年度	1地区	綱島西地区
2020年度	1地区	日吉地区

・継続

2019年度	2地区	大倉山地区、新横浜二丁目地区
2020年度	3地区	大倉山地区、新横浜二丁目地区、綱島西地区
2021年度	2地区	綱島西地区、日吉地区
2022年度	2地区	綱島西地区、日吉地区

23 地域に根差した緑や花の楽しみづくり

○緑や花を身近に感じる各区の取組

2019年度	オープンガーデンの開催支援(新型コロナウイルス感染症の影響でイベント中止)、大倉山観梅会
2020年度	オープンガーデンの開催支援、花と木のウォーキングマップ制作
2021年度	オープンガーデンの開催支援
2022年度	オープンガーデンの開催支援、花と木のウォーキングマップ制作、大倉山観梅会

○地域の花いっぱいにつながる取組

2019年度	花の種の配布、花苗などの配布(新吉田第一公園ほか8か所)
2020年度	球根などの配布(市ノ坪公園ほか81か所)
2021年度	花壇づくり講習会(太尾堤緑道)、球根などの配布(市ノ坪公園ほか78か所)
2022年度	球根などの配布(大曽根第三公園ほか80か所)

24 人生記念樹の配布

○人生記念樹の配布 2,089本

2019年度	454本
2020年度	531本
2021年度	539本
2022年度	565本

※過年度の報告書から本数を修正しました。

25 保育園・幼稚園・小中学校での緑の創出・育成

○緑の創出 10 箇所

2019 年度 2 箇所 港北保育園、大豆戸小学校

2020 年度 2 箇所 高田東小学校、樽町中学校

2021 年度 2 箇所 港北保育園、大豆戸小学校

2022 年度 4 箇所 菊名保育園、港北保育園、小机幼稚園、南日吉保育園

○緑の維持管理 7 箇所

2019 年度 3 箇所 港北保育園、第二尚花愛児園、高田東小学校

2020 年度 1 箇所 高田東小学校

2021 年度 1 箇所 南日吉保育園

2022 年度 2 箇所 港北保育園、太尾小学校

26 都心臨海部等の緑花による魅力ある空間づくり

○緑花による空間づくりと維持管理 4 箇所

2019 年度 1 箇所 新横浜駅周辺

2020 年度 1 箇所 新横浜駅周辺

2021 年度 1 箇所 新横浜駅周辺

2022 年度 1 箇所 新横浜駅周辺

5 各区の実績
港北区



1 緑地保全制度による新規指定
緑地保存地区（綱島台）



2 森の維持管理
（大曽根台特別緑地保全地区）



8 水田の保全
（小机町）



10 農景観を良好に維持する活動
（新羽大熊農業専用地区協議会）



22 地域緑のまちづくり
（綱島西地区）

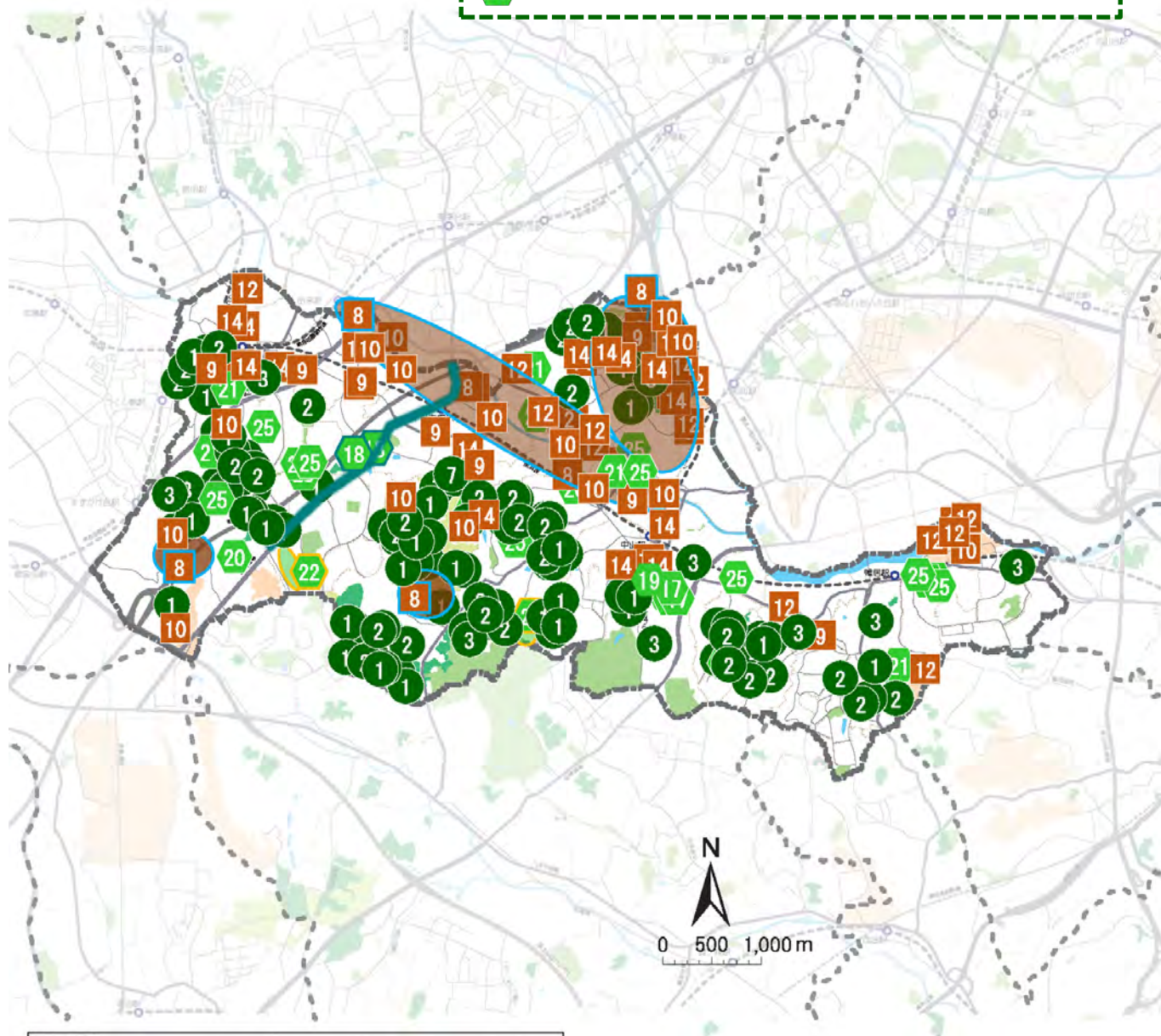


23 緑や花を身近に感じる各区の取組
（花と木のウォーキングマップ制作）

緑区

主な実績

- ① 緑地保全制度による新規指定 10.32ha
- ⑧ 水田の保全 33.94ha
- ⑫⑮ 保育園・幼稚園・小中学校での緑の創出 9か所



〈凡例〉	特別緑地保全地区
● 次世代につなぐ森を育む	市民の森・ふれあいの樹林
■ 農を感じる場をつくる	公園緑地
● 実感できる緑や花をつくる	農業専用地区
(凡例内の番号は、 取組番号を示します)	— 主な道路
	— 高速道路
	---○--- 鉄道・鉄道駅

計画の柱1 市民とともに次世代につなぐ森を育む

1 緑地保全制度による指定の拡大・市による買取り

○緑地保全制度による新規指定 10.32ha

・特別緑地保全地区・近郊緑地特別保全地区

2019年度 0.7ha 長津田町長月特別緑地保全地区（指定拡大）

2020年度 1.4ha 長津田町長月特別緑地保全地区（指定拡大）

・市民の森等

2019年度 0.2ha 新治市民の森（指定拡大）

2021年度 0.6ha 新治市民の森（指定拡大）

・緑地保存地区

2019年度 0.2ha 北八朔町

2021年度 0.1ha 白山三丁目

2022年度 0.02ha 白山三丁目

・源流の森保存地区

2019年度 0.9ha 寺山町、長津田町

2020年度 0.2ha 長津田町

2022年度 6.0ha 長津田町（4件）

○市による買取り

・特別緑地保全地区・近郊緑地特別保全地区

2019年度 3地区 台村町特別緑地保全地区、長津田町深田特別緑地保全地区、三保特別緑地保全地区

2021年度 1地区 三保特別緑地保全地区

2022年度 1地区 台村町特別緑地保全地区

・市民の森等

2019年度 1地区 新治市民の森

2020年度 1地区 新治市民の森

2022年度 2地区 （仮称）台村市民の森、新治市民の森

○保全した樹林地の整備 31か所

2019年度 3か所 長津田宿市民の森、長津田長月特別緑地保全地区、新治市民の森

2020年度 9か所 上山・白山特別緑地保全地区、北八朔町中特別緑地保全地区、北八朔町南特別緑地保全地区、台村町特別緑地保全地区、寺山町本谷特別緑地保全地区、三保特別緑地保全地区、新治市民の森、三保市民の森、長津田みなみ台二丁目緑地

2021年度 9か所 北八朔中特別緑地保全地区、北八朔南特別緑地保全地区、寺山町本谷特別緑地保全地区、鴨居原市民の森、新治市民の森（3か所）、三保市民の森（2か所）

2022年度 10か所 長津田町馬ノ背特別緑地保全地区、長津田宿市民の森、新治市民の森（6か所）、三保市民の森、三保不動緑地

2 森の多様な機能に着目した森づくりの推進

○森の維持管理 55 か所

・維持管理（樹林地）

2019年度 9 か所 上山・白山特別緑地保全地区、天神の杜特別緑地保全地区、鴨居原市民の森、新治市民の森、三保市民の森、上山ふれあいの樹林、長津田みなみ台二丁目緑地、三保中道緑地、三保不動緑地

2020年度 12 か所 上山・白山特別緑地保全地区、天神の杜特別緑地保全地区、三保特別緑地保全地区、三保町東谷特別緑地保全地区、鴨居原市民の森、長津田宿市民の森、新治市民の森、三保市民の森、上山ふれあいの樹林、長津田みなみ台二丁目緑地、三保中道緑地、三保不動緑地

2021年度 14 か所 上山・白山特別緑地保全地区、天神の杜特別緑地保全地区、西八朔町藤林特別緑地保全地区、（仮称）三保町杉沢特別緑地保全地区、三保町杉沢堰特別緑地保全地区、三保町東谷特別緑地保全地区、鴨居原市民の森、長津田宿市民の森、新治市民の森、三保市民の森、上山ふれあいの樹林、長津田みなみ台二丁目緑地、三保中道緑地、三保不動緑地

2022年度 12 か所 上山・白山特別緑地保全地区、天神の杜特別緑地保全地区、三保特別緑地保全地区、三保町東谷特別緑地保全地区、鴨居原市民の森、長津田宿市民の森、新治市民の森、三保市民の森、上山ふれあいの樹林、長津田みなみ台二丁目緑地、三保中道緑地、三保不動緑地

・維持管理（公園）

2019年度 2 か所 北八朔公園、玄海田公園

2020年度 2 か所 北八朔公園、玄海田公園

2021年度 2 か所 北八朔公園、玄海田公園

2022年度 2 か所 北八朔公園、玄海田公園

3 指定した樹林地における維持管理の支援

○維持管理の助成 29 件

2019年度 7 件 北八朔町（2件）、長津田町（2件）、中山四丁目、三保町（2件）

2020年度 8 件 鴨居四丁目（2件）、寺山町、長津田町（2件）、東本郷六丁目、三保町（2件）

2021年度 9 件 北八朔町、長津田町（2件）、長津田七丁目、白山二丁目、三保町（4件）

2022年度 5 件 長津田町（2件）、新治町、三保町（2件）

7 森に関する情報発信

○ウェルカムセンター周辺の緑を活用したイベント等

2019年度 新治里山公園にいはる里山交流センター

2020年度 新治里山公園にいはる里山交流センター

2021年度 新治里山公園にいはる里山交流センター

2022年度 新治里山公園にいはる里山交流センター

計画の柱2 市民が身近に農を感じる場をつくる

8 水田の保全

○水田保全面積 33.94ha

2019年度	34.65ha	いぶき野、北八朔町、小山町、十日市場町、長津田町、新治町、西八朔町、三保町
2020年度	34.43ha	いぶき野、北八朔町、小山町、十日市場町、長津田町、新治町、西八朔町、三保町
2021年度	34.75ha	いぶき野、北八朔町、小山町、十日市場町、長津田町、新治町、西八朔町、三保町
2022年度	33.94ha	いぶき野、北八朔町、小山町、十日市場町、長津田町、新治町、西八朔町

○水源・水路の確保 3か所

2020年度	1か所	十日市場農業専用地区協議会
2021年度	2か所	新治町水利組合、小山西八朔用水組合

9 特定農業用施設保全契約の締結

○特定農業用施設保全契約の締結 11件

2019年度	3件	北八朔町(2件)、十日市場町
2020年度	2件	いぶき野、鴨居六丁目
2021年度	2件	北八朔町、新治町
2022年度	4件	いぶき野、小山町、長津田五丁目、長津田町

10 農景観を良好に維持する活動の支援

○まとまりのある農地を良好に維持する団体の活動への支援

・集団農地維持 129.3ha

2019年度 128.2ha 御嶽堂水利組合、向原地区畑地かんがい組合、長津田後谷戸耕作組合、新林水利組合、柳町水利組合、新治町水利組合、十日市場農業専用地区協議会、鴨居東本郷農業専用地区協議会、長津田台農業専用地区協議会、小山西八朔用水組合、北八朔農業専用地区協議会、岡部谷戸水利組合

2020年度 129.3ha 御嶽堂水利組合、向原地区畑地かんがい組合、長津田後谷戸耕作組合、新林水利組合、柳町水利組合、新治町水利組合、十日市場農業専用地区協議会、鴨居東本郷農業専用地区協議会、長津田台農業専用地区協議会、小山西八朔用水組合、北八朔農業専用地区協議会、岡部谷戸水利組合

2021年度 129.3ha 御嶽堂水利組合、向原地区畑地かんがい組合、長津田後谷戸耕作組合、新林水利組合、柳町水利組合、新治町水利組合、十日市場農業専用地区協議会、鴨居東本郷農業専用地区協議会、長津田台農業専用地区協議会、小山西八朔用水組合、北八朔農業専用地区協議会、岡部谷戸水利組合

2022年度 129.3ha 御嶽堂水利組合、向原地区畑地かんがい組合、長津田後谷戸耕作組合、新林水利組合、柳町水利組合、新治町水利組合、十日市場農業専用地区協議会、鴨居東本郷農業専用地区協議会、長津田台農業専用地区協議会、小山西八朔用水組合、北八朔農業専用地区協議会、岡部谷戸水利組合

・農地縁辺部への植栽 10件

2019年度 2件 田奈恵みの里推進委員会（緑区・青葉区）、新治恵みの里発展会

2020年度 2件 田奈恵みの里推進委員会（緑区・青葉区）、新治恵みの里発展会

2021年度 3件 田奈恵みの里推進委員会（緑区・青葉区）、新治恵みの里発展会、北八朔恵みの里連絡会

2022年度 3件 田奈恵みの里推進委員会（緑区・青葉区）、新治恵みの里発展会、北八朔恵みの里連絡会

・土砂流出防止対策 1件

2019年度 1件 長津田台農業専用地区協議会

○周辺環境に配慮した活動への支援

・牧草等による環境対策 2.8ha

2019年度 0.83ha 長津田町（5か所）、長津田三丁目

2020年度 0.29ha 長津田町（5か所）

2021年度 0.79ha 長津田町（7か所）、長津田三丁目

2022年度 0.89ha 鴨居町、長津田町（6か所）、長津田三丁目

・たい肥化設備等の支援 3件

2019年度 2件 北八朔町、長津田町

2020年度 1件 新治町

※農地縁辺部への植栽について、過年度の報告書から実施箇所を修正しました。

12 様々な市民ニーズに合わせた農園の開設

○様々なニーズに合わせた農園の開設 2.29ha

・収穫体験農園

2019年度 0.64ha 鴨居町、北八朔町（3か所）、東本郷町

2020年度 0.66ha 北八朔町（2か所）、小山町（2か所）、東本郷町

2021年度 0.41ha 小山町（3か所）、長津田三丁目、東本郷町

2022年度 0.20ha 小山町（2か所）

・市民農園

2020年度 0.16ha 白山二丁目、西八朔町

2022年度 0.22ha 東本郷町

14 地産地消にふれる機会の拡大

○直売所・青空市等の支援 23件

・直売所・加工所

2019年度 1件 十日市場町

2021年度 4件 北八朔町、長津田四丁目（3件）

2022年度 3件 北八朔町（3件）

・青空市・マルシェ等

2019年度 3件 長津田支店前野菜直売会、みどり地場野菜の直売会、北八朔日曜朝市

2020年度 4件 長津田支店前野菜直売会、みどり地場野菜の直売会、北八朔日曜朝市、北八朔農産物直売所

2021年度 3件 長津田支店前野菜直売会、北八朔日曜朝市、北八朔農産物直売所

2022年度 5件 長津田支店前野菜直売会、北八朔農産物直売所、にいほる長屋門朝市、みどり地場野菜の直売会、中山駅前梨直売所

計画の柱3 市民が実感できる緑や花をつくる

17 公共施設・公有地での緑の創出・育成

○緑の創出 1か所

2022年度 1か所 緑区庁舎

○緑の維持管理 4か所

2019年度 1か所 緑区庁舎

2020年度 1か所 緑区庁舎

2021年度 1か所 緑区庁舎

2022年度 1か所 緑区庁舎

18 街路樹による良好な景観の創出・育成

○並木の再生

2019年度	1路線	環状4号線（整備中）
2020年度	1路線	環状4号線（整備中）
2021年度	1路線	環状4号線（整備中）
2022年度	1路線	環状4号線（整備中）

○空き樹の補植

2021年度	高木8本、低木45本
2022年度	高木12本、低木24本

○良好な維持管理

2019年度	環状4号線（霧が丘～十日市場町）、霧が丘長津田線（長津田みなみ台地区）ほか 計799本
2020年度	環状4号線（長津田町）、竹山中公園通りほか 計880本
2021年度	環状4号線（霧が丘～十日市場町）、白山高校通り 計846本
2022年度	白山高校通り、十日市場団地通りほか 計919本

19 シンボリックな緑の創出・育成

○公開性のある緑空間の創出支援 1か所

2022年度	1か所	中山五丁目
--------	-----	-------

20 建築物緑化保全契約の締結

○建築物緑化保全契約の締結 3件

2020年度	3件	長津田町、白山三丁目、三保町
--------	----	----------------

21 名木古木の保存

○名木古木の保存

・新規指定

2019年度	1本	鴨居町
2020年度	1本	長津田町

・維持管理の助成

2019年度	6本	小山町、長津田町（4本）、西八朔町
2020年度	1本	西八朔町
2021年度	1本	長津田町
2022年度	3本	小山町、長津田町（2本）

22 地域緑のまちづくり

○地域緑のまちづくり事業に関する協定の締結

・継続

2019年度	2地区	霧が丘六丁目地区、武蔵中山台地区
--------	-----	------------------

23 地域に根差した緑や花の楽しみづくり

○緑や花を身近に感じる各区の取組

2019年度	みどりオープンガーデンに向けた寄せ植え講座、区内公園愛護会への花苗支援・寄せ植え講座
2020年度	区内公園愛護会への花苗支援（春57公園、秋67公園）
2021年度	区内公園愛護会への花苗支援、寄せ植え講座の動画配信
2022年度	区内公園愛護会への花苗支援

○地域の花いっぱいにつながる取組

2019年度	花の種の配布、花苗などの配布（森の台中ノ谷公園ほか 14 か所）
2020年度	球根などの配布（東本郷公園ほか 67 か所）
2021年度	球根などの配布（北八朔公園ほか 68 か所）
2022年度	球根などの配布（鴨居西河内第二公園ほか 73 か所）

24 人生記念樹の配布

○人生記念樹の配布 1,309 本

2019年度	315 本
2020年度	323 本
2021年度	340 本
2022年度	331 本

※過年度の報告書から本数を修正しました。

25 保育園・幼稚園・小中学校での緑の創出・育成

○緑の創出 9 か所

2019年度	2 か所	みなみ台保育園アネックス、新治小学校
2020年度	3 か所	みもざ保育園、新治小学校、三保小学校
2021年度	3 か所	小山保育園、みもざ保育園、中山小学校
2022年度	1 か所	もりの風保育園

○緑の維持管理 6 か所

2019年度	1 か所	鴨居保育園
2020年度	1 か所	鴨居保育園
2021年度	1 か所	鴨居保育園
2022年度	3 か所	鴨居保育園、小山保育園、みもざ保育園



1 緑地保全制度による新規指定
源流の森保存地区（長津田町）



2 森の維持管理
（北八朔公園）



8 水田の保全
（いぶき野）



10 農地縁辺部への植栽
（北八朔町）



19 公開性のある緑空間の創出支援



23 地域の花いっぱいにつながる取組
（十日市場象ヶ谷公園）

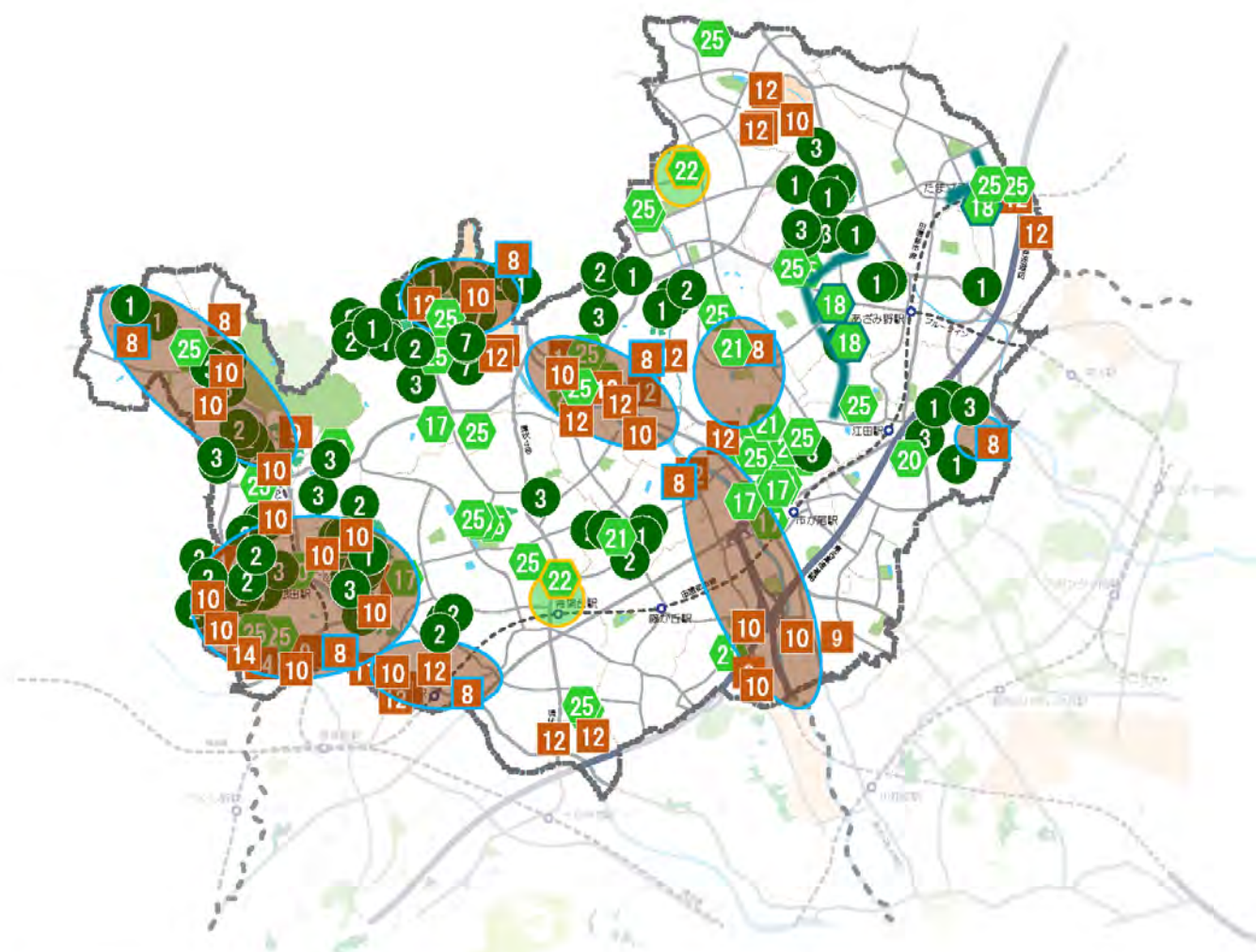
5 各区の実績
緑区



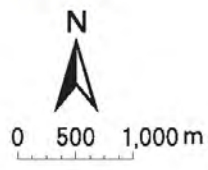
青葉区

主な実績

- 1 緑地保全制度による新規指定 11.95ha
- 8 水田の保全 39.19ha
- 22 地域緑のまちづくり（新規） 2地区



<p>〈凡例〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 次世代につなぐ森を育む ■ 農を感じる場をつくる ● 実感できる緑や花をつくる <p>(凡例内の番号は、 取組番号を示します)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■ 特別緑地保全地区 ■ 市民の森・ふれあいの樹林 ■ 公園緑地 ■ 農業専用地区 — 主な道路 — 高速道路 —● 鉄道・鉄道駅
---	---



計画の柱1 市民とともに次世代につなぐ森を育む

1 緑地保全制度による指定の拡大・市による買取り

○緑地保全制度による新規指定 11.95ha

・特別緑地保全地区・近郊緑地特別保全地区

2020年度 2.7ha 恩田町特別緑地保全地区（指定拡大）、寺家町居谷戸特別緑地保全地区

2021年度 2.5ha 寺家町居谷戸特別緑地保全地区（指定拡大）

2022年度 0.1ha 奈良町西ノ谷特別緑地保全地区（指定拡大）

・緑地保存地区

2019年度 0.03ha あざみ野四丁目、新石川二丁目

2020年度 0.02ha あざみ野四丁目

2021年度 1.5ha あざみ野一丁目、あざみ野二丁目

・源流の森保存地区

2019年度 0.3ha 鉄町

2020年度 0.9ha 荏田町（2か所）、恩田町、寺家町

2022年度 0.3ha 荏田町

・その他

2021年度 3.6ha 青葉鴨志田西地区

○市による買取り

・特別緑地保全地区・近郊緑地特別保全地区

2019年度 2地区 恩田東部特別緑地保全地区、奈良町西ノ谷特別緑地保全地区

2020年度 6地区 恩田町特別緑地保全地区、恩田東部特別緑地保全地区、鉄町下ノ谷戸特別緑地保全地区、寺家特別緑地保全地区、寺家町居谷戸特別緑地保全地区、元石川町平崎北特別緑地保全地区

2021年度 1地区 寺家町居谷戸特別緑地保全地区

○保全した樹林地の整備 11か所

2019年度 1か所 恩田東部特別緑地保全地区

2020年度 3か所 恩田東部特別緑地保全地区、元石川町平崎特別緑地保全地区、もえぎ野ふれあいの樹林

2021年度 4か所 恩田東部特別緑地保全地区、鉄町富士塚台特別緑地保全地区、寺家町居谷戸特別緑地保全地区、もえぎ野ふれあいの樹林

2022年度 3か所 恩田東部特別緑地保全地区、元石川町平崎特別緑地保全地区、寺家ふるさとの森

2 森の多様な機能に着目した森づくりの推進

○森の維持管理 30 箇所

・維持管理（樹林地）

2019 年度	5 箇所	寺家ふるさとの森、もえぎ野ふれあいの樹林、榎が丘緑地、恩田緑地、恩田町九郎治谷緑地
2020 年度	7 箇所	鉄町富士塚台特別緑地保全地区、（仮称）恩田市民の森、寺家ふるさとの森、もえぎ野ふれあいの樹林、榎が丘緑地、恩田緑地、恩田町九郎治谷緑地
2021 年度	7 箇所	鉄町富士塚台特別緑地保全地区、（仮称）恩田市民の森、寺家ふるさとの森、もえぎ野ふれあいの樹林、榎が丘緑地、恩田緑地、恩田町九郎治谷緑地
2022 年度	7 箇所	鉄町富士塚台特別緑地保全地区、（仮称）恩田市民の森、寺家ふるさとの森、もえぎ野ふれあいの樹林、榎が丘緑地、恩田緑地、恩田町九郎治谷緑地

・維持管理（公園）

2019 年度	1 箇所	奈良山公園
2020 年度	1 箇所	奈良山公園
2021 年度	1 箇所	奈良山公園
2022 年度	1 箇所	鴨志田公園

3 指定した樹林地における維持管理の支援

○維持管理の助成 31 件

2019 年度	9 件	あざみ野四丁目、恩田町、寺家町、すみよし台、たちばな台二丁目、奈良町（3件）、奈良町四丁目
2020 年度	12 件	あざみ野四丁目、荏田町（4件）、恩田町、鴨志田町、寺家町、奈良四丁目、奈良町（2件）、元石川町
2021 年度	3 件	あざみ野四丁目、恩田町、鉄町
2022 年度	7 件	荏田町、荏田北二丁目、恩田町、すみよし台、奈良町（2件）、奈良四丁目

7 森に関する情報発信

○ウェルカムセンター周辺の緑を活用したイベント等

2019 年度	寺家ふるさと村四季の家
2020 年度	寺家ふるさと村四季の家
2021 年度	寺家ふるさと村四季の家
2022 年度	寺家ふるさと村四季の家

計画の柱2 市民が身近に農を感じる場をつくる

8 水田の保全

○水田保全面積 39.19ha

2019年度 37.96ha 市ケ尾町、荇田町、大場町、恩田町、上谷本町、鉄町、寺家町、
下谷本町、田奈町、奈良町

2020年度 38.27ha 市ケ尾町、荇田町、大場町、恩田町、上谷本町、鉄町、寺家町、
下谷本町、田奈町、奈良町

2021年度 38.49ha 市ケ尾町、荇田町、大場町、恩田町、上谷本町、鉄町、寺家町、
下谷本町、田奈町、奈良町

2022年度 39.19ha 市ケ尾町、荇田町、大場町、恩田町、上谷本町、鉄町、寺家町、
下谷本町、田奈町、奈良町

○水源・水路の確保 3か所

2019年度 2か所 苗万坂水利組合、恩田水利組合

2020年度 1か所 田奈地区水利・耕作組合連絡協議会（杉山耕作組合）

9 特定農業用施設保全契約の締結

○特定農業用施設保全契約の締結 4件

2019年度 2件 恩田町、奈良町

2022年度 2件 市ケ尾町、千草台

10 農景観を良好に維持する活動の支援

○まとまりのある農地を良好に維持する団体の活動への支援

・集団農地維持 122.7ha

2019年度 120.6ha 杉山耕作組合、奈良堰下水利組合、白山谷戸水利組合、鴨志田町上耕地水利組合、じじ池水利組合、宮前水利組合、苗万坂水利組合、仲居水利組合、鍛冶谷戸耕作組合、下市ヶ尾水利組合、上谷本地区農用地利用改善組合、恩田水利組合、上和田堰水利組合、鉄大場市ヶ尾水利組合、保木農用地利用改善組合、番匠谷かんがい組合、寺家ふるさと村体験農業振興組合

2020年度 121.9ha 杉山耕作組合、奈良堰下水利組合、白山谷戸水利組合、じじ池水利組合、宮前水利組合、苗万坂水利組合、仲居水利組合、鍛冶谷戸耕作組合、下市ヶ尾水利組合、上谷本地区農用地利用改善組合、恩田水利組合、上和田堰水利組合、鉄大場市ヶ尾水利組合、保木農用地利用改善組合、番匠谷かんがい組合、寺家ふるさと村体験農業振興組合

2021年度 127.9ha 杉山耕作組合、奈良堰下水利組合、白山谷戸水利組合、じじ池水利組合、宮前水利組合、苗万坂水利組合、仲居水利組合、鍛冶谷戸耕作組合、下市ヶ尾水利組合、上谷本地区農用地利用改善組合、恩田水利組合、上和田堰水利組合、鉄大場市ヶ尾水利組合、保木農用地利用改善組合、番匠谷かんがい組合、寺家ふるさと村体験農業振興組合

2022年度 122.7ha 杉山耕作組合、奈良堰下水利組合、白山谷戸水利組合、じじ池水利組合、宮前水利組合、苗万坂水利組合、仲居水利組合、鍛冶谷戸耕作組合、下市ヶ尾水利組合、上谷本地区農用地利用改善組合、恩田水利組合、上和田堰水利組合、鉄大場市ヶ尾水利組合、保木農用地利用改善組合、番匠谷かんがい組合、寺家ふるさと村体験農業振興組合、奈良土橋水利組合

・農地縁辺部への植栽 4件

2019年度 1件 田奈恵みの里推進委員会（緑区・青葉区）

2020年度 1件 田奈恵みの里推進委員会（緑区・青葉区）

2021年度 1件 田奈恵みの里推進委員会（緑区・青葉区）

2022年度 1件 田奈恵みの里推進委員会（緑区・青葉区）

・土砂流出防止対策 1件

2019年度 1件 保木農用地利用改善組合

○周辺環境に配慮した活動への支援

・牧草等による環境対策 1.12ha

2019年度 0.08ha 恩田町

2020年度 0.37ha 元石川町（2か所）

2021年度 0.45ha 恩田町、元石川町（2か所）

2022年度 0.22ha 恩田町（2か所）、田奈町

5 各区の実績
青葉区

11 多様な主体による農地の利用促進

○遊休農地の復元支援 0.20ha

2019年度 0.20ha 恩田町

12 様々な市民ニーズに合わせた農園の開設

○様々なニーズに合わせた農園の開設 1.92ha

・収穫体験農園

2020年度 0.29ha 鉄町、元石川町

2021年度 0.45ha 市ヶ尾町、鴨志田町、元石川町

2022年度 0.26ha 上谷本町、鉄町、元石川町

・市民農園

2019年度 0.08ha あかね台一丁目

2020年度 0.29ha 上谷本町、鉄町（2か所）、新石川四丁目（2か所）

2021年度 0.14ha 田奈町、元石川町

2022年度 0.41ha 梅が丘、鉄町、さつきが丘、田奈町、寺家町

14 地産地消にふれる機会の拡大

○直売所・青空市等の支援 3件

・直売所・加工所

2021年度 2件 恩田町（2件）

2022年度 1件 恩田町

計画の柱3 市民が実感できる緑や花をつくる

17 公共施設・公有地での緑の創出・育成

○緑の創出 3か所

2021年度 2か所 市ヶ尾第三公園、松風台第三公園

2022年度 1か所 青葉消防署

○緑の維持管理 7か所

2019年度 3か所 青葉区庁舎、青葉消防署、鴨志田消防出張所

2020年度 1か所 青葉区庁舎

2021年度 1か所 青葉区庁舎

2022年度 2か所 青葉区庁舎、青葉消防署

18 街路樹による良好な景観の創出・育成

○並木の再生

2019年度	1路線	あざみ野中学校通り（整備中）
2020年度	2路線	あざみ野中学校通り（整備中）、たまプラーザ駅周辺（整備中）
2021年度	2路線	あざみ野中学校通り（整備中）、たまプラーザ駅周辺（整備完了）
2022年度	1路線	あざみ野中学校通り（整備完了）

○空き樹の補植

2020年度	高木32本、低木113本
2021年度	高木21本、低木8本
2022年度	高木11本、低木537本

○良好な維持管理

2019年度	美しが丘西第296号線・黒須田第199号線（すすき野）、美しが丘第162号線（山内地区センター通り）ほか 計2,075本
2020年度	黒須田第133号線・寺家第7号線（もみの木台～あざみ野駅）、新横浜元石川線（美しが丘公園～あざみ野駅）ほか 計1,765本
2021年度	美しが丘西第296号線・黒須田第199号線（すすき野）、美しが丘第162号線（山内地区センター通り）ほか 計2,082本
2022年度	黒須田第133号線・寺家第7号線（もみの木台～あざみ野駅）、鴨志田第240号線（藤が丘消防署通り）ほか 計1,928本

20 建築物緑化保全契約の締結

○建築物緑化保全契約の締結 4件

2019年度	2件	あかね台一丁目、奈良町
2020年度	1件	鉄町
2022年度	1件	桂田西二丁目

21 名木古木の保存

○名木古木の保存

・維持管理の助成

2021年度	2本	鉄町、千草台
2022年度	7本	鉄町、もえぎ野（6本）

22 地域緑のまちづくり

○地域緑のまちづくり事業に関する協定の締結 2地区

・新規

2020年度	1地区	すすき野三丁目地区
2021年度	1地区	青葉台地区

・継続

2021年度	1地区	すすき野三丁目地区
2022年度	2地区	青葉台地区、すすき野三丁目地区

23 地域に根差した緑や花の楽しみづくり

○緑や花を身近に感じる各区の取組

2019年度	地元NPOと連携した花と緑の風土づくり・普及啓発（フラワーダイアログ）に関するプログラム
2020年度	地元NPOと連携した花と緑の風土づくり・普及啓発（フラワーダイアログ）に関するプログラム
2021年度	地元NPOと連携した花と緑の風土づくり・普及啓発（フラワーダイアログ）に関するプログラム
2022年度	オープンガーデンの開催と花苗配布等支援、公園愛護会のピブス制作と配布

○地域の花いっぱいにつながる取組

2019年度	花の種の配布、花苗などの配布（みたけ台公園ほか17か所）
2020年度	球根などの配布（青葉台第三公園ほか93か所）
2021年度	球根などの配布（青葉台公園ほか106か所）
2022年度	球根などの配布（青葉台公園ほか98か所）

24 人生記念樹の配布

○人生記念樹の配布 3,564本

2019年度	845本
2020年度	888本
2021年度	937本
2022年度	894本

※過年度の報告書から本数を修正しました。

25 保育園・幼稚園・小中学校での緑の創出・育成

○緑の創出 19か所

2019年度	4か所	荇田保育園、青葉台小学校、あざみ野第一小学校、黒須田小学校
2020年度	5か所	荇田北保育園、青葉台小学校、市ケ尾小学校、奈良の丘小学校、あかね台中学校
2021年度	7か所	荇田北保育園、すすき野保育園、青葉台小学校、あざみ野第一小学校、市ケ尾小学校、青葉台中学校、あかね台中学校
2022年度	3か所	荇田北保育園、美しが丘西小学校、鉄小学校

○緑の維持管理 21か所

2019年度	6か所	美しが丘保育園、荇田保育園、奈良保育園、鉄小学校、つつしが丘小学校、鴨志田中学校
2020年度	4か所	荇田保育園、鉄小学校、つつしが丘小学校、鴨志田中学校
2021年度	5か所	美しが丘保育園、荇田保育園、奈良保育園、鉄小学校、鴨志田中学校
2022年度	6か所	美しが丘保育園、荇田保育園、荇田北保育園、すすき野保育園、奈良保育園、鴨志田中学校



1 緑地保全制度による新規指定
(奈良町西ノ谷特別緑地保全地区)



1 緑地保全制度による新規指定
源流の森保存地区(荏田町)



8 水田の保全
(寺家町)



12 収穫体験農園の開設
(鉄町)



22 地域緑のまちづくり
(すすき野三丁目地区)

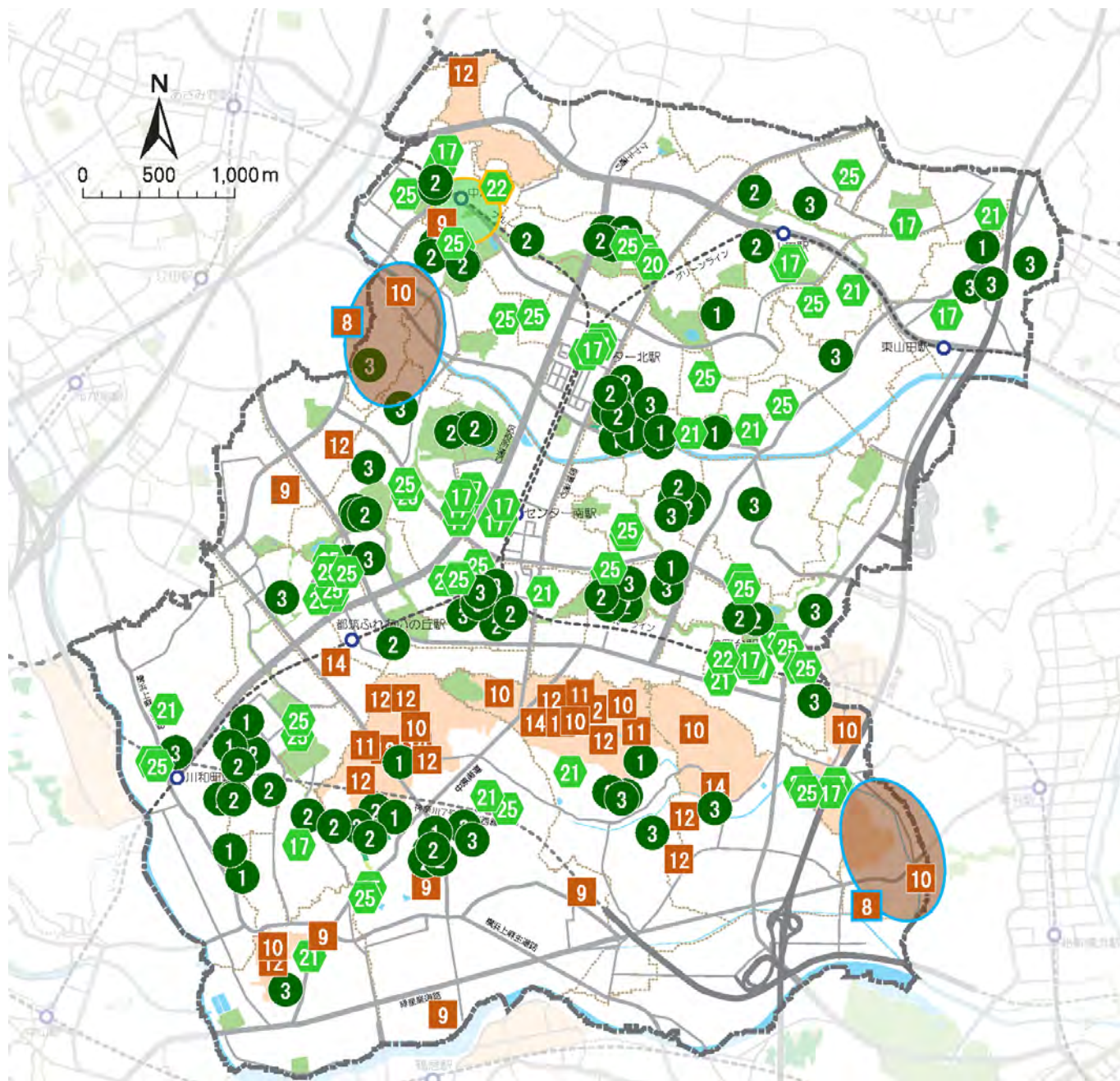


25 保育園での緑の創出・育成
(区内保育園)

5 各区の実績
青葉区



都筑区



〈凡例〉

- 次世代につなぐ森を育む
- 農を感じる場をつくる
- 実感できる緑や花をつくる

(凡例内の番号は、
取組番号を示します)

- 特別緑地保全地区
- 市民の森・ふれあいの樹林
- 公園緑地
- 農業専用地区
- 主な道路
- 高速道路
- 鉄道・鉄道駅

主な実績

- ① 緑地保全制度による新規指定 2.0ha
- ⑧ 水田の保全 3.39ha
- ②② 地域緑のまちづくり (新規) 2地区

計画の柱1 市民とともに次世代につなぐ森を育む

1 緑地保全制度による指定の拡大・市による買取り

○緑地保全制度による新規指定 2.0ha

- ・特別緑地保全地区・近郊緑地特別保全地区

2019年度 0.4ha 大棚町特別緑地保全地区（指定拡大）

- ・緑地保存地区

2020年度 0.1ha 川和町

2021年度 0.1ha 南山田二丁目

2022年度 0.6ha 川和町、茅ヶ崎南一丁目

- ・源流の森保存地区

2019年度 0.2ha 東方町（2件）

2020年度 0.4ha 東山田町

2022年度 0.2ha 大棚町

○市による買取り

- ・特別緑地保全地区・近郊緑地特別保全地区

2020年度 2地区 池辺町滝ヶ谷戸特別緑地保全地区、大棚町特別緑地保全地区

2021年度 3地区 池辺町八所谷戸特別緑地保全地区、大棚町特別緑地保全地区、川和特別緑地保全地区

○保全した樹林地の整備 4か所

2020年度 2か所 大棚町特別緑地保全地区、池辺市民の森

2022年度 2か所 川和市民の森、大棚町緑地

2 森の多様な機能に着目した森づくりの推進

○森の維持管理 53 か所

・保安全管理計画の策定（公園）

2019 年度 1 か所 牛久保公園

2021 年度 1 か所 烏山公園

・維持管理（樹林地）

2019 年度 5 か所 池辺町八所谷戸特別緑地保全地区、池辺市民の森、川和市民の森、川和緑地、茅ヶ崎緑地

2020 年度 5 か所 池辺町八所谷戸特別緑地保全地区、池辺市民の森、川和市民の森、川和緑地、茅ヶ崎緑地

2021 年度 5 か所 池辺町八所谷戸特別緑地保全地区、池辺市民の森、川和市民の森、川和緑地、茅ヶ崎緑地

2022 年度 6 か所 池辺町八所谷戸特別緑地保全地区、大塚町特別緑地保全地区、池辺市民の森、川和市民の森、川和緑地、茅ヶ崎緑地

・維持管理（公園）

2019 年度 6 か所 大塚・歳勝土遺跡公園、鴨池公園、葛ヶ谷公園、茅ヶ崎公園、都筑中央公園、山崎公園

2020 年度 8 か所 牛久保公園、大塚・歳勝土遺跡公園、大原みねみち公園、鴨池公園、せせらぎ公園、月出松公園、都筑中央公園、山崎公園

2021 年度 7 か所 牛久保公園、大塚・歳勝土遺跡公園、茅ヶ崎公園、都筑中央公園、山崎公園、くさぶえのみち、ふじやとのみち

2022 年度 9 か所 牛久保公園、大塚・歳勝土遺跡公園、大原みねみち公園、鴨池公園、烏山公園、茅ヶ崎公園、都筑中央公園、山崎公園、山田富士公園

3 指定した樹林地における維持管理の支援

○維持管理の助成 36 件

2019 年度 8 件 池辺町、佐江戸町（2件）、茅ヶ崎南一丁目、茅ヶ崎南四丁目、東方町、東山田町、南山田町

2020 年度 15 件 荏田東四丁目、荏田南町、荏田南一丁目（2件）、大塚西、大丸（2件）、川和町、北山田七丁目、新栄町、茅ヶ崎南四丁目（2件）、仲町台三丁目、東方町、東山田町

2021 年度 7 件 池辺町、荏田東二丁目、荏田東三丁目、折本町（2件）、茅ヶ崎南四丁目、東方町

2022 年度 6 件 勝田町、茅ヶ崎東一丁目、茅ヶ崎南一丁目、茅ヶ崎南四丁目、東方町、東山田町

計画の柱2 市民が身近に農を感じる場をつくる

8 水田の保全

○水田保全面積 3.39ha

2019年度 3.44ha 荏田東町、荏田南町、大熊町、中川四丁目

2020年度 3.44ha 荏田東町、荏田南町、大熊町、中川四丁目

2021年度 3.31ha 荏田東町、荏田南町、大熊町、中川四丁目

2022年度 3.39ha 荏田南町、大熊町、中川四丁目

9 特定農業用施設保全契約の締結

○特定農業用施設保全契約の締結 6件

2019年度 1件 池辺町

2020年度 1件 佐江戸町

2021年度 1件 池辺町

2022年度 3件 池辺町、中川四丁目、荏田南二丁目

10 農景観を良好に維持する活動の支援

○まとめりのある農地を良好に維持する団体の活動への支援

・集団農地維持 106.3ha

2019年度 106.1ha 新羽大熊農業専用地区協議会（港北区・都筑区）、大熊下水利組合、荏田中川水利組合、佐江戸宮原農用地利用改善組合、横浜市都筑区東方西部土地改良区、折本農業専用地区協議会、横浜市都筑区東方北部土地改良区、横浜市都筑区都田第一土地改良区、折本農業専用地区観音山協議会

2020年度 105.8ha 新羽大熊農業専用地区協議会（港北区・都筑区）、大熊下水利組合、荏田中川水利組合、佐江戸宮原農用地利用改善組合、横浜市都筑区東方西部土地改良区、折本農業専用地区協議会、横浜市都筑区東方北部土地改良区、横浜市都筑区都田第一土地改良区、折本農業専用地区観音山協議会

2021年度 106.5ha 新羽大熊農業専用地区協議会（港北区・都筑区）、大熊下水利組合、荏田中川水利組合、佐江戸宮原農用地利用改善組合、横浜市都筑区東方西部土地改良区、折本農業専用地区協議会、横浜市都筑区東方北部土地改良区、横浜市都筑区都田第一土地改良区、折本農業専用地区観音山協議会

2022年度 106.3ha 新羽大熊農業専用地区協議会（港北区・都筑区）、大熊下水利組合、荏田中川水利組合、佐江戸宮原農用地利用改善組合、横浜市都筑区東方西部土地改良区、折本農業専用地区協議会、横浜市都筑区東方北部土地改良区、横浜市都筑区都田第一土地改良区、折本農業専用地区観音山協議会

・農地縁辺部への植栽 10件

2019年度	3件	新羽大熊農業専用地区協議会（港北区・都筑区）、折本農業専用地区協議会、横浜市都筑区東方北部土地改良区
2020年度	3件	新羽大熊農業専用地区協議会（港北区・都筑区）、折本農業専用地区協議会、横浜市都筑区東方北部土地改良区
2021年度	2件	折本農業専用地区協議会、横浜市都筑区東方北部土地改良区
2022年度	2件	折本農業専用地区協議会、横浜市都筑区東方北部土地改良区

・井戸の改修 3地区

2019年度	1地区	横浜市都筑区東方北部土地改良区
2020年度	2地区	横浜市都筑区東方西部土地改良区、横浜市都筑区東方北部土地改良区

・土砂流出防止対策 8件

2019年度	2件	横浜市都筑区東方西部土地改良区、折本農業専用地区観音山協議会
2020年度	2件	佐江戸宮原農用地利用改善組合、横浜市都筑区東方西部土地改良区
2021年度	2件	折本農業専用地区観音山協議会、横浜市都筑区東方西部土地改良区
2022年度	2件	折本農業専用地区観音山協議会、横浜市都筑区都田第一土地改良区

○周辺環境に配慮した活動への支援

・牧草等による環境対策 3.33ha

2019年度	0.37ha	池辺町、大熊町、佐江戸町（2か所）
2020年度	1.13ha	池辺町（4か所）、折本町（5か所）、東方町（3か所）
2021年度	0.65ha	池辺町（2か所）、折本町（3か所）
2022年度	1.18ha	池辺町（3か所）、大熊町、折本町（5か所）、東方町（2か所）

・たい肥化設備等の支援 1件

2019年度	1件	東方町
--------	----	-----

11 多様な主体による農地の利用促進

○遊休農地の復元支援 0.47ha

2020年度	0.28ha	池辺町
2021年度	0.14ha	東方町
2022年度	0.05ha	東方町

12 様々な市民ニーズに合わせた農園の開設

○様々なニーズに合わせた農園の開設 1.86ha

・収穫体験農園

2019年度 0.42ha 池辺町（3か所）、折本町、東方町

2020年度 0.87ha 池辺町、折本町、東方町

2021年度 0.25ha 池辺町（2か所）、東方町

2022年度 0.08ha 東方町

・市民農園

2020年度 0.07ha 牛久保町

2021年度 0.04ha 荻田南町

2022年度 0.13ha 池辺町、佐江戸町

14 地産地消にふれる機会の拡大

○直売所・青空市等の支援 4件

・直売所・加工所

2019年度 1件 折本町

2021年度 3件 高山（2件）、東方町

計画の柱3 市民が実感できる緑や花をつくる

17 公共施設・公有地での緑の創出・育成

○緑の創出 6か所

2019年度 1か所 センター北広場

2020年度 2か所 東山田地域ケアプラザ、東山田中学校コミュニティハウス

2022年度 3か所 仲町台地区センター、北山田地区センター、加賀原地域ケアプラザ

○緑の維持管理 21か所

2019年度 6か所 都筑区庁舎、センター南広場、北山田地区センター、中川西地区センター、仲町台地区センター、大熊スポーツ会館

2020年度 7か所 都筑区庁舎、センター北広場、センター南広場、北山田地区センター、中川西地区センター、仲町台地区センター、大熊スポーツ会館

2021年度 5か所 都筑区庁舎、センター北広場、センター南広場、北山田地区センター、大熊スポーツ会館

2022年度 3か所 都筑区庁舎、センター北広場、センター南広場

18 街路樹による良好な景観の創出・育成

○良好な維持管理

2019年度 佐江戸北山田線（歴博通り）、新横浜元石川線ほか 計2,962本

2020年度 佐江戸北山田線（歴博通り）、中山北山田線ほか 計2,397本

2021年度 横浜上麻生線、佐江戸北山田線（歴博通り）ほか 計2,246本

2022年度 新横浜元石川線、中山北山田線ほか 計2,003本

20 建築物緑化保全契約の締結

○建築物緑化保全契約の締結 1件

2022年度 1件 北山田町四丁目

21 名木古木の保存

○名木古木の保存

・新規指定

2019年度 9本 南山田町（9本）

2021年度 1本 大棚町

・維持管理の助成

2019年度 6本 佐江戸町（6本）

2020年度 11本 池辺町（4本）、大棚町（2本）、茅ヶ崎南三丁目、仲町台四丁目、
東方町（3本）

2021年度 3本 大棚町（2本）、東山田四丁目

2022年度 3本 大棚町（2本）、川和町

22 地域緑のまちづくり

○地域緑のまちづくり事業に関する協定の締結 2地区

・新規

2021年度 1地区 中川西地区

2022年度 1地区 仲町台駅前地区

・継続

2022年度 1地区 中川西地区

23 地域に根差した緑や花の楽しみづくり

○緑や花を身近に感じる各区の取組

2019年度	区内市立保育園におけるプランターの維持管理（中川西保育園ほか）、花と緑に関するウォーキングイベント、センター南すきっぷ広場・センター北駅前広場の花壇整備、江川せせらぎ緑道における花壇の植栽
2020年度	区内市立保育園におけるプランターの維持管理、花と緑に関するウォーキングイベント、区庁舎・センター南すきっぷ広場・センター北駅前広場の花壇整備、江川せせらぎ緑道における花壇の植栽
2021年度	区内市立保育園におけるプランターの維持管理、花と緑に関するウォーキングイベント、区役所・センター南すきっぷ広場・センター北駅前広場の花壇整備、江川せせらぎ緑道における花壇の植栽、早湊川・老馬谷ガーデンへの散水設備の設置
2022年度	区内市立保育園におけるプランターの維持管理、花と緑に関するウォーキングイベント、江川せせらぎ緑道における花壇の植栽

○地域の花いっぱいにつながる取組

2019年度	花の種の配布、花苗などの配布（吾妻山公園ほか 12 か所）
2020年度	球根などの配布（吾妻山公園ほか 56 か所）
2021年度	球根などの配布（吾妻山公園ほか 41 か所）
2022年度	球根などの配布（吾妻山公園ほか 55 か所）

24 人生記念樹の配布

○人生記念樹の配布 2,027 本

2019 年度 469 本

2020 年度 441 本

2021 年度 590 本

2022 年度 527 本

※過年度の報告書から本数を修正しました。

25 保育園・幼稚園・小中学校での緑の創出・育成

○緑の創出 25 か所

2019 年度 5 か所 茅ヶ崎南保育園、都田幼稚園、川和東小学校、茅ヶ崎東小学校、中川中学校

2020 年度 3 か所 大熊保育園、茅ヶ崎東小学校、都筑小学校

2021 年度 12 か所 シープ保育所、みどり保育園、荏田南小学校、折本小学校、川和小学校、北山田小学校、茅ヶ崎小学校、都筑小学校、つづきの丘小学校、都田西小学校、中川西小学校、山田小学校

2022 年度 5 か所 荏田南小学校、茅ヶ崎小学校、つづきの丘小学校、中川小学校、東山田小学校

○緑の維持管理 20 か所

2019 年度 4 か所 大熊保育園、茅ヶ崎南保育園、中川西保育園、みどり保育園

2020 年度 3 か所 大熊保育園、茅ヶ崎南保育園、みどり保育園

2021 年度 3 か所 大熊保育園、茅ヶ崎南保育園、みどり保育園

2022 年度 10 か所 大熊保育園、シープ保育所、茅ヶ崎南保育園、みどり保育園、折本小学校、川和小学校、北山田小学校、都田西小学校、中川西小学校、荏田南中学校

5 各区の実績
都筑区



1 緑地保全制度による新規指定
緑地保存地区（茅ヶ崎南一丁目）



2 森の維持管理
（山田富士公園）



8 水田の保全
（大熊町）



10 農景観を良好に維持する活動
（折本農業専用地区協議会）

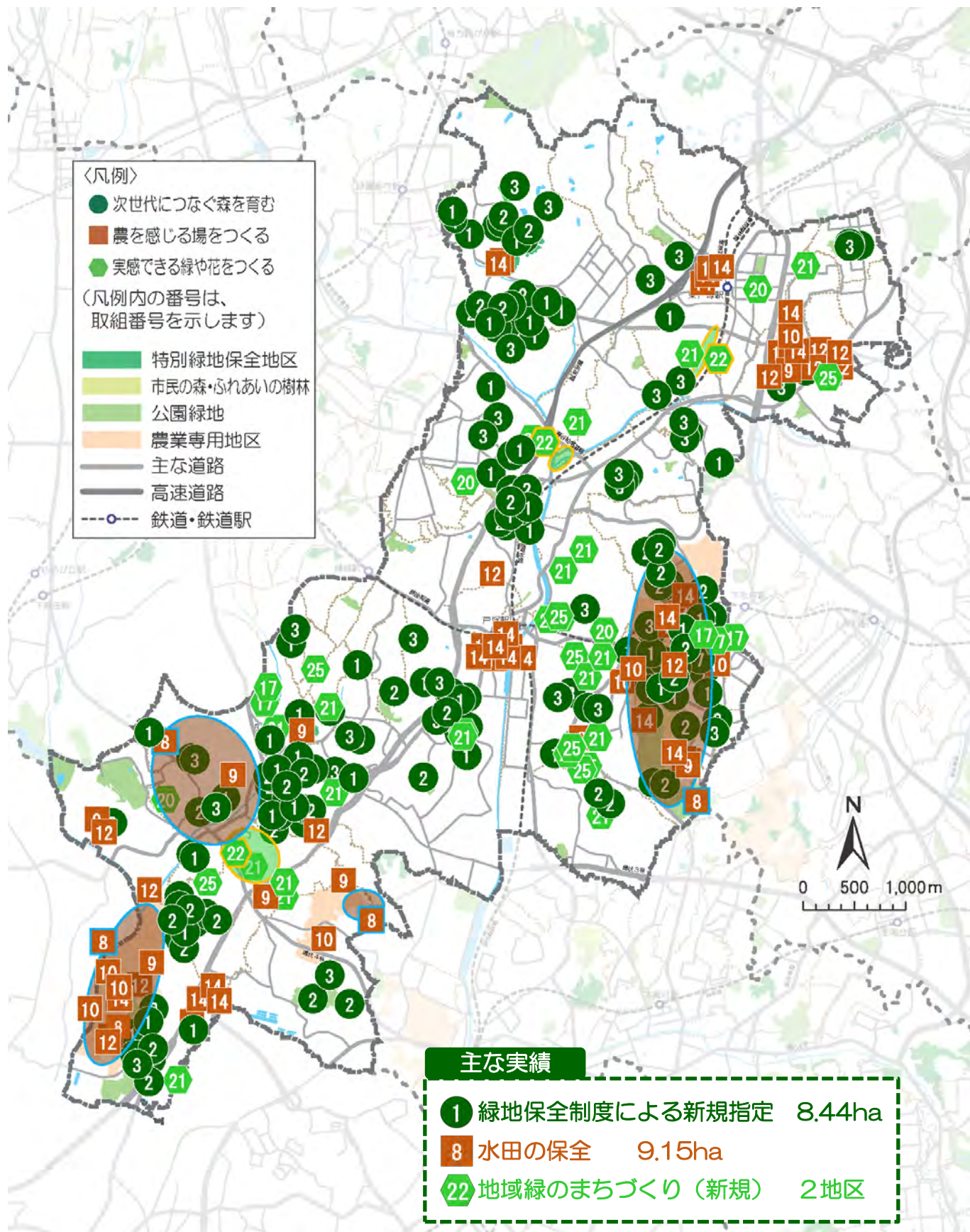


17 公共施設・公有地での緑の創出・育成
（都筑区庁舎）



23 緑や花を身近に感じる各区の取組
（江川せせらぎ緑道周辺）

戸塚区



計画の柱1 市民とともに次世代につなぐ森を育む

1 緑地保全制度による指定の拡大・市による買取り

○緑地保全制度による新規指定 8.44ha

・特別緑地保全地区・近郊緑地特別保全地区

2021年度 0.1ha 下永谷特別緑地保全地区（指定拡大）（※上柏尾町）

2022年度 2.0ha 名瀬町緑園特別緑地保全地区

・市民の森等

2021年度 0.1ha 名瀬・上矢部市民の森（指定拡大）、舞岡ふるさとの森（指定拡大）

・緑地保存地区

2019年度 0.4ha 上倉田町、上矢部町（3件）、汲沢五丁目、深谷町

2020年度 1.4ha 上倉田町、川上町、汲沢六丁目、戸塚町、深谷町

2021年度 0.2ha 戸塚町

2022年度 0.3ha 上矢部町

・源流の森保存地区

2019年度 0.6ha 深谷町、東俣野町

2020年度 0.8ha 名瀬町、舞岡町

2021年度 1.3ha 汲沢町、名瀬町、東俣野町

2022年度 1.2ha 影取町、汲沢町、深谷町

・その他

2020年度 0.01ha 汲沢四丁目

2021年度 0.03ha 舞岡ふるさとの森

○市による買取り

・特別緑地保全地区・近郊緑地特別保全地区

2019年度 1地区 名瀬・上矢部特別緑地保全地区

2020年度 1地区 汲沢四丁目特別緑地保全地区

・市民の森等

2019年度 2地区 まさかりが淵市民の森、深谷市民の森

2020年度 2地区 深谷市民の森、舞岡ふるさとの森

2022年度 2地区 上矢部ふれあいの樹林、まさかりが淵市民の森

○保全した樹林地の整備 41 か所

2019年度	8か所	(仮称)名瀬・上矢部市民の森、まさかりが淵市民の森、ウイトリッヒの森、舞岡ふるさとの森(3か所)、上矢部ふれあいの樹林、東俣野町緑地
2020年度	5か所	東俣野特別緑地保全地区、(仮称)名瀬・上矢部市民の森、まさかりが淵市民の森、舞岡ふるさとの森、上矢部ふれあいの樹林
2021年度	13か所	名瀬・上矢部特別緑地保全地区、名瀬北特別緑地保全地区、東俣野町特別緑地保全地区、(仮称)名瀬・上矢部市民の森、深谷市民の森(2か所)、まさかりが淵市民の森(2か所)、舞岡ふるさとの森(3か所)、ウイトリッヒの森、上矢部ふれあいの樹林
2022年度	15か所	名瀬・上矢部特別緑地保全地区、名瀬北特別緑地保全地区、名瀬・上矢部市民の森、深谷市民の森(2か所)、まさかりが淵市民の森(2か所)、舞岡ふるさとの森(5か所)、ウイトリッヒの森、上矢部ふれあいの樹林、富塚八幡緑地

2 森の多様な機能に着目した森づくりの推進

○森の維持管理 60 か所

・保全管理計画の策定（樹林地）

2019 年度 1 か所 舞岡ふるさとの森

2020 年度 1 か所 上矢部ふれあいの樹林

・保全管理計画の策定（公園）

2019 年度 1 か所 小雀公園

2020 年度 1 か所 舞岡公園

・維持管理（樹林地）

2019 年度 11 か所 （仮称）名瀬・上矢部市民の森、深谷市民の森、まさかりが淵市民の森、ウイトリッヒの森、舞岡ふるさとの森、上矢部ふれあいの樹林、富塚八幡緑地、名瀬北緑地、舞岡緑地、舞岡町緑地、俣野緑地

2020 年度 13 か所 （仮称）名瀬・上矢部市民の森、深谷市民の森、まさかりが淵市民の森、ウイトリッヒの森、舞岡ふるさとの森、上矢部ふれあいの樹林、下倉田緑地、富塚八幡緑地、名瀬北緑地、東俣野町緑地、舞岡緑地、舞岡町緑地、俣野緑地

2021 年度 11 か所 名瀬北特別緑地保全地区、舞岡特別緑地保全地区、俣野特別緑地保全地区、（仮称）名瀬・上矢部市民の森、深谷市民の森、まさかりが淵市民の森、ウイトリッヒの森、舞岡ふるさとの森、上矢部ふれあいの樹林、富塚八幡緑地、舞岡町緑地

2022 年度 13 か所 下倉田町特別緑地保全地区、名瀬北特別緑地保全地区、東俣野町特別緑地保全地区、舞岡特別緑地保全地区、俣野特別緑地保全地区、名瀬・上矢部市民の森、深谷市民の森、まさかりが淵市民の森、ウイトリッヒの森、舞岡ふるさとの森、上矢部ふれあいの樹林、富塚八幡緑地、舞岡町緑地

・維持管理（公園）

2019 年度 2 か所 舞岡公園、舞岡下谷公園

2020 年度 3 か所 小雀公園、舞岡下谷公園、宮谷西公園

2021 年度 1 か所 舞岡下谷公園

2022 年度 2 か所 戸塚公園、舞岡下谷公園

3 指定した樹林地における維持管理の支援

○維持管理の助成 72件

2019年度	15件	柏尾町、上倉田町（3件）、上矢部町、汲沢町、戸塚町（5件）、平戸三丁目、平戸町、深谷町、南舞岡四丁目
2020年度	24件	柏尾町（2件）、上倉田町、上柏尾町、上矢部町（2件）、川上町、汲沢町、小雀町、平戸町、名瀬町（3件）、深谷町、舞岡町（2件）、前田町、南舞岡四丁目、俣野町、戸塚町（5件）
2021年度	17件	秋葉町、柏尾町（2件）、上柏尾町、上矢部町（2件）、川上町、汲沢町、戸塚町（5件）、名瀬町、平戸三丁目、舞岡町、吉田町
2022年度	16件	柏尾町、上柏尾町、上倉田町（3件）、汲沢町（2件）、汲沢六丁目、戸塚町（4件）、東俣野町（2件）、平戸三丁目、深谷町

7 森に関する情報発信

○ウェルカムセンター周辺の緑を活用したイベント等

2019年度	舞岡ふるさと村虹の家
2020年度	舞岡ふるさと村虹の家
2021年度	舞岡ふるさと村虹の家
2022年度	舞岡ふるさと村虹の家

計画の柱2 市民が身近に農を感じる場をつくる

8 水田の保全

○水田保全面積 9.15ha

2019年度	9.19ha	小雀町、東俣野町、深谷町、舞岡町、吉田町
2020年度	9.36ha	小雀町、東俣野町、深谷町、舞岡町、吉田町
2021年度	9.15ha	小雀町、東俣野町、深谷町、舞岡町、吉田町
2022年度	9.15ha	小雀町、東俣野町、深谷町、舞岡町、吉田町

○水源・水路の確保 1か所

2022年度	1か所	東俣野水利組合
--------	-----	---------

9 特定農業用施設保全契約の締結

○特定農業用施設保全契約の締結 12件

2019年度	1件	上倉田町
2020年度	1件	原宿二丁目
2021年度	2件	汲沢四丁目、小雀町
2022年度	8件	平戸町、東俣野町（2件）、深谷町（2件）、舞岡町、俣野町（2件）

10 農景観を良好に維持する活動の支援

○まとまりのある農地を良好に維持する団体の活動への支援

・集団農地維持 64.6ha

2019年度 46.4ha 横浜市戸塚区小雀農業専用地区協議会、横浜市舞岡農業専用地区協議会、東俣野水利組合

2020年度 46.0ha 横浜市戸塚区小雀農業専用地区協議会、横浜市舞岡農業専用地区協議会、東俣野水利組合

2021年度 64.7ha 横浜市戸塚区小雀農業専用地区協議会、横浜市舞岡農業専用地区協議会、東俣野水利組合、東俣野中部かん水組合、東俣野南部かん水組合

2022年度 64.6ha 横浜市戸塚区小雀農業専用地区協議会、横浜市舞岡農業専用地区協議会、東俣野水利組合、東俣野中部かん水組合、東俣野南部かん水組合

・農地縁辺部への植栽 16件

2019年度 3件 平戸農業専用地区協議会、横浜市戸塚区小雀農業専用地区協議会、舞岡ふるさと村推進協議会

2020年度 3件 平戸農業専用地区協議会、横浜市戸塚区小雀農業専用地区協議会、舞岡ふるさと村推進協議会

2021年度 5件 横浜市戸塚区小雀農業専用地区協議会、東俣野中部かん水組合、東俣野南部かん水組合、横浜市舞岡農業専用地区協議会、東俣野水利組合

2022年度 5件 横浜市戸塚区小雀農業専用地区協議会、平戸農業専用地区協議会、東俣野中部かん水組合、東俣野南部かん水組合、横浜市舞岡農業専用地区協議会

・井戸の改修 5地区

2020年度 1地区 横浜市戸塚区小雀農業専用地区協議会

2021年度 2地区 東俣野中部かん水組合、東俣野農業専用地区協議会

2022年度 2地区 東俣野南部かん水組合、横浜市舞岡農業専用地区協議会

・土砂流出防止対策 1件

2020年度 1件 横浜市戸塚区舞岡土地改良区

○周辺環境に配慮した活動への支援

・牧草等による環境対策 1.35ha

2019年度 0.30ha 影取町

2020年度 0.25ha 影取町（2か所）

2021年度 0.30ha 影取町（2か所）

2022年度 0.50ha 影取町（2か所）、小雀町（3か所）、

・たい肥化設備等の支援 1件

2021年度 1件 東俣野町

12 様々な市民ニーズに合わせた農園の開設

○様々なニーズに合わせた農園の開設 5.16ha

・収穫体験農園

2019年度 0.15ha 東俣野町

2020年度 0.28ha 平戸町、舞岡町

2021年度 2.28ha 影取町、平戸町、舞岡町、俣野町

2022年度 2.26ha 汲沢町、東俣野町、平戸町（5か所）、俣野町

・市民農園

2022年度 0.19ha 舞岡町、矢部町

14 産地消にふれる機会の拡大

○直売所・青空市等の支援 27件

・直売所・加工所

2020年度 3件 平戸町、舞岡町、名瀬町

2021年度 3件 影取町、舞岡町（2件）

2022年度 5件 影取町（2件）、東俣野町、平戸町、舞岡町

・青空市・マルシェ等

2019年度 4件 JA横浜戸塚野菜直売所、戸塚区産地消PR・直売コーナー、東戸塚市民朝市、舞岡ふるさと村・JA横浜ハマッ子直売所「舞岡や」

2020年度 4件 JA横浜戸塚野菜直売所、戸塚区産地消PR・直売コーナー、東戸塚市民朝市、舞岡ふるさと村・JA横浜ハマッ子直売所「舞岡や」

2021年度 4件 JA横浜戸塚野菜直売所、戸塚区産地消PR・直売コーナー、東戸塚市民朝市、舞岡ふるさと村・JA横浜ハマッ子直売所「舞岡や」

2022年度 4件 JA横浜戸塚野菜直売所、戸塚区産地消PR・直売コーナー、東戸塚市民朝市、舞岡ふるさと村・JA横浜ハマッ子直売所「舞岡や」

計画の柱3 市民が実感できる緑や花をつくる

17 公共施設・公有地での緑の創出・育成

○緑の維持管理 8か所

2019年度 3か所 宇田川、下水道用地（名瀬町鷹の台地区）、舞岡ふるさと村虹の家

2020年度 2か所 宇田川、舞岡ふるさと村虹の家

2021年度 1か所 舞岡ふるさと村虹の家

2022年度 2か所 宇田川、舞岡ふるさと村虹の家

5 各区の実績
戸塚区

18 街路樹による良好な景観の創出・育成

○良好な維持管理

2019年度	桜木東戸塚線、国道1号（戸塚宿）ほか	計505本
2020年度	環状2号線（平戸町）、東戸塚西線	計530本
2021年度	俣野第314号線（ドリームハイツ）、国道1号線（戸塚宿）ほか	計319本
2022年度	俣野第314号線（ドリームハイツ）、東戸塚西線ほか	計348本

20 建築物緑化保全契約の締結

○建築物緑化保全契約の締結 6件

2019年度	1件	上矢部町
2020年度	5件	品濃町、深谷町（3件）、吉田町

21 名木古木の保存

○名木古木の保存

・新規指定

2019年度	1本	吉田町
2020年度	6本	上倉田町（2本）、上矢部町（4本）
2021年度	1本	戸塚町

・維持管理の助成

2019年度	6本	影取町、汲沢町、品濃町、下倉田町、原宿二丁目、吉田町
2020年度	9本	下倉田町（2本）、原宿二丁目（6本）、吉田町
2021年度	7本	上倉田町（2本）、名瀬町、平戸町、前田町（3本）
2022年度	4本	汲沢町（2本）、戸塚町、原宿二丁目

22 地域緑のまちづくり

○地域緑のまちづくり事業に関する協定の締結 2地区

・新規

2021年度	1地区	深谷町東山地区
2022年度	1地区	柏尾町地区

・継続

2019年度	1地区	前田町桜の丘地区
2022年度	1地区	深谷町東山地区

23 地域に根差した緑や花の楽しみづくり

○緑や花を身近に感じる各区の取組

2019年度	戸塚駅西口橋上デッキの植栽更新、地域団体への花苗等の支援
2020年度	阿久和川周辺における土壌整備・シバザクラ植栽、区内鉄道駅における花植えや植栽の維持管理
2021年度	区内鉄道駅における花植えや植栽の維持管理
2022年度	区内鉄道駅等における花植え等を行う団体への支援、柏尾川遊歩道沿いの花壇整備、名瀬川、阿久和川のシバザクラ再整備とハツユキカズラの植栽

○地域の花いっぱいにつながる取組

2019年度	花の種の配布、花苗などの配布（平戸第二公園ほか9か所）
2020年度	球根などの配布（舞岡川遊水地公園ほか129か所）
2021年度	球根などの配布（秋葉台公園ほか141か所）
2022年度	球根などの配布（舞岡川遊水地公園ほか120か所）

24 人生記念樹の配布

○人生記念樹の配布 2,304本

2019年度	595本
2020年度	524本
2021年度	637本
2022年度	548本

※過年度の報告書から本数を修正しました。

25 保育園・幼稚園・小中学校での緑の創出・育成

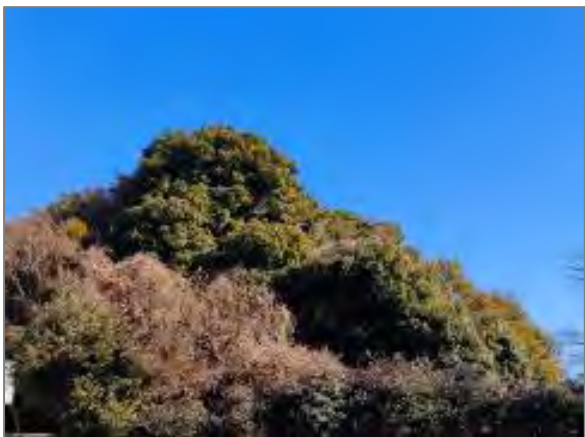
○緑の創出 3か所

2019年度	2か所	YMCAとつか保育園、原宿保育園
2020年度	1か所	倉田小学校

○緑の維持管理 10か所

2019年度	2か所	倉田小学校、東戸塚小学校
2020年度	3か所	倉田小学校、東戸塚小学校、汲沢中学校
2021年度	2か所	倉田小学校、東戸塚小学校
2022年度	3か所	倉田小学校、東戸塚小学校、平戸台小学校

5 各区の実績
戸塚区



1 緑地保全制度による新規指定
緑地保存地区（上矢部町）



1 保全した樹林地の整備
（舞岡ふるさとの森）



8 水田の保全
（東俣野町）



12 収穫体験農園の開設
（平戸町）



23 緑や花を身近に感じる各区の取組
（柏尾川沿い）

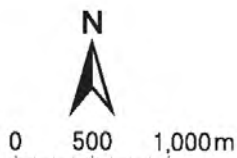
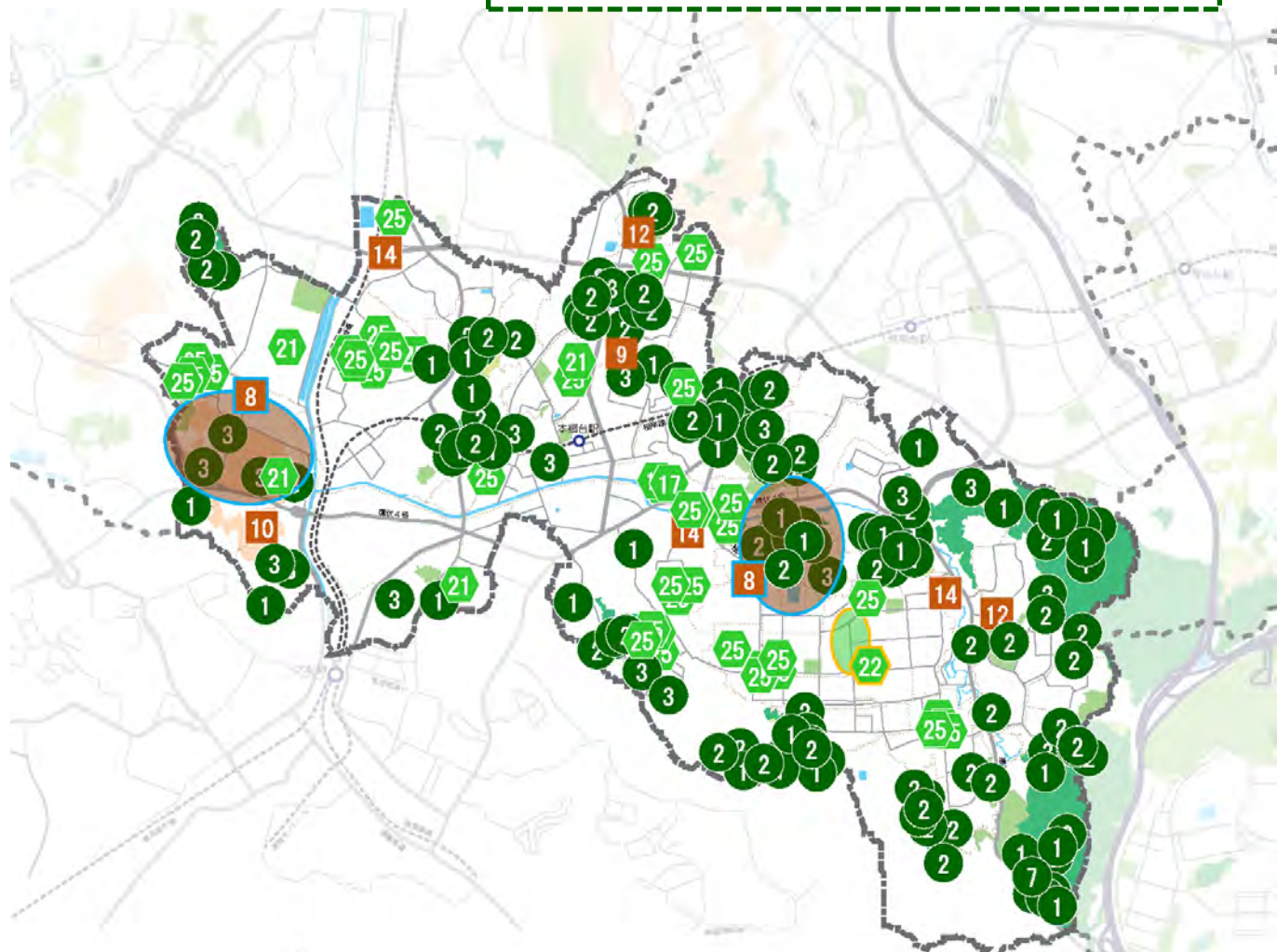


24 人生記念樹の配布
（戸塚区庁舎）

栄区

主な実績

- ① 緑地保全制度による新規指定 10.67ha
- ⑧ 水田の保全 2.95ha
- ②⑤ 保育園・幼稚園・小中学校での緑の創出 8か所



<p>〈凡例〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 次世代につなぐ森を育む ■ 農を感じる場をつくる ● 実感できる緑や花をつくる <p>(凡例内の番号は、 取組番号を示します)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■ 特別緑地保全地区 ■ 近郊緑地特別保全地区 ■ 市民の森・ふれあいの樹林 ■ 公園緑地 ■ 農業専用地区 — 主な道路 ---○--- 鉄道・鉄道駅
---	--

計画の柱1 市民とともに次世代につなぐ森を育む

1 緑地保全制度による指定の拡大・市による買取り

○緑地保全制度による新規指定 10.67ha

・市民の森等

2020年度 0.05ha 鍛冶ヶ谷市民の森（指定拡大）

・緑地保存地区

2019年度 0.7ha 上郷町、小菅ヶ谷三丁目

2020年度 0.6ha 飯島町、笠間五丁目、鍛冶ヶ谷二丁目、公田町

・源流の森保存地区

2019年度 6.3ha 公田町（2件）

2020年度 3.0ha 庄戸五丁目、田谷町、長尾台町

・その他

2021年度 0.02ha 飯島町

○市による買取り

・特別緑地保全地区・近郊緑地特別保全地区

2019年度 3地区 上郷・尾月特別緑地保全地区、上郷町瀬上特別緑地保全地区、上郷・中野特別緑地保全地区

2022年度 1地区 円海山近郊緑地特別保全地区

・市民の森等

2020年度 1地区 鍛冶ヶ谷市民の森

2022年度 1地区 鍛冶ヶ谷市民の森事業用地

○保全した樹林地の整備 29か所

2019年度 5か所 飯島町特別緑地保全地区、荒井沢市民の森、飯島市民の森（2か所）、上郷市民の森

2020年度 6か所 飯島町特別緑地保全地区、荒井沢市民の森（2か所）、鍛冶ヶ谷市民の森、上郷市民の森、瀬上市民の森

2021年度 10か所 飯島特別緑地保全地区、上郷・中野特別緑地保全地区、荒井沢市民の森（2か所）、鍛冶ヶ谷市民の森、上郷市民の森（2か所）、瀬上市民の森（2か所）、横浜自然観察の森

2022年度 8か所 上郷・中野特別緑地保全地区、荒井沢市民の森、飯島市民の森、上郷市民の森（2か所）、瀬上市民の森、横浜自然観察の森（2か所）

2 森の多様な機能に着目した森づくりの推進

○森の維持管理 78 か所

・維持管理（樹林地）

2019年度 15 か所 横浜自然観察の森、荒井沢市民の森、飯島市民の森、鍛冶ケ谷市民の森、上郷市民の森、瀬上市民の森、飯島町緑地、金井緑地、上郷・中野緑地、公田緑地、公田・荒井沢緑地、小菅ケ谷緑地、小菅ケ谷四丁目緑地、庄戸二丁目緑地、野七里緑地

2020年度 15 か所 横浜自然観察の森、飯島町特別緑地保全地区、野七里特別緑地保全地区、荒井沢市民の森、飯島市民の森、鍛冶ケ谷市民の森、上郷市民の森、瀬上市民の森、金井緑地、上郷・中野緑地、公田緑地、公田・荒井沢緑地、小菅ケ谷緑地、小菅ケ谷四丁目緑地、庄戸二丁目緑地

2021年度 14 か所 横浜自然観察の森、金井特別緑地保全地区、上郷・中野特別緑地保全地区、公田特別緑地保全地区、公田・荒井沢特別緑地保全地区、野七里特別緑地保全地区、荒井沢市民の森、飯島市民の森、鍛冶ケ谷市民の森、上郷市民の森、瀬上市民の森、小菅ケ谷緑地、小菅ケ谷四丁目緑地、庄戸二丁目緑地

2022年度 15 か所 横浜自然観察の森、飯島町特別緑地保全地区、金井特別緑地保全地区、上郷・中野特別緑地保全地区、公田特別緑地保全地区、公田・荒井沢特別緑地保全地区、野七里特別緑地保全地区、荒井沢市民の森、飯島市民の森、鍛冶ケ谷市民の森、上郷市民の森、瀬上市民の森、小菅ケ谷緑地、小菅ケ谷四丁目緑地、庄戸二丁目緑地

・維持管理（公園）

2019年度 3 か所 上郷一号緑地、上郷九号緑地、本郷ふじやま公園

2020年度 8 か所 上郷一号緑地、上郷二号緑地、上郷五号緑地、上郷七号緑地、上郷八号緑地、上郷九号緑地、小菅ケ谷北公園、本郷ふじやま公園

2021年度 5 か所 上郷六号緑地、上郷七号緑地、上郷九号緑地、小菅ケ谷北公園、本郷ふじやま公園

2022年度 4 か所 上郷五号緑地、上郷九号緑地、小菅ケ谷北公園、本郷ふじやま公園

※過年度の報告書から本数を修正しました。

3 指定した樹林地における維持管理の支援

○維持管理の助成 35 件

2019年度 7 件 鍛冶ケ谷一丁目、上郷町、小菅ケ谷二丁目、小菅ケ谷三丁目・四丁目、田谷町（2件）、長尾台町

2020年度 14 件 笠間二丁目、鍛冶ケ谷一丁目、亀井町、上郷町、公田町（4件）、小菅ケ谷二丁目（2件）、小菅ケ谷三丁目、小菅ケ谷四丁目、田谷町、長尾台町

2021年度 10 件 鍛冶ケ谷二丁目、上郷町、公田町（3件）、小菅ケ谷四丁目、田谷町（3件）、長尾台町

2022年度 4 件 鍛冶ケ谷一丁目、公田町（2件）、長尾台町

5 各区の実績
栄区

7 森に関する情報発信

○ウェルカムセンター周辺の緑を活用したイベント等	
2019年度	横浜自然観察の森自然観察センター
2020年度	横浜自然観察の森自然観察センター
2021年度	横浜自然観察の森自然観察センター
2022年度	横浜自然観察の森自然観察センター

計画の柱2 市民が身近に農を感じる場をつくる

8 水田の保全

○水田保全面積 2.95ha		
2019年度	2.92ha	上郷町、田谷町
2020年度	2.76ha	上郷町、田谷町
2021年度	2.95ha	上郷町、田谷町
2022年度	2.95ha	上郷町、田谷町

9 特定農業用施設保全契約の締結

○特定農業用施設保全契約の締結 1件		
2022年度	1件	小菅ケ谷三丁目

10 農景観を良好に維持する活動の支援

○まとまりのある農地を良好に維持する団体の活動への支援		
・集団農地維持 4.8ha		
2019年度	4.8ha	横浜市栄区长尾台土地改良区
2020年度	4.8ha	横浜市栄区长尾台土地改良区
2021年度	4.8ha	横浜市栄区长尾台土地改良区
2022年度	4.8ha	横浜市栄区长尾台土地改良区
○周辺環境に配慮した活動への支援		
・牧草等による環境対策 0.30ha		
2021年度	0.30ha	田谷町（2か所）

12 様々な市民ニーズに合わせた農園の開設

○様々なニーズに合わせた農園の開設 0.09ha		
・収穫体験農園		
2020年度	0.02ha	上郷町
・市民農園		
2022年度	0.07ha	小菅ケ谷四丁目

14 地産地消にふれる機会の拡大

○直売所・青空市等の支援 3件

・直売所・加工所

2019年度 2件 上郷町、公田町

2020年度 1件 長沼町

計画の柱3 市民が実感できる緑や花をつくる

17 公共施設・公有地での緑の創出・育成

○緑の維持管理 4か所

2019年度 1か所 栄区庁舎

2020年度 1か所 栄区庁舎

2021年度 1か所 栄区庁舎

2022年度 1か所 栄区庁舎

18 街路樹による良好な景観の創出・育成

○良好な維持管理

2019年度 桂台通り、県道原宿六ツ浦（上郷町） 計468本

2020年度 庄戸西線、飯島本郷台通りほか 計568本

2021年度 湘南桂台通り、庄戸第121号線（上郷町） 計487本

2022年度 湘南桂台通り、庄戸東線ほか 計727本

21 名木古木の保存

○名木古木の保存

・維持管理の助成

2021年度 2本 小菅ケ谷、笠間五丁目

2022年度 2本 金井町、田谷町

22 地域緑のまちづくり

○地域緑のまちづくり事業に関する協定の締結 1地区

・新規

2022年度 1地区 フローラ桂台自治会周辺地区

23 地域に根差した緑や花の楽しみづくり

○緑や花を身近に感じる各区の取組

2019年度	イベント会場でのガーデンネックレス横浜のPR（本郷台アオソラマルシェほか）、いたち川の桜ライトアップ、公園愛護会への花苗等の支援、オープンガーデンの開催支援（新型コロナウイルス感染症の影響でイベント中止）
2020年度	いたち川の桜ライトアップ、公園愛護会への花苗等の支援、オープンガーデンの開催支援
2021年度	いたち川の桜ライトアップ、公園愛護会への花苗等の支援、オープンガーデンの開催支援
2022年度	いたち川の桜ライトアップ、公園愛護会への花苗等の支援、オープンガーデンの開催支援

○地域の花いっぱいにつながる取組

2019年度	花の種の配布（本郷台四丁目第二公園ほか 23 か所）
2020年度	球根などの配布（飯島町久保公園ほか 47 か所）
2021年度	花壇づくり講習会（いの山南公園）、球根などの配布（あさもや公園ほか 55 か所）
2022年度	花壇講習会（笠間町公園）、球根などの配布（花籠公園ほか 50 か所）

24 人生記念樹の配布

○人生記念樹の配布 866 本

2019年度	186 本
2020年度	208 本
2021年度	246 本
2022年度	226 本

※2020年度は、2020年度報告書に記載のあった199本から本数を208本に修正しました。

25 保育園・幼稚園・小中学校での緑の創出・育成

○緑の創出 8か所

2019年度 1か所 公田小学校

2020年度 4か所 公田小学校、西本郷小学校、本郷台小学校、桂台中学校

2021年度 2か所 公田小学校、豊田小学校

2022年度 1か所 上郷小学校

○緑の維持管理 35か所

2019年度 9か所 飯島保育園、桂台保育園、上郷保育園、公田保育園、飯島小学校、公田小学校、小山台小学校、千秀小学校、本郷小学校

2020年度 9か所 飯島保育園、桂台保育園、上郷保育園、公田保育園、飯島小学校、公田小学校、小山台小学校、千秀小学校、本郷小学校

2021年度 8か所 飯島保育園、桂台保育園、上郷保育園、公田保育園、飯島小学校、公田小学校、千秀小学校、本郷小学校

2022年度 9か所 飯島保育園、桂台保育園、上郷保育園、公田保育園、飯島小学校、公田小学校、千秀小学校、本郷小学校、本郷特別支援学校

5 各区の実績
栄区



2 森の維持管理
(本郷ふじやま公園)



3 樹林地の維持管理の助成
(公田町)



8 水田の保全
(上郷町)



10 農景観を良好に維持する活動の支援
(横浜市栄区长尾台土地改良区)

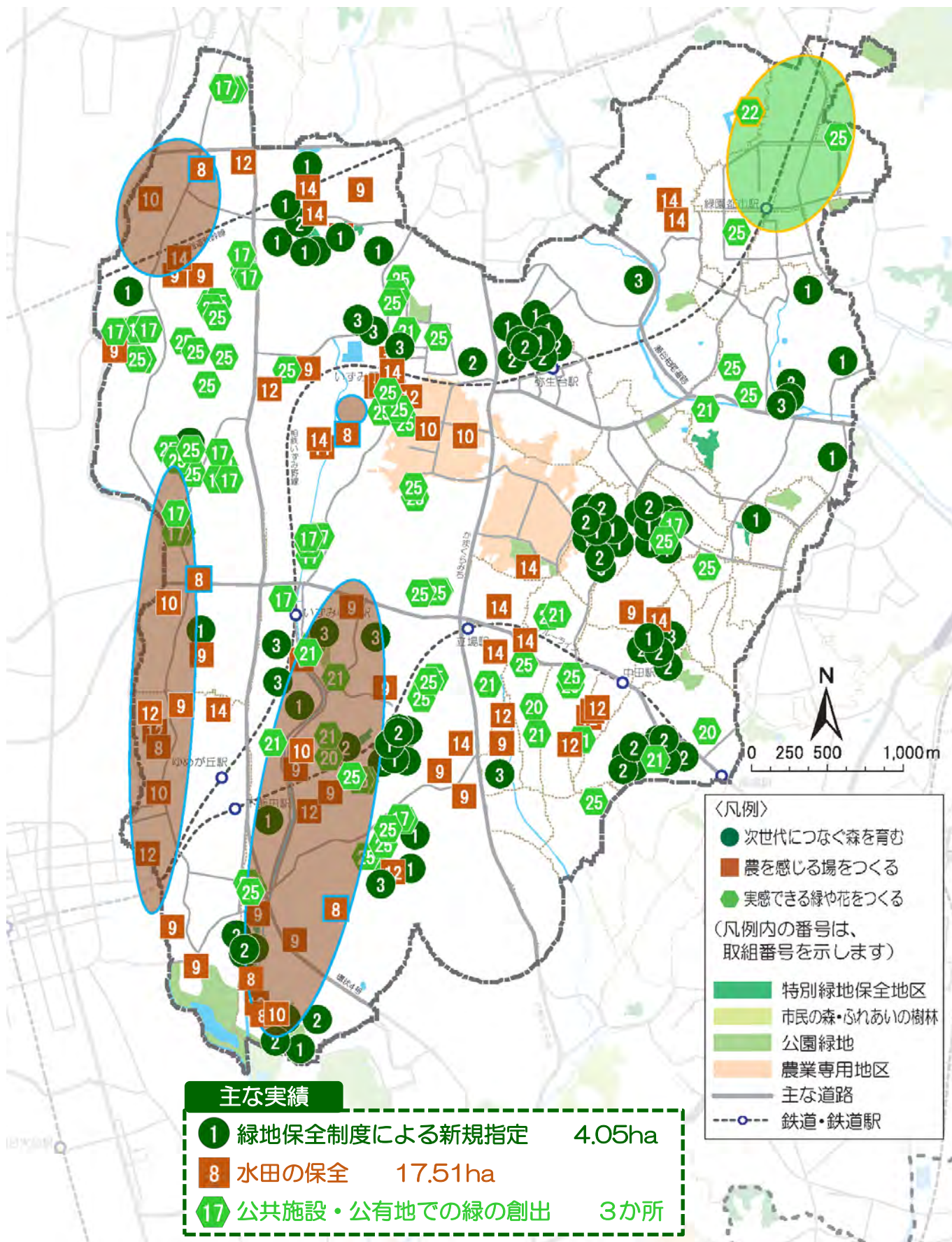


21 名木古木の保存
(金井町)



23 地域の花いっぱいにつながる取組
(あさもや公園)

泉区



計画の柱1 市民とともに次世代につなぐ森を育む

1 緑地保全制度による指定の拡大・市による買取り

○緑地保全制度による新規指定 4.05ha

・特別緑地保全地区・近郊緑地特別保全地区

2019年度 0.1ha 和泉町早稲田特別緑地保全地区（指定拡大）

2020年度 0.2ha 岡津町金堀谷特別緑地保全地区（指定拡大）

2021年度 0.6ha 和泉町蟹沢特別緑地保全地区

・緑地保存地区

2019年度 0.2ha 上飯田町、中田北三丁目

2020年度 0.1ha 岡津町

・源流の森保存地区

2019年度 1.1ha 和泉町、岡津町、下和泉四丁目

2020年度 0.9ha 和泉町（4か所）

2021年度 0.8ha 和泉町、上飯田町

・その他

2021年度 0.05ha 岡津町ふれあい公園

○市による買取り

・特別緑地保全地区・近郊緑地特別保全地区

2019年度 1地区 和泉町天王森特別緑地保全地区

2020年度 1地区 和泉町早稲田特別緑地保全地区

2021年度 1地区 和泉町早稲田特別緑地保全地区

・市民の森等

2019年度 1地区 古橋市民の森

○保全した樹林地の整備 20か所

2019年度 5か所 和泉町天王森特別緑地保全地区、新橋市民の森、中田宮の台市民の森、泉の森ふれあい樹林、鯉ヶ久保ふれあいの樹林

2020年度 5か所 古橋市民の森、新橋市民の森（2か所）、中田宮の台市民の森、泉の森ふれあい樹林

2021年度 5か所 古橋市民の森、新橋市民の森（2か所）、泉の森ふれあい樹林、鯉ヶ久保ふれあいの樹林

2022年度 5か所 古橋市民の森、新橋市民の森、泉の森ふれあい樹林（2か所）、中田ふれあいの樹林

2 森の多様な機能に着目した森づくりの推進

○森の維持管理 35 箇所

・保全管理計画の策定（樹林地）

2019 年度 1 箇所 泉の森ふれあい樹林

・保全管理計画の策定（公園）

2019 年度 1 箇所 天王森泉公園

・維持管理（樹林地）

2019 年度 8 箇所 和泉町早稲田特別緑地保全地区、古橋市民の森、新橋市民の森、中田宮の台市民の森、泉の森ふれあい樹林、鯉ヶ久保ふれあいの樹林、中田ふれあいの樹林、鯉ヶ久保緑地

2020 年度 8 箇所 古橋市民の森、新橋市民の森、中田宮の台市民の森、泉の森ふれあい樹林、鯉ヶ久保ふれあいの樹林、中田ふれあいの樹林、和泉町早稲田緑地、鯉ヶ久保緑地

2021 年度 6 箇所 古橋市民の森、新橋市民の森、中田宮の台市民の森、泉の森ふれあい樹林、鯉ヶ久保ふれあいの樹林、中田ふれあいの樹林

2022 年度 6 箇所 古橋市民の森、新橋市民の森、中田宮の台市民の森、泉の森ふれあい樹林、鯉ヶ久保ふれあいの樹林、鯉ヶ久保緑地

・維持管理（公園）

2019 年度 1 箇所 鍋屋の森

2020 年度 2 箇所 鍋屋の森、天王森泉公園

2021 年度 1 箇所 鍋屋の森

2022 年度 1 箇所 鍋屋の森

3 指定した樹林地における維持管理の支援

○維持管理の助成 31 件

2019 年度 7 件 和泉町（3件）、上飯田町（2件）、中田北三丁目、中田東二丁目

2020 年度 14 件 和泉町（7件）、和泉中央南三丁目、和泉中央南五丁目、岡津町（3件）、新橋町、中田西四丁目

2021 年度 7 件 和泉町（2件）、和泉中央南四丁目、和泉中央南五丁目、岡津町（2件）、下和泉四丁目、

2022 年度 3 件 和泉町（2件）、岡津町

計画の柱2 市民が身近に農を感じる場をつくる

8 水田の保全

○水田保全面積 17.51ha

2019年度 19.28ha 和泉町、上飯田町、下飯田町

2020年度 18.74ha 和泉町、上飯田町、下飯田町

2021年度 17.79ha 和泉町、上飯田町、下飯田町

2022年度 17.51 ha 和泉町、上飯田町、下飯田町

○水源・水路の確保 3か所

2020年度 1か所 泉区下飯田町水利組合

2022年度 2か所 下和泉農地利用組合（水源、水路）

9 特定農業用施設保全契約の締結

○特定農業用施設保全契約の締結 25件

2019年度 8件 和泉中央南三丁目、和泉中央南四丁目、和泉町（2件）、上飯田町（2件）、下飯田町、中田西三丁目

2020年度 8件 和泉が丘一丁目、和泉が丘二丁目、和泉町（3件）、和泉中央南四丁目、中田東四丁目、上飯田町

2021年度 4件 和泉町、上飯田町（2件）、下飯田町

2022年度 5件 和泉町（3件）、下飯田町（2件）

10 農景観を良好に維持する活動の支援

○まとまりのある農地を良好に維持する団体の活動への支援

・集団農地維持 68.6ha

2019年度 68ha 柳明水利組合、下和泉農地利用組合、中下水利組合、泉区下飯田町水利組合、中田緑の大地を守る会

2020年度 68.6ha 柳明水利組合、下和泉農地利用組合、中下水利組合、泉区下飯田町水利組合、中田緑の大地を守る会、蔵関水利組合

2021年度 68.4ha 柳明水利組合、下和泉農地利用組合、中下水利組合、泉区下飯田町水利組合、中田緑の大地を守る会、蔵関水利組合

2022年度 68.6a 柳明水利組合、下和泉農地利用組合、中下水利組合、泉区下飯田町水利組合、中田緑の大地を守る会、蔵関水利組合

・農地縁辺部への植栽 8件

2019年度 2件 中田緑の大地を守る会、横浜市泉区並木谷農業専用地区協議会

2020年度 2件 中田緑の大地を守る会、横浜市泉区並木谷農業専用地区協議会

2021年度 2件 中田緑の大地を守る会、横浜市泉区並木谷農業専用地区協議会

2022年度 2件 中田緑の大地を守る会、横浜市泉区並木谷農業専用地区協議会

○周辺環境に配慮した活動への支援

・牧草等による環境対策 2.95ha

2019年度 0.31ha 上飯田町（3か所）

2020年度 0.39ha 上飯田町（2か所）、下和泉四丁目

2021年度 1.53ha 和泉町（7か所）、上飯田町（2か所）

2022年度 0.72ha 和泉町（3か所）、上飯田町（3か所）

12 様々な市民ニーズに合わせた農園の開設

○様々なニーズに合わせた農園の開設 1.36ha

・収穫体験農園

2019年度 0.39ha 和泉町（2か所）、下飯田町、中田南三丁目

2020年度 0.13ha 上飯田町、中田南三丁目

2021年度 0.07ha 中田南三丁目

2022年度 0.30ha 和泉町、下飯田町、中田南三丁目

・市民農園

2019年度 0.33ha 和泉町、中田西三丁目

2020年度 0.14ha 和泉町、下飯田町

14 地産地消にふれる機会の拡大

○直売所・青空市等の支援 19件

・直売所・加工所

2019年度	3件	和泉町、中田町、中田西三丁目
2020年度	6件	和泉が丘二丁目、新橋町、和泉町（2件）、下飯田町、上飯田町
2021年度	3件	上飯田町（2件）、中田北一丁目
2022年度	3件	和泉町、新橋町、中田西二丁目

・青空市・マルシェ等

2019年度	1件	いずみ野即売会
2020年度	1件	いずみ野即売会
2021年度	1件	いずみ野即売会
2022年度	1件	いずみ野即売会

計画の柱3 市民が実感できる緑や花をつくる

17 公共施設・公有地での緑の創出・育成

○緑の創出 3か所

2019年度	1か所	泉区民文化センター
2020年度	1か所	下和泉地区センター
2022年度	1か所	泉スポーツセンター

○緑の維持管理 25か所

2019年度	6か所	泉区庁舎、上飯田地区センター、日向山公園、市有地（いちよう小学校跡地）、市有地（上飯田団地入り口付近）、市有地（向ヶ丘自治会館横）
2020年度	6か所	泉区庁舎、上飯田地区センター、市有地（いちよう小学校跡地）、市有地（上飯田団地入り口付近）、市有地（向ヶ丘自治会館横）、日向山公園
2021年度	7か所	泉区庁舎、上飯田地区センター、下和泉地区センター、市有地（いちよう小学校跡地）、市有地（上飯田団地入り口付近）、市有地（向ヶ丘自治会館横）、日向山公園
2022年度	6か所	泉区庁舎、上飯田地区センター、市有地（いちよう小学校跡地）、市有地（上飯田団地入り口付近）、市有地（向ヶ丘自治会館横）、日向山公園

18 街路樹による良好な景観の創出・育成

○良好な維持管理

2019年度	中田さちが丘線（緑園）、和泉町第33・88号線（和泉川沿い）ほか 計588本
2020年度	上飯田第112号線（弥生台）、中田さちが丘線（領家地区）ほか 計682本
2021年度	中田さちが丘線（緑園）、中田さちが丘線（領家地区）ほか 計452本
2022年度	中田さちが丘線（緑園）、上飯田126号線（上飯田小学校前通り）ほか 計693本

20 建築物緑化保全契約の締結

○建築物緑化保全契約の締結 5件

2019年度	4件	中田西二丁目（3件）、中田東一丁目
2020年度	1件	和泉町

21 名木古木の保存

○名木古木の保存

・維持管理の助成

2019年度	3本	中田西二丁目、和泉中央南四丁目、和泉町
2020年度	3本	和泉町、中田南一丁目（2本）
2021年度	1本	和泉町
2022年度	8本	和泉町（2本）、岡津町、中田東三丁目（2本）、中田西二丁目（2本）、中田南一丁目

22 地域緑のまちづくり

○地域緑のまちづくり事業に関する協定の締結 1地区

・新規

2020年度	1地区	緑園都市地区
--------	-----	--------

・継続

2021年度	1地区	緑園都市地区
--------	-----	--------

2022年度	1地区	緑園都市地区
--------	-----	--------

5 各区の実績
泉区

23 地域に根差した緑や花の楽しみづくり

○緑や花を身近に感じる各区の取組

2019年度 区内各駅における植栽設置、泉区庁舎前の花壇改修

2020年度 泉区庁舎・区内公園内・立場駅前の花壇整備

2021年度 区民利用施設における花壇整備

2022年度 区庁舎前花壇の植栽、区内公園内・立場駅前の花壇整備

○地域の花いっぱいにつながる取組

2019年度 花の種の配布、花苗などの配布（いずみ台公園ほか 30 か所）

2020年度 球根などの配布（泉が丘公園ほか 33 か所）

2021年度 球根などの配布（和泉アカシア公園ほか 43 か所）

2022年度 球根などの配布（和泉アカシア公園ほか 36 か所）

24 人生記念樹の配布

○人生記念樹の配布 993 本

2019年度 248 本

2020年度 222 本

2021年度 282 本

2022年度 241 本

※過年度の報告書から本数を修正しました。

25 保育園・幼稚園・小中学校での緑の創出・育成

○緑の創出 5 箇所

2019 年度 2 箇所 中田小学校、上飯田小学校

2021 年度 1 箇所 中和田南小学校

2022 年度 2 箇所 小学館アカデミーりょくえんとし保育園、和泉小学校

○緑の維持管理 51 箇所

2019 年度 8 箇所 和泉保育園、北上飯田保育園、飯田北いちよう小学校、伊勢山小学校、下和泉小学校、泉が丘中学校、上飯田中学校、中和田中学校

2020 年度 20 箇所 和泉保育園、北上飯田保育園、飯田北いちよう小学校、和泉小学校、いずみ野小学校、伊勢山小学校、岡津小学校、上飯田小学校、葛野小学校、下和泉小学校、中田小学校、中和田南小学校、西が岡小学校、緑園東小学校、泉が丘中学校、いずみ野中学校、岡津中学校、上飯田中学校、中田中学校、中和田中学校

2021 年度 9 箇所 和泉保育園、北上飯田保育園、飯田北いちよう小学校、いずみ野小学校、伊勢山小学校、上飯田小学校、下和泉小学校、泉が丘中学校、中和田中学校

2022 年度 14 箇所 和泉保育園、北上飯田保育園、飯田北いちよう小学校、和泉小学校、いずみ野小学校、伊勢山小学校、上飯田小学校、下和泉小学校、中田小学校、中和田南小学校、西が岡小学校、泉が丘中学校、上飯田中学校、中和田中学校、

5 各区の実績
泉区



2 森の維持管理
(新橋市民の森)



2 森の維持管理
(鍋屋の森)



8 水田の保全
(和泉町)



12 収穫体験農園の開設
(下飯田町)

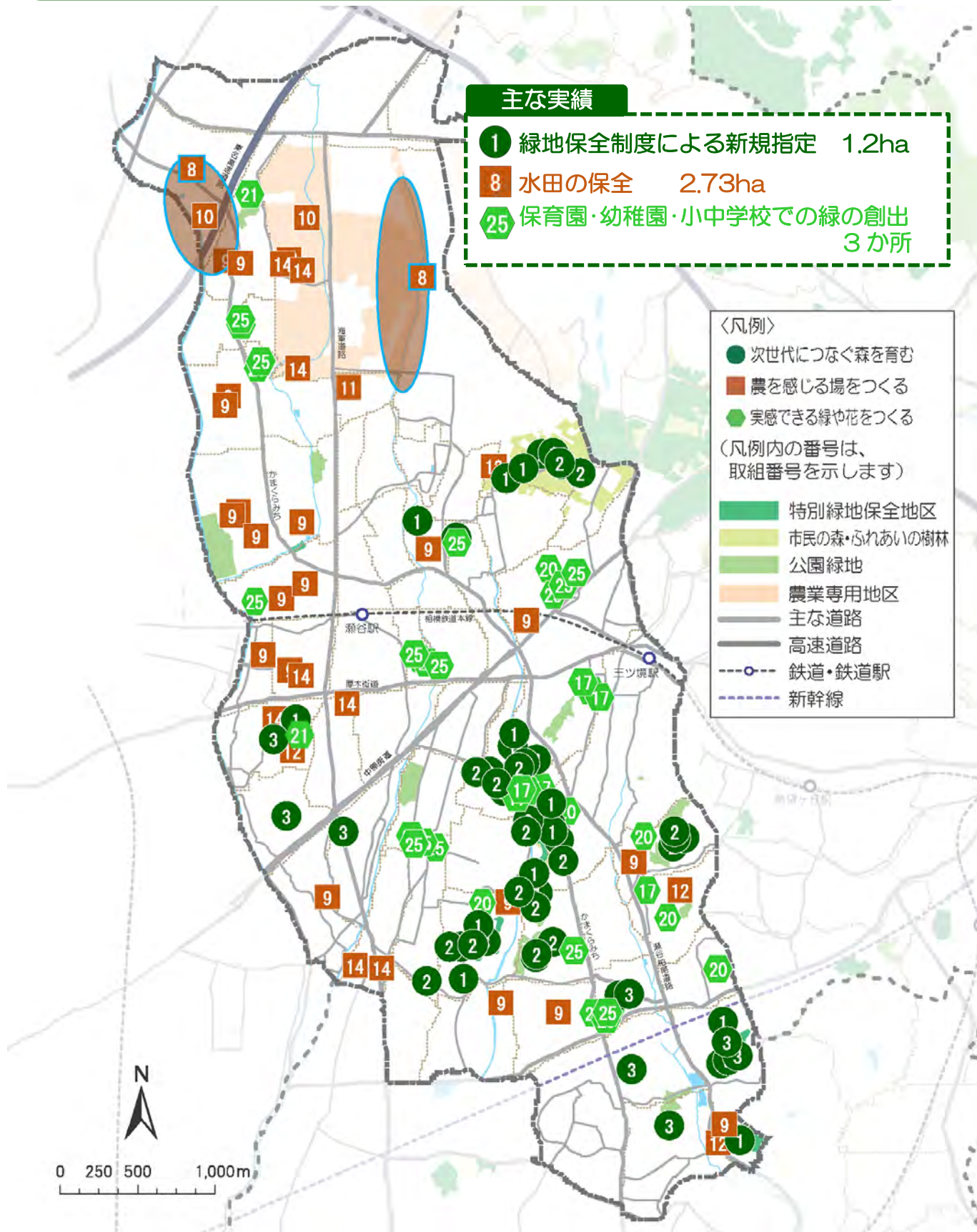


23 公共・公有地での緑の創出・育成
(泉スポーツセンター)



23 緑や花を身近に感じる各区の取組
(公園等での花壇整備事業)

瀬谷区



計画の柱1 市民とともに次世代につなぐ森を育む

1 緑地保全制度による指定の拡大・市による買取り

○緑地保全制度による新規指定 1.2ha

- ・特別緑地保全地区・近郊緑地特別保全地区

2020年度 0.5ha 阿久和南一丁目藤ヶ谷特別緑地保全地区

- ・市民の森等

2022年度 0.1ha 瀬谷市民の森（指定拡大）

- ・緑地保存地区

2020年度 0.1ha 橋戸三丁目

2021年度 0.2ha 相沢三丁目

- ・源流の森保存地区

2020年度 0.3ha 宮沢三丁目

○市による買取り

- ・特別緑地保全地区・近郊緑地特別保全地区

2021年度 1地区 宮沢・蟹沢特別緑地保全地区

2022年度 2地区 阿久和南一丁目特別緑地保全地区、宮沢三丁目特別緑地保全地区

- ・市民の森等

2022年度 1地区 瀬谷市民の森

○保全した樹林地の整備 7か所

2019年度 1か所 宮沢三丁目特別緑地保全地区

2020年度 2か所 宮沢三丁目特別緑地保全地区、宮沢ふれあい樹林

2021年度 3か所 東山ふれあい樹林（2か所）、宮沢ふれあい樹林

2022年度 1か所 瀬谷市民の森

2 森の多様な機能に着目した森づくりの推進

○森の維持管理 29 箇所

・維持管理（樹林地）

2019 年度	5 箇所	瀬谷市民の森、東山ふれあい樹林、宮沢ふれあい樹林、宮沢緑地、宮沢・蟹沢緑地
2020 年度	5 箇所	瀬谷市民の森、東山ふれあい樹林、宮沢ふれあい樹林、宮沢緑地、宮沢・蟹沢緑地
2021 年度	6 箇所	宮沢特別緑地保全地区、宮沢・蟹沢特別緑地保全地区、宮沢三丁目特別緑地保全地区、瀬谷市民の森、東山ふれあい樹林、宮沢ふれあい樹林
2022 年度	6 箇所	宮沢特別緑地保全地区、宮沢・蟹沢特別緑地保全地区、宮沢三丁目特別緑地保全地区、瀬谷市民の森、東山ふれあい樹林、宮沢ふれあい樹林

・維持管理（公園）

2019 年度	2 箇所	長屋門公園、瀬谷貉窪公園
2020 年度	1 箇所	長屋門公園
2021 年度	2 箇所	長屋門公園、瀬谷貉窪公園
2022 年度	2 箇所	長屋門公園、瀬谷貉窪公園

3 指定した樹林地における維持管理の支援

○維持管理の助成 14 件

2019 年度	2 件	阿久和南一丁目、宮沢三丁目
2020 年度	3 件	阿久和東四丁目、阿久和南一丁目、阿久和南二丁目
2021 年度	7 件	相沢三丁目、阿久和南一丁目、阿久和南三丁目、阿久和東四丁目、北新（2件）、橋戸三丁目
2022 年度	2 件	阿久和南一丁目、下瀬谷二丁目

計画の柱2 市民が身近に農を感じる場をつくる

8 水田の保全

○水田保全面積 2.73ha

2019 年度	3.20ha	瀬谷町、目黒町
2020 年度	3.35ha	瀬谷町、目黒町
2021 年度	2.79ha	瀬谷町、目黒町
2022 年度	2.73ha	瀬谷町、目黒町

5 各区の実績
瀬谷区

9 特定農業用施設保全契約の締結

○特定農業用施設保全契約の締結 23件

2019年度	8件	阿久和東一丁目、下瀬谷三丁目、瀬谷五丁目、瀬谷六丁目、二ツ橋町、本郷三丁目、宮沢三丁目、宮沢四丁目
2020年度	5件	相沢三丁目、阿久和西四丁目、上瀬谷町、中屋敷一丁目、本郷一丁目
2021年度	4件	本郷一丁目（2件）、本郷二丁目、本郷三丁目
2022年度	6件	阿久和南一丁目、上瀬谷町（2件）、中屋敷一丁目（2件）、本郷一丁目

10 農景観を良好に維持する活動の支援

○まとまりのある農地を良好に維持する団体の活動への支援

・集団農地維持 81.7ha

2019年度	81.6ha	八幡耕地整理組合、上瀬谷農業専用地区協議会
2020年度	81.7ha	八幡耕地整理組合、上瀬谷農業専用地区協議会
2021年度	81.7ha	八幡耕地整理組合、上瀬谷農業専用地区協議会
2022年度	81.7ha	八幡耕地整理組合、上瀬谷農業専用地区協議会

・農地縁辺部への植栽 4件

2019年度	1件	八幡耕地整理組合
2020年度	1件	八幡耕地整理組合
2021年度	1件	八幡耕地整理組合
2022年度	1件	八幡耕地整理組合

○周辺環境に配慮した活動への支援

・牧草等による環境対策 1.67ha

2019年度	0.77ha	下瀬谷一丁目、瀬谷町（3か所）、中屋敷三丁目、南瀬谷一丁目、南瀬谷二丁目（2か所）
2020年度	0.15ha	下瀬谷一丁目、南瀬谷一丁目、南瀬谷二丁目
2021年度	0.48ha	下瀬谷一丁目、瀬谷町（2か所）、南瀬谷一丁目、南瀬谷二丁目（2か所）
2022年度	0.27ha	下瀬谷一丁目、中屋敷三丁目、南瀬谷一丁目、南瀬谷二丁目

11 多様な主体による農地の利用促進

○遊休農地の復元支援 0.14ha

2022年度	0.14ha	中屋敷三丁目
--------	--------	--------

12 様々な市民ニーズに合わせた農園の開設

○様々なニーズに合わせた農園の開設 0.77ha

・収穫体験農園

2020年度 0.05ha 橋戸三丁目

2021年度 0.07ha 瀬谷町

・市民農園

2022年度 0.10ha 阿久和南三丁目

・農園付公園

2019年度 0.55ha 阿久和富士見小金台公園

14 地産地消にふれる機会の拡大

○直売所・青空市等の支援 9件

・直売所・加工所

2019年度 2件 下瀬谷一丁目、橋戸三丁目

2020年度 1件 橋戸三丁目

2021年度 2件 下瀬谷一丁目、瀬谷五丁目

・青空市・マルシェ等

2019年度 1件 上瀬谷直売所グループ

2020年度 1件 上瀬谷直売所グループ

2021年度 1件 上瀬谷直売所グループ

2022年度 1件 上瀬谷直売所グループ

計画の柱3 市民が実感できる緑や花をつくる

17 公共施設・公有地での緑の創出・育成

○緑の維持管理 9か所

2019年度 3か所 ニツ橋公園、宮沢ふれあいの水辺、阿久和消防出張所

2020年度 2か所 ニツ橋公園、宮沢ふれあいの水辺

2021年度 2か所 ニツ橋公園、宮沢ふれあいの水辺

2022年度 2か所 ニツ橋公園、宮沢ふれあいの水辺

18 街路樹による良好な景観の創出・育成

○良好な維持管理

2019年度	環状4号線（海軍道路）、環状4号線（瀬谷駅南口-下瀬谷）ほか 計 574本
2020年度	環状4号線（海軍道路北部）、環状4号線（瀬谷駅南側）ほか 計 362本
2021年度	環状4号線（海軍道路北部）、環状4号線（瀬谷駅南側）ほか 計 490本
2022年度	環状4号線（八王子街道～中瀬谷消防）、環状4号（瀬谷駅南側） ほか 計424本

20 建築物緑化保全契約の締結

○建築物緑化保全契約の締結 6件

2019年度	5件	阿久和西一丁目、阿久和東一丁目、阿久和東二丁目、二ツ橋町、宮 沢三丁目
2020年度	1件	阿久和東三丁目

21 名木古木の保存

○名木古木の保存

・維持管理の助成

2020年度	3本	上瀬谷町（3本）
2022年度	2本	橋戸三丁目（2本）

23 地域に根差した緑や花の楽しみづくり

○緑や花を身近に感じる各区の取組

2019年度	区内小中学生と保護者を対象としたフラワーアレンジメント講座、二ツ橋 公園におけるプランターの設置・植栽管理
2020年度	オープンガーデンの実施（会場の様子をオンラインで公開）、区内24公園 における花苗支援、二ツ橋公園におけるプランター設置、旧上瀬谷通信施 設でのイベント実施、たねダンゴワークショップの実施
2021年度	オープンガーデンの実施、区内の花・緑を紹介するガイドマップの制作、 二ツ橋公園・楽老南公園におけるプランター設置、旧上瀬谷通信施設での イベント実施、たねダンゴワークショップの実施
2022年度	オープンガーデンの実施、二ツ橋公園、楽老南公園におけるプランターの 設置、たねダンゴワークショップの実施、三ツ境駅南口ペDESTリアンデ ッキ内の花壇の設置

○地域の花いっぱいにつながる取組

2019年度	花の種の配布、花苗の配布（瀬谷土橋公園ほか1か所）
2020年度	球根などの配布（相沢四丁目公園ほか36か所）
2021年度	球根などの配布（相沢四丁目公園ほか33か所）
2022年度	球根などの配布（相沢四丁目公園ほか35か所）

24 人生記念樹の配布

○人生記念樹の配布 1,041 本

2019 年度 216 本

2020 年度 286 本

2021 年度 337 本

2022 年度 202 本

※過年度の報告書から本数を修正しました。

25 保育園・幼稚園・小中学校での緑の創出・育成

○緑の創出 3 箇所

2019 年度 1 箇所 大門小学校

2022 年度 2 箇所 はらのご原幼稚園、相沢小学校

○緑の維持管理 19 箇所

2019 年度 5 箇所 瀬谷第二保育園、中屋敷保育園、原小学校、南瀬谷小学校、二つ橋高等特別支援学校

2020 年度 5 箇所 瀬谷第二保育園、中屋敷保育園、原小学校、南瀬谷小学校、二つ橋高等特別支援学校

2021 年度 5 箇所 瀬谷第二保育園、中屋敷保育園、原小学校、南瀬谷小学校、二つ橋高等特別支援学校

2022 年度 4 箇所 瀬谷第二保育園、中屋敷保育園、原小学校、南瀬谷小学校

5 各区の実績
瀬谷区



2 森の維持管理
(長屋門公園)



3 樹林地の維持管理の助成
(下瀬谷二丁目)



8 水田の保全
(目黒町)



11 遊休農地の復元支援
(目黒町)



23 緑や花を身近に感じる各区の取組
(二ツ橋公園)



25 幼稚園での緑の創出・育成
(区内幼稚園)



2023年9月

横浜市環境創造局みどりアップ推進課

横浜市中区本町 6-50-10

電話 045-671-2712 FAX 045-224-6627



横浜みどりアップ計画

横浜みどりアップ計画 [2019-2023]

4か年 の実績 概要 [2019(令和元)~2022(令和4)年度の実績]

効果的な広報の展開

緑に関するイベントへの出展や、「広報よこはま」等への記事掲載、SNSなど様々な手法を用いて、幅広い年齢層にみどりアップ計画の取組を知っていただけるよう広報を展開しています。



マスコットキャラクターを活用した広報

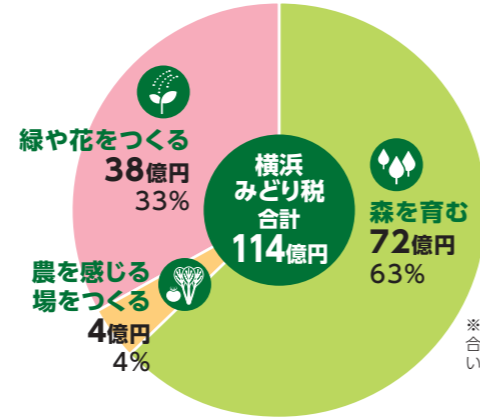


広報よこはま 令和4年10月号

計画の事業費と横浜みどり税(4か年の累計)

緑の減少に歯止めをかけ、「緑豊かなまち横浜」を次世代に継承するため、2019(令和元)年度からの4か年の事業費365億円のうち、横浜みどり税を114億円充当し、市内の樹林地の買取り・維持管理等をはじめとした緑の保全・創出、育成に取り組めました。

計画の柱ごと の活用額



横浜みどり税の課税方式

- 【個人】市民税の均等割に年間900円を上乗せ
※所得が一定金額以下で市民税均等割が課税されない方を除く
- 【法人】市民税の年間均等割額の9%相当額を上乗せ

※端数調整により合計値は一致しないことがあります。

イベント・体験のスポットをご紹介します

詳しくはHPをご覧ください



ほかにも、18区役所で様々な取組を行っています



森にふれる

散策など森にふれるイベントやスポット
ウェルカムセンター(5か所)
市民の森/ふれあいの樹林
市民の森ガイドマップ/森づくり体験会

トンボ塾 / 戸塚区

農にふれる

農畜産物の直売など農にふれるイベントやスポット
収穫体験農園/市民農園
直売所/マルシェ
よこはま産地消費サポート店

市内産農畜産物の直売 / 中区

緑や花にふれる

まち歩きなど緑や花にふれるイベントやスポット
花の見どころカレンダー
ガーデンネックレス横浜/里山ガーデンフェスタ/都心臨海部等の緑花

里山ガーデンフェスタ / 旭区

横浜みどりアップ計画市民推進会議の活動

横浜みどりアップ計画市民推進会議は、公募市民や学識経験者などから構成されている附属機関です。横浜みどりアップ計画の取組の検証や、現地調査を行い、評価・提案を報告書にまとめているほか、広報誌「YokohamaみどりアップAction」を発行しています。



詳しくはHPをご覧ください



「YokohamaみどりアップAction」

お問合せ 「横浜みどりアップ計画」について
環境創造局政策課 TEL.045-671-4214 FAX.045-550-4093

「横浜みどりアップ計画」の各事業について
環境創造局みどりアップ推進課 TEL.045-671-2712 FAX.045-224-6627

「横浜みどり税」について
【個人市民税】各区役所税務課または 財政局税務課 TEL.045-671-2253 FAX.045-641-2775
【法人市民税】 財政局法人課税課 TEL.045-671-4481 FAX.045-210-0481

実績報告書はHPをご覧ください
区ごとの実績もご覧いただけます

横浜みどりアップ計画



緑の減少に歯止めをかけ、「緑豊かなまち横浜」を次世代に継承するため、「横浜みどり税」を財源の一部として活用しながら、「横浜みどりアップ計画[2019-2023]」を進めています。このリーフレットは、2019(令和元)~2022(令和4)年度に実施した事業の実績を概要としてまとめています。



計画の柱1

市民とともに次世代につなぐ森を育む

樹林地の保全の進展

4か年で144haの樹林地を新たに緑地保全制度により指定しました。



- ▶ 緑地保全制度による新規指定 **144.8ha**
- ▶ 市による買取り **67.0ha**



富岡東三丁目特別緑地保全地区 / 金沢区

保全した樹林地の良好な維持管理や安全の確保を市民協働で推進

市が管理する樹林地の安全を確保しながら、緑の機能が発揮されるような森づくりを進めました。

- ▶ 森の維持管理 **樹林地636か所、公園150か所**
- ▶ 維持管理の助成 **525件**

市民が森に親しむための取組の展開

市民が気軽に森の中に入り、森に親しむことができるように、市民の森などの整備を進めました。

- ▶ 保全した樹林地の整備 **312か所**



整備した園路
今井・境木市民の森 / 保土ケ谷区



整備した柵など
東寺尾ふれあいの樹林 / 鶴見区



森づくり体験会
池辺市民の森 / 都筑区



土地所有者による維持管理への支援
作業前後 / 戸塚区



計画の柱2

市民が身近に農を感じる場をつくる

良好な農景観の保全の推進

市内の水田面積の約9割を保全し、農地縁辺部の植栽等により良好な農景観を維持・形成しました。

- ▶ 水田保全面積 **111.9ha**



保全された水田 / 栄区



農地縁辺部への植栽 / 都筑区

農とふれあう場や機会の増加

気軽に農体験ができる収穫体験農園や、自分で考え自由に耕作できる農園付公園など、市民ニーズに合わせた農園の開設を進めるとともに、市民が農について学ぶイベントや講座を実施しました。

- ▶ 様々なニーズに合わせた農園の開設 **17.5ha**



収穫体験農園の開設 / 泉区



市民農業大学講座 / 保土ケ谷区

地産地消の拡大

市民が身近なところで地産地消を実感できるよう、直売所・青空市等の支援を行ったほか、野菜を購入できる自動販売機の設置などを支援しました。

- ▶ 直売所・青空市等の支援 **196件**



みなとみらい農家朝市 / 西区



杉田野菜直売所 / 磯子区



計画の柱3

市民が実感できる緑や花をつくる

市民が実感できる緑と花の空間づくりの推進

公共施設や公園、保育園など、市民の身近な場所で実感できる緑を創出しました。

- ▶ 公共施設・公有地での緑の創出 **34か所**
- ▶ 保育園・幼稚園・小中学校での緑の創出 **168か所**



中本牧コミュニティハウス敷地内
こどもの遊び場 / 中区



六角橋四丁目公園 / 神奈川区

緑や花による街の賑わいづくりの推進

多くの市民が集まる都心臨海部の公共空間などで、緑や花による空間演出を集中的に展開し、街の魅力の向上、賑わいづくりを進めています。

- ▶ 都心臨海部等の緑花による魅力ある空間づくりと維持管理 **58か所**



新横浜駅周辺 / 港北区



日本大通り / 中区

全区での市民や企業との協働による緑と花の取組の展開

地域緑のまちづくりで、その地区ならではの緑のまちづくりを推進しました。オープンガーデンなどの市民が緑や花に親しむ取組を各区で推進しました。

- ▶ 緑や花を身近に感じる各区の取組 **18区で推進**



ひまわり栽培交流 / 港南区



オープンガーデン / 瀬谷区

子どもを育むみどりの取組



森に関わるきっかけや環境を学ぶ機会として、市内大学と連携した「よこはま森の楽校」や、市内7館の図書館と連携した「森の中のプレイパーク」などのイベントを開催しました。

参加者の声

森を探検し、ふしぎなことをたくさん調べることができて、いい経験になったと思う。



よこはま森の楽校
東洋英和女学院大学 / 緑区



森の中のプレイパーク
南図書館 / 南区



横浜ふるさと村や恵みの里において、農家団体が実施する農体験教室等のイベントの開催を支援しました。

参加者の声

横浜でもこういった農体験ができる場所があるのはうれしい。



田植え体験
田奈恵みの里 / 青葉区



じゃがいも掘り体験
舞岡ふるさと村 / 戸塚区



保育園・幼稚園・小中学校において園庭・校庭の芝生化や生き物とふれあい学べるビオトープの整備、花壇づくり、屋上や壁面の緑化など、多様な緑を創出する取組を推進しました。

参加者の声

学校にビオトープを導入することで、生き物に興味・関心を持つ生徒が増えました。



芝生化した園庭
幼稚園 / 旭区



ビオトープの整備
保育園 / 港北区



これからの緑の取組[2024-2028]（原案）について

1 これまでの経緯

- 令和4年9月 第3回市会定例会常任委員会
 - ・横浜みどりアップ計画[2019-2023]の2021年度までの3か年の事業・取組の評価・検証を報告
 - ・「これからの緑の取組」の検討の方向性を報告
- 令和4年12月 第4回市会定例会常任委員会
 - 「これからの緑の取組[2024-2028]（素案）」を報告
- 令和4年12月～令和5年1月 「これからの緑の取組[2024-2028]（素案）」に対する市民意見募集を実施

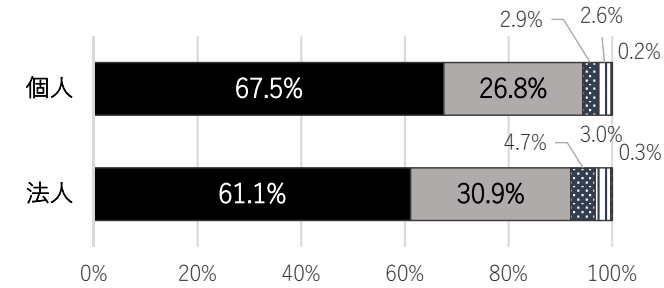
2 市民意見募集の結果 別紙1

	(ア) アンケート方式	(イ) 公募型自由記述方式
実施期間	令和4年12月23日（金）から令和5年1月31日（火）まで	
実施方法	① 個人 5,000人 ※1 ② 法人 5,000社 ※2 ※1 住民基本台帳の満18歳以上の市民から無作為抽出 ※2 法人市民税課税台帳から無作為抽出	素案の概要版パンフレットに添付のハガキ、Webフォーム、電子メール、FAX <概要版パンフレット配架場所> 各区役所の広報相談係、市民情報センター、図書館、PRボックスなど、約600箇所
回収数	① 個人 1,281人 回収率 25.6% ② 法人 939社 回収率 18.8%	43通（意見総数：93件）

(ア) アンケート方式 主な設問

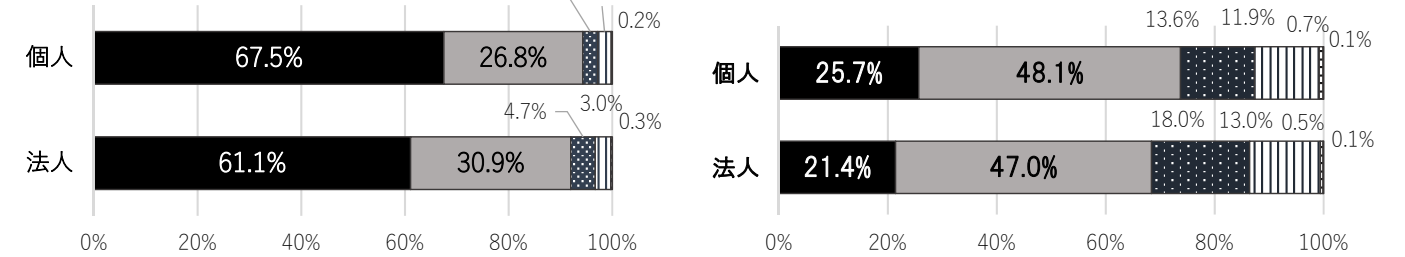
取組について

問1 「これからの緑の取組」では、引き続き、貴重な緑を将来に残すとともに、新たに創出する取組を進めようとしています。このことについてどう思いますか。



取組の財源について

問7 「これからの緑の取組」に掲げた緑を保全・創出し、未来に引き継いでいくための施策を実施するためには、安定した財源が必要となります。その財源の一部を、横浜みどり税のように、市民が負担することについて、どう思いますか。



- 積極的に取り組む必要がある
- どちらかと言えば取り組む必要がある
- どちらかと言えば取り組む必要がない
- 取り組む必要がない
- 無回答
- 無効回答

※問7は「取り組む」⇒「負担する」に読み替え

(イ) 公募型自由記述方式 主なご意見

- ・ これまでの実績と成果が出ているので、継続してほしい
- ・ 成果があがっていると記載があるが、実感がない
- ・ 高校生、大学生の参加を増やせる取組を充実してほしい
- ・ 保全した樹林地が市民の森のように市民利用できるようならとても良いと思う
- ・ 都心部に住む人間として、高質な緑化はありがたい、量よりも質にこだわり事業を進めてほしい
- ・ 国際園芸博覧会の開始に向けた積極的な取組をお願いしたい

3 「これからの緑の取組 [2024-2028]（原案）」について

(1) 素案から原案への主な変更点

ア 想定事業費 430～450億円を精査し、総事業費 415億円に変更

- ・ 樹林地の用地取得費を近年の価格動向を踏まえ精査
- ・ 用地取得を伴う取組において、新たな用地取得を抑制し取得済み箇所の整備に注力

イ 構成の変更

- ・ 施策体系を「横浜市中期計画 2022-2025」に整合
- ・ 市民意見募集等の意見を反映して、これまでの取組の成果が分かる図やイラストなどを追加

(2) 主な内容と事業費 別紙2 別紙3

4 今後のスケジュール（予定）

「これからの緑の取組[2024-2028]（案）」策定に向けて検討を進めていきます。

これからの緑の取組[2024-2028](素案)に対する市民意見募集の結果(概要)

1 市民意見募集の概要

	(ア) アンケート方式	(イ) 公募型自由記述方式
実施期間	令和4年12月23日(金)から令和5年1月31日(火)まで	
実施方法	① 個人 5,000人 ※1 ② 法人 5,000社 ※2 ※1 住民基本台帳の満18歳以上の市民から無作為抽出 ※2 法人市民税課税台帳から無作為抽出	素案の概要版パンフレットに添付のハガキ、Webフォーム、電子メール、FAX <概要版パンフレット配架場所> 各区役所の広報相談係、市民情報センター、図書館、PRボックスなど、約600箇所
回収数	① 個人 1,281人 回収率 25.6% ② 法人 939社 回収率 18.8%	43通(意見総数:93件)

2 アンケート方式の設問ごとの回答割合

(端数調整により合計値が100%にならない場合があります。)

<p>問1 引き続き、貴重な緑を将来に残すとともに、新たな緑を創出する取組を進めようとしています。このことについてどう思うか</p> <table border="1"> <caption>問1の回答割合</caption> <thead> <tr> <th>回答者</th> <th>積極的</th> <th>どちらかと言えば</th> <th>必要がない</th> <th>無回答</th> <th>無効</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>個人</td> <td>67.5%</td> <td>26.8%</td> <td>2.9%</td> <td>2.6%</td> <td>0.2%</td> </tr> <tr> <td>法人</td> <td>61.1%</td> <td>30.9%</td> <td>4.7%</td> <td>3.0%</td> <td>0.3%</td> </tr> </tbody> </table>	回答者	積極的	どちらかと言えば	必要がない	無回答	無効	個人	67.5%	26.8%	2.9%	2.6%	0.2%	法人	61.1%	30.9%	4.7%	3.0%	0.3%	<p>問2 保全・創出した緑の維持管理の充実により、緑の「質」を高めようとしています。このことについてどう思うか</p> <table border="1"> <caption>問2の回答割合</caption> <thead> <tr> <th>回答者</th> <th>積極的</th> <th>どちらかと言えば</th> <th>必要がない</th> <th>無回答</th> <th>無効</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>個人</td> <td>63.2%</td> <td>29.8%</td> <td>3.9%</td> <td>2.8%</td> <td>0.2%</td> </tr> <tr> <td>法人</td> <td>57.9%</td> <td>32.8%</td> <td>5.6%</td> <td>3.3%</td> <td>0.3%</td> </tr> </tbody> </table>	回答者	積極的	どちらかと言えば	必要がない	無回答	無効	個人	63.2%	29.8%	3.9%	2.8%	0.2%	法人	57.9%	32.8%	5.6%	3.3%	0.3%
回答者	積極的	どちらかと言えば	必要がない	無回答	無効																																
個人	67.5%	26.8%	2.9%	2.6%	0.2%																																
法人	61.1%	30.9%	4.7%	3.0%	0.3%																																
回答者	積極的	どちらかと言えば	必要がない	無回答	無効																																
個人	63.2%	29.8%	3.9%	2.8%	0.2%																																
法人	57.9%	32.8%	5.6%	3.3%	0.3%																																
<p>問3 市民と緑との関わりを増やし、緑とともにある豊かな暮らしを実現する取組を進めようとしています。このことについてどう思うか</p> <table border="1"> <caption>問3の回答割合</caption> <thead> <tr> <th>回答者</th> <th>積極的</th> <th>どちらかと言えば</th> <th>必要がない</th> <th>無回答</th> <th>無効</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>個人</td> <td>60.6%</td> <td>30.8%</td> <td>5.5%</td> <td>2.8%</td> <td>0.2%</td> </tr> <tr> <td>法人</td> <td>56.2%</td> <td>32.7%</td> <td>7.1%</td> <td>3.3%</td> <td>0.5%</td> </tr> </tbody> </table>	回答者	積極的	どちらかと言えば	必要がない	無回答	無効	個人	60.6%	30.8%	5.5%	2.8%	0.2%	法人	56.2%	32.7%	7.1%	3.3%	0.5%	<p>問4 取組の柱1「市民とともに次世代につなぐ森を育む」の取組についてどう思うか</p> <table border="1"> <caption>問4の回答割合</caption> <thead> <tr> <th>回答者</th> <th>積極的</th> <th>どちらかと言えば</th> <th>必要がない</th> <th>無回答</th> <th>無効</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>個人</td> <td>60.9%</td> <td>31.2%</td> <td>4.7%</td> <td>2.7%</td> <td>0.5%</td> </tr> <tr> <td>法人</td> <td>57.2%</td> <td>33.1%</td> <td>6.0%</td> <td>3.4%</td> <td>0.3%</td> </tr> </tbody> </table>	回答者	積極的	どちらかと言えば	必要がない	無回答	無効	個人	60.9%	31.2%	4.7%	2.7%	0.5%	法人	57.2%	33.1%	6.0%	3.4%	0.3%
回答者	積極的	どちらかと言えば	必要がない	無回答	無効																																
個人	60.6%	30.8%	5.5%	2.8%	0.2%																																
法人	56.2%	32.7%	7.1%	3.3%	0.5%																																
回答者	積極的	どちらかと言えば	必要がない	無回答	無効																																
個人	60.9%	31.2%	4.7%	2.7%	0.5%																																
法人	57.2%	33.1%	6.0%	3.4%	0.3%																																
<p>問5 取組の柱2「市民が身近に農を感じる場をつくる」の取組についてどう思うか</p> <table border="1"> <caption>問5の回答割合</caption> <thead> <tr> <th>回答者</th> <th>積極的</th> <th>どちらかと言えば</th> <th>必要がない</th> <th>無回答</th> <th>無効</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>個人</td> <td>55.6%</td> <td>33.6%</td> <td>6.9%</td> <td>3.5%</td> <td>0.5%</td> </tr> <tr> <td>法人</td> <td>49.6%</td> <td>36.4%</td> <td>7.7%</td> <td>5.9%</td> <td>0.4%</td> </tr> </tbody> </table>	回答者	積極的	どちらかと言えば	必要がない	無回答	無効	個人	55.6%	33.6%	6.9%	3.5%	0.5%	法人	49.6%	36.4%	7.7%	5.9%	0.4%	<p>問6 取組の柱3「市民が実感できる緑や花をつくる」の取組についてどう思うか</p> <table border="1"> <caption>問6の回答割合</caption> <thead> <tr> <th>回答者</th> <th>積極的</th> <th>どちらかと言えば</th> <th>必要がない</th> <th>無回答</th> <th>無効</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>個人</td> <td>63.3%</td> <td>28.0%</td> <td>4.8%</td> <td>3.4%</td> <td>0.5%</td> </tr> <tr> <td>法人</td> <td>58.8%</td> <td>31.4%</td> <td>5.5%</td> <td>3.9%</td> <td>0.3%</td> </tr> </tbody> </table>	回答者	積極的	どちらかと言えば	必要がない	無回答	無効	個人	63.3%	28.0%	4.8%	3.4%	0.5%	法人	58.8%	31.4%	5.5%	3.9%	0.3%
回答者	積極的	どちらかと言えば	必要がない	無回答	無効																																
個人	55.6%	33.6%	6.9%	3.5%	0.5%																																
法人	49.6%	36.4%	7.7%	5.9%	0.4%																																
回答者	積極的	どちらかと言えば	必要がない	無回答	無効																																
個人	63.3%	28.0%	4.8%	3.4%	0.5%																																
法人	58.8%	31.4%	5.5%	3.9%	0.3%																																
<p>問7 「これからの緑の取組」の財源の一部を、横浜みどり税のように市民が負担することについてどう思うか</p> <table border="1"> <caption>問7の回答割合</caption> <thead> <tr> <th>回答者</th> <th>積極的</th> <th>どちらかと言えば</th> <th>必要がない</th> <th>無回答</th> <th>無効</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>個人</td> <td>25.7%</td> <td>48.1%</td> <td>13.6%</td> <td>11.9%</td> <td>0.7%</td> </tr> <tr> <td>法人</td> <td>21.4%</td> <td>47.0%</td> <td>18.0%</td> <td>13.0%</td> <td>0.5%</td> </tr> </tbody> </table>	回答者	積極的	どちらかと言えば	必要がない	無回答	無効	個人	25.7%	48.1%	13.6%	11.9%	0.7%	法人	21.4%	47.0%	18.0%	13.0%	0.5%	<p>凡例</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 積極的に取り組む必要がある ■ どちらかと言えば取り組む必要がある ■ どちらかと言えば取り組む必要がない □ 取り組む必要がない □ 無回答 □ 無効回答 <p>※問7は「取り組む」⇒「負担する」に読み替え</p>																		
回答者	積極的	どちらかと言えば	必要がない	無回答	無効																																
個人	25.7%	48.1%	13.6%	11.9%	0.7%																																
法人	21.4%	47.0%	18.0%	13.0%	0.5%																																

3 公募型自由記述方式でいただいた意見の分類

寄せられたご意見を分類すると、次の一覧のとおりです。

分類		件数
1. 素案全体に関する事		21
	取組を支持するご意見	6
	理念や目標、計画の枠組みに関するご意見	2
	取組の進め方、優先順位に関するご意見	4
	取組の内容に関するご意見	8
	素案の表現に関するご意見	1
2. 「柱1 市民とともに次世代につなぐ森を育む」に関する事		15
	柱1に関するご意見	2
	樹林地の確実な保全の推進に関するご意見	3
	良好な森を育成する取組の推進に関するご意見	5
	森に関わる多様な機会の創出に関するご意見	4
	その他ご意見	1
3. 「柱2 市民が身近に農を感じる場をつくる」に関する事		4
	柱2に関するご意見	0
	農に親しむ取組の推進に関するご意見	3
	地産地消の推進に関するご意見	1
4. 「柱3 市民が実感できる緑や花をつくる」に関する事		12
	柱3に関するご意見	4
	市民が実感できる緑や花をつくり、育む取組の推進に関するご意見	5
	緑や花に親しむ取組の推進に関するご意見	3
5. 「効果的な広報の展開」に関する事		7
6. これまでの成果に関する事		4
7. 税、財源に関する事		28
	税を支持、容認するご意見	8
	税を支持しないご意見	3
	負担低減や課税方法の変更を求めめるご意見	2
	財源の検討に関するご意見	7
	税の使途・情報提供に関するご意見	7
	その他ご意見	1
8. その他		2
総計		93

4 公募型自由記述方式でいただいた主なご意見

1.素案全体に関すること (21 件)

主なご意見の主旨

- ・ 素案全体とても大事な取組であり、積極的に進めてほしい。
- ・ 緑の保全し、増やしていく取組は素晴らしい。地球温暖化や生物多様性につながる。
- ・ これまでの実績と成果が出ているので、継続してほしい。
- ・ 緑は人が生活するうえで不可欠なものなので、量だけでなく質の高い維持が必要。
- ・ 規制による開発抑制や緑地保全が必須である。街なかを花などにより飾りつけるのではなく、里山のある街づくりに集中した施策を望む。
- ・ 緑の取組を、自然災害における2次災害防止の観点からも捉えてほしい。また、市民が緑や農に親しむ目的に、食の安全保障も加えてほしい。
- ・ 行政と市民が「地域」「まち」での緑の資源(樹林地・農地等)を踏まえた緑の将来像図を描けないか。地域ごとの緑の資源と課題、方向性を提起することが「協働による緑づくり」の起爆剤になる。
- ・ 活動のなかで取組の柱1から3のつながりをもつようにしてほしい。
- ・ 高校生、大学生の参加を増やせる取組を充実してほしい。

2.「柱1 市民とともに次世代につなぐ森を育む」に関すること (15 件)

主なご意見の主旨

- ・ 何ヘクタールの保全といっても実感がわからない。
- ・ 樹林地を保全するのは素晴らしいが、土地を買いすぎだと思う。買わなくて済む手法を考えてほしい。
- ・ 保全を積極的に進めるとともに、森の育成にも力を注いでほしい。
- ・ 崖地対策は重要である。
- ・ 保全した樹林地が市民の森のように市民利用できるようになるならとても良いと思う。
- ・ 樹林地の指定目標は面積でなくてもいいと思う。市民の森なら閉鎖型の3倍の価値がある。
- ・ 樹林地整備で発生した枯損木を活用できないか。枯損木から加工された木工品に触れること等により、現地に行かずとも樹林地の存在を実感し、想いを馳せる機会を創出することが大切だと思う。
- ・ 私有地の竹林も景観保全など近隣住民の公共財になっていることを鑑み、放置竹林の間伐などにも新たに取り組んでほしい。

3.「柱2 市民が身近に農を感じる場をつくる」に関すること (4 件)

主なご意見の主旨

- ・ 農業専用地区内の道の一部を、散歩しやすい道として整備していただきたい。農業専用地区内の道を周辺住民が気軽に散歩できる道として整備すれば、周辺住民にとって農がより身近になり、農景観を良くしていく意欲も高まると期待できる。
- ・ 都心部での農とのふれあいは耕作ではなく、市内産の農畜産物を食べることだと思う。
- ・ 農園付公園が都心部にあるより、花や手入れされた芝生のほうがいい。
- ・ 農園付公園の利用料は安すぎると感じる。同じ値段のまま都心部で行った場合、人気が出すぎるのではないかな。

4.「柱3 市民が実感できる緑や花をつくる」に関すること（12件）

主なご意見の主旨

- ・ 都心部など緑の少ない地域で緑が増えるようにしてほしい。
- ・ みなとみらいエリアで、ニューヨークのセントラルパークのような公園に人が訪れる、公園で観光誘致できるような公園メインのまちづくりをしてほしい。圧倒的に緑が少ない。
- ・ 美しい街路樹が育成できるような十分な管理をお願いしたい。
- ・ 都心部に住む人間として、高質な緑化はありがたい、量よりも質にこだわり事業を進めてほしい。
- ・ 国際園芸博覧会の開始に向けた積極的な取組をお願いしたい。

5.「効果的な広報の展開」に関すること（7件）

主なご意見の主旨

- ・ 緑の10大拠点の近くに住んでいない市民にも電車やバスでどう移動すれば緑の多い場所に行けるのか、どの季節に行けばどのような風景が見られるのかをわかりやすく広報してほしい。
- ・ イベントや体験について情報を得ようとしなければ得られないので、もっと駅などにポスターを掲示したり、小学校等で配布したりしてほしい。
- ・ みどり税を使った成果のアピールが足りないように感じる。

6.これまでの成果に関すること（4件）

主なご意見の主旨

- ・ 市民の森を増やせたことはとても良かったと思う。港の見える丘公園や山下公園のバラは見事。
- ・ 成果があがっていると記載があるが、実感がない。

7.税、財源に関すること（28件）

主なご意見の主旨

- ・ 緑の取組も大事なので、予算をしっかり配分してほしい。
- ・ 緑の取組に関する財源は、一般財源のなかで確保すべき。
- ・ これまでの実績と成果が出ているので、みどり税を継続してほしい。
- ・ みどり税について1,000円/年、1,200円/年になってもいい。
- ・ みどり税は、偏った地域に活用しているため、徴収は止めてほしい。
- ・ みどり税の徴収は止め、大企業の法人課税を引き上げて横浜の緑に貢献したい企業だけ誘致すればいい。
- ・ 街路樹へ予算を使いすぎないでほしい。
- ・ 公園愛護会への支援をみどり税で充実すべき。
- ・ 市債を発行し、未来の市民にも負担してもらいたい。

(単位：億円)

	事業費	国費	市債	一般財源
柱1 市民とともに次世代につなぐ森を育む	302	60	133	110
柱2 市民が身近に農を感じる場をつくる	34	-	12	23
柱3 市民が実感できる緑や花をつくる	77	0.5	6	71
効果的な広報の展開	0.8	-	-	0.8
これからの緑の取組[2024-2028] (原案) 総事業費	415	60	150	204

※端数処理により、合計値は一致しないことがあります。

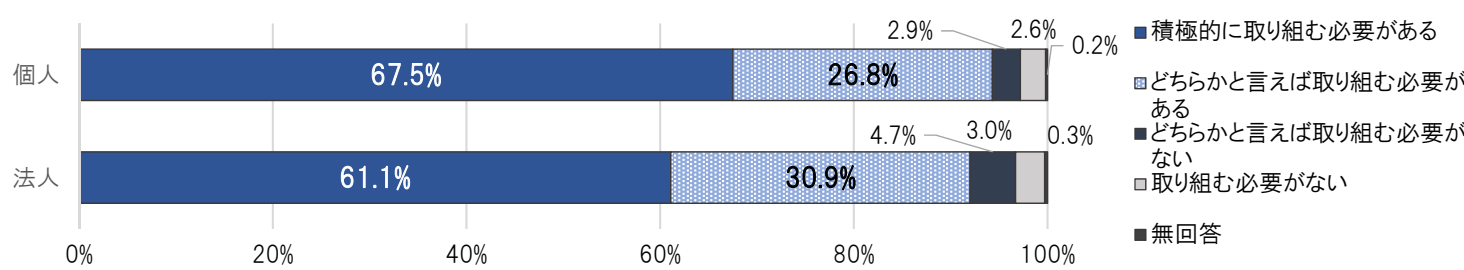
素案に対する市民意見募集の結果(概要)

	アンケート方式	公募型自由記述方式
実施期間	2022 (令和4) 年12月23日 (金) から2023 (令和5) 年1月31日 (火) まで	
実施方法	無作為抽出の個人5,000人、法人5,000社に対し調査票を送付	素案の概要版パンフレットに添付のハガキ、Webフォーム、電子メール、FAX
回収数	個人：1,281人 法人：939社	43通 (意見総数：93件)

アンケート方式の回答結果

目標・取組について、個人・法人とも、8～9割の方に「積極的に取り組む必要がある」または「どちらか言えば取り組む必要がある」とお答えいただきました。

問1 「これからの緑の取組」では、引き続き、貴重な緑を将来に残すとともに、新たに創出する取組を進めようとしています。このことについてどう思いますか。



これからの緑の取組[2024-2028] 策定の流れ



図：「これからの緑の取組 [2024-2028]」策定の流れ

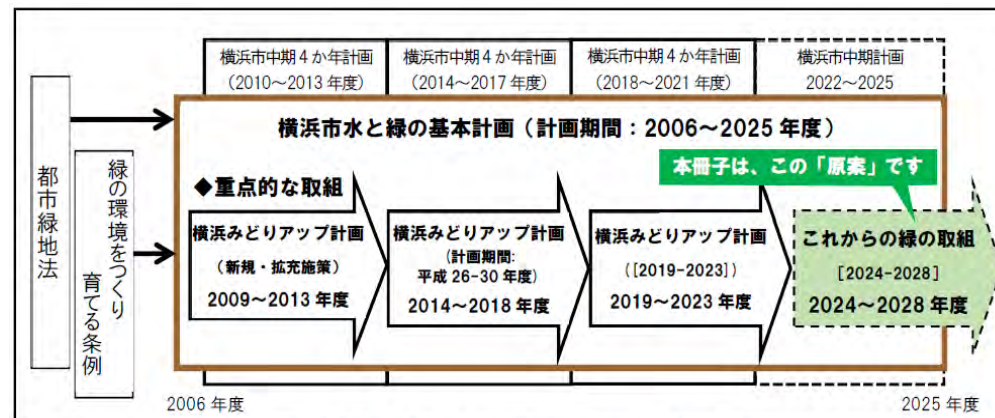
これからの緑の取組[2024-2028] (原案概要版)

横浜みどりアップ計画

横浜市は大都市でありながら、市民生活の身近な場所に、多くの樹林地や農地などの多様な緑を有しています。これらの緑を次世代に引き継ぐため、「横浜市水と緑の基本計画」の重点的な取組として、2009 (平成21) 年度から「横浜みどり税」を財源の一部に活用した「横浜みどりアップ計画」を推進しています。

これからの緑の取組 [2024-2028]

現行の「横浜みどりアップ計画」は、2023 (令和5) 年度末までの計画ですが、緑の保全や創出は長い時間をかけて継続的に取り組むことが必要です。そこで、これまでの取組の成果などを踏まえ、2024 (令和6) 年度以降に重点的に取り組む「これからの緑の取組[2024-2028]」の原案をとりまとめました。



図：「これからの緑の取組 [2024-2028]」の位置付け



花と緑に関するウォーキングイベント 家族で学ぶ農体験講座 森の中のプレイパーク



図 市民の森の開園状況

5か年の目標

- 緑の減少に歯止めをかけ、総量の維持を目指します
緑地保全制度による指定が進むことで樹林地の担保量が増加、水田の保全面積を維持、市街地で緑を創出する取組が進展 など
- 地域特性に応じた緑の保全・創出・維持管理の充実により緑の質を高めます
森の保全管理など緑の多様な機能や役割を発揮する取組の進展、緑や花の創出により街の魅力・賑わいが向上 など
- 市民と緑との関わりを増やし、緑とともにある豊かな暮らしを実現します
森に関わるイベントや農作物の収穫体験、地域の緑化活動など、市民や事業者が緑に関わる機会が増加 など

取組のポイント

- 緑地保全制度により指定した民有樹林地の維持管理負担を軽減するための支援を拡充
- 市民が様々なかたちで森に親しみ、楽しむことができる多様な活用を推進
- 都心部から郊外部まで、農とふれあう機会の全市的な展開を推進
- 地域が主体となって取り組む地域緑のまちづくりをはじめ、地域での緑や花の取組を推進

柱1 市民とともに次世代につなぐ森を育む <本編P.16-P.23> 約302億円

施策1 まとまりのある樹林地の保全・活用

事業① 緑地保全制度による指定の拡大・市による買取り 約252億円

- (1) 緑地保全制度による指定の拡大・市による買取り

-主な取組内容-

- ・緑地保全制度による新規指定:180ha (市による買取りの想定面積:100ha)
- ・保全した樹林地の整備:推進

事業② 良好な森の育成 約46億円

- (1) 森の多様な機能に着目した森づくりの推進
(2) 指定した樹林地における維持管理の支援

-主な取組内容-

- ・森の維持管理:推進
- ・維持管理の助成:750件

事業③ 森に関わる多様な機会の創出 約5億円

- (1) 森づくりを担う人材の育成
(2) 森づくり活動団体への支援
(3) 森に関わるきっかけづくり
(4) 森の多様な楽しみづくり

-主な取組内容-

- ・森づくり活動団体への支援:175団体
- ・地域における多様な森の利活用:推進



理念 「みんなで育む みどり豊かな美しい街 横浜」

柱2 市民が身近に農を感じる場をつくる <本編P.24-P.34> 約34億円

施策1 農に親しむ取組の推進

事業① 良好な農景観の保全 約11億円

- (1) 水田の保全
(2) 特定農業用施設保全契約の締結
(3) 農景観を良好に維持する活動の支援
(4) 多様な主体による農地の利用促進

-主な取組内容-

- ・水田保全面積:115ha
- ・遊休農地の復元支援:3.0ha



事業② 農とふれあう場づくり 約20億円

- (1) 様々な市民ニーズに合わせた農園の開設
(2) 市民が農を楽しむ支援する取組の推進

-主な取組内容-

- ・様々なニーズに合わせた農園の開設:19.5ha
- ・横浜ふるさと村、恵みの里で農体験教室などの実施:450回



施策2 「横浜農場」の展開による地産地消の推進

事業③ 身近に農を感じる地産地消の推進 約2億円

- (1) 地産地消にふれる機会の拡大

-主な取組内容-

- ・直売所・青空市等の支援:285件
- ・情報発信・PR:情報誌などの発行35回



事業④ 市民や企業と連携した地産地消の展開 約0.7億円

- (1) 地産地消を広げる人材の育成・支援
(2) 市民や企業等との連携

-主な取組内容-

- ・はまふうどコンシェルジュ・よこはま地産地消サポート店の活動支援:150件
- ・市民や企業等との連携:75件

柱3 市民が実感できる緑や花をつくる <本編P.35-P.43> 約77億円

施策1 市民が実感できる緑や花の創出・育成

事業① まちなかでの緑の創出・育成 約33億円

- (1) シンボリックな緑の創出・育成
(2) 街路樹による良好な景観づくり
(3) 公開性のある緑空間の創出支援
(4) 建築物緑化保全契約の締結
(5) 名木古木の保存

-主な取組内容-

- ・シンボリックな緑の創出:5か所
- ・街路樹による良好な景観づくり:18区で推進



施策2 ガーデンシティ横浜の更なる推進

事業② 緑や花があふれる地域づくり 約12億円

- (1) 地域緑のまちづくり
(2) 地域に根差した緑や花の楽しみづくり
(3) 人生記念樹の配布

-主な取組内容-

- ・地域緑のまちづくり:35地区
- ・緑や花を身近に感じる各区の取組:18区で推進

事業③ 子どもを育む空間での緑の創出・育成 約4億円

- (1) 保育園・幼稚園・小中学校での緑の創出・育成

-主な取組内容-

- ・緑の創出:100か所

事業④ 緑や花による魅力・賑わいの創出・育成 約27億円

- (1) 都心臨海部等の緑花による魅力ある空間づくり

-主な取組内容-

- ・緑花による魅力づくり:推進



効果的な広報の展開 <本編P.44> 約0.8億円

取組の内容や実績について、より多くの市民・事業者理解されとともに、緑を楽しみ、緑に関わる活動に参加していただけるよう、広報媒体の特性を生かし、効果的な情報発信を進めていきます。

事業① 市民の理解を広げる広報の展開 約0.8億円

「緑の取組の認知を高め参画につなげていく広報」

- ・ イベント・体験スポットの紹介
- ・ 市民が活用できる制度のご案内
- ・ 美しい横浜の緑や花、アニメーションによる動画配信



森にふれる



農にふれる



緑や花にふれる

これからの緑の取組

[2024-2028]

(原案)

2023年9月

横浜市環境創造局

目次

第1章 横浜の緑の取組と方向性	1
1 緑がもつ多様な役割と機能	2
2 横浜市での緑の取組	4
3 横浜みどりアップ計画の主な実績	6
4 これからの緑の取組が目指す姿	10
5 これからの緑の取組の方向性	11
第2章 これからの緑の取組	13
1 取組の方針	14
2 取組の体系	15
3 取組の内容	16
4 取組の事業費	45
資料編	46
1 横浜の緑に関する市民及び土地所有者意識調査の結果（概要）	47
2 これからの緑の取組[2024-2028]（素案）に対する市民意見募集の結果（概要）	48

第1章

横浜の緑の取組と方向性

1 緑がもつ多様な役割と機能

緑とともにある横浜の暮らし

横浜の中心市街地から少し郊外へ行くと、多様な生き物が暮らす豊かな森や、水田や畑地が広がる美しい農景観が保全され、緑が街を包みこんでいます。街なかに目を向けると、季節の移り変わりを感じさせてくれる樹々や花が美しく彩られ、うるおいと賑わい、風格をもたらししています。横浜には、これまで市民とともに守り、つくり、育ててきたかけがえのない緑が、暮らしの身近な場所にあります。この身近な緑にふれ、関わることで、誰もが緑の豊かさを感じることができます。散策や森を育む活動の場となる市民の森は、全国に先駆けた市民協働の制度で、市内に40か所以上設置され、自然を感じ、楽しめる憩いの場となっています。また、各区で行われるマルシェで市内でとれた新鮮な野菜を買ったり、農園で実際に土にふれたりするなど、身近にある横浜の農の魅力を感じることができます。さらに、住宅街や商店街など身近な場で緑や花をつくり、育む活動は、街並みの美観を高め、自分の住む街への愛着を生むとともに人と人の絆を深めていくことにつながっています。



日々のふとした瞬間に、窓から見える樹々や身近な場所の草花に気付き、ひと時でも安らぎを感じれば、すでに緑の恩恵を受けているのかもしれない。心のオアシスとなる緑が暮らしの中に編み込まれることで、横浜らしい風景がつくられていきます。

暮らしを支え、豊かにする緑の存在



緑は、都市環境を形成する主要な要素です。暮らしにうるおいを与えるだけでなく、防災・減災に資する機能をはじめとしたグリーンインフラ（※1）としての多様な機能を有しています。そして、これらの機能

が発揮されることで、地球温暖化対策やSDGs（※2）の達成に寄与し、ネイチャーポジティブ（※3）の実現にもつながっていきます。

（※1 グリーンインフラ：自然環境が有する機能を社会における様々な課題解決に活用しようとする考え方）

（※2 SDGs（持続可能な開発目標）：2015年9月の国連サミットで採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」にて記載された2016年から2030年までの国際目標。持続可能な世界を実現するための17のゴール・169のターゲットから構成）

（※3 ネイチャーポジティブ：「生物多様性の損失を食い止め、反転させ、回復軌道に乗せる」ことを意味し、2022年のCOP15において設定された新たな国際目標でもその方向性が明確になっている）

緑の多様な機能

コミュニティ形成機能

地域内外の市民の活動の場として機能し、地域コミュニティの強化に寄与



街の魅力向上・賑わい創出機能

都市の魅力的な緑や花により、賑わいの創出や不動産価値向上など、都市全体の魅力向上に寄与



環境教育機能

自然とのふれあいを楽しみながら、その大切さに気づき、守り育てる行動につながる環境教育の場としての機能



防災・減災機能

雨水のピーク流出量を抑制し浸水被害を軽減、オープンスペースとして避難場所や火災延焼防止の機能



レクリエーション・健康増進・癒し機能

散策や農体験など多様なレクリエーション利用を通じた市民の身近な遊び場、憩いの場、健康づくりの場としての機能



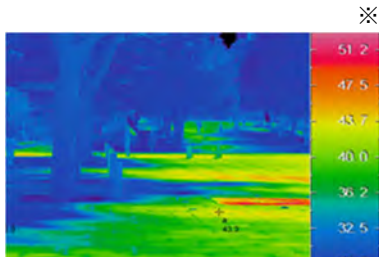
景観形成機能

快適で美しく潤いのある都市景観や自然と歴史に基づく個性と風格ある都市景観の形成に寄与



環境保全機能

ヒートアイランド現象の緩和、大気浄化、騒音防止、防塵等の効果で、都市の環境を改善し、市民の生活環境を保全



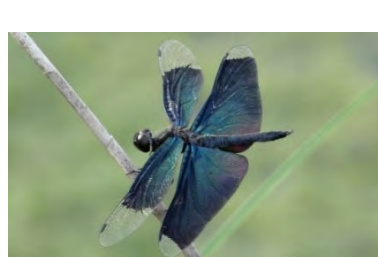
貯留・かん養機能

樹林地や農地などの緑は、雨を大地にしみ込ませ、蓄えることで、河川や地下水の水量を豊かにし、健全な水循環に寄与



生物多様性保全機能

樹林地や農地が、健全に保たれ、まとまりやつながりを持つことで、生物多様性を保全



※ グランモール公園での熱環境調査の写真：赤いほど表面温度が高く、青いほど低い

2 横浜市の緑の取組

横浜市水と緑の基本計画

「横浜市水と緑の基本計画」は、横浜らしい魅力ある水と緑をまもり、つくり、育てるための総合的な長期計画として、2006（平成 18）年に策定されました。2016（平成 28）年の改定では、水緑環境と市民生活との関わりの広がりに着目し、「多様なライフスタイルを実現できる水・緑豊かな都市環境」を目標像に掲げています。この目標像を実現するため、「流域ごとの水・緑環境をつくり・高めます」「拠点となる水と緑、特徴ある水と緑をまもり・つくり・育てます」「水と緑の環境を市民とともにつくり・育て・楽しみます」の3つを推進計画とし、水と緑の環境を育む様々な取組を展開しています。

「拠点となる水と緑、特徴ある水と緑をまもり・つくり・育てます」では、郊外部のまとまりのある樹林地や農地などの緑を「緑の 10 大拠点」として位置付け、優先的に保全・活用し、次世代に継承するとともに、農によるまちの魅力づくりや、水と緑による都心臨海部の魅力づくりを推進しています。



図：水と緑の基本計画の目標像



図：緑の 10 大拠点

横浜みどりアップ計画

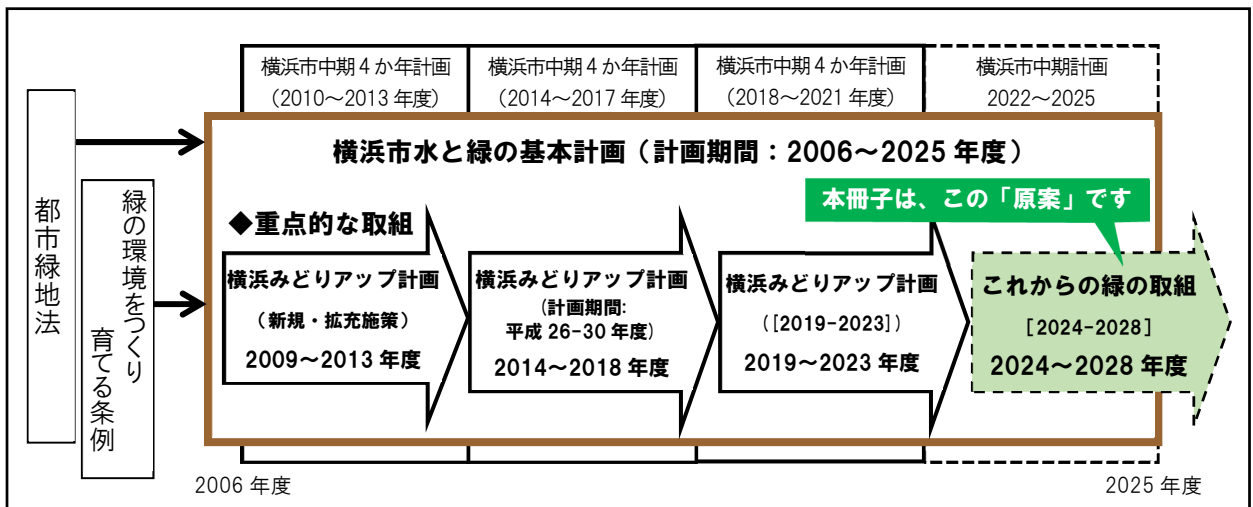
「横浜みどりアップ計画」は、「水と緑の基本計画」の重点的な取組として策定された、緑の減少に歯止めをかけ、「緑豊かなまち横浜」を次世代に継承するための5か年の計画です。2009（平成 21）年度からは「横浜みどり税」を財源の一部に活用し、推進しています。

2期目となる2014（平成 26）年度からは、計画の理念に「みんなで育む みどり豊かな美しい街 横浜」を掲げ、「柱1 市民とともに次世代につなぐ森を育む」「柱2 市民が身近に農を感じる場をつくる」「柱3 市民が実感できる緑をつくる」という3つの柱に加え「効果的な広報の展開」に取り組んでいます。

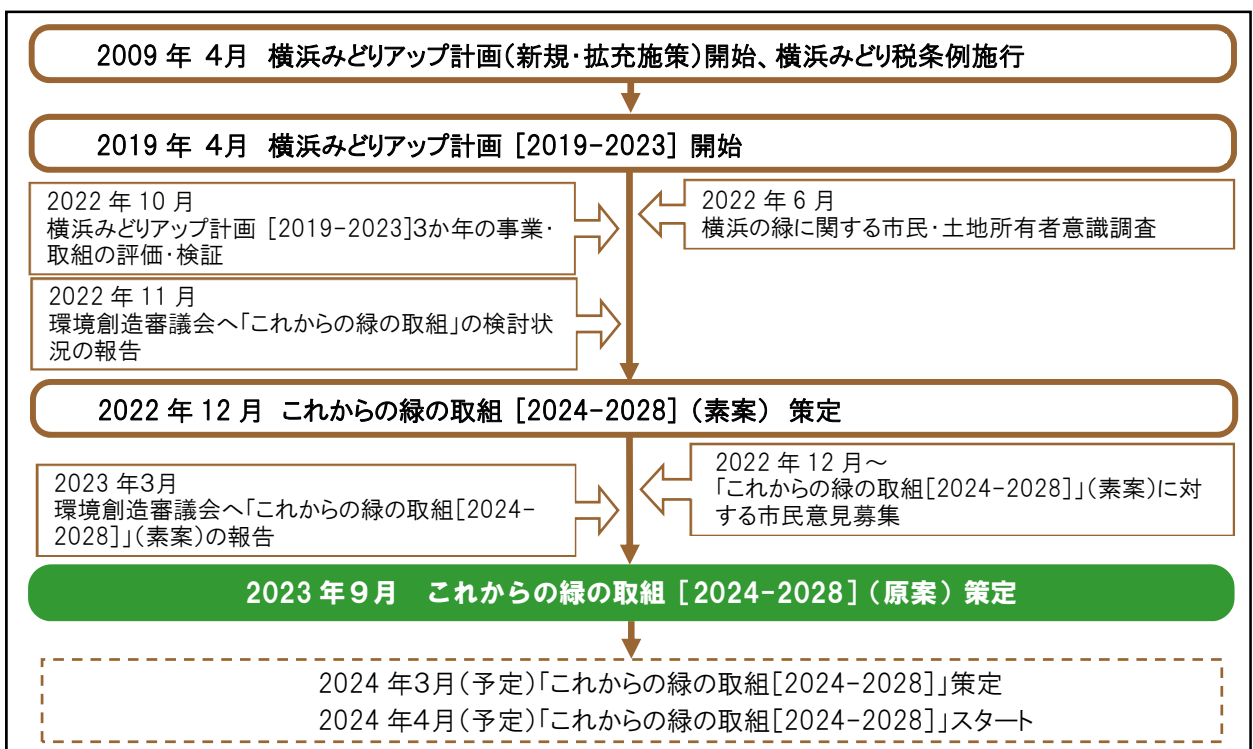
これからの緑の取組 [2024-2028]

現行の「横浜みどりアップ計画」は、2023（令和5）年度末までの計画ですが、緑の保全や創出は長い時間をかけて継続的に取り組むことが必要です。また、計画期間中の社会の変化にも対応しながら、取組の成果を市民の「実感」につなげていくことが求められています。

そこで、市では、これまでの取組の成果や課題、市民意識調査の結果などを踏まえ、2024（令和6）年度以降に重点的に取り組む「これからの緑の取組 [2024-2028]」の素案をとりまとめました。この素案に対し、広くご意見をいただき、2028（令和10）年度を目標年次とする「これからの緑の取組 [2024-2028]」の原案として本冊子を取りまとめました。



図：「これからの緑の取組 [2024-2028]」の位置付け



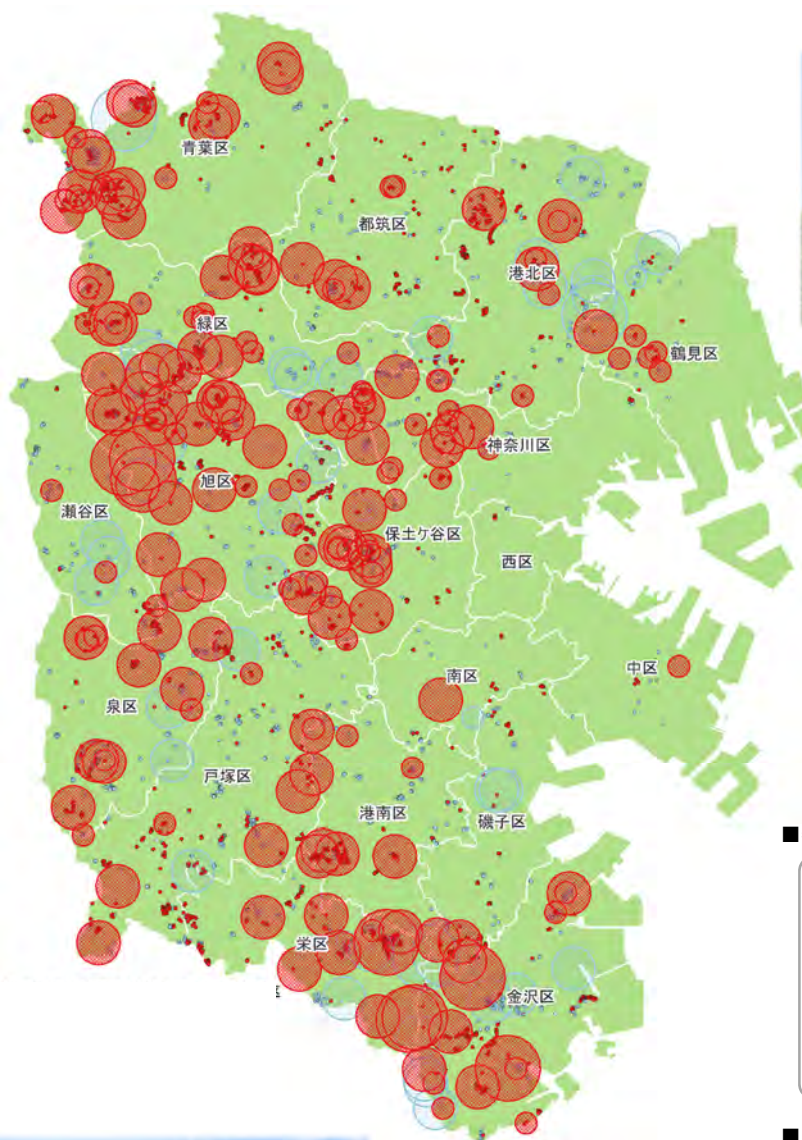
図：「これからの緑の取組 [2024-2028]」策定の流れ

3 横浜みどりアップ計画の主な実績

計画の柱1 市民とともに次世代につなぐ森を育む

■ 樹林地の保全が進展

計画開始以降の14年間で新たに約1,050haの樹林地を緑地保全制度により指定しました。計画開始以前は40年間で861ha指定しており、約4倍のスピードで保全を進めました。

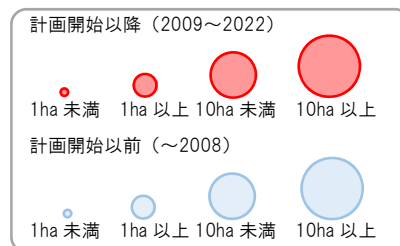


制度指定した樹林地（保土ヶ谷区）

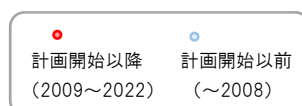


制度指定した樹林地（泉区）

■ 特別緑地保全地区・近郊緑地特別保全地区



■ 源流の森保存地区・緑地保全地区・市民の森・ふれあいの樹林



■ 市民の森が増加

土地所有者のご協力により、計画開始以降 16 か所を「市民の森」として開園し、自然に親しみ憩える場が増えました。また、ガイドマップを作成し、気軽に森を訪れ、楽しむ環境づくりを進めました。



ガイドマップ

市民の森 ガイドマップ

検索



長津田宿市民の森（緑区）



■ 森に関わる多様な機会を創出

小学校の自然体験教室のコーディネートや自然観察会の講座開催など、森について理解を深める取組を進めました。また、「よこはま森の楽校」や「森の中のプレイパーク」などの様々なイベントを、市内大学や関係団体などと連携しながら実施し、森に関わるきっかけづくりを進めました。



市内大学と連携したイベント（緑区）

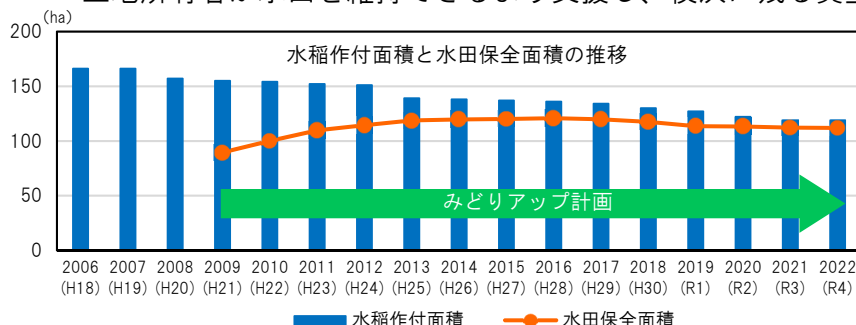


森の中のプレイパーク（瀬谷区）

計画の柱2 市民が身近に農を感じる場をつくる

■ 市内の水田面積の約9割を保全

土地所有者が水田を維持できるよう支援し、横浜に残る貴重な水田景観を保全しました。



保全された水田（戸塚区）

■ 農とのふれあいの場や機会の増加

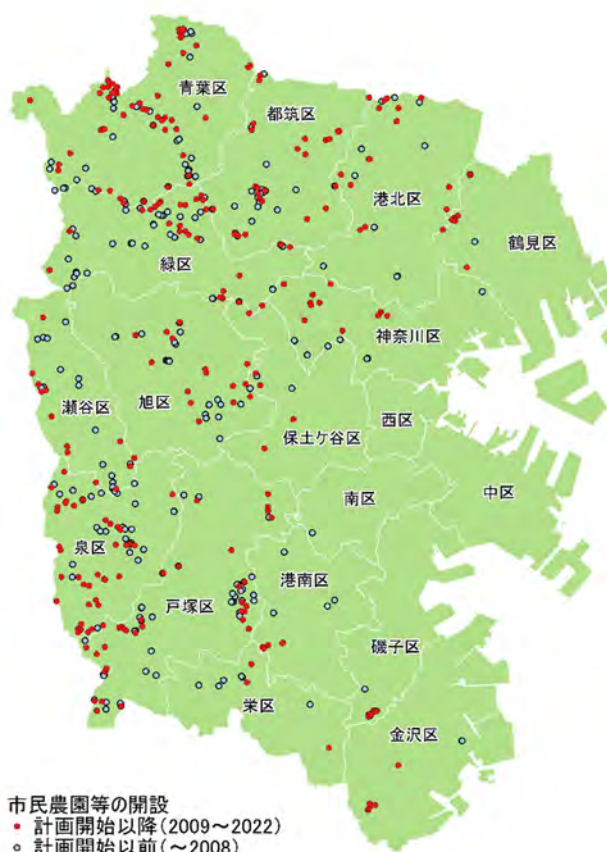
野菜の収穫などを気軽に体験できる収穫体験農園や、自由に栽培・収穫ができる認定市民菜園など、様々な市民ニーズに合わせた農園の開設の支援や整備を進め、計画開始以降310か所の農園が開設されました。また、子どもたちが楽しく農を学べるよう、家族で参加できる農体験講座を開催しました。



農体験教室（緑区）



家族で学ぶ農体験講座（保土ヶ谷区）



■ 地産地消にふれる機会を拡大

青空市やマルシェの開催等を支援し、身近な場所で楽しみながら農畜産物を購入できる場が増えました。



みなとみらい農家朝市（西区）



横浜北仲マルシェ（中区）

4 これからの緑の取組が目指す姿

「横浜みどりアップ計画」では、土地所有者やボランティアをはじめとした様々な方々との協働により緑の取組を進めることで、緑を保全・創出し、大都市ながらも暮らしの身近な場所に多様な緑がある横浜ならではの魅力を築いてきました。

「これからの緑の取組」では、2027年に開催される「GREEN×EXPO 2027（2027年国際園芸博覧会）」を見据え、これまでの取組によって保全・創出した緑をいかにしながら、樹林地・農地・街なかの緑や花など多様な緑の取組を一体的に推進し、「多様なコミュニティの形成や市民活動の支援の拡充」や「緑に関わるきっかけづくりのさらなる展開」に重点的に取り組むことで、市域全体で開催に向けた共感や機運を醸成していきます。また、未来の創り手となる子どもたちの豊かな心を育む自然体験や農体験をはじめとした緑にふれる機会や、地域への愛着をうみ、人と人がつながるきっかけとなる身近な場所での市民活動に関わる機会を充実させることで、子育てしやすいまちを支え、「花・緑・農・水の豊かな魅力あふれるガーデンシティ横浜※」の実現につなげていきます。



5 これからの緑の取組の方向性

多様なコミュニティの形成や市民活動の支援の拡充

全市域に広がっている緑や花の取組への支援を充実させ、さらに展開することで活発な市民活動が行われている姿を目指します



緑に関わるきっかけづくりのさらなる展開

緑や花にふれ、感じることでできる魅力的な空間づくりやイベントの開催など、緑に関わるきっかけづくりを積極的に展開し、緑の取組への実感、共感につなげていきます



身近な緑の着実な確保と維持管理による質の向上

引き続き身近な緑の場を保全・創出して良好な育成を進めることで、都市環境を形成する主要な要素である緑のもつ多様な機能を効果的に発揮させていきます



第2章

これからの緑の取組

1 取組の方針

取組の理念

みんなで育む みどり豊かな美しい街 横浜

5か年の目標

取組の理念のもと、2024（令和6）年度から2028（令和10）年度までの5か年の目標を、次のとおりとします。

- 1 緑の減少に歯止めをかけ、総量の維持を目指します**
緑地保全制度による指定が進むことで樹林地の担保量が増加、水田の保全面積を維持、市街地で緑を創出する取組が進展 など
- 2 地域特性に応じた緑の保全・創出・維持管理の充実により緑の質を高めます**
森の保全管理など緑の多様な機能や役割を発揮する取組の進展、緑や花の創出により街の魅力・賑わいが向上 など
- 3 市民と緑との関わりを増やし、緑とともにある豊かな暮らしを実現します**
森に関わるイベントや農作物の収穫体験、地域の緑化活動など、市民や事業者が緑に関わる機会が増加 など

取組の柱

5か年の目標の実現に向けて、「これからの緑の取組」では、次の3つの柱と、効果的な広報に重点的に取り組めます。取組の体系や具体的な内容は、次頁以降に記載しています。

柱1 市民とともに次世代につなぐ森を育む

森（樹林地）の多様な機能や役割が発揮されるよう、緑のネットワークの核となるまとまりのある森を重点的に保全するとともに、保全した森を市民・事業者とともに育み、次世代に継承します。

柱2 市民が身近に農を感じる場をつくる

良好な景観形成や生物多様性の保全など、農地が持つ環境面での機能や役割に着目した取組、地産地消や農体験の場の創出など、市民と農の関わりを深める取組を展開します。

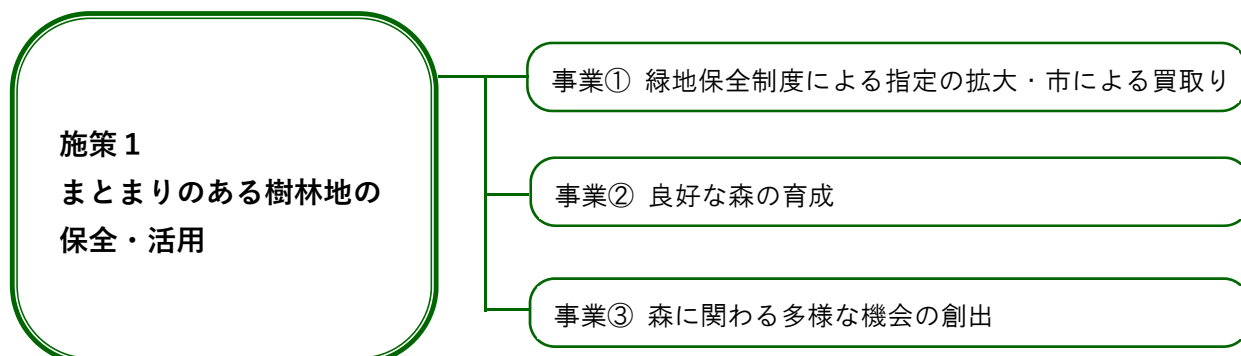
柱3 市民が実感できる緑や花をつくる

街の魅力を高め、賑わいづくりにつながる緑や花、市民が実感できる緑の創出に取り組めます。また、地域で緑を創出・継承する市民や事業者の取組を支援します。

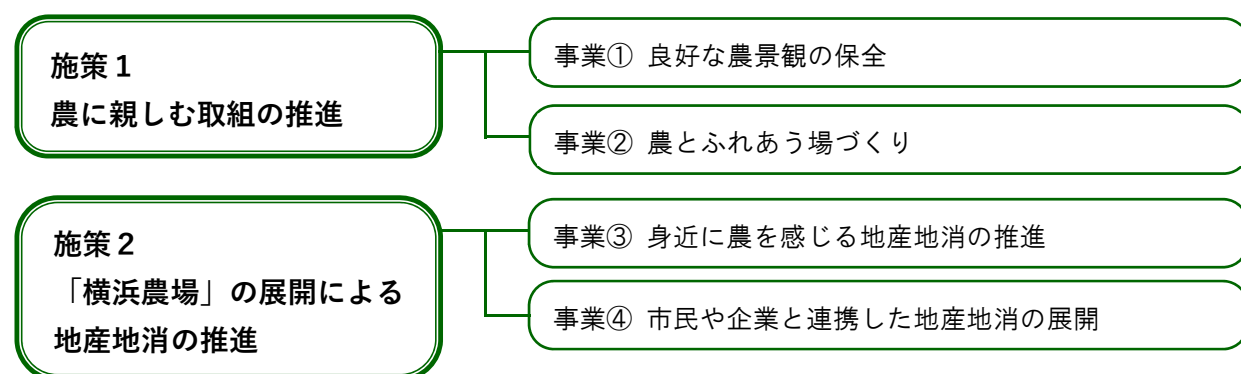
効果的な
広報の
展開

2 取組の体系

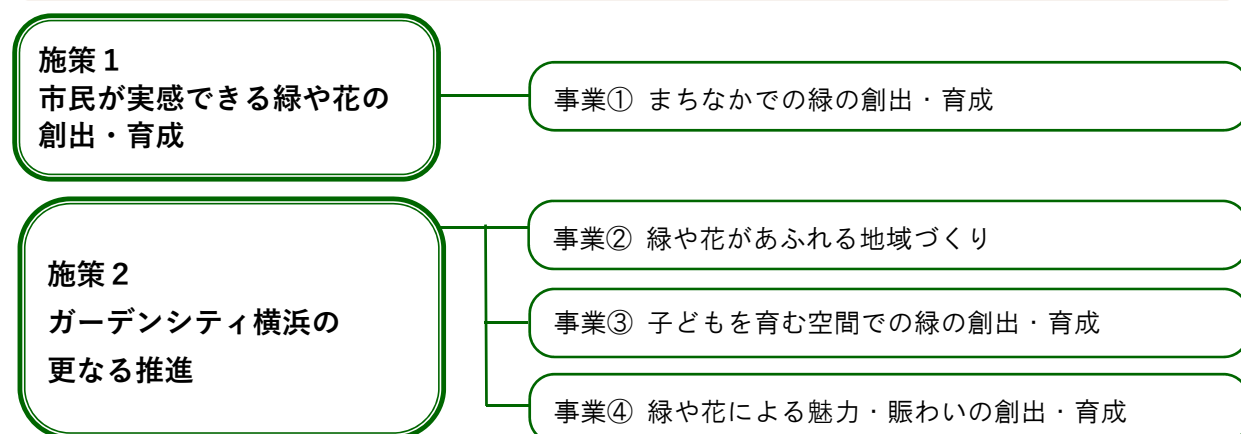
柱1 市民とともに次世代につなぐ森を育む



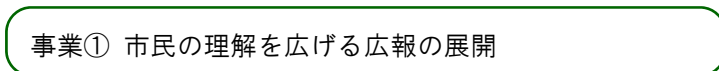
柱2 市民が身近に農を感じる場をつくる



柱3 市民が実感できる緑や花をつくる



効果的な広報の展開



3 取組の内容

柱1 市民とともに次世代につなぐ森を育む

森（樹林地）の多様な役割や機能が発揮されるよう、緑のネットワークの核となるまとまりのある森を重点的に保全するとともに、保全した森を市民・事業者とともに育み、次世代に継承します。

概要

都市における森は、都市の骨格をつくる貴重な要素であると同時に、生き物の生息・生育の場であり、地球温暖化対策への貢献、市民のレクリエーションの場など、多くの役割や機能があります。さらには、樹林地や農地が一体となって横浜らしく美しい景観を形成している地域も存在します。これらを次世代に引き継いでいくため、森の持つ多様な役割や機能に配慮しながら、土地の所有者や地域の住民など、市民・事業者とともに森の保全、育成、活用に取り組みます。



市内に残るまとまりのある樹林地



森づくり体験会

取組の内容

施策1

まとまりのある樹林地の保全・活用

事業① 緑地保全制度による指定の拡大・市による買取り

- (1) 緑地保全制度による指定の拡大・市による買取り

事業② 良好な森の育成

- (1) 森の多様な機能に着目した森づくりの推進
- (2) 指定した樹林地における維持管理の支援

事業③ 森に関わる多様な機会の創出

- (1) 森づくりを担う人材の育成
- (2) 森づくり活動団体への支援
- (3) 森に関わるきっかけづくり
- (4) 森の多様な楽しみづくり

施策1 まとまりのある樹林地の保全・活用

事業① 緑地保全制度による指定の拡大・市による買取り

市内に残る樹林地の多くは民有地であり、まとまりのある樹林地を保全して次世代に引き継ぐためには、土地を所有する方が、できるだけ持ち続けられるよう支援することが必要です。そこで、緑地保全制度に基づく指定により、土地を所有する方へ各種支援を行い維持管理の負担を軽減することで、樹林地を保全します。

また、土地所有者の不測の事態等による、樹林地の買入れ申し出に対応します。

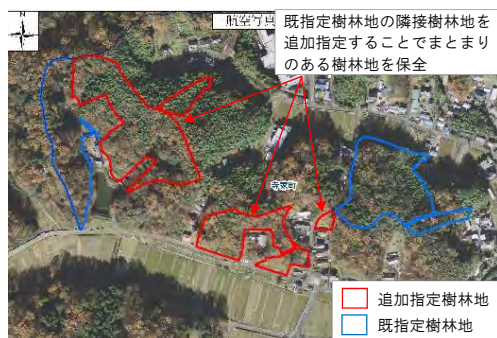
(1) 緑地保全制度による指定の拡大・市による買取り

●緑地保全制度に基づく地区指定による樹林地の保全

土地所有者ができるだけ樹林地を持ち続けられるよう、固定資産税の減免などの優遇措置の適用や維持管理などの負担軽減が可能となる緑地保全制度による指定を進め、樹林地等を保全します。

樹林地の指定目標：5か年で180haの指定を目指します

「これからの緑の取組」の5か年の計画期間では、樹林地がもつ生物多様性や雨水の貯留・かん養、レクリエーションなどの多様な機能を効果的に発揮する大きなまとまりのある樹林地の保全を重点的に推進し、180haの指定を目指します。



既指定樹林地に隣接する樹林地の指定



既指定樹林地のきめ細やかな指定

●土地所有者の不測の事態等による土地の買取り

特別緑地保全地区の指定地等で、所有者に不測の事態等が発生し、市へ土地の買入れ申し出があった場合に、市が買取りに対応します。

●保全した樹林地の整備

市民の森や市が取得した樹林地について、良好に維持管理するため、管理に必要なスペースの確保、柵の設置やのり面の安全対策、越境している樹木等のせん定や間伐などを行います。また、市民の森では、散策路などの市民が自然に親しむための施設の整備を行います。

取組の目標

事業	取組	5か年の目標	備考
①	(1)緑地保全制度による指定の拡大・市による買取り	<ul style="list-style-type: none"> 緑地保全制度による新規指定：180ha 保全した樹林地の整備：推進 	<ul style="list-style-type: none"> 多様な機能を効果的に発揮する大きなまとまりの樹林地の保全を重点的に推進 市による買取りの想定面積：100ha

緑地保全制度とは...

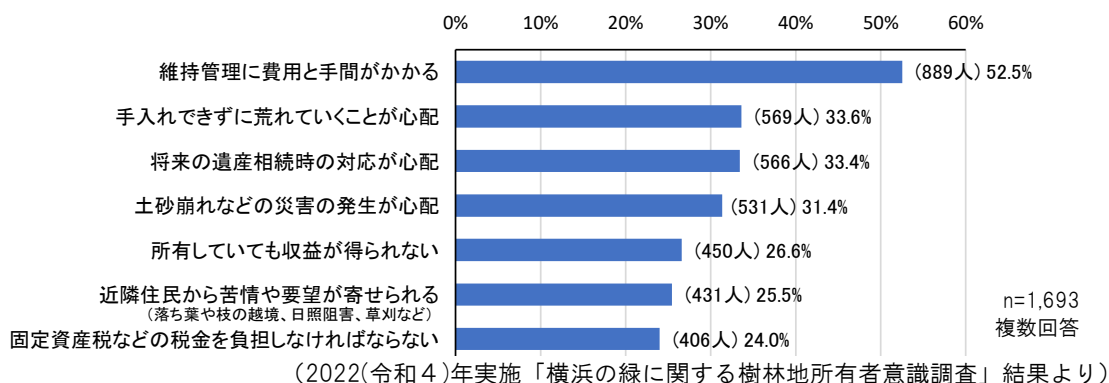
緑地保全制度は、樹林地を中心とする緑地を保全するための制度で、法律に基づく制度と条例に基づく制度があり、樹林地の状態や地形、周辺の環境など、土地の特性を考慮しながら土地所有者の協力を得て、制度の指定を進めます。緑地保全制度により指定されると、土地の形質の変更（木竹の伐採、建築等）などに制限を受けますが、様々な優遇措置があります。

代表的な緑地保全制度の特徴

制度の名称	根拠法令	特徴	主な優遇措置
特別緑地保全地区	都市緑地法	おおむね 1,000 ㎡以上のまとまりのある貴重な緑地を、都市計画により永続的に保全します。	①固定資産税評価額が 1/2 ②相続税評価額 8 割減 (山林・原野) ③市への買入れ申し出が可能
近郊緑地特別保全地区	首都圏近郊緑地保全法	近郊緑地保全区域内で良好な自然環境を形成する相当規模の緑地を、都市計画により永続的に保全します。	
市民の森	・緑の環境をつくり育てる条例 ・各制度の詳細を定める要綱	所有者のご協力のもと、おおむね 2ha 以上の緑地を保全するとともに市民の憩いの場として利用させていただく制度です。	①固定資産税及び都市計画税の減免 ②緑地育成奨励金の交付 ③契約更新時に継続一時金の交付 ④不測の事態等が発生した場合、市は買入れ相談に対応
緑地保存地区		市街化区域に残る 500 ㎡以上の身近な緑地を保全する制度です。	①固定資産税及び都市計画税の減免 ②契約更新時に継続一時金の交付
源流の森保存地区		市街化調整区域に残る 1,000 ㎡以上の良好な緑地を保全する制度です。	①固定資産税の減免 ②契約更新時に継続一時金の交付

樹林地を所有するうえで困っていると感じていることは...

横浜の緑に関する土地所有者意識調査で、樹林地をお持ちの方へ聞きました



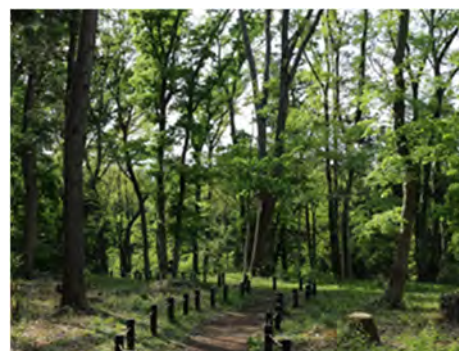
緑地保全制度に基づく指定により、維持管理に対する助成や固定資産税等の減免などの優遇措置を受けることで、土地所有者の負担軽減につながります。

事業② 良好な森の育成

生物多様性の保全、快適性の確保、良好な景観形成、防災・減災など、森に期待される多様な機能が発揮できるように、利用者や樹林地周辺の安全にも配慮し、愛護会や森づくりボランティア、企業等様々な主体と連携しながら、良好な森づくりを進めます。また、樹林地を所有する方が、できるだけ樹林地として持ち続けられるよう、緑地保全制度による指定地における維持管理の負担を軽減するための支援を行います。

(1) 森の多様な機能に着目した森づくりの推進

市民の森、ふれあいの樹林、市有緑地及び都市公園内のまとまった樹林地を対象に、生物多様性の保全、快適性の確保、良好な景観形成、防災・減災、地球温暖化対策への寄与など森が持つ多様な機能が発揮できるように、利用者や樹林地周辺の安全にも配慮しながら、良好な森づくりを進めます。森づくりにあたっては、地域の特性等を踏まえて策定した保全管理計画や森づくりガイドラインに沿って、愛護会など多様な主体と連携しながら実施します。



良好な森づくり

(2) 指定した樹林地における維持管理の支援

樹林地を所有する方の維持管理負担を軽減し、樹林地の安全性の向上などを図るため、緑地保全制度により指定した樹林地の外周部で土地所有者が行う危険・支障樹木のせん定・伐採、草刈りなどの管理作業や、樹林地内部の倒木や枯れ木の撤去処分、台風による被害に対する作業などの費用の一部を助成します。

取組の目標

事業	取組	5か年の目標	備考
②	(1) 森の多様な機能に着目した森づくりの推進	・ 森の維持管理：推進	・ 保全管理計画の策定 ・ 保全管理計画や森づくりガイドラインを活用した維持管理 ＜対象＞ (取組中間(2026)年での見込) 市民の森、市有緑地などの樹林地：約900ha 都市公園内のまとまった樹林：約300ha
	(2) 指定した樹林地における維持管理の支援	・ 維持管理の助成：750件	・ 対象：外周部の危険・支障樹木のせん定・伐採、草刈り、樹林地内部の倒木・枯れ木の撤去処分、不法投棄防止のためのフェンス設置、簡易土留めの設置など

事業③ 森に関わる多様な機会の創出

横浜の森を知って親しむことから、森づくり活動団体として森を育む活動を実践することまで、多様な森との関わり方ができるよう、森に関わるきっかけづくりの取組や森づくり活動を対象とした必要な支援の取組を進めます。

(1) 森づくりを担う人材の育成

●森づくりを担う人材の育成

森づくりボランティアの登録者や森づくり活動に取り組む団体を対象に、基本的な知識と安全確保を学ぶための研修や、活動のスキルアップのための研修を開催します。

また、市民が森づくり活動に気軽に参加できる機会をつくとともに、個人の森づくりボランティアと愛護会や森づくり活動団体との橋渡しの取組を進めます。



大学生を対象とした森づくり研修
「横浜市の森づくり塾！」

●広報誌等での森づくり活動に関する情報発信

ニュースレターやウェブサイトを活用し、森づくりに関する情報発信を行います。

(2) 森づくり活動団体への支援

市民の森や都市公園内のまとまった樹林で活動する団体を対象に、森づくりに必要な道具の貸出しを行います。また、活動に対する助成などの支援を行います。

また、維持管理作業の際に発生した間伐材などを樹林地内でチップ化したり、樹名板を作成するなどの活用を推進します。



チップ化作業支援

取組の目標

事業	取組	5か年の目標	備考
③	(1) 森づくりを担う人材の育成	<ul style="list-style-type: none"> 森づくりを担う人材の育成：50回 広報誌等での森づくり活動に関する情報発信：20回 	
	(2) 森づくり活動団体への支援	<ul style="list-style-type: none"> 森づくり活動団体への支援：175団体 	<ul style="list-style-type: none"> 175団体の内訳：市民の森、市有緑地などの樹林地で活動する150団体、都市公園内のまとまった樹林地で活動する25団体

(3) 森に関わるきっかけづくり

●多様な主体と連携した楽しみづくり

地域に根差した各区での取組や大学など多様な主体と連携したイベントや広報の取組を進めます。

また、森を活用した体験や学習ができる仕組みづくりなど、学校と連携した森を楽しむきっかけづくりに取り組みます。



市内大学と連携したイベント
「よこはま森の楽校」

●ウェルカムセンターの運営

ウェルカムセンターにおける展示解説や自然体験、環境学習の機会の提供等を、企業のCSR活動などと連携しながら実施し、基本的な森の楽しみ方から森の魅力まで、市民が森について理解を深めるための取組を推進します。

●森に関する情報発信

市民の森・ふれあいの樹林のガイドマップを作成し、市民が気軽に森を訪れ、楽しむ環境づくりを推進します。

(4) 森の多様な楽しみづくり

●市民の森の開園

保全した森を、地域との連携や必要な整備等を行い「市民の森」として開園し、市民が自然に親しみ、憩える場として活用していきます。



古橋市民の森(泉区)

●地域における多様な森の利活用

森の機能を保ち、魅力を高めるため、樹林地周辺の施設や環境等の状況を踏まえた利活用計画の検討や地域における多様な森の利活用を進めます。

取組の目標

事業	取組	5か年の目標	備考
③	(3) 森に関わるきっかけづくり	<ul style="list-style-type: none"> 市内大学や関係団体などとの連携や区主催による地域の森でのイベントの実施：180回 学校と連携したきっかけづくり：推進 ウェルカムセンターでの森のマナーアップにつながるイベント等：50回 	<ul style="list-style-type: none"> 森をつなぐ「ウォーキング」、森を活用した体験や学習など ウェルカムセンター(全5館：自然観察センター、にはる里山交流センター、虹の家、四季の家、環境活動支援センター) 新規に指定された市民の森等のガイドマップの作成・リニューアル
	(4) 森の多様な楽しみづくり	<ul style="list-style-type: none"> 市民の森の開園：5か所 地域における多様な森の利活用：推進 	

暮らしの身近にある横浜の森

横浜の森の多くは、薪や炭を得るために古くから人が手を入れることで人の営みに寄り添いながら豊かな動植物を育んできました。生活様式の変化により森に手を入れる機会は減りましたが、現在も郊外のまとまった森や市街地の身近な森など、多くの森が残されています。

いつも見る景色のどこかに森がありませんか。自宅や電車の窓から森がみえたり、通勤や買い物の途中で森を歩いてみたり、時間があれば、少し遠くの森でハイキングをしてみたりと、色々な場面で暮らしに潤いや安らぎをもたらしてくれ、楽しむことができるのが横浜の森です。

まずは身近な「森」に目を向けてみることで、今まで気付かなかった森のある暮らしの楽しみ方が見つかるかもしれません。

このような身近に森がある暮らしを楽しむライフスタイルについて、発信していきます。



市民の森

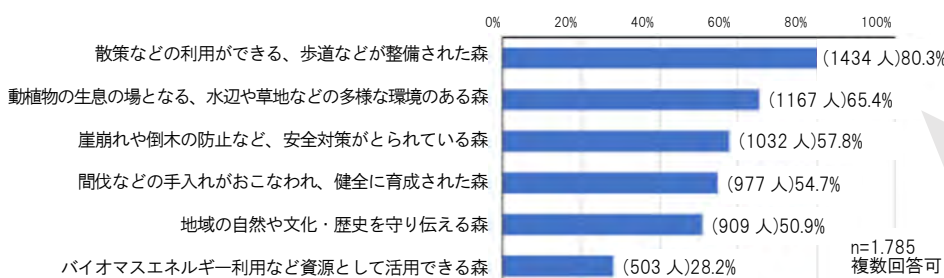
1971（昭和46）年度からスタートした横浜市独自の制度で、緑を守り育てるとともに、土地所有者の方々のご協力により、市民の憩いの場として公開しています。

2023（令和5）年4月1日現在、47か所（うち未開園4か所）指定しており、散策や生きものの観察、森づくり活動の場などとして、様々な目的で子どもからお年寄りまで幅広い世代に利用されています。

また、コロナ禍において生活に身近な緑が見直されたことから、これまで以上に多くの方が市民の森を訪れるようになっていきます。



市沢市民の森（旭区）



「横浜にどのような森があったら良いと思いますか」という質問に対して、「散策などの利用ができる、歩道などが整備された森」が80.3%と、最も多い結果となりました。

（2022（令和4）年実施「横浜の緑に関する市民意識調査」結果より）

ウェルカムセンター

市内5か所にあるウェルカムセンターでは森の生き物情報発信や自然体験行事、環境学習の機会の提供などを実施し、森に関わるきっかけづくりを行っています。



ウェルカムセンター内の様子



ウェルカムセンターイベント

良好な森の育成

横浜の森は、多様な地形・地質、植生により構成され、人との関わり方も様々です。また、生物多様性の保全、レクリエーションの場、良好な景観形成など、様々な機能を有しています。

一方で、散策や動植物の保全、ふれあいといった利用ニーズに応えながら、自然災害などに対応することが求められており、市民の森や公園内のまとまった樹林地などにおいては、利用者や周辺の安全に配慮しながら良好な森づくりを進めています。

森の良好な管理を行う上で重要なのは、森ごとに異なる環境や機能、ニーズなどを把握し、目標とする将来像や管理方法を定め、関わる人の間で共有することです。

横浜市では、行政、市民で役割分担をしながら、森の維持管理の手法などを整理した技術指針である「横浜市森づくりガイドライン」や、森ごとに具体的な管理計画を定めた「保全管理計画」に基づいた管理を行い、良好な森の育成を目指しています。



斜面の安全対策として萌芽更新を行った樹林地
上：作業前、下：作業後

協働による森づくり

市民の森制度が始まって以降、横浜市では行政と市民との協働により森づくりを行ってきました。

市内の森では、愛護会や森づくり活動団体が活動しており、行政と役割を分担しながら良好な森の育成を行っています。大きな木の伐採などは行政が行い、希少な野草の保護といったきめ細やかな作業は愛護会などで行っていただいています。

また、森づくり活動に興味がある方を対象として個人で登録する「森づくりボランティア」の制度があり、登録すると市から森づくりに関する情報提供や研修などを受けることができます。

2018（平成30）年度には、森づくり活動の“はじめの一步”として「森づくり体験会」の取組が始まりました。この取組は、実際に体験することで森づくりの楽しさや意義を知っていただくことに加え、森づくりボランティアと手入れを必要としている森、森づくりを行う団体との「橋渡し」としての役割も担っています。



協働による良好な管理



森づくり体験会

柱2 市民が身近に農を感じる場をつくる

良好な景観形成や生物多様性の保全など、農地が持つ環境面での機能や役割に着目した取組、地産地消や農体験の場の創出など、市民と農の関わりを深める取組を展開します。

概要

農地は、新鮮な農畜産物の供給の場であることに加えて、里山などの良好な景観の形成、生物多様性の保全、雨水の貯留・かん養や災害時の避難場所になるなど多様な機能や役割を有しています。このような農地の機能や役割に着目しながら、市民農園の開設や農体験教室の開催、地産地消の推進などにより、市民が身近に農を感じる場や機会をつくる取組を進めます。

また、横浜都市農業推進プランと整合を図りながら、「これからの緑の取組[2024-2028]」を進めます。

さらに「横浜農場」のプロモーションにより、横浜の食や農を横浜ブランドとして浸透させるとともに、収穫体験農園や良好な農景観等を市民のための観光資源としてもPRし、都市の魅力向上にもつなげます。



横浜らしい農景観

横浜都市農業推進プラン 2024-2028（素案）

市民が身近に農を感じる場をつくる取組 （「これからの緑の取組 [2024-2028]（原案）」）

- ・農に親しむ取組の推進
- ・「横浜農場」の展開による地産地消の推進

持続できる都市農業を推進する取組

- ・市内産農畜産物の生産振興
- ・農業生産基盤整備支援
- ・多様な担い手に対する支援
- ・農地の保全と利用促進
- ・地域特性を生かした都市農業の推進

横浜市の農業施策の全体像

取組の内容

施策1 農に親しむ取組の推進	事業① 良好な農景観の保全 (1)水田の保全 (2)特定農業用施設保全契約の締結 (3)農景観を良好に維持する活動の支援 (4)多様な主体による農地の利用促進
	事業② 農とふれあう場づくり (1)様々な市民ニーズに合わせた農園の開設 (2)市民が農を楽しみ支援する取組の推進
施策2 「横浜農場」の展開による地産地消の推進	事業③ 身近に農を感じる地産地消の推進 (1)地産地消にふれる機会の拡大
	事業④ 市民や企業と連携した地産地消の展開 (1)地産地消を広げる人材の育成・支援 (2)市民や企業等との連携

施策1 農に親しむ取組の推進

事業① 良好な農景観の保全

農地は良好な農景観の形成や生物多様性の保全、雨水の貯留・かん養機能など多様な機能を有しており、横浜に残る農地や農業がつくり出す「農」の景観は多様です。農業専用地区（※）に代表される、集団的な農地から構成される広がりのある景観や、樹林地と田や畑が一体となった谷戸景観などが、地域の農景観として多くの市民に親しまれてきました。この農景観を次世代に継承するため、横浜に残る貴重な水田景観を保全する取組や、意欲ある農家や法人などが農地を維持する取組を支援します。

（1）水田の保全

●水田の継続的な保全の支援

土地所有者が水田を維持し、水田景観の保全や多様な機能が発揮できるよう、水稻作付を10年間継続することを条件に、奨励金を交付します。また、保全された水田の維持管理に対する支援を行います。

●良好な水田景観保全のための水源・水路の確保

水田景観の保全を図るために、井戸や水路等の水田に必要な施設等の整備を支援します。



保全された水田

（2）特定農業用施設保全契約の締結

農地所有者の負担軽減と農地の保全を図るため、農地を10年間適正に管理することと、農地の保全に不可欠な農業用施設を10年間継続利用することを条件として、農家の住宅敷地内等にある農業用施設用地の固定資産税・都市計画税を10年間軽減します。



特定農業用施設

（※ 農業専用地区：都市農業の確立と都市環境の保全を目指し、まとまりのある農地を横浜市独自の制度により指定した地区（2022（令和4）年度末現在、28地区1,071.5ha））

(3) 農景観を良好に維持する活動の支援

市街化調整区域のまとまりのある農地や市街化区域の生産緑地地区などを対象に、周辺環境と調和した良好な農景観を維持する活動を支援します。

●まとまりのある農地を良好に維持する団体の活動への支援

良好な農景観を形成するため、水路等での清掃活動や農地縁辺部への植栽、水源の確保のための井戸の整備などに対して支援します。また、農地周辺の環境を良好に維持するため、土砂流出を防止する活動に対する支援や農地周辺の不法投棄対策を進めます。



農地縁辺部への植栽

●周辺環境に配慮した活動への支援

都市の中で農景観を維持するためには、農地の周辺にお住まいの方々の農業への理解が必要です。このため、農地周辺の環境に配慮した取組や、農作業等により生じるせん定枝などをたい肥化する活動などに対して支援します。

(4) 多様な主体による農地の利用促進

遊休化して荒れた農地は、貸し借りが進まず、良好な農景観が損なわれます。良好な農景観を保全するために、意欲ある農家や新規に参入を希望する個人・法人など多様な主体へ農地を貸し付けられるよう遊休化した農地の復元を支援します。

取組の目標

事業	取組	5か年の目標	備考
①	(1) 水田の保全	・ 水田保全面積：115ha ・ 水源・水路の整備：25件	
	(2) 特定農業用施設保全契約の締結	・ 制度運用	・ 対象：1,000㎡以上の農地を耕作し、その農地と農業用施設について10年間継続利用する農家
	(3) 農景観を良好に維持する活動の支援	・ まとまりのある農地を良好に維持する団体の活動への支援： 集団農地維持活動団体 60 団体 農地縁辺部への植栽 75 件 農景観保全整備 40 件 ・ 周辺環境に配慮した活動への支援： 環境配慮支援 25 件 牧草等による環境対策 20ha	
	(4) 多様な主体による農地の利用促進	・ 遊休農地の復元支援：3.0ha	

事業② 農とふれあう場づくり

食と農への関心や、農とのふれあいを求める市民の声の高まりに応えるため、収穫体験から本格的な農作業まで、様々な市民ニーズに合わせた農園の開設や整備を進めます。また、市民と農との交流拠点である横浜ふるさと村（※1）や恵みの里（※2）を中心に、市民が農とふれあう機会を提供します。農地が少ない都心部を含め、市内各地で農とふれあう場づくりを展開するとともに、農家への援農活動を支援します。

（1）様々な市民ニーズに合わせた農園の開設

●収穫体験農園の開設支援

野菜の収穫や果物のもぎとりなどを気軽に体験することができる収穫体験農園の開設に必要な施設整備等を支援します。

●市民農園の開設支援

〈栽培収穫体験ファーム、環境学習農園、認定市民菜園〉

農作業の経験がない人でも農家から指導を受けることで栽培から収穫までを楽しめる農園や、利用者が自由に農作業を楽しめる農園など、土地所有者等が農園を開設するための支援を行います。環境学習農園の開設や利用希望等の相談があった際には、農家と学校等の相談に積極的に対応します。

●農園付公園の整備

土地所有者による維持管理が難しくなった農地等を公園として市が買取ることや、農地の少ない都心部においても、市民が農作業を楽しめる農園を公園内に整備し開設します。



収穫体験農園 果物のもぎとり体験



農園付公園



（※1 横浜ふるさと村：良好な田園景観の保全と地域の活性化を目的に、生産基盤の整備や、研修施設などの設置、樹林地の保全活用などにより、市民が農業・自然・農村文化に親しむ場として整備している地域）

（※2 恵みの里：市民と農とのふれあいを通じて、地域ぐるみで農のあるまちづくりを進める地区）

(2) 市民が農を楽しみ支援する取組の推進

●農を楽しむ取組の推進

横浜ふるさと村や恵みの里等で、苗の植え付けや農産物の収穫などを行う農体験教室など、市民が農とふれあう機会を提供します。また、ふるさと村総合案内所に農を楽しむ拠点としての機能の充実を図り、農の魅力を発信します。

さらに、市内全域で農体験に関する様々な相談に応じるため、専門知識やスキルを有するコーディネーターを派遣します。



田奈恵みの里の体験水田

●農体験の場の提供と援農の推進

市民農業大学講座や家族で学ぶ農体験講座を開催し、市民が栽培技術などを学ぶ場を提供します。子どもたちが楽しく農を学べるよう、家族で参加できる農体験講座の充実に取り組みます。また、援農コーディネーター(※)等を活用し、市民農業大学講座修了生などによる農家への援農活動を支援します。



家族で学ぶ農体験講座

取組の目標

事業	取組	5か年の目標	備考
②	(1) 様々な市民ニーズに合わせた農園の開設	・様々なニーズに合わせた農園の開設：19.5ha	・19.5haの内訳：収穫体験農園10ha、市民農園5ha、農園付公園4.5ha
	(2) 市民が農を楽しみ支援する取組の推進	・横浜ふるさと村、恵みの里で農体験教室などの実施：450回	・横浜ふるさと村：寺家、舞岡 ・恵みの里：田奈、都岡、新治、柴シーサイド、北八朔
		・コーディネーター派遣：50件	
		・市民農業大学講座の開催：175回	
		・家族で学ぶ農体験講座の開催：30回	

(※ 援農コーディネーター：労働力不足の農家と農家への手伝いを希望している市民を結び、農家の援農を支援する組織)

市民が農にふれあえる場が増えています

横浜には、身近なところに農地があり、市民の様々なライフスタイルに応じた、農とのふれあいを楽しめる場づくりを進めています。まずは、気軽に楽しめる収穫体験から、横浜の農にふれてみませんか。

気軽に農体験

● 収穫体験農園

農家が栽培した旬の果物や野菜の収穫が体験できます。ナシやブドウ、ミカンなどのもぎ取りやイチゴやブルーベリーの摘み取り等、様々な収穫体験ができ、気軽に農体験を楽しみたい方々が身近なところで農にふれることができる場となっています。



収穫体験農園 ブルーベリー狩り

● 横浜ふるさと村・恵みの里

横浜ふるさと村では、横浜らしい里山景観を楽しめるだけでなく、四季を通じて様々な農作物の収穫体験や、地域の農畜産物を使った料理教室などが行われ、市民が自然・農業・農村文化などにふれあうことができます。

また、恵みの里では、米作りや味噌作り等の体験教室や直売会等が定期的で開催され、市民に身近な農業が展開されています。



新治恵みの里 農体験教室

農家から指導を受けて農業体験

● 栽培収穫体験ファーム

農家の指導のもと一緒に農作業を行うことで、農業に関する知識や経験がない方でも、プロ並みの野菜作りを経験することができます。

● 環境学習農園

幼稚園や小学校の近くにある農地で、園児や小学生が、農園を開設した農家の指導を受けながら、コマツナやサツマイモ等の野菜づくりや水田での米作りなどの農体験ができます。



環境学習農園 奈良の丘

自分で考え、自由に農作業

● 認定市民菜園・農園付公園

区画割りされた農園で、自分で考えた栽培プランで自由に野菜作りを楽しむことができ、地域コミュニティの場としても活用されています。また、農地の少ない都心部においても市民が農体験を楽しめるよう、公園内に農園を整備します。



農園付公園
阿久和富士見小金台公園

施策2 「横浜農場」の展開による地産地消の推進

事業③ 身近に農を感じる地産地消の推進

身近に市内産農畜産物を買える場や機会があることへの市民ニーズは高く、地域で生産されたものを地域で消費する地産地消の取組は、身近に農を感じ、横浜の農への理解を深めるきっかけにもなります。そこで、地産地消の取組を推進するため、地域でとれた農畜産物などを販売する直売所等の整備・運営支援や、市内で生産される苗木や花苗を配布するなどの取組を進めます。あわせて、地産地消に関わる情報の発信など、PRを推進します。

(1) 地産地消にふれる機会の拡大

●直売所支援等の地域に根差した地産地消の推進

直売所や加工所に必要な設備の導入等を支援します。また、市民に身近な場所で実施される青空市やマルシェ等の継続的な開催を支援します。



青空市・マルシェ等の開催

●市民が市内産植木や草花に親しめる機会の創出

市民が市内産植木や草花に親しめる機会を創出するため、市内の植木農家や花き農家が生産した苗木や花苗を、市民への配布や公共施設、農地の縁辺部への植栽に活用します。



市内産苗木や花苗の配布

●市民に伝わる地産地消の情報発信

情報誌やパンフレットなどの制作・発行やウェブサイト・SNSなどの活用により地産地消の取組のPRを推進します。また、「横浜農場」を活用した市内産農畜産物のブランド化に向けたプロモーションの強化を図ります。特に、生物多様性の保全や美しい農景観の形成など、多くの意義のある市内水田を守るために市内産米のPRを行います。また、地域の特性を生かした地産地消の取組を推進します。

取組の目標

事業	取組	5か年の目標	備考
③	(1) 地産地消にふれる機会の拡大	・直売所・青空市等の支援：285件	・285件の内訳：直売所・加工所85件、青空市・マルシェ等200件
		・緑化用苗木の配布：125,000本 市内産花苗の公共施設等での活用：10件	
		・情報発信・PR： 情報誌などの発行35回	

横浜農場の展開

● 横浜農場とは

横浜は大都市でありながら、市民に身近な場所で、野菜や米をはじめ肉などの畜産物まで多品目の農畜産物が生産され、美しい農景観が広がっています。また、意欲的な生産者、市内産農畜産物を利用する飲食店・事業者、「農」に関心が高い市民（消費者）など様々な主体が関わって地産地消を進めているのも横浜の特徴です。

このような、横浜らしい農業全体（生産者、市民、企業などの農に関わる人々、農地・農景観、農業生産活動など）を一つの農場に見立て、「横浜農場」という言葉で表しています。



● 横浜農場の展開

以下の取組を強化しながら進めていきます。

・人材・場の活用や各分野との連携

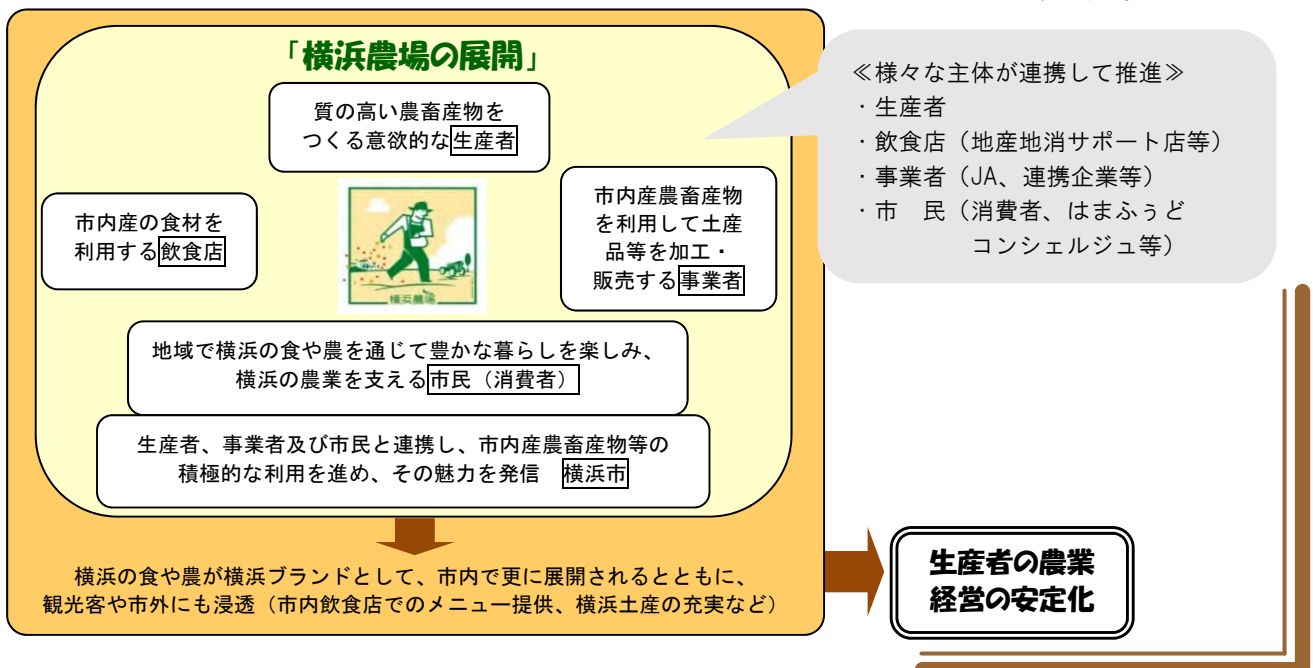
特に地産地消に関わる人材の育成や企業等との連携を強化し、協働して横浜ならではの都市農業の活性化を目指します。

・プロモーションの強化

「横浜農場」のロゴの市内産農畜産物等への表示、イベントや広報等での積極的な活用を進めます。また、身近な場所で行われるマルシェの支援など、地域に根ざした地産地消の取組を進めます。



横浜農場Instagram



事業④ 市民や企業と連携した地産地消の展開

市内産農畜産物を食材として活用し、加工販売したいと考える企業や、横浜の農業の魅力を伝える活動を行う野菜ソムリエや料理人などが増え、市民や企業、学校など農業関係者以外の主体が地産地消の取組を実施する活動が広がっています。この動きをさらに拡大するため、市民の「食」と、農地や農畜産物といった「農」をつなぐ「はまふうどコンシェルジュ」(※1)などの地産地消に関わる人材の育成やネットワークの強化を図るとともに、農と市民・企業等が連携する取組を推進します。

(1) 地産地消を広げる人材の育成・支援

●はまふうどコンシェルジュ等の地産地消を広げる人材の育成

講座の開催により、地産地消を広げるはまふうどコンシェルジュを育成します。また、飲食店からの市内産農畜産物の使用に関する相談などに対応し、「よこはま地産地消サポート店」(※2)への登録を促します。



地産地消サポート店
ステッカー

●市民等による主体的な地産地消の活動支援

はまふうどコンシェルジュやよこはま地産地消サポート店によるイベント開催など、主体的な地産地消の活動を支援します。

●地産地消活動の情報交換の場づくり

生産者やよこはま地産地消サポート店、はまふうどコンシェルジュ、地産地消に取り組む市民・企業等をつなげる交流会等を開催し、ネットワークづくりを支援します。

(2) 市民や企業等との連携

●企業等と連携した地産地消の推進

地産地消を広げるため、地産地消に取り組む意欲のある企業からの相談などに対応し、地産地消のPRイベントの開催や市内産農畜産物を使用した商品の販売等、企業等と連携した地産地消の取組を推進します。

●地産地消ビジネス創出の推進

地産地消に関係する新たなビジネスに取り組む市内中小企業等を対象に、ビジネスプランを策定するための講座を開催し、認定されたプランを支援します。

●学校給食での市内産農産物の利用促進

小学校の給食メニューにおける市内産農産物の利用促進や食育の推進を図るため、企業などと連携し、学校給食での市内産農産物の一斉供給や、小学生を対象とした料理コンクールを開催します。

取組の目標

事業	取組	5か年の目標	備考
④	(1) 地産地消を広げる人材の育成・支援	・はまふうどコンシェルジュ育成講座の開催：5回	
		・はまふうどコンシェルジュ・よこはま地産地消サポート店の活動支援：150件	
		・地産地消フォーラムの開催：5回	
	(2) 市民や企業等との連携	・市民や企業等との連携：75件	
		・ビジネス創出支援：20件	
		・学校給食での市内産農産物の一斉供給：推進 ・料理コンクールの開催：5回	

(※1 はまふうどコンシェルジュ：横浜市が横浜の「食」と「農」をつなぎ地産地消を広めるため講座で育成した市民)

(※2 よこはま地産地消サポート店：市内産の農畜産物を使ったメニューを提供する飲食店などで横浜市に登録されているもの)

市民や企業と連携した市内産農畜産物の魅力発信

● 高い市民力と多様な事業者の存在が強み

横浜市には、はまふうどコンシェルジュをはじめとした食や農に関心の高い市民や、食品加工業、流通業、ホテルや飲食店などによる様々な地産地消の取組が行われています。



はまふうどコンシェルジュが開催しているマルシェの様子

● 市内産農畜産物が味わえるレストラン等が多数

近年では地産地消への関心の高まりから、新鮮で旬な市内産の野菜や果物、卵などの畜産物を食材として取り入れるレストラン等が増えています。横浜市では、市内産の農畜産物を多くの方々に味わっていただくために、これらの飲食店等をよこはま地産地消サポート店として登録し、市民の皆様へ情報発信するとともに、よこはま地産地消サポート店の拠点としての機能を生かした取組を支援しています。

● 様々な連携・ネットワークにより新たな取組や商品が誕生

こうした多数の市民・企業等と連携した取組を強化し、そのネットワークづくりを支援・充実を進めています。そして、市民や企業等と連携した6次産業化(※)の推進や地産地消ビジネス創出の支援につなげ、新たな取組や商品が誕生しています。



地産地消ビジネス創出支援で支援した商品
市内産のコマツナを使用したドレッシング

● 横浜の食や農の魅力をPRする「横浜農場」

このような、市民や企業等と連携した横浜らしい取組による市内産農畜産物の魅力発信なども「横浜農場の展開」として進めています。

(※6次産業化 農林漁業者(第1次産業)が、加工(第2次産業)・販売(第3次産業)まで関わった取組や農商工連携の取組など)

柱3 市民が実感できる緑や花をつくる

街の魅力を高め、賑わいづくりにつながる緑や花、市民が実感できる緑の創出に取り組みます。また、地域で緑を創出・継承する市民や事業者の取組を支援します。

概要

都市の緑は、市民に潤いや安らぎをもたらすほか、街の良好な景観形成や賑わい創出、生き物の生息・生育空間となるなどの重要な役割を果たし、都市の魅力を高めます。市民が身近な緑を「実感」し、緑があふれる都市で暮らす豊かさを享受できるような取組が求められています。

GREEN×EXPO 2027 の開催も見据え、多くの人が訪れる市街地や、生活に身近な住宅地などでの緑や花の創出、育成を進めます。



バラで彩られた山下公園



地域で取り組む緑化活動

取組の内容

施策1

市民が実感できる緑や花の創出・育成

事業① まちなかでの緑の創出・育成

- (1) シンボリックな緑の創出・育成
- (2) 街路樹による良好な景観づくり
- (3) 公開性のある緑空間の創出支援
- (4) 建築物緑化保全契約の締結
- (5) 名木古木の保存

施策2

ガーデンシティ横浜の更なる推進

事業② 緑や花があふれる地域づくり

- (1) 地域緑のまちづくり
- (2) 地域に根差した緑や花の楽しみづくり
- (3) 人生記念樹の配布

事業③ 子どもを育む空間での緑の創出・育成

- (1) 保育園・幼稚園・小中学校での緑の創出・育成

事業④ 緑や花による魅力・賑わいの創出・育成

- (1) 都心臨海部等の緑花りょくかによる魅力ある空間づくり

施策1 市民が実感できる緑や花の創出・育成

事業① まちなかでの緑の創出・育成

多くの市民の目にふれる場所での緑化や目にする機会の多い街路樹を良好に育成するための取組、地域で古くから親しまれている名木古木の保存など、市民が実感でき、地域の良好な景観形成や賑わい創出につながる緑や花の創出・育成を推進します。

(1) シンボリックな緑の創出・育成

●公共施設・公有地での緑の創出

各区の主要な公共施設・公有地において、緑を充実させる取組を推進します。

●公有地化によるシンボリックな緑の創出・育成

多くの市民の目にふれる場所で、土地利用転換などの機会を捉えて用地を確保し、緑豊かな空間を創出することで、街の魅力や賑わいづくりにつなげます。

また、花畑や名所など、地域に親しまれている緑のオープンスペースが、所有者の不測の事態等により、存続が困難となる場合に用地を取得し、緑や花による地域のシンボリックな空間として保全し、良好に育成します。



公共施設での緑の創出

(2) 街路樹による良好な景観づくり

駅周辺や各区の主要な路線を中心に、多くの市民の目にふれ、街並みの美観向上に寄与する街路樹を良好に育成します。また、地域で愛されている桜並木等の再生を行います。これらを通して街路樹による良好な景観づくりを進めます。



街路樹による良好な景観

(3) 公開性のある緑空間の創出支援

多くの人が訪れる公開性のある民有地において、法令等で定める基準以上の緑化を行う市民・事業者に対し、その費用の一部を助成します。



公開性のある場所での緑化

(4) 建築物緑化保全契約の締結

緑の環境をつくり育てる条例や緑化地域制度等に定める基準以上の緑化を行い、保全する場合、建築物所有者（管理者）の建築物の敷地に対する固定資産税・都市計画税を軽減します。

(5) 名木古木の保存

地域住民に古くから町の象徴として親しまれ、故事、来歴等のある樹木を保存すべき樹木として指定し、潤いのある市民生活の確保と、都市の美観風致を維持していきます。

また、指定木の維持管理に必要な樹木の診断や治療及びせん定等の維持管理費用の一部を助成します。



名木古木に指定された樹木

取組の目標

事業	取組	5か年の目標	備考
①	(1) シンボリックな緑の創出・育成	・ 緑の創出：5か所 ・ 緑の維持管理：推進	
	(2) 街路樹による良好な景観づくり	・ 18区で推進	
	(3) 公開性のある緑空間の創出支援	・ 推進	・ 対象：駅前や都心部などでの公開性のあるオープンスペースの緑化 ・ 想定箇所：10か所程度
	(4) 建築物緑化保全契約の締結	・ 制度運用	
	(5) 名木古木の保存	・ 推進	・ 名木古木指定樹木 1,063本（2022（令和4）年度末時点）

建築物の新築・増築、開発の際に緑をつくる仕組み

市街地で緑を創出するため、建築物の新築・増築、開発の際に、事業者や建築物の所有者・管理者に緑化の意義や必要性を充分ご理解いただき、法律や条例などに基づいた緑をつくる取組を推進しています。

建築物緑化協議

建築物の新築、増築などの際に、敷地面積、用途地域及び建築物の区分によって、敷地面積の5～20%以上の緑化指導を行い、緑を創出します。

<根拠> 緑の環境をつくり育てる条例

開発事業における緑化

開発事業に対して、敷地面積の5～10%以上の緑化等の審査、指導を行い、緑を保全・創出します。

<根拠> 横浜市開発事業の調整等に関する条例

緑化地域制度の運用

住居系用途地域全域を緑化地域として定め、敷地面積500㎡以上で建築物の新築・増築を行う際に、敷地面積の10%以上の緑化を義務づけています。

<根拠> 都市緑地法

横浜市緑化地域に関する条例

特定工場の緑化

工場立地が環境保全を図りつつ適正に行われるよう、敷地内の緑地の面積率を定め、緑化を義務づけています。

<根拠> 工場立地法

横浜市工場立地法市準則条例

地区計画における緑化

地区の特性にふさわしいまちづくりを誘導するため、地区ごとに緑化率を定めることができます。緑化率が定められると、地区全体のルールとして規制され、緑化が推進されます。

<根拠> 横浜市地区計画の区域内における建築物等の制限に関する条例

風致地区における緑化

風致地区は、緑豊かな生活環境が形成されることを目指して定められており、建築物の新築、宅地の造成や木竹の伐採行為等の際に、必要な緑化を義務づけています。

<根拠> 都市計画法、横浜市風致地区条例

建築物緑化認定証・緑化認定ラベルの発行



緑化の公的な評価を行い、更なる緑化を促していくため、法令・制度に定める基準以上の緑化を行っていただいた建築物について、建築物緑化認定証と緑化認定ラベルを発行しています。

施策2 ガーデンシティ横浜の更なる推進

事業② 緑や花があふれる地域づくり

緑あふれる魅力的な街をつくるためには、市民や企業と協働した取組が不可欠です。地域が主体となり、地域にふさわしい緑を創出する取組など、緑の創出・育成に積極的に取り組む市民を支援し、市民の生活の身近な場所で、緑や花に親しむきっかけづくりを推進します。

また、ガーデンネックレス横浜（※）では、第33回全国都市緑化よこはまフェアの成果を継承しながら、市民、企業、活動団体等の様々な主体と連携し、花や緑による美しい街並みや公園、自然豊かな里山などの横浜の魅力を発信することで、街の活性化や賑わいを創出しています。

この取組をはじめ、多くの市民や企業の協力で展開されている各区での緑や花に親しむ取組を、引き続き推進します。

(1) 地域緑のまちづくり

「緑や花でいっぱいの街をつくりたい」という地域の思いを実現するため、計画づくり、花や木の植栽、維持管理など、緑のまちづくりの取組を支援します。

ご近所同士や集合住宅の管理組合でも気軽に取り組める仕組みを継続しながら、地域での緑化整備や維持管理活動を支援します。

また、2023（令和5）年度までに協定を締結した地区の継続支援のほか、協定締結終了地区にもアドバイザー派遣等の支援を実施します。



地域で取り組む緑化活動

(2) 地域に根差した緑や花の楽しみづくり

緑や花に親しむ市民の盛り上がりを醸成していくため、地域をはじめとする多様な主体と連携した緑や花に関するイベントの開催や、緑や花を育む活動の支援など、地域に根差した各区での取組や、それを担う人材育成等を推進します。また、地区センター等の地域に身近な公共施設・公有地において、緑を充実させる取組を推進し、良好に育成します。



ワークショップの開催

（※ガーデンネックレス横浜：「ガーデンシティ横浜」を推進するリーディングプロジェクト。花や緑による美しい街並みや公園、自然豊かな里山など、横浜ならではの魅力を発信することで多くの方を横浜に呼び込み、まちの活性化や賑わいの創出につなげていく）

(3) 人生記念樹の配布

多くの市民の皆様が緑をつくり、育むきっかけとなるよう、出生や入学、住宅の新築や購入などの人生の節目の記念に、希望した市民に、市内で生産された苗木を配布します。



人生記念樹の配布

取組の目標

事業	取組	5か年の目標	備考
②	(1) 地域緑のまちづくり	・ 35 地区	想定支援地区数 ・ 新規協定締結地区：15 地区 ・ 協定締結終了地区：20 地区
	(2) 地域に根差した緑や花の楽しみづくり	・ 緑や花を身近に感じる各区の取組：18 区で推進	
	(3) 人生記念樹の配布	・ 40,000 本配布	

事業③ 子どもを育む空間での緑の創出・育成

次世代を担う子どもたちが緑と親しみ、感性豊かに成長できるよう、子どもが多くの時間を過ごす保育園、幼稚園、小中学校を対象に、施設ごとのニーズに合わせた多様な緑の創出・育成を進めます。緑の創出にあたっては、子どもたちと生き物とのふれあいが生まれるような空間づくりに取り組みます。

(1) 保育園・幼稚園・小中学校での緑の創出・育成

子どもを育む空間である保育園、幼稚園、小中学校において、園庭・校庭の芝生化や生き物とふれあい学べるビオトープの整備、花壇づくり、屋上や壁面の緑化など、多様な緑を創出する取組を推進します。

また、創出した緑を良好に維持するとともに、芝生やビオトープに関する技術支援を行います。



芝生化した校庭



学校へのビオトープアドバイザー派遣

取組の目標

事業	取組	5か年の目標	備考
③	(1) 保育園・幼稚園・小中学校での緑の創出・育成	・ 緑の創出：100か所 ・ 緑の維持管理：推進	

事業④ 緑や花による魅力・賑わいの創出・育成

ガーデンネックレス横浜は、緑や花が人を呼び込み、街の賑わいを創出しています。多くの市民や国内外から観光客が訪れる都心臨海部等において、これらの取組を継続し、GREEN×EXPO 2027 の開催にもつなげていきます。

また、公共空間を中心に緑や花による空間づくりや質の高い維持管理を集中的に展開し、街の魅力づくりや回遊性の向上、賑わいづくりにつなげます。

(1) 都心臨海部等の^{りよくか}緑花による魅力ある空間づくり

みなとみらい 21 地区などの都心臨海部や、ガーデンネックレス横浜の会場となっている里山ガーデン（よこはま動物園ズーラシア隣接）など、多くの市民が訪れる場所で、観光資源となっている公園や港湾緑地、街路樹、文化施設などの公共空間を相互に連携させ、地域や施設の特性に合わせた季節感ある緑花による場づくりを集中的に展開します。

また、いつ訪れても緑や花で彩られた魅力ある街を目指し、創出した質の高い緑花を良好に育てます。

取組の目標

事業	取組	5か年の目標	備考
④	(1) 都心臨海部等の緑花による魅力ある空間づくり	・緑花による魅力づくり：推進	・想定箇所：山下公園、港の見える丘公園、日本大通り、里山ガーデン等

～ 緑花による魅力ある空間づくり ～



山下公園

GREEN×EXPO 2027 の開催も見据え、市民が緑と花あふれる都市で暮らす豊かさを「実感」できる空間づくりを進めていきます。



日本大通り

豊かな感性を育む、身近な緑や花との関わり

子どもたちが緑や花、生き物とのふれあいなどを通じて、様々な気づきや心を揺さぶられる出来事に出会い、その刺激や感動した体験を周りの人と共感することで豊かな感性が育まれます。そのような自然的環境が身近に感じられることが、暮らしを取り巻く環境に対する興味や関心を持つきっかけにもなります。

みどりアップ計画では、保育園や幼稚園、小中学校などにおいて、園庭・校庭の芝生化や様々な生き物が生息するビオトープづくりなどを進めることで、子どもたちの暮らしに最も身近な場所に緑を創出する取組を進めています。ビオトープづくりでは、専門家のアドバイスを受けながら、子どもたちがビオトープの計画づくりから主体的に関わることで、生き物の生息環境や周りの自然環境とのつながりを学ぶ環境教育の場になっています。

みどりアップQ 第13号 自然いっぱいニコニコ池、子どもたちの挑戦とは？
(市民推進会議広報誌 2018年9月 発行)



芝生化した園庭



保育園に整備されたビオトープ

また、オープンガーデンや緑道での花壇の植栽、公園での花苗や球根の植付けなど地域に根差した各区での取組を支援し、身近な場所で緑や花とふれあう機会を創出するとともに、緑や花の活動を一緒に行うことで子どもたちが地域とつながる機会にもなっています。

さらに、出生や入学など人生の節目の記念に市内産の苗木を配布しており、ともに成長する人生記念樹を育てることは、子どもたちが緑にふれあい、育むきっかけとなります。



花苗の植付け



人生記念樹の配布

効果的な広報の展開

取組の内容や実績について、より多くの市民・事業者理解されるとともに、緑を楽しみ、緑に関わる活動に参加していただけるよう、広報媒体の特性を生かし、効果的な情報発信を進めていきます。

事業① 市民の理解を広げる広報の展開

1 インターネットによる広報

- (1) ホームページ
- (2) YouTube
- (3) SNS

2 出版物による広報

- (1) 広報よこはま
- (2) 実績概要リーフレット
- (3) その他広報誌への掲載

3 その他

- (1) 交通広告(動画等)による PR
- (2) イベント会場での PR
- (3) 取組に基づいて実施したことを示すプレート等の設置

緑の取組の認知を高め参画につなげていく広報

市民の皆様が緑の取組を体感し、活用できる制度を多く紹介していきます。
より多くの市民の皆様が緑の取組を体感し、活用していただくことで緑に関わる活動への参画につなげられるよう、多様な世代に向けた広報を行います。

《緑の取組の多様な情報発信》

みどりアップを
楽しもう

イベント・体験のスポットの紹介

森にふれる



農にふれる



緑や花にふれる



散策できる森や野菜の収穫体験、緑や花にふれるイベントなどをご紹介します。

みどりアップの
活動に参加しよう

市民が活用できる制度のご案内

地域緑のまちづくり



人生記念樹



地域緑のまちづくり、人生記念樹など活用できる制度をご紹介します。

みどりアップを
実感しよう

美しい横浜の緑や花、 アニメーションによる動画配信



美しい横浜の緑や花、アニメーションなどの動画を配信しています。

4 取組の事業費

これからの緑の取組 [2024-2028] の総事業費は、415 億円と計画しており、その内訳は次の通りです。なお、事業費については、毎年度の予算状況により変更することがあります。

これからの緑の取組 [2024-2028] の事業費

(億円)

取組	事業費	事業費の内訳		
		国費	市債	一般財源
柱1 市民とともに次世代につなぐ森を育む	302	60	133	110
事業① 緑地保全制度による指定の拡大・市による買取り	252	60	133	59
事業② 良好な森の育成	46	-	-	46
事業③ 森に関わる多様な機会の創出	5	-	-	5
柱2 市民が身近に農を感じる場をつくる	34	-	12	23
事業① 良好な農景観の保全	11	-	-	11
事業② 農とふれあう場づくり	20	-	12	9
事業③ 身近に農を感じる地産地消の推進	2	-	-	2
事業④ 市民や企業と連携した地産地消の展開	0.7	-	-	0.7
柱3 市民が実感できる緑や花をつくる	77	0.5	6	71
事業① まちなかでの緑の創出・育成	33	0.5	6	27
事業② 緑や花があふれる地域づくり	12	-	-	12
事業③ 子どもを育む空間での緑の創出・育成	4	-	-	4
事業④ 緑や花による魅力・賑わいの創出・育成	27	-	-	27
効果的な広報の展開	0.8	-	-	0.8
総計	415	60	150	204

※端数調整により、合計値が整合しない場合があります

資料編

1 横浜の緑に関する市民及び土地所有者意識調査の結果（概要）

2024（令和6）年度以降の緑施策を検討するにあたり、2022（令和4）年6月に横浜市民、市内に農地や樹林地を所有する方を対象として意識調査を実施しました。

●調査の対象

市民：5,000人（住民基本台帳の満18歳以上から無作為抽出）

樹林地所有者：4,407人（一筆500㎡以上の山林所有者）

農地所有者：5,631人（1,000㎡以上の農地所有者）

●実施期間

2022（令和4）年6月13日（月）から28日（火）まで（7月15日までに到着したものを集計）

●回収数（回収率）

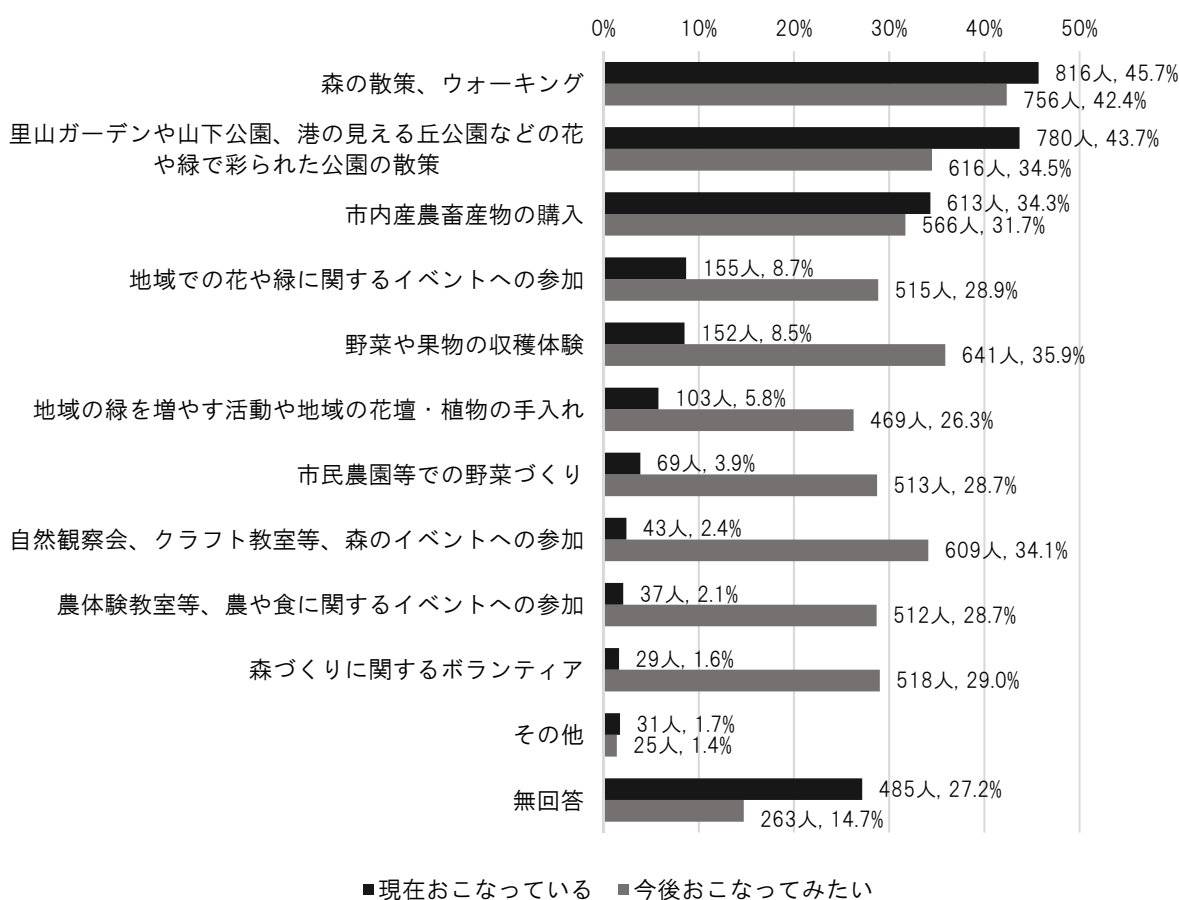
市民：1,785票（35.7%）

樹林地所有者：1,693票（38.4%）

農地所有者：2,352票（41.8%）

【市民意識調査 設問例】

◇ 森や農、まちなかの緑や花について「現在おこなっていること」「今後おこなってみたいこと」



意識調査の結果は、市ホームページに掲載しています

横浜緑の意識調査

検索



2 これからの緑の取組 [2024-2028] (素案) に対する市民意見募集の結果 (概要)

これからの緑の取組[2024-2028]の策定に向け、素案に対して市民意見募集を行いました。

●意見募集期間

2022 (令和4) 年 12 月 23 日 (金) から 2023 (令和5) 年 1 月 31 日 (火) まで

●実施方法

(1) アンケート方式

①個人：5,000 人 (住民基本台帳の満 18 歳以上の市民から無作為抽出)

②法人：5,000 社 (法人市民税課税台帳から無作為抽出)

(2) 公募型自由記述方式

素案の概要版パンフレットに添付のハガキ、Web フォーム、電子メール、FAX

●回収数 (回収率)

(1) アンケート方式

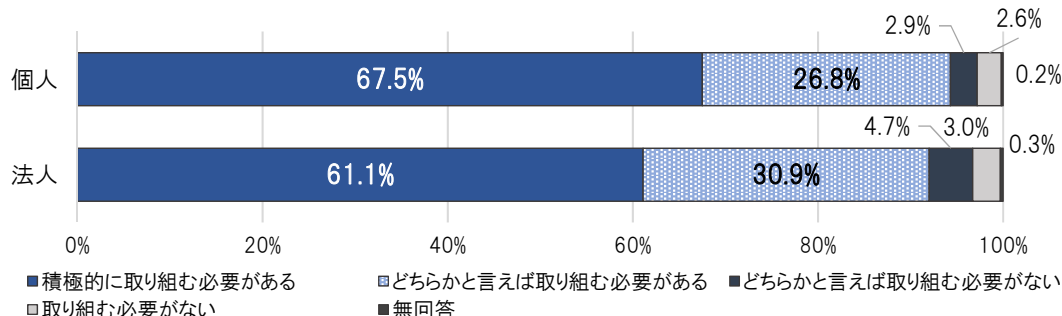
①個人：1,281 人 (回収率 25.6%) ②法人：939 社 (回収率 18.8%)

(2) 公募型自由記述方式

43 通 (意見総数：93 件)

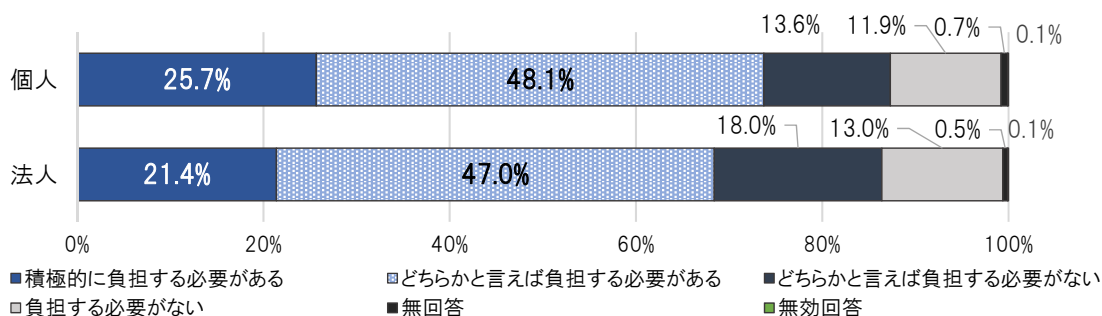
◇ 取組について

問1 2009 (平成 21) 年度から進めている「横浜みどりアップ計画」の取組により、樹林地は減少傾向が鈍化している状況です。「これからの緑の取組」では、引き続き、貴重な緑を将来に残すとともに、新たに創出する取組を進めようとしています。このことについてどう思いますか。



◇ 取組に必要な財源について

問7 「これからの緑の取組」に掲げた緑を保全・創出し、未来に引き継いでいくための施策を実施するためには、安定した財源が必要となります。その財源の一部を、横浜みどり税のように、市民が負担することについて、どう思いますか。



意見募集の結果は、市ホームページに掲載しています

これからの緑 2024-2028

検索

